

奥多摩町まちづくり住民アンケート調査

調査報告書

(平成 25 年度)

平成 25 年 10 月

東京都 奥多摩町

〔目次〕

I. 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の方法.....	1
3. 回収状況.....	1
4. グラフ・文中の標記について.....	1
II. 調査結果.....	2
【回答者の属性】.....	2
問1 性別.....	2
問2 年齢.....	2
問3 家族構成.....	2
問4 既婚・未婚の状況.....	3
問5 居住地区.....	3
【奥多摩町での住み良さについて】.....	4
問6 現在の住み良さ.....	4
問7 居住意向.....	6
【奥多摩町の行政運営について】.....	8
問8 行政運営の満足度.....	8
問9 分野別行政運営の満足度.....	10
【奥多摩町のまちづくり施策について】.....	23
問10 奥多摩創造プロジェクトの進捗状況評価.....	23
問11 最も重要な奥多摩創造プロジェクト.....	36
問12-① 分野別施策の実施状況の満足度.....	38
問12-② 分野別施策の今後の重要度.....	67
問12 施策全体の満足度・重要度.....	76
問13 住民意向のまちづくりへの反映.....	86
問14 まちづくりへの取り組み.....	88
問15 行政への住民参加状況.....	90
問16 望まれる町の姿.....	92
問17 住民と行政との役割分担.....	98
問18 参加したい活動.....	114
【奥多摩町への意見・要望について】.....	121
問19 町に対する意見・要望.....	121

I. 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、奥多摩町のまちづくりや施策、町政運営等に対する評価・意向を把握するために実施しました。

2. 調査の方法

- ◆調査地域 : 奥多摩町全域
- ◆調査対象 : 奥多摩町に居住する 16 歳以上の住民 1,500 名
※住民基本台帳より無作為抽出
- ◆調査方法 : 郵送による配布・回収
- ◆調査時期 : 平成 25 年 6 月 19 日～7 月 1 日

3. 回収状況

- ◇配布数 : 1,500 票
- ◇有効回収数 : 675 票
- ◇有効回収率 : 45.0%

4. グラフ・文中の標記について

◇グラフの基数は、特に標記のない限り総数（N=675）です。基数が総数と異なるときには、その都度グラフ上に表記します。

◇各設問において、次の略称を使用しています。

- SA (Single Answer) : シングルアンサー（一つだけ選択回答）
- xLA (Limited Answer) : リミテッドアンサー（x 以内選択回答）
- MA (Multi Answer) : マルチアンサー（複数選択回答）

◇加重平均は以下によります。

「満足」・「重要」に 2 ポイント、「やや満足」・「やや重要」に 1 ポイント、「やや不満」・「あまり重要でない」に -1 ポイント、「不満」・「重要ではない」に -2 ポイントを与え、無回答を除く合計で割ったものです。

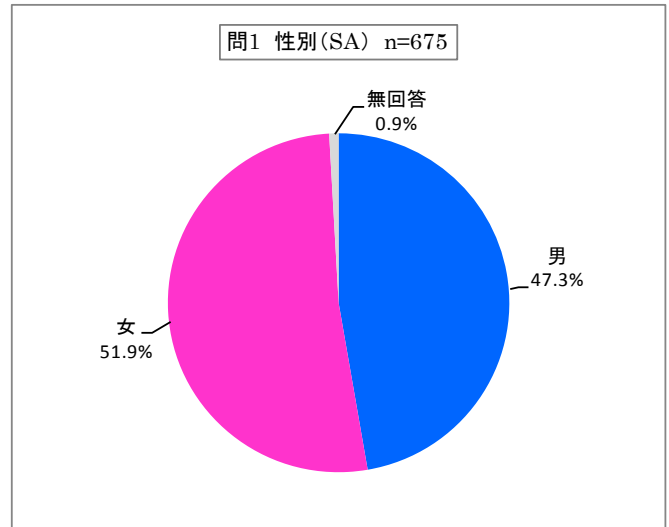
全員が「満足」・「重要」の場合は 2 ポイントとなり、「満足」・「重要」と「不満」・「重要ではない」がそれぞれ 50% の場合は 0 ポイントとなります。

II. 調査結果

【回答者の属性】

問 1 性別

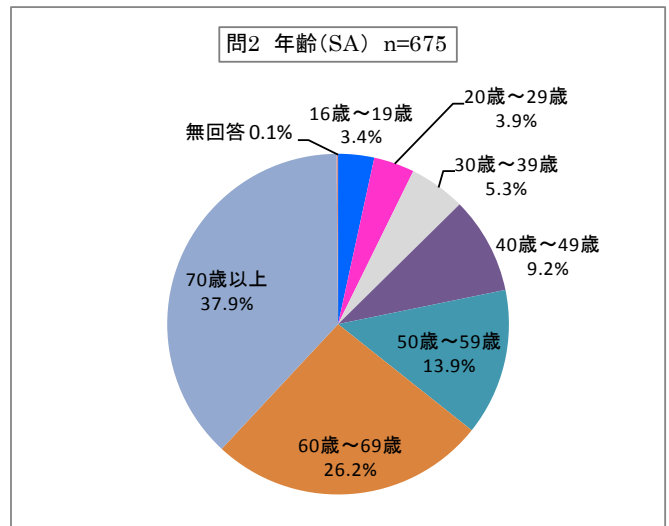
回答者の性別は、「男性」が 47.3%（319 人）、「女性」が 51.9%（350 人）となっており、やや「女性」の割合が高くなっています。



問 2 年齢

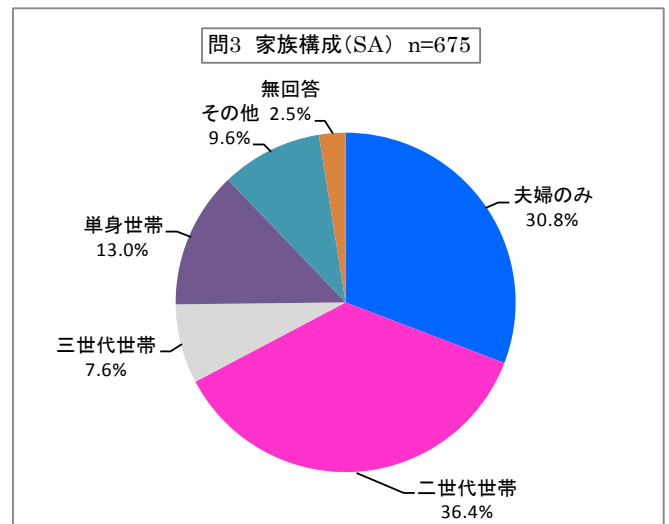
回答者の年齢は、「70 歳以上」が最も高く 37.9%（256 人）となっており、次いで「60 歳～69 歳」が 26.2%（177 人）、「50 歳～59 歳」が 13.9%（94 人）、「40 歳～49 歳」が 9.2%（62 人）と続いています。

60 代以上の回答者が 64.1%を占め、高齢層の回答比率が高くなっています。



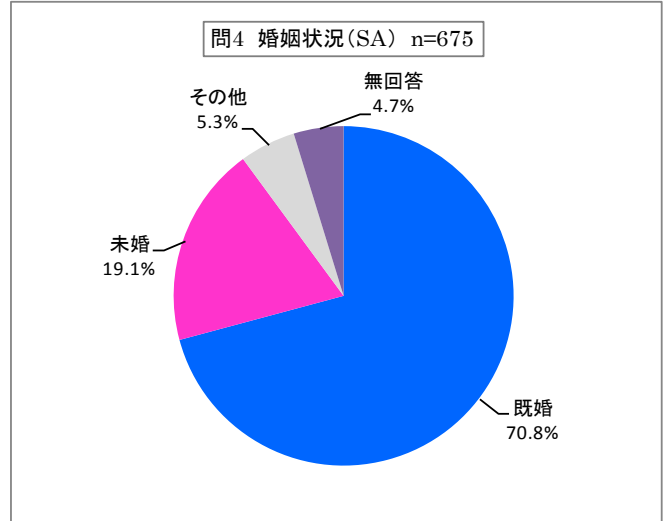
問 3 家族構成

回答者の家族構成は、「二世世代世帯」が最も高く 36.4%（246 人）となっており、次いで「夫婦のみ」が 30.8%（208 人）、「単身世帯」が 13.0%（88 人）、「その他」が 9.6%（65 人）、「三世世代世帯」が 7.6%（51 人）と続いています。



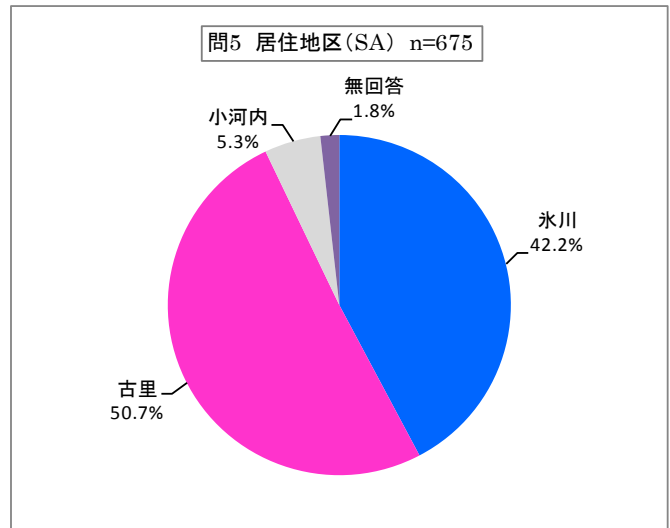
問 4 既婚・未婚の状況

回答者の婚姻状況は、「既婚」が 70.8%（478 人）と多く、「未婚」は 19.1%（129 人）にとどまっています。



問 5 居住地区

回答者の居住地区は、「古里」地区が 50.7%（342 人）、「氷川」地区が 42.2%（285 人）と 2 つの地区が高い割合を占め、「小河内」地区は 5.3%（36 人）となっています。



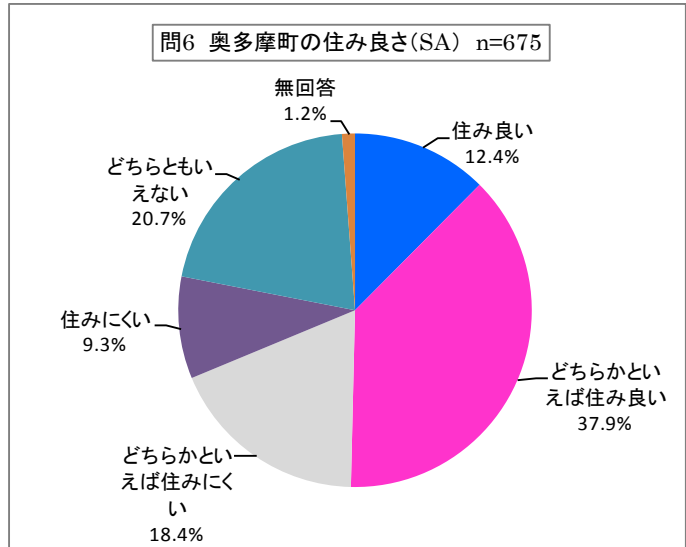
【奥多摩町での住み良さについて】

問 6 現在の住み良さ

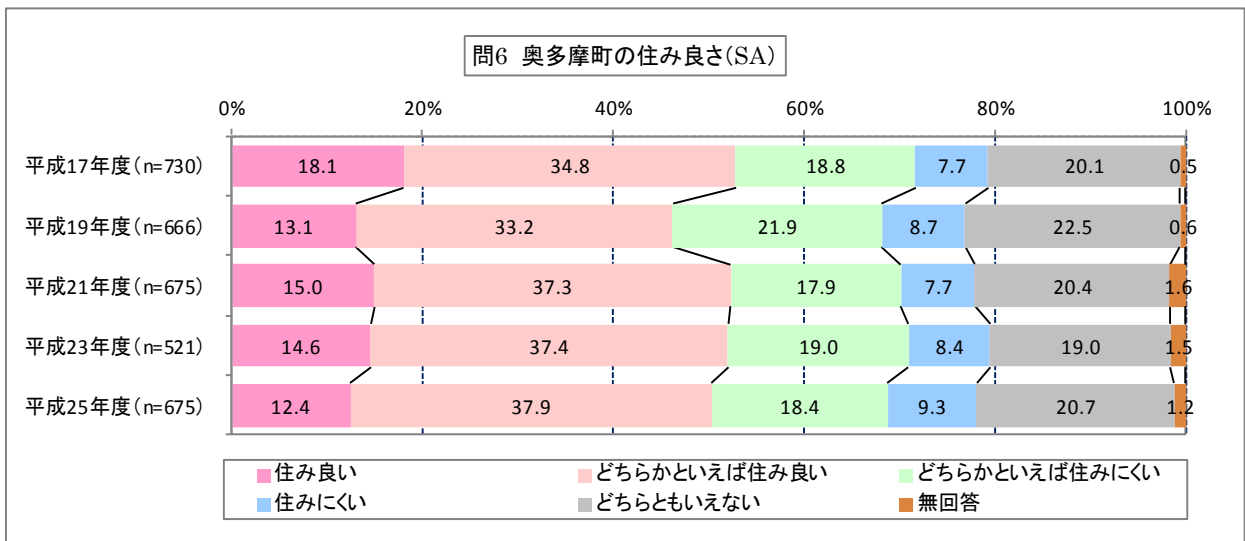
奥多摩町の住み良さについては、“住み良い”（「住み良い」と「どちらかといえば住み良い」を合わせた回答）が 50.3%、一方、“住みにくい”（「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」を合わせた回答）が 27.7%となっており、“住み良い”が大きく上回っています。

なお、年齢別にみると、20 代までは“住みにくい”が上回るのに対し、30 代以降は“住み良い”が上回り、年齢が高まるにつれて“住み良い”が増える傾向にあります。特に「60～69 歳」は“住み良い”が 56.5%と 6 割弱となっています。

また、居住地区別では、「氷川」地区が 46.6%、「古里」地区が 53.8%、「小河内」地区が 44.4%となっており、「古里」地区での住み良さの評価が他の地区より高い結果となっています。

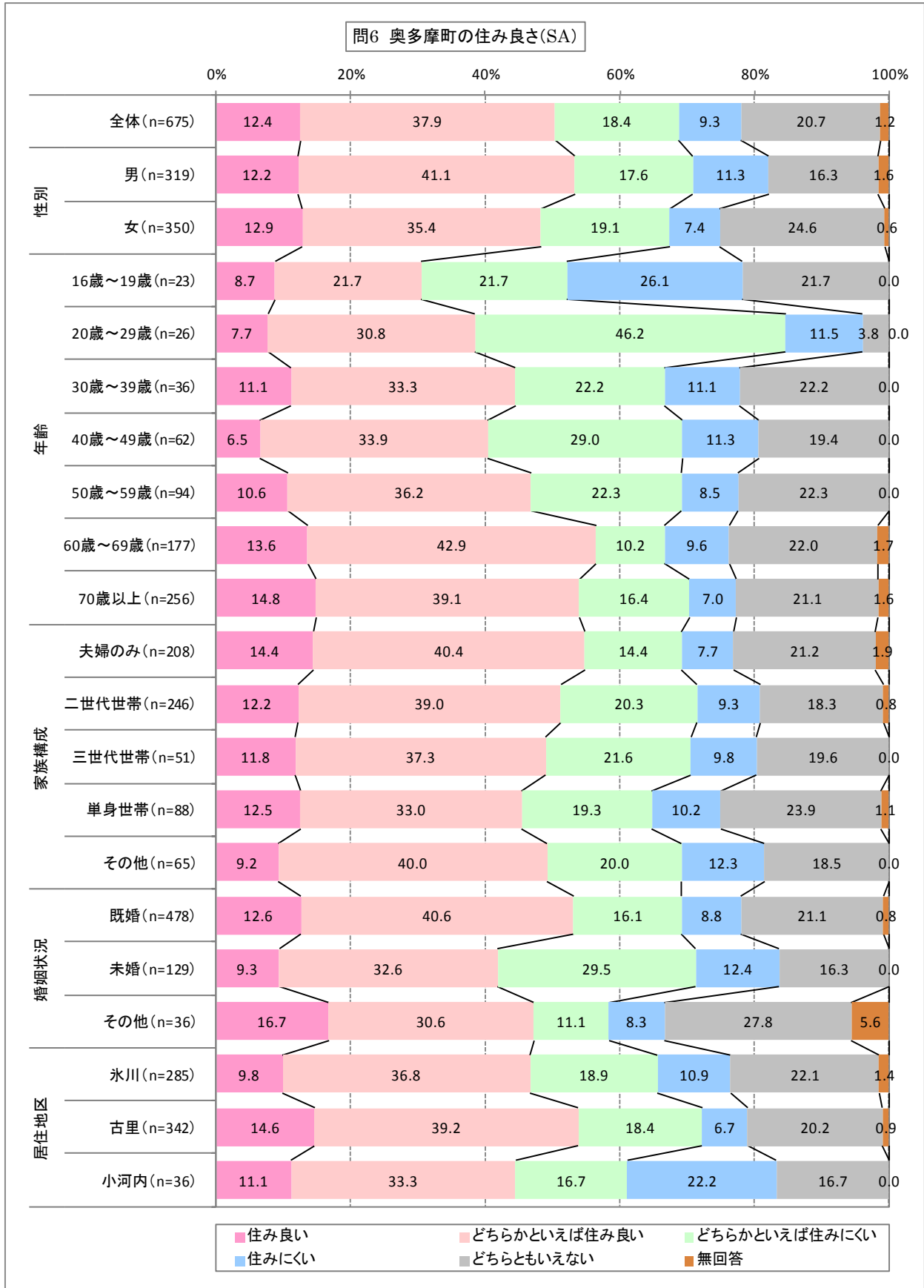


〔過去調査結果との比較〕



今回の調査を含め、過去 5 回実施した調査結果を比較すると、“住み良い”（「住み良い」と「どちらかといえば住み良い」を合わせた回答）は、平成 17 年度が 52.9%、平成 19 年度が 46.3%、平成 21 年度が 52.3%、平成 23 年度が 52.0%、平成 25 年度が 50.3%となっており、平成 19 年度が多少少ないものの、その他の年度ではほぼ同じ回答割合となっています。

〔属性別 結果一覧〕



問7 居住意向

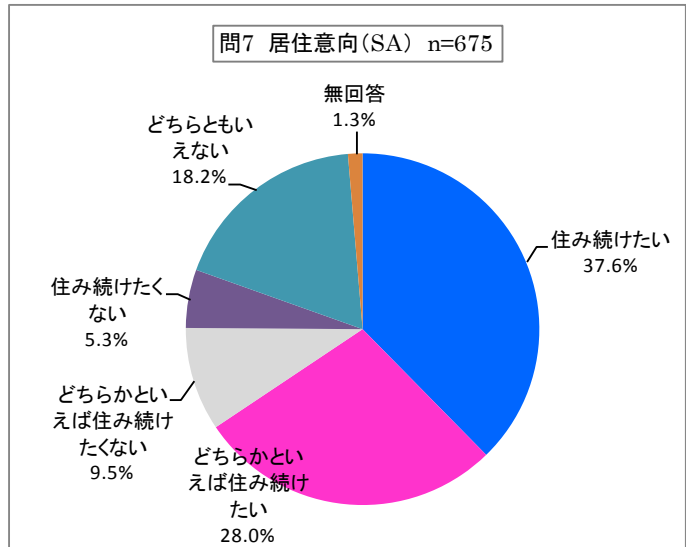
奥多摩町での居住意向は、回答者の37.6%が「住み続けたい」と回答しており、また、「どちらかといえば住み続けたい」も28.0%となっており、この2つを合わせた居住意向（「住み続けたい」）は65.6%となっています。

一方、「移転したい」（「どちらかといえば住み続けたくない」と「住み続けたくない」を合わせた回答）は1割強（14.8%）となっています。

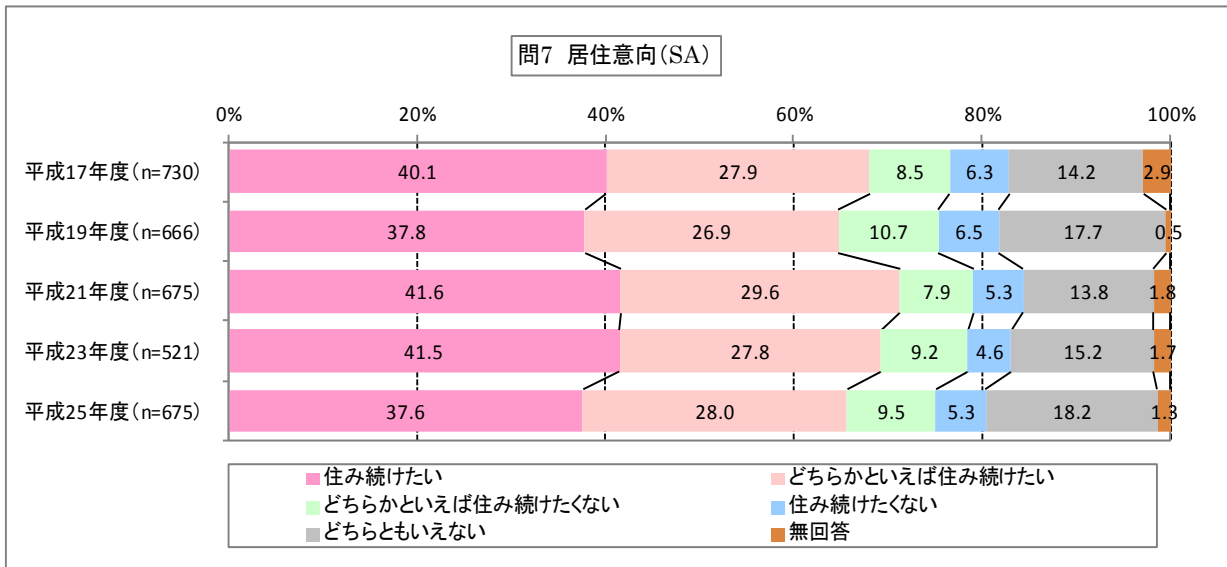
なお、年齢別にみると、10代は「住み続けたい」が30.4%、「移転したい」が43.4%となっていますが、20代以降、年齢が高まるにつれて「住み続けたい」が上回り定住意向が高まる傾向が明らかとなっています。特に「70歳以上」は「住み続けたい」が75.3%に達し、前問の「住み良さ」に対する回答割合以上の割合となっています。

また、「既婚」では「住み続けたい」が70.8%を占めるのに対し、「未婚」では「住み続けたい」は46.5%と相対的に低くなっています。

居住地区別に「住み続けたい」の回答割合をみると、「氷川」地区が66.3%、「古里」地区が65.8%、「小河内」地区が63.9%とほぼ同じ割合となっています。

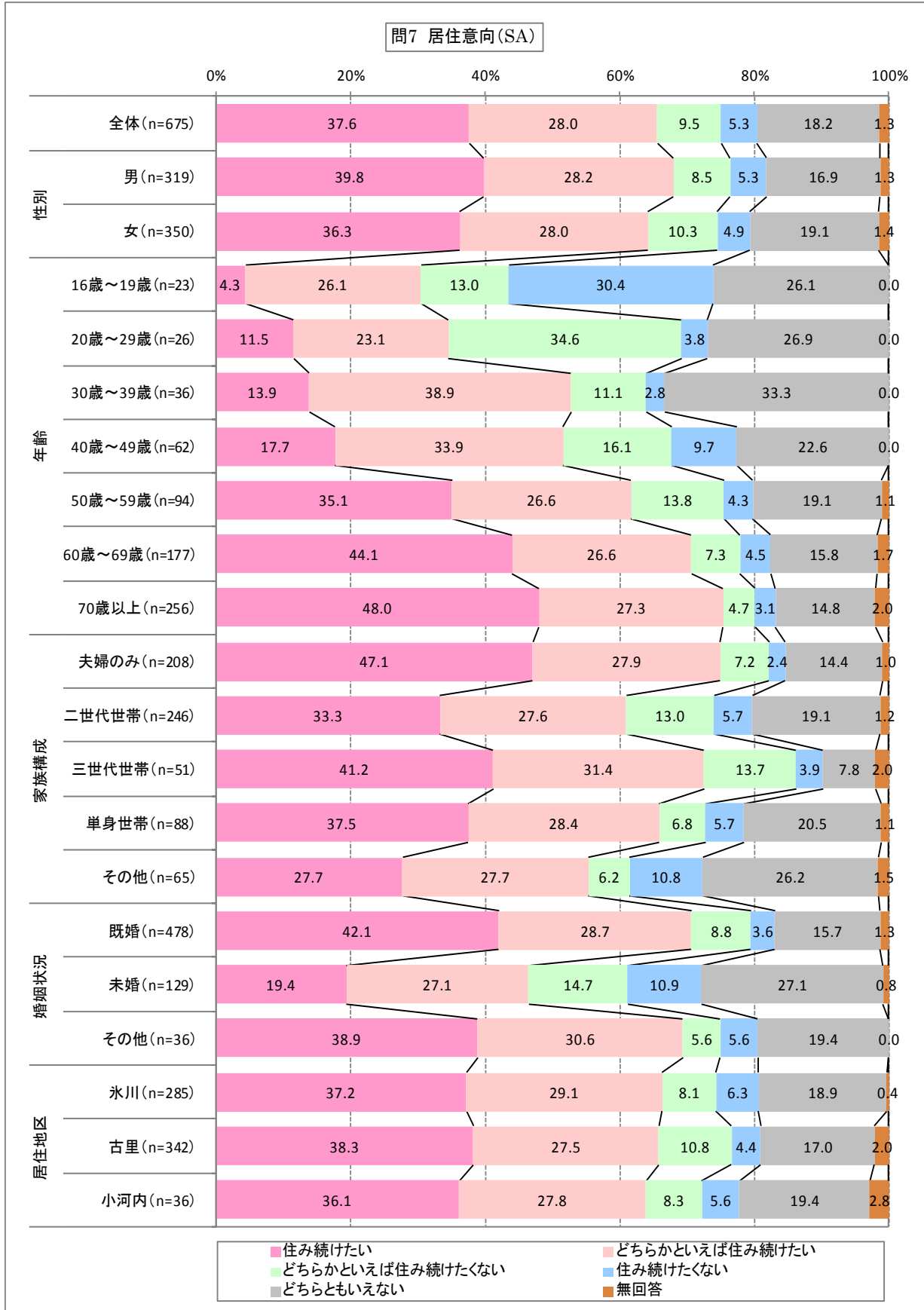


〔過去調査結果との比較〕



今回の調査を含め、過去5回実施した調査結果を比較すると、「住み続けたい」（「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた回答）は、平成17年度が68.0%、平成19年度が64.7%、平成21年度が71.2%、平成23年度が69.3%、平成25年度が65.6%となっており、7割前後で推移しています。

〔属性別 結果一覧〕



【奥多摩町の行政運営について】

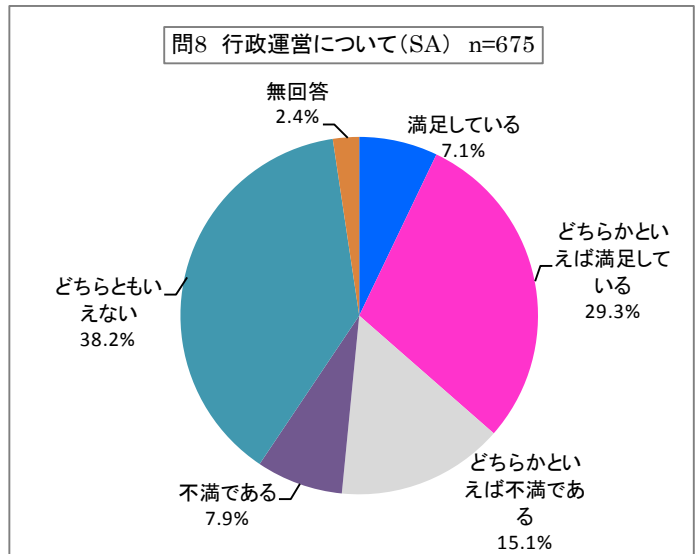
問 8 行政運営の満足度

奥多摩町の行政運営については、「満足している」が7.1%、「どちらかといえば満足している」が29.3%であり、“満足”（「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた回答）と評価する回答者割合は36.4%となっています。

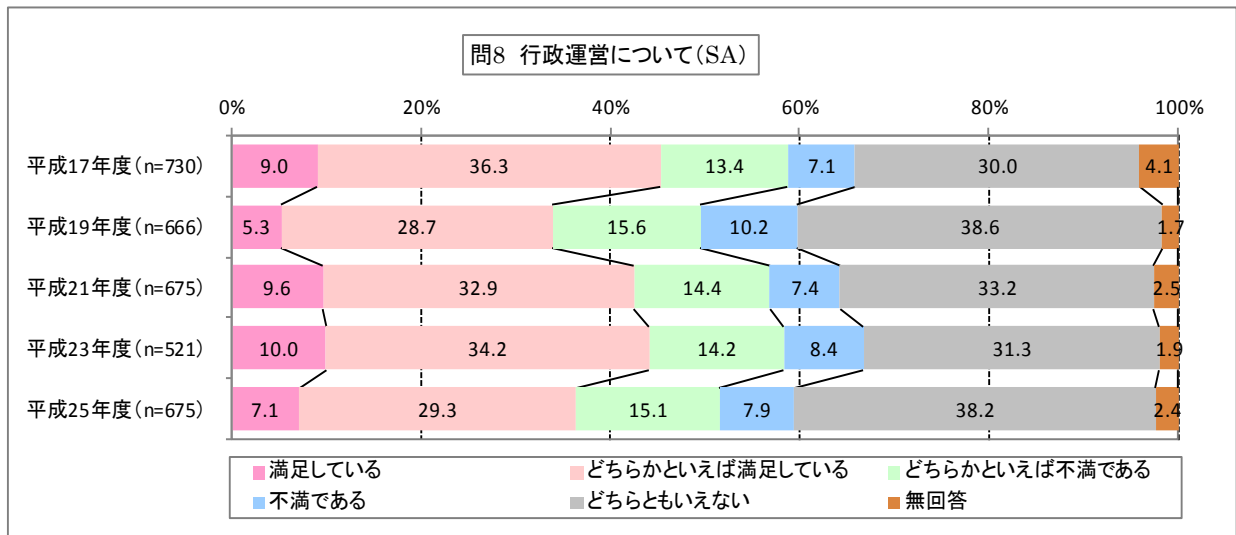
一方、「どちらかといえば不満である」が15.1、「不満である」が7.9%であり、“不満”（「どちらかといえば不満である」と「不満である」を合わせた回答）と評価する回答者割合は23.0%となっています。なお、「どちらともいえない」が38.2%と4割弱を占めています。

年齢別にみると、「30歳～39歳」及び「60歳以上」の年代で“満足”の回答割合が3割を超えています。また、「16歳～19歳」及び「20歳～39歳」では「どちらともいえない」の回答割合が過半数を超えています。

居住地区別では、「古里」地区及び「小河内」地区に比べ「氷川」地区の“満足”が少なくなっています。

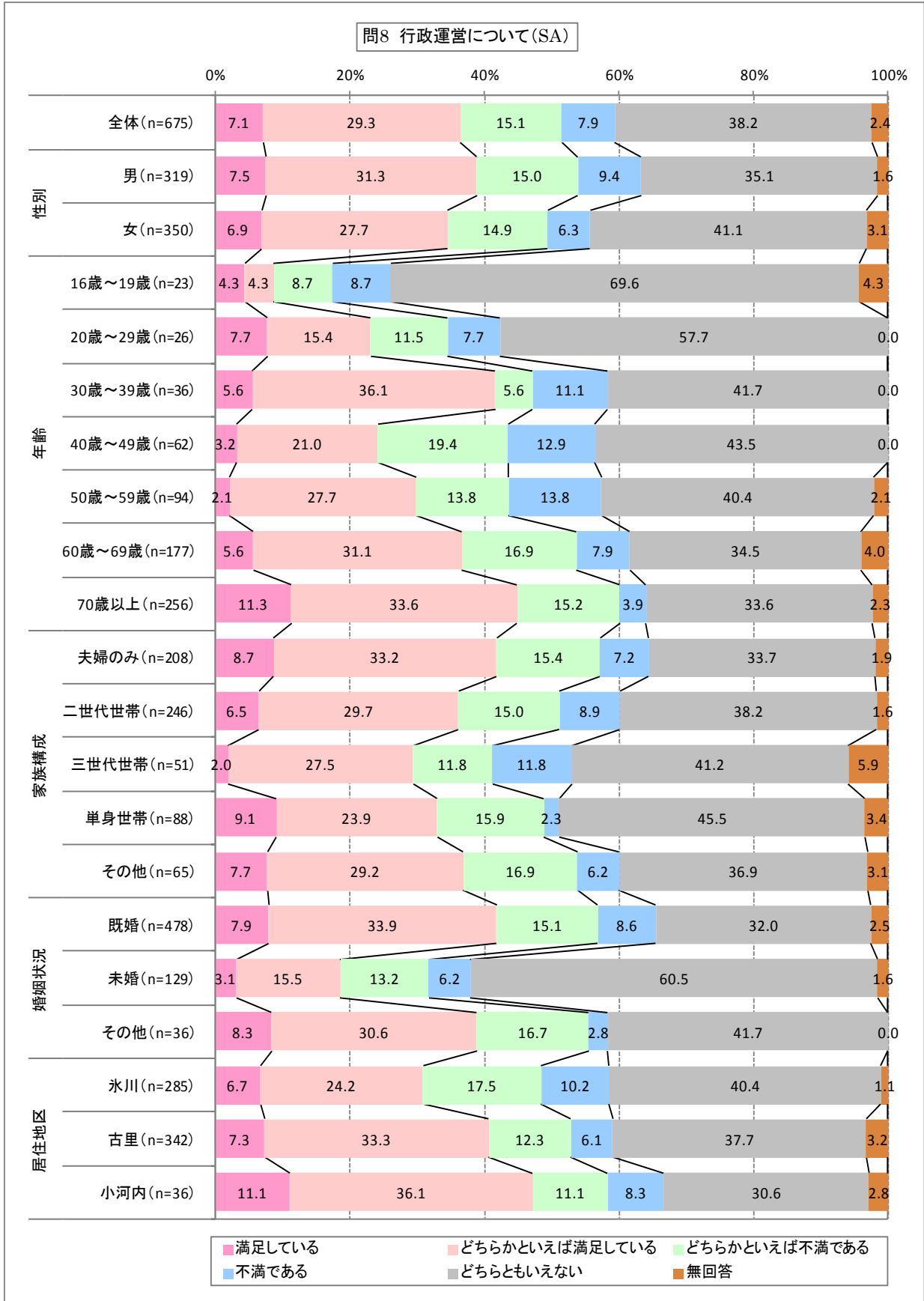


〔過去調査結果との比較〕



今回の調査を含め、過去5回実施した調査結果を比較すると、“満足”は、平成17年度が45.3%、平成19年度が34.0%、平成21年度が42.5%、平成23年度が44.2%、平成25年度が36.4%となっており、平成19年度及び平成25年度は他の実施年度に比べて厳しい評価となっています。

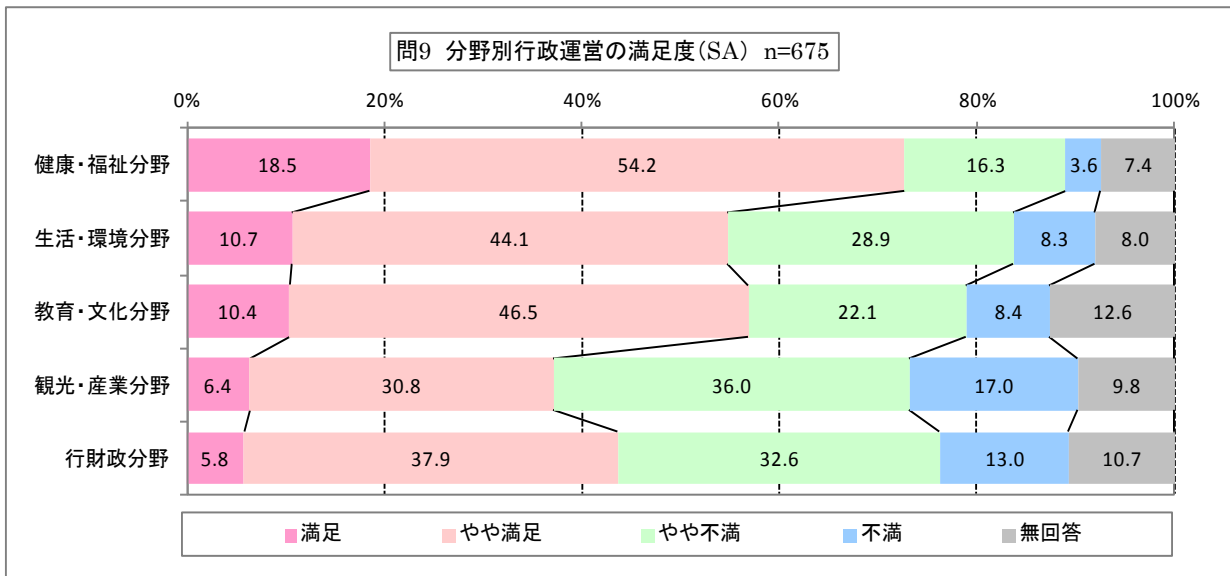
〔属性別 結果一覧〕



問 9 分野別行政運営の満足度

分野別行政運営の満足度についてお聞きしたところ、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”の回答割合が、「やや不満」と「不満」を合わせた“不満”の回答割合を上回る項目は、「健康・福祉分野」、「生活・環境分野」、「教育・文化分野」の3分野です。これらの“満足”の割合としては、「健康・福祉分野」が最も高く72.7%となっており、次いで「教育・文化分野」が56.9%、「生活・環境分野」が54.8%と続いています。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた“不満”の回答割合が上回る分野は、「観光・産業分野」、「行財政分野」の2項目です。これらの“不満”の割合は、「観光・産業分野」が53.0%、次いで「行財政分野」が45.6%と続いています。



〔過去調査結果との比較〕

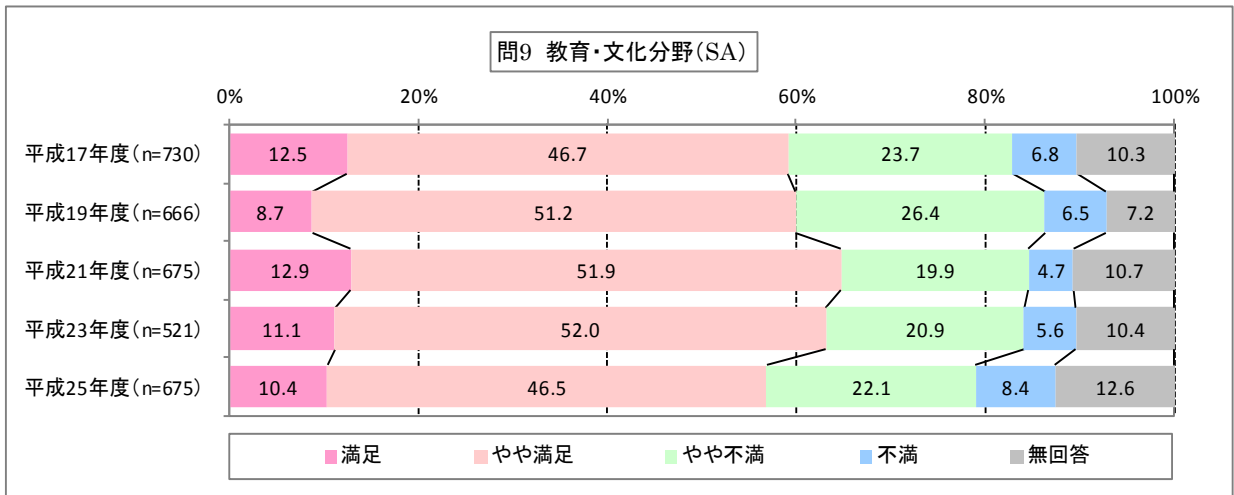
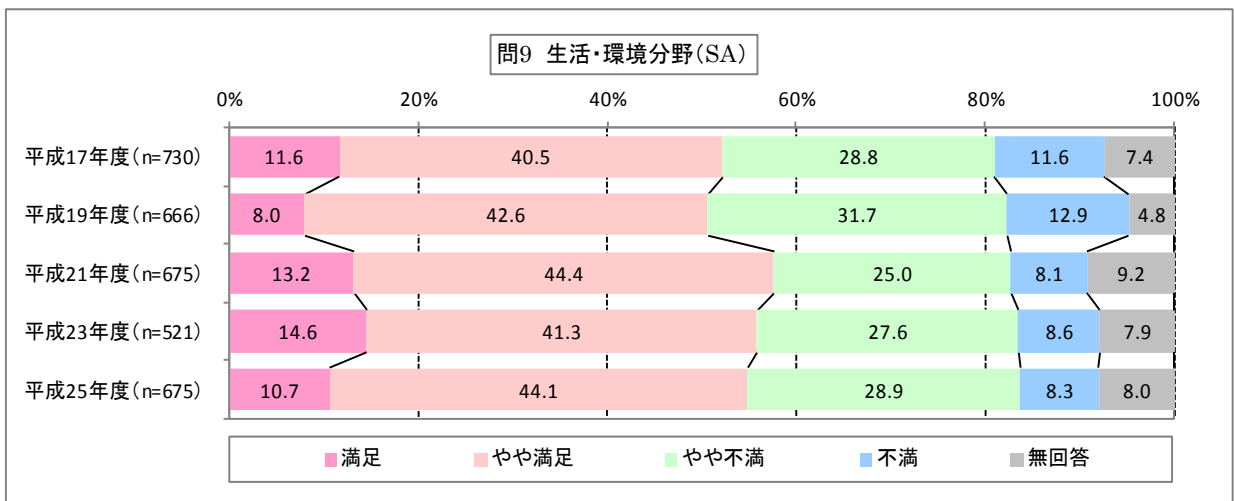
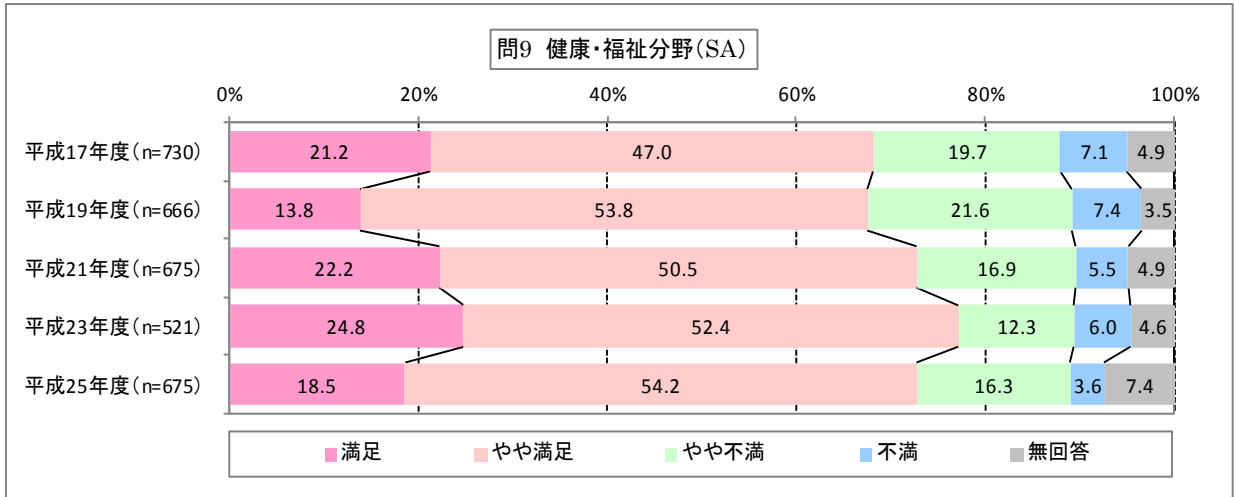
なお、今回の調査を含め、過去5回実施した調査結果を分野別に比較した結果が次頁以降（p.11～p.12）のグラフですが、健康・福祉分野における「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”は、平成17年度が68.2%、平成19年度が67.6%、平成21年度が72.7%、平成23年度が77.2%と増加傾向にありましたが、平成25年度が72.7%と平成23年度に比べ4.5ポイント減少する結果となっています。

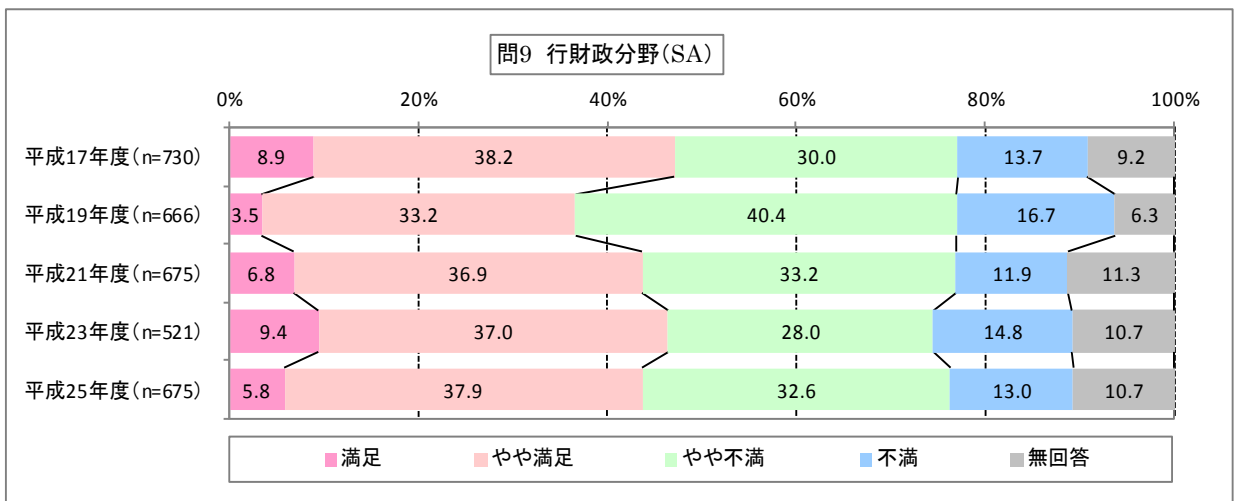
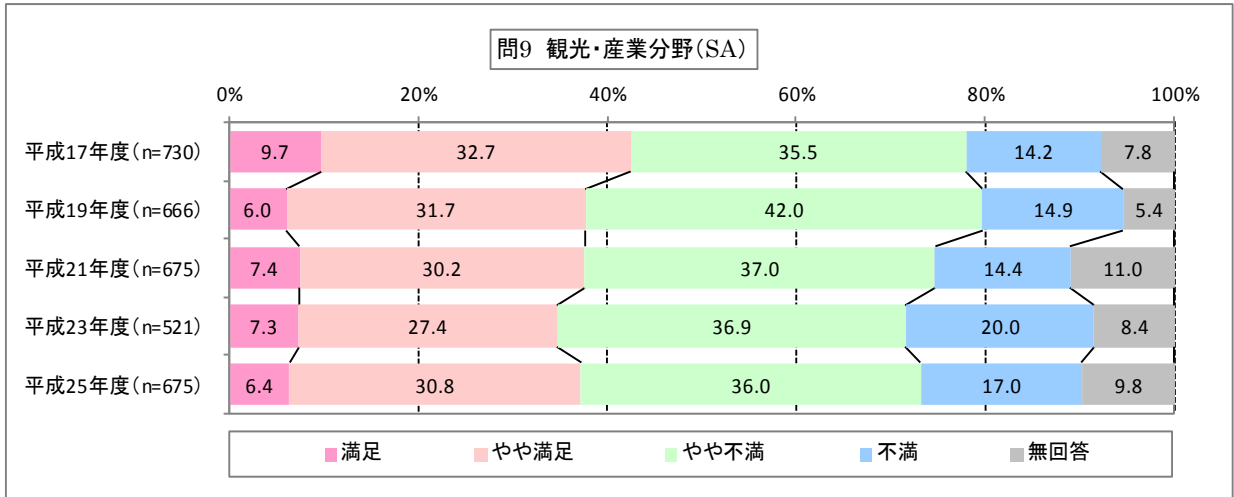
生活・環境分野における“満足”の推移は、平成17年度が52.1%、平成19年度が50.6%、平成21年度が57.6%、平成23年度が55.9%、平成25年度が54.8%と、平成21年度の57.6%を最大に以降減少傾向となっています。

教育・文化分野における“満足”の推移は、平成17年度が59.2%、平成19年度が59.9%、平成21年度が64.8%、平成23年度が63.1%、平成25年度が56.9%と、平成21年度の64.8%を最大に減少傾向となっています。平成23年度比べ平成25年度は6.2ポイント減少しています。

観光・産業分野における“満足”の推移は減少傾向にありますが、「やや不満」と「不満」を合わせた“不満”の推移は、平成17年度が49.7%、平成19年度が56.9%、平成21年度が51.4%、平成23年度が56.9%、平成25年度が53.0%と、増減を繰り返していますが、各年とも過半数の人々が“不満”と回答しています。

行財政分野における“満足”の推移は、平成17年度が47.1%、平成19年度が36.7%、平成21年度が43.7%、平成23年度が46.4%、平成25年度が43.7%と、平成19年度以外は“満足”が4割を超えています。

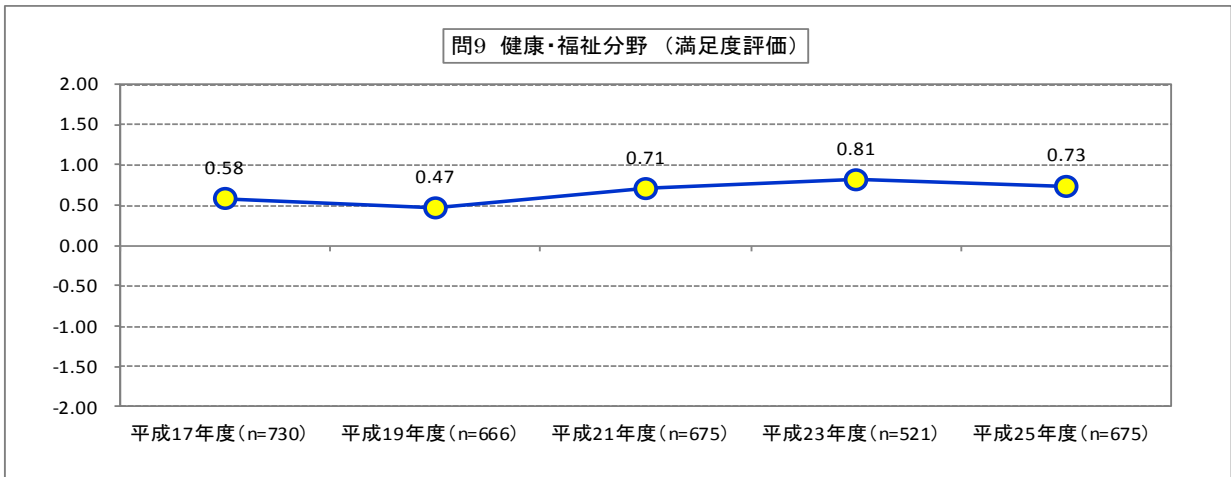




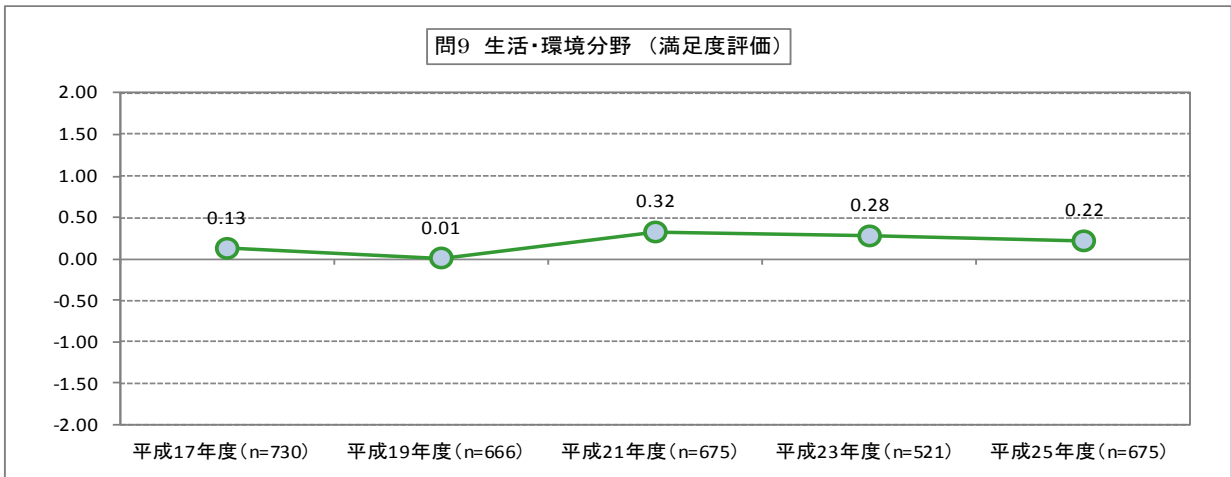
〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

「無回答」を除く「満足」、「やや満足」、「やや不満」及び「不満」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が以下のグラフです。（※ここでは「満足」に2ポイント、「やや満足」に1ポイント、「やや不満」に-1ポイント、「不満」に-2ポイントを与え、無回答を除く合計回答数で割った結果としています。仮に全員が「満足」の場合は2ポイントとなり、「満足」と「不満」がそれぞれ50%の場合は0ポイントとなります。）

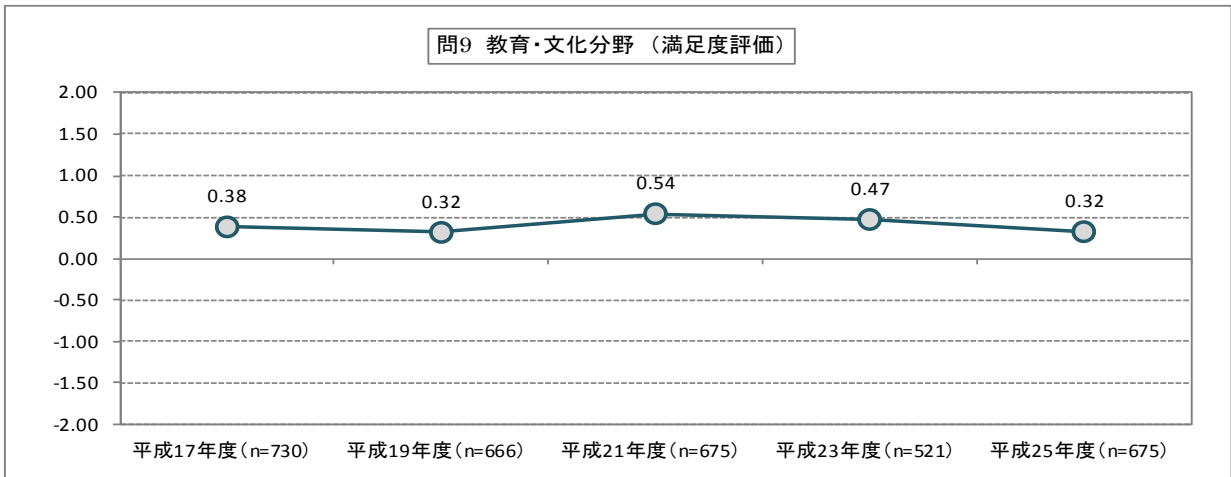
健康・福祉分野の加重平均値は、平成23年度が最も高い値（0.81）でしたが平成25年度は0.73に低下しています。



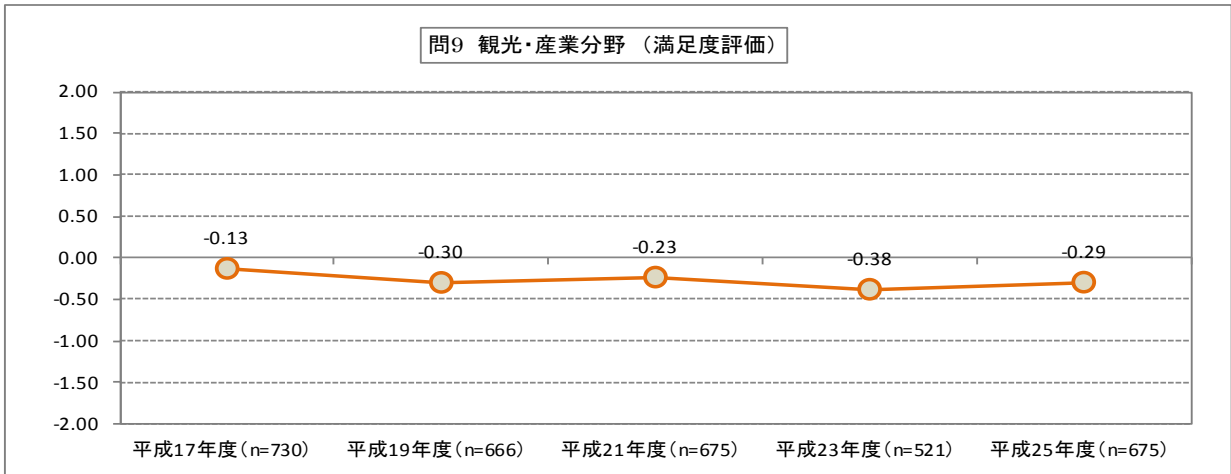
生活・環境分野では、平成21年度が最も高い値（0.32）でしたが、以降低下する傾向にあり平成25年度は0.22になっています。



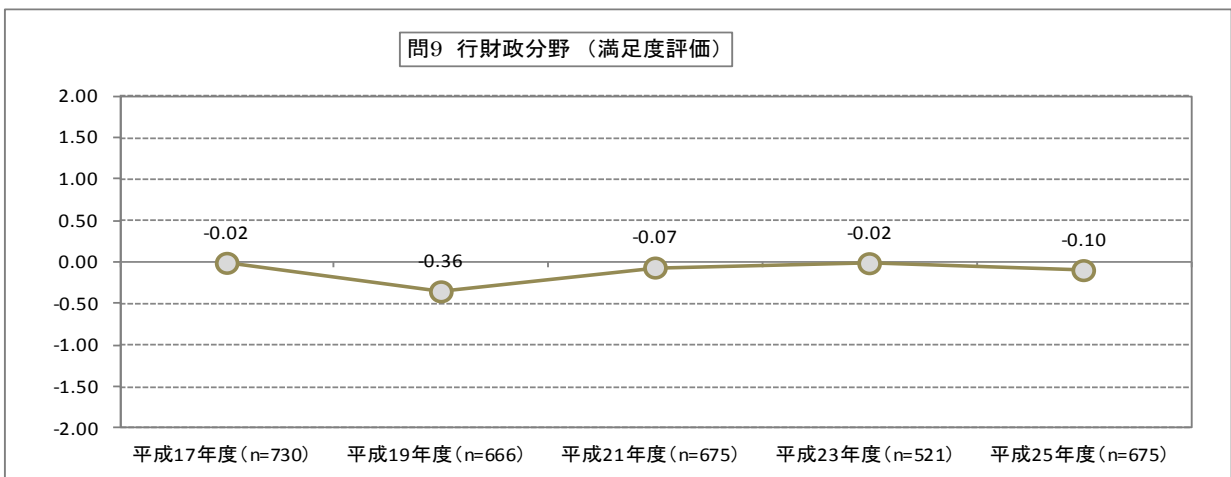
教育・文化分野でも、平成 21 年度が最も高い値（0.54）でしたが、以降低下する傾向にあり平成 25 年度は 0.32 になっています。



観光・産業分野では過去 5 回の調査結果いずれも 0.0 を下回っており、“不満”の評価がより大きいことを示しています。平成 23 年度の満足度はこれまでで最も低い結果（-0.38）でしたが、平成 25 年度は -0.29 とやや回復傾向を示しています。

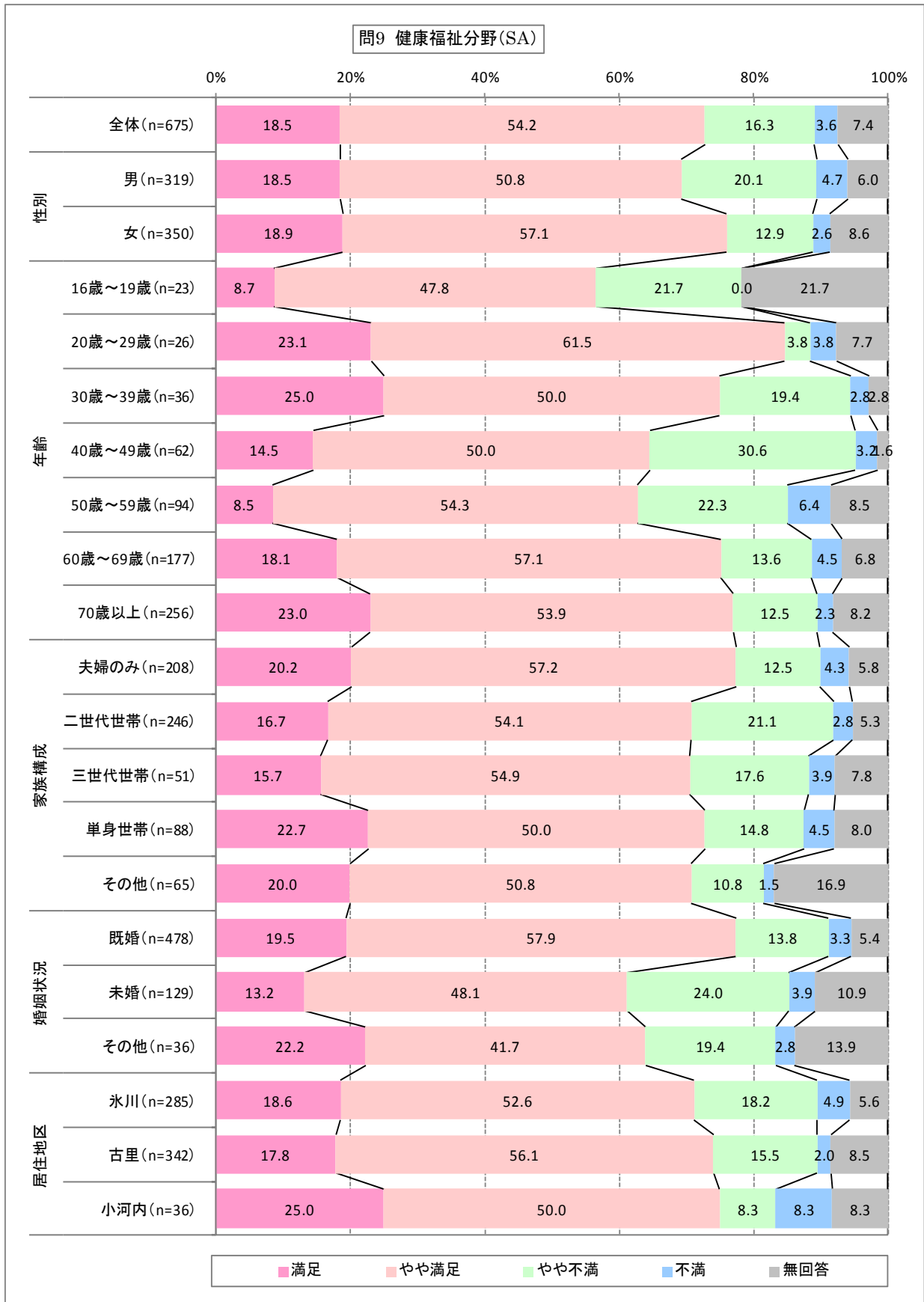


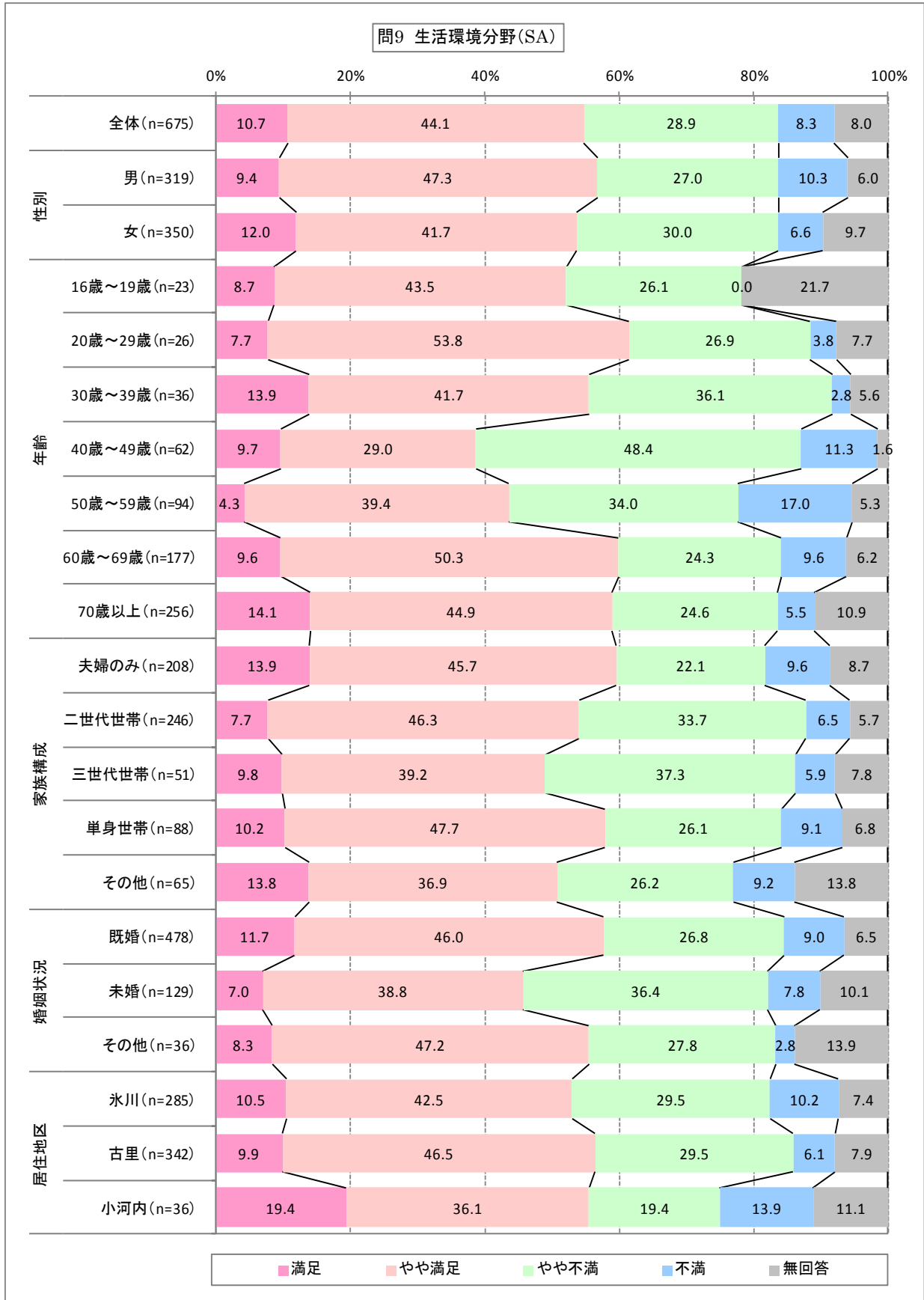
行財政分野も観光・産業分野と同様に過去 5 回の調査結果いずれも 0.0 を下回っており、“不満”の評価がより大きいことを示しています。平成 19 年度の満足度はこれまで最も低い結果（-0.36）でしたが平成 21 年度・平成 23 年度は回復傾向を示しています。しかし、平成 25 年度は -0.10 と平成 19 年度に次いで満足度が低くなっています。

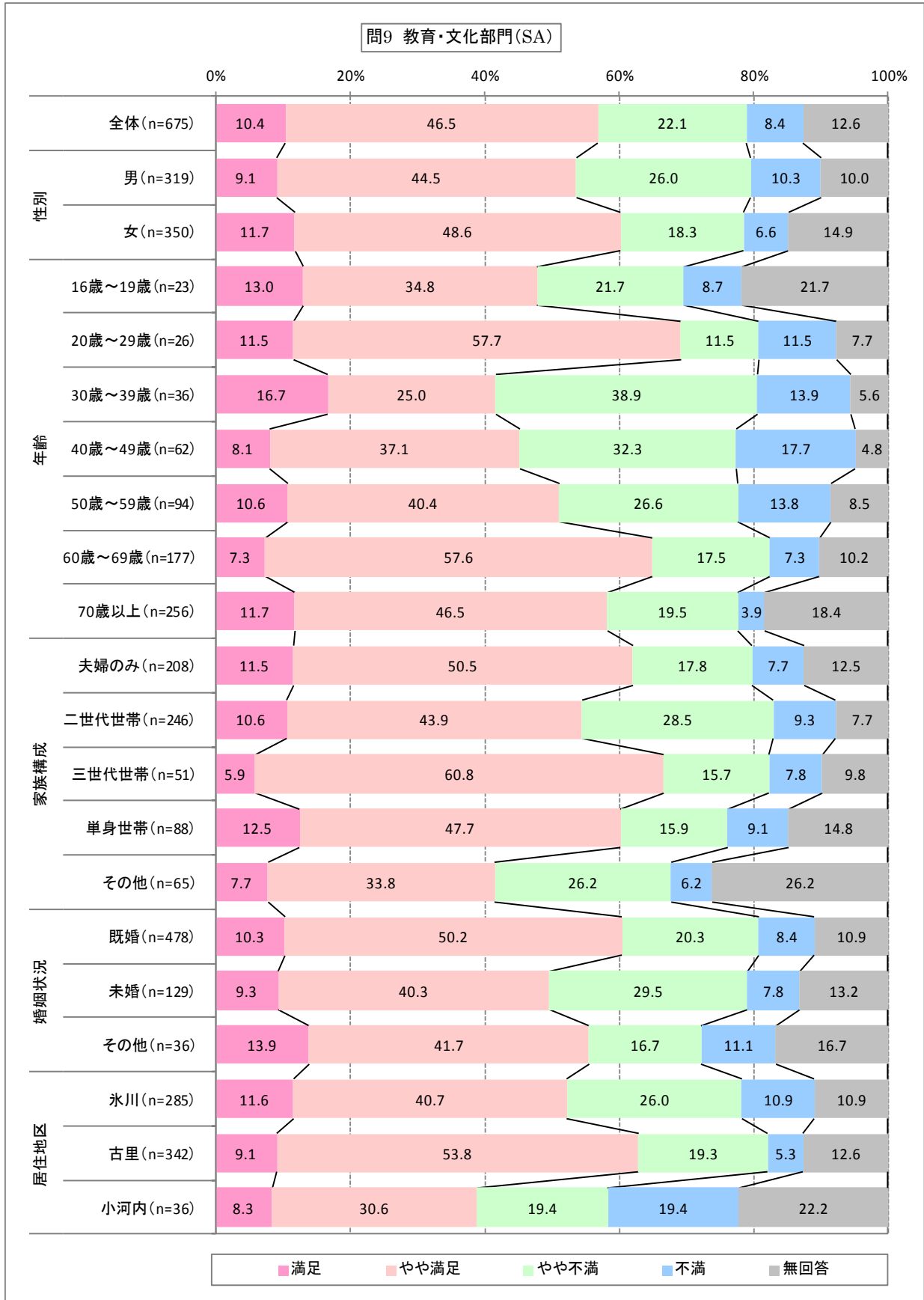


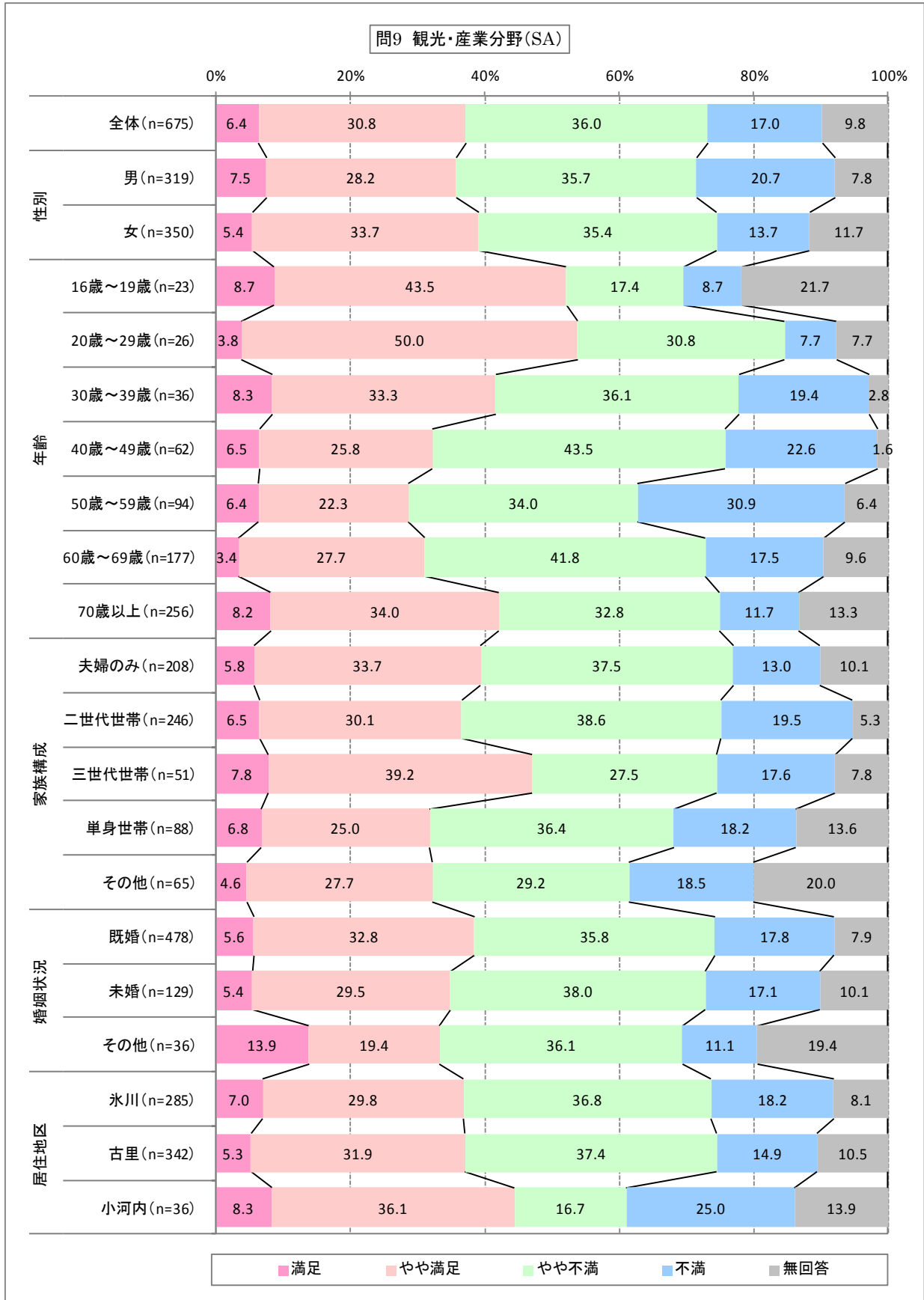
〔属性別 結果一覧〕

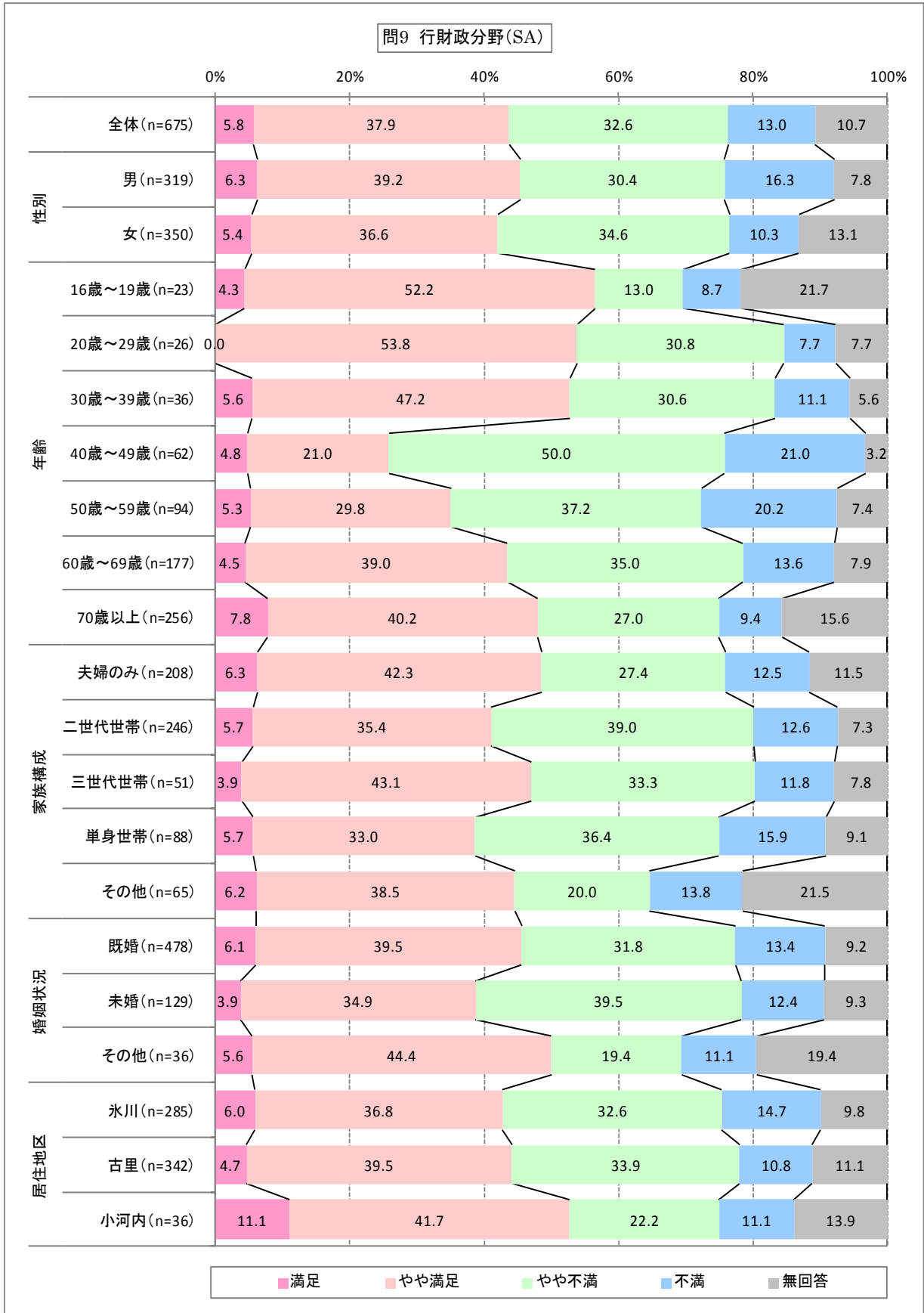
分野毎の、属性別の「満足」から「不満」の回答割合は以下のとおりです。





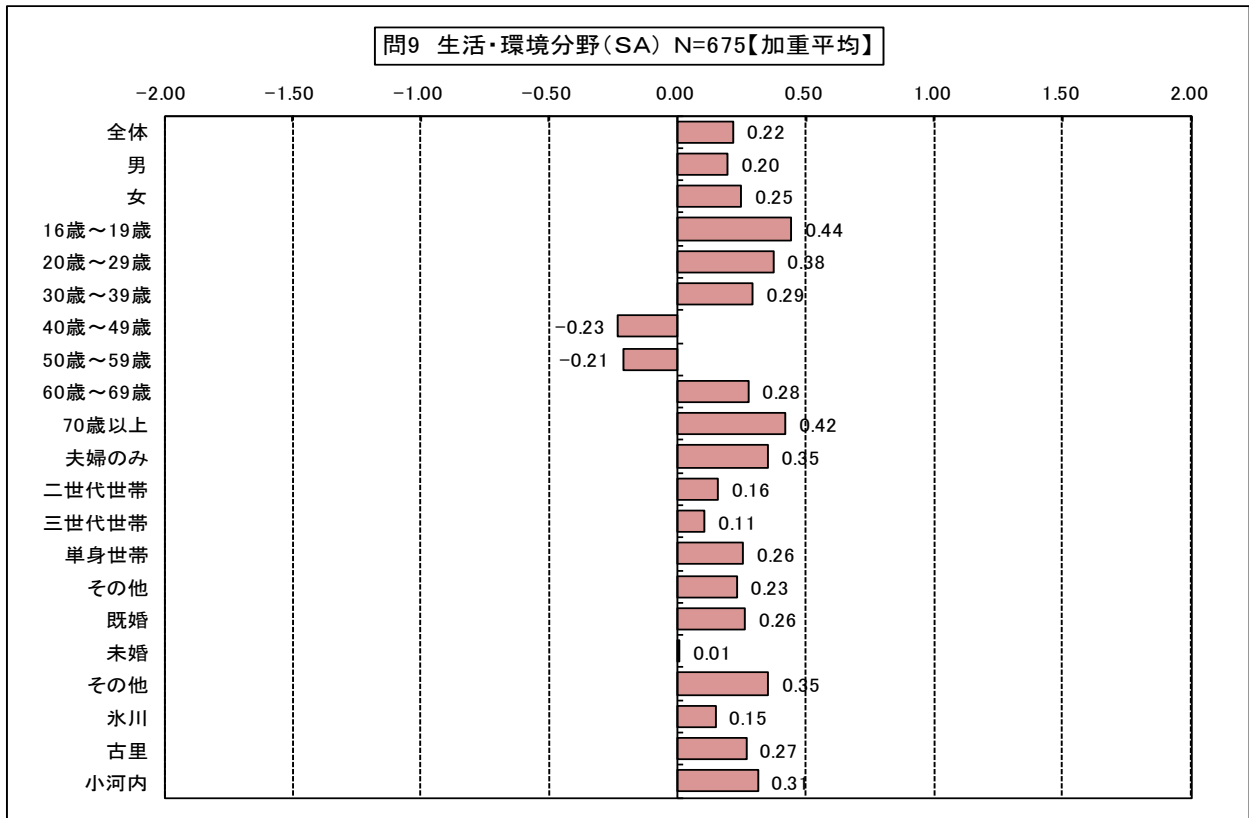
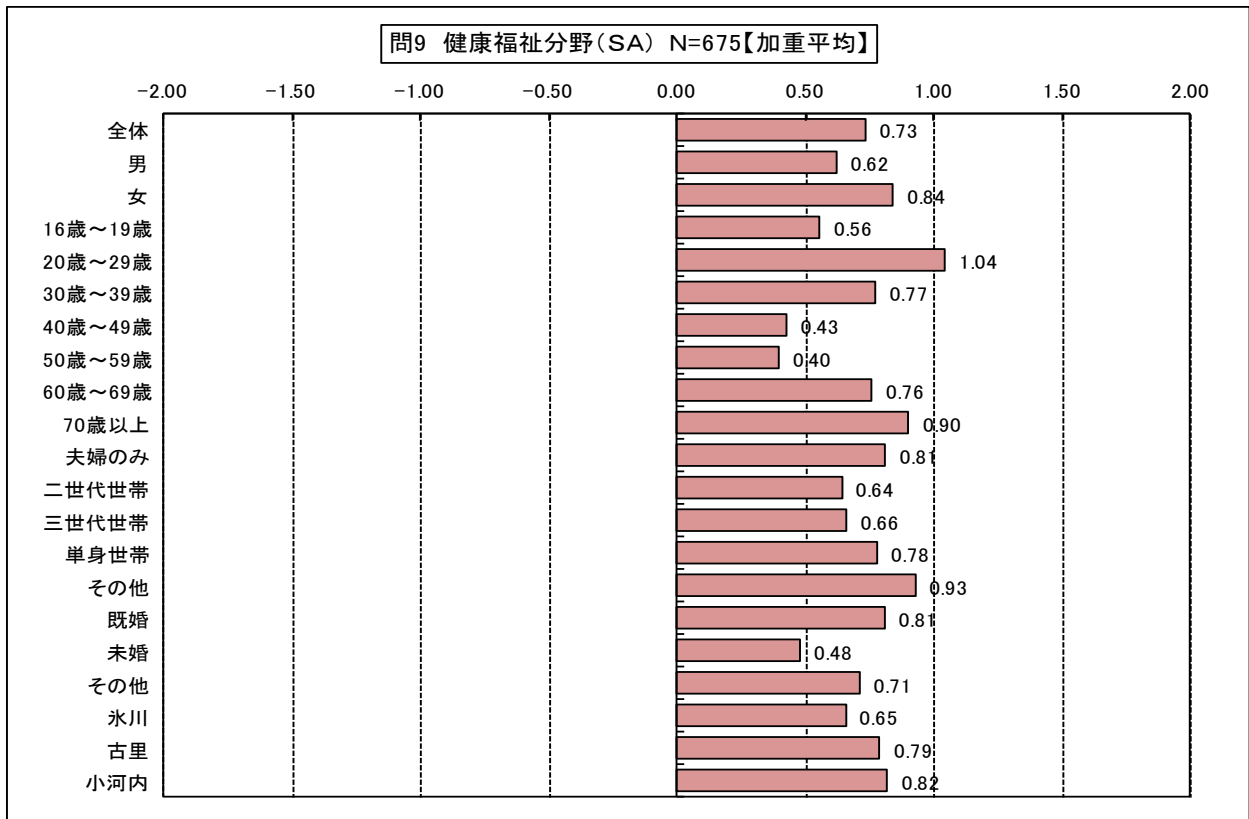


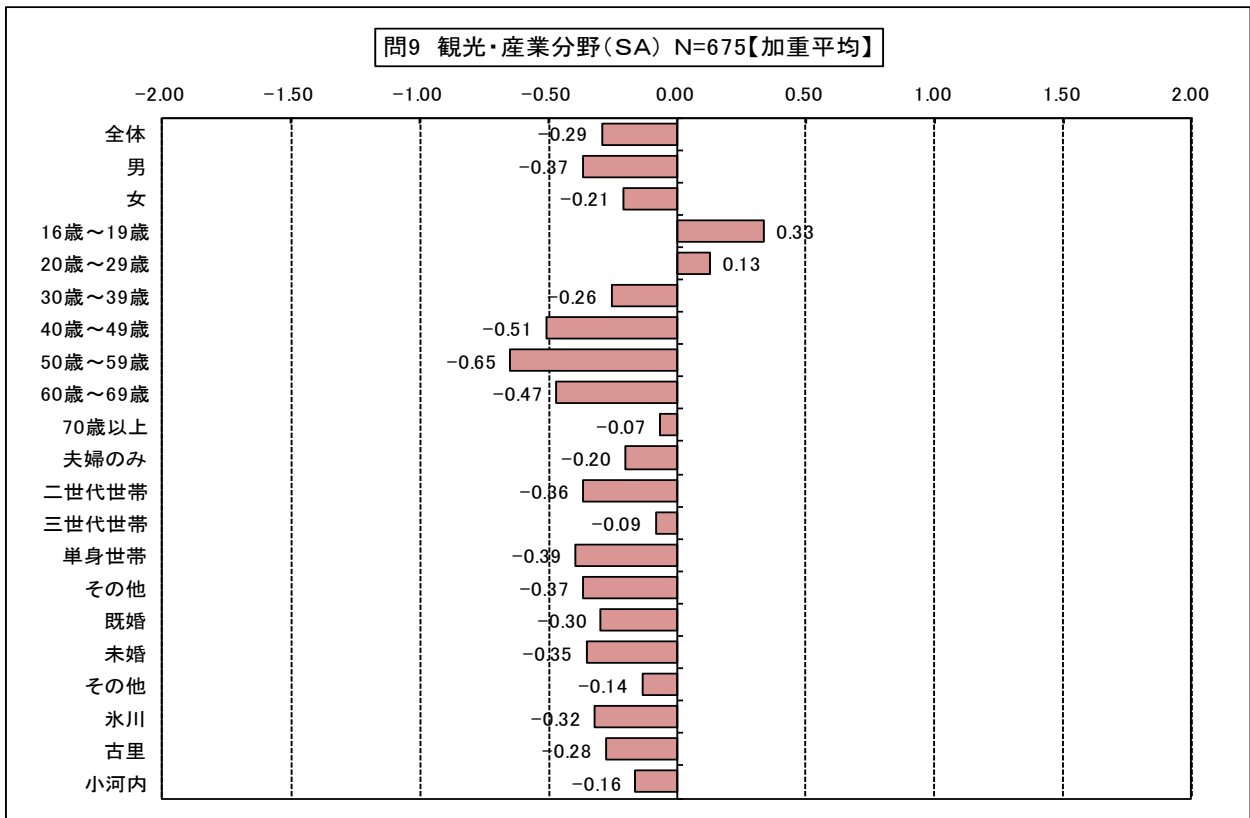
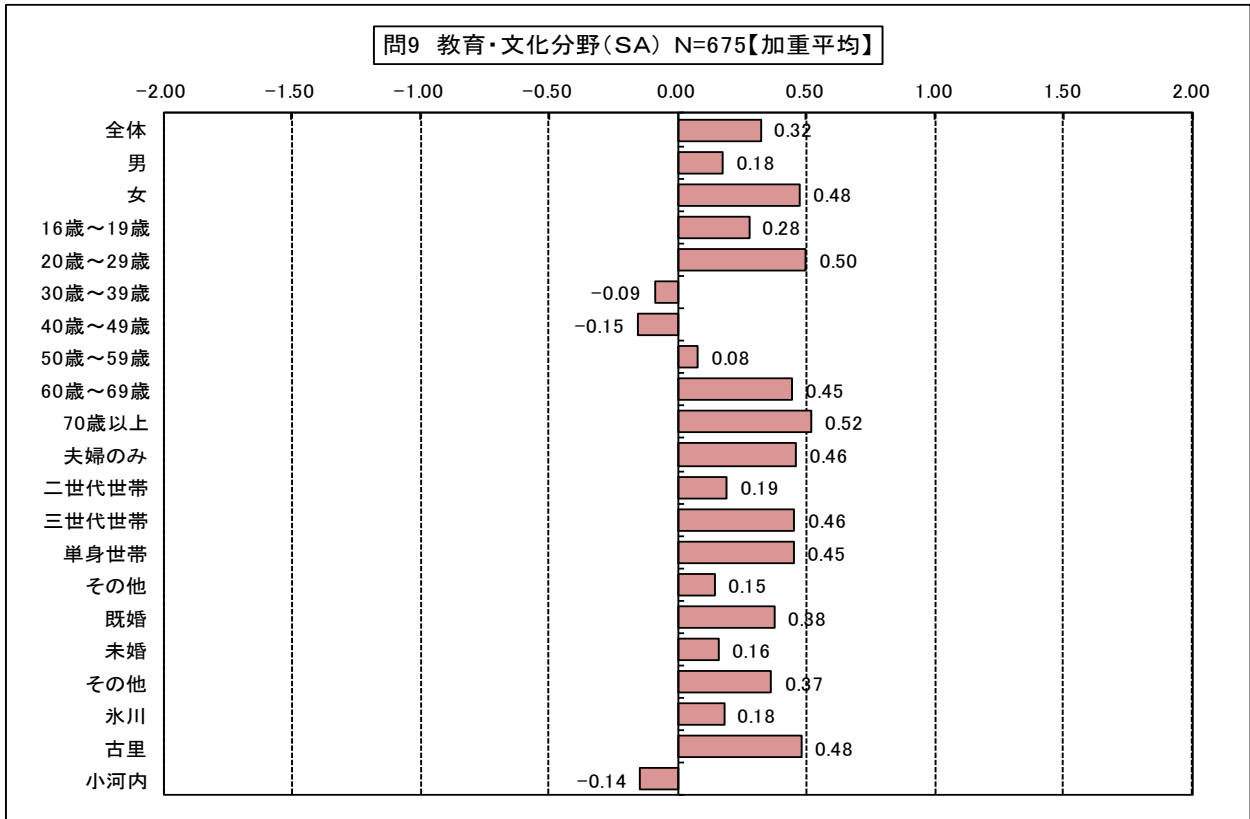


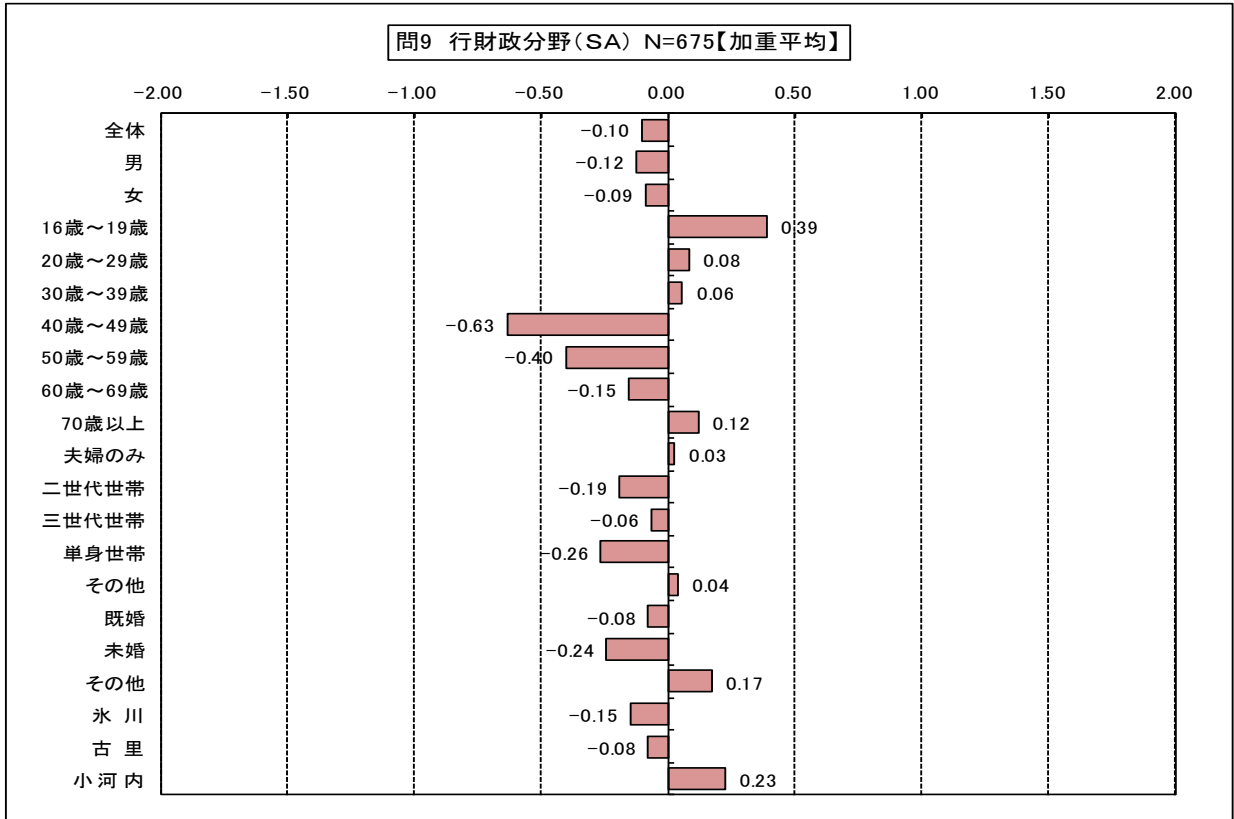


〔属性別 加重平均結果〕

分野毎の、属性別の「満足」から「不満」を合わせた加重平均値は以下のとおりです。





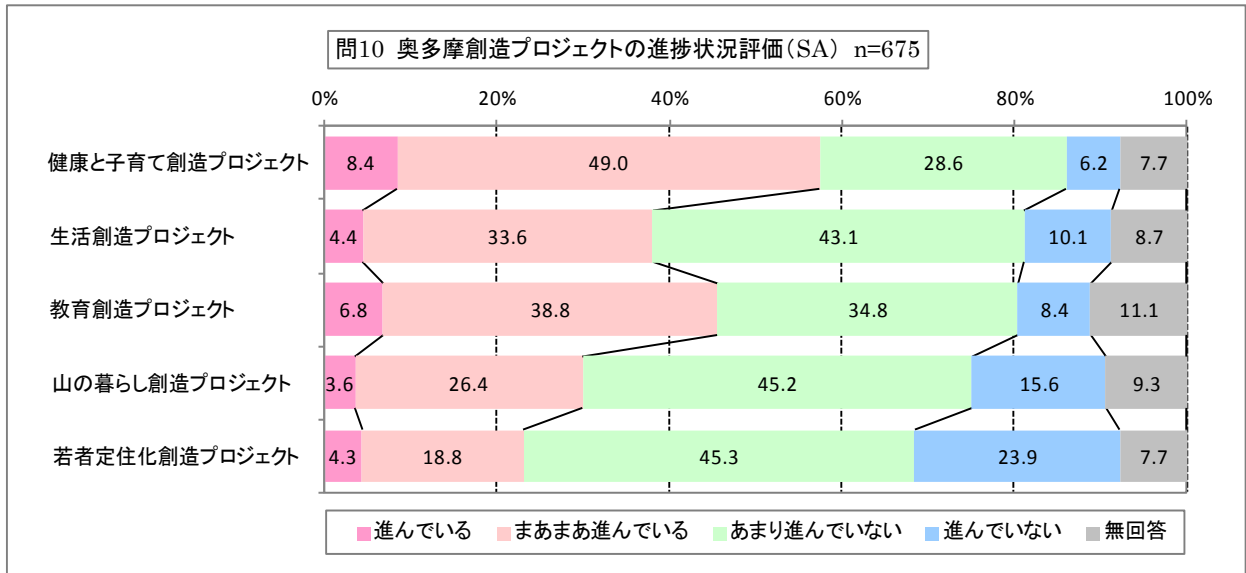


【奥多摩町のまちづくり施策について】

問 10 奥多摩創造プロジェクトの進捗状況評価

奥多摩創造プロジェクトの進捗状況評価については、「進んでいる」と「まあまあ進んでいる」を合わせた“進んでいる”と評価する割合が、“進んでいない”と感じている割合を上回る項目は、「健康と子育てプロジェクト」と「教育創造プロジェクト」の 2 つのプロジェクトです。これらの“進んでいる”の回答割合は、「健康と子育てプロジェクト」が 57.4%と高く、次いで「教育創造プロジェクト」が 45.6%と続いています。

一方、“進んでいる”よりも、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合わせた“進んでいない”と評価する割合が上回るプロジェクトは、「生活創造プロジェクト」、「山の暮らし創造プロジェクト」、「若者定住化創造プロジェクト」の 3 つのプロジェクトです。これらの“進んでいない”の回答割合は、「若者定住化創造プロジェクト」が 79.2%に達し最も多くなっており、次いで「山の暮らし創造プロジェクト」が 60.8%、「生活創造プロジェクト」が 53.2%と続いています。



〔過去調査結果との比較〕

なお、今回の調査を含め、過去 5 回実施した調査結果を分野別に比較した結果が次頁以降 (p.24～p.25) のグラフです。

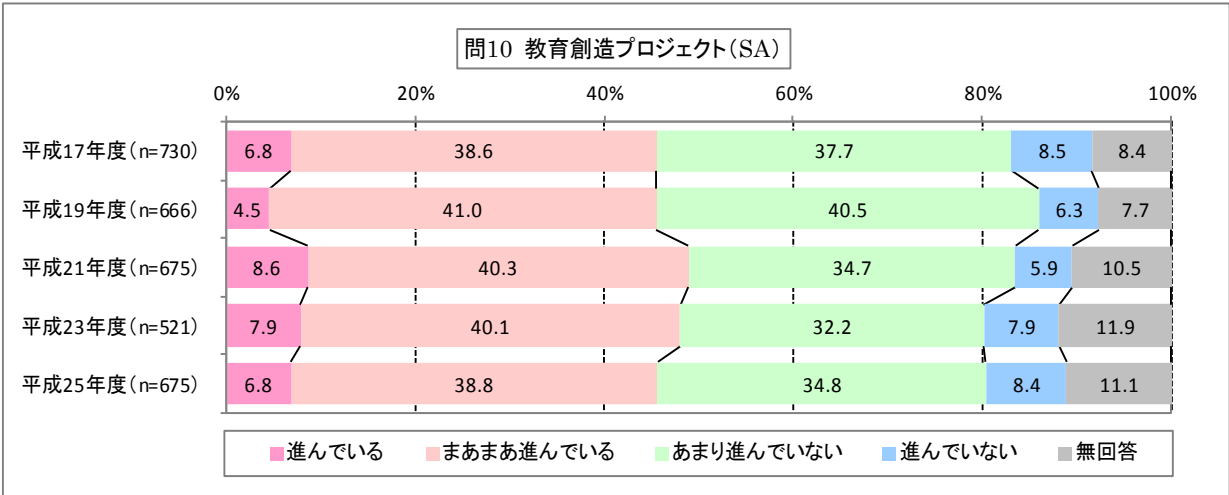
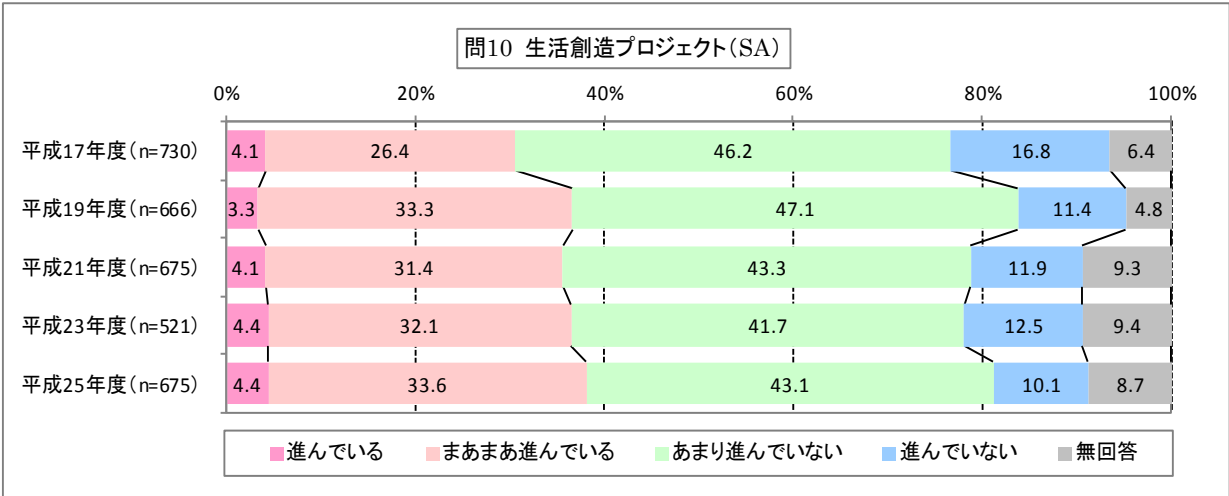
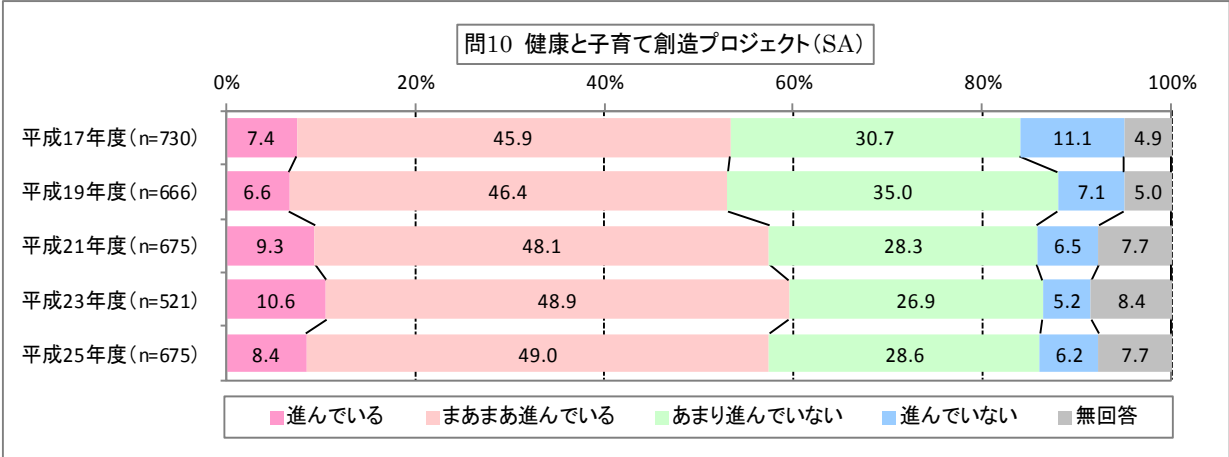
健康と子育て創造プロジェクトに対する「進んでいる」と「まあまあ進んでいる」を合わせた“進んでいる”と評価する回答は、平成 23 年度までは増加傾向でしたが、平成 25 年度は減少しています。

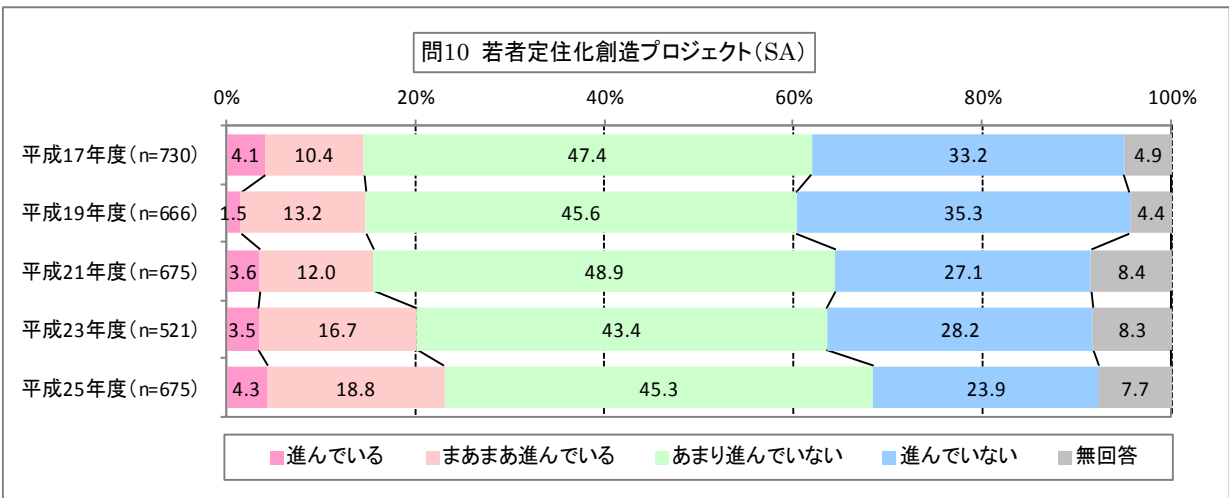
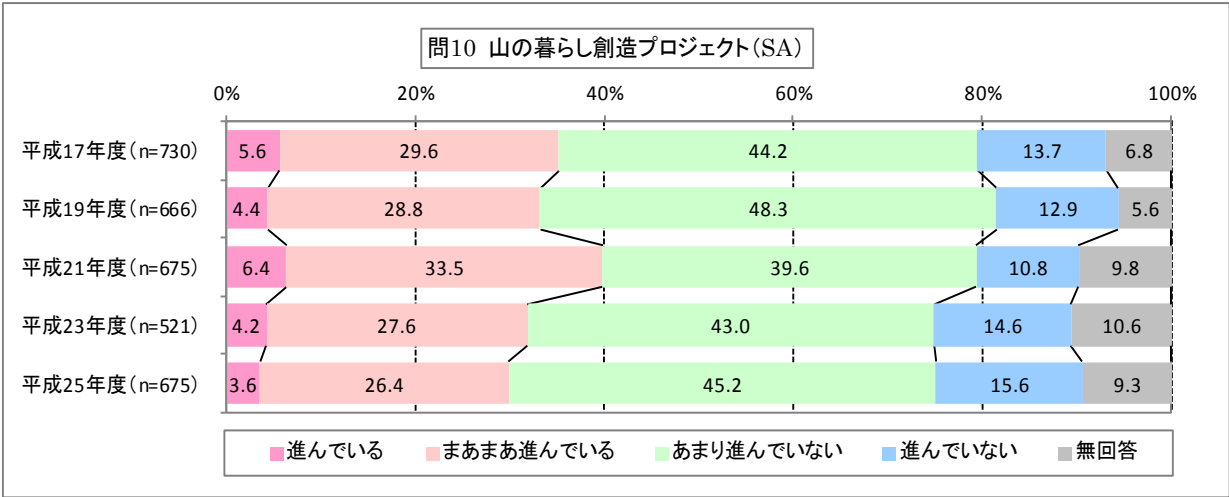
生活創造プロジェクトに対する“進んでいる”と評価する回答は、平成 19 年度以降大きく変化していない結果となっています。

教育創造プロジェクトに対する“進んでいる”と評価する回答は、相対的に回答割合が高いものの平成 21 年度を最大に以降減少傾向になっています。

山の暮らし創造プロジェクトは、平成 21 年度の評価が最も高く、以降減少傾向で、平成 25 年度はこれまでもっとも少ない結果となっています。

若者定住化創造プロジェクトは、相対的に“進んでいる”と評価する回答割合は低いものの、僅かながら増加傾向を示す結果となっています。

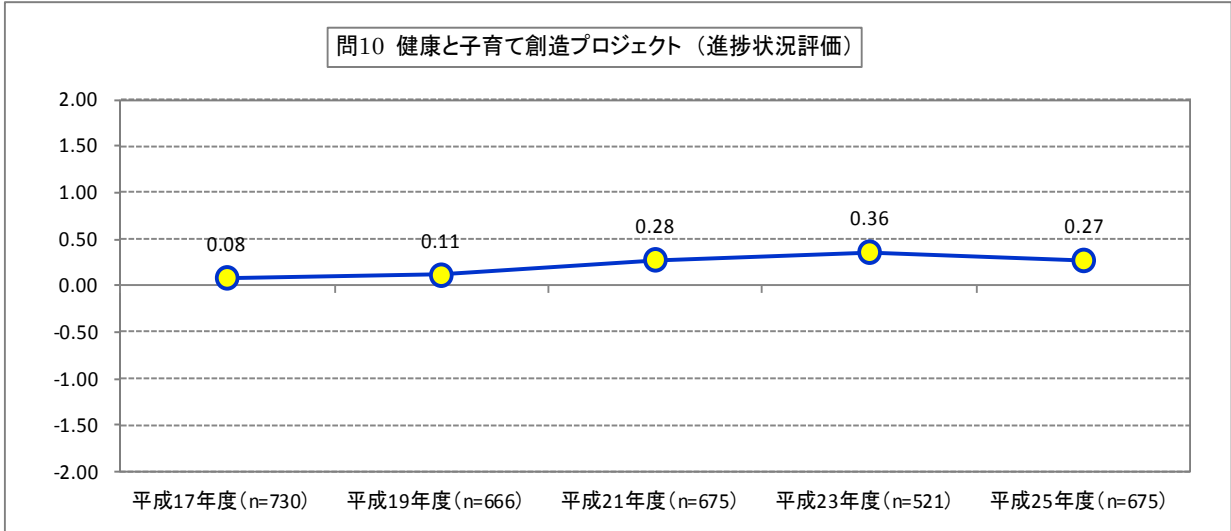




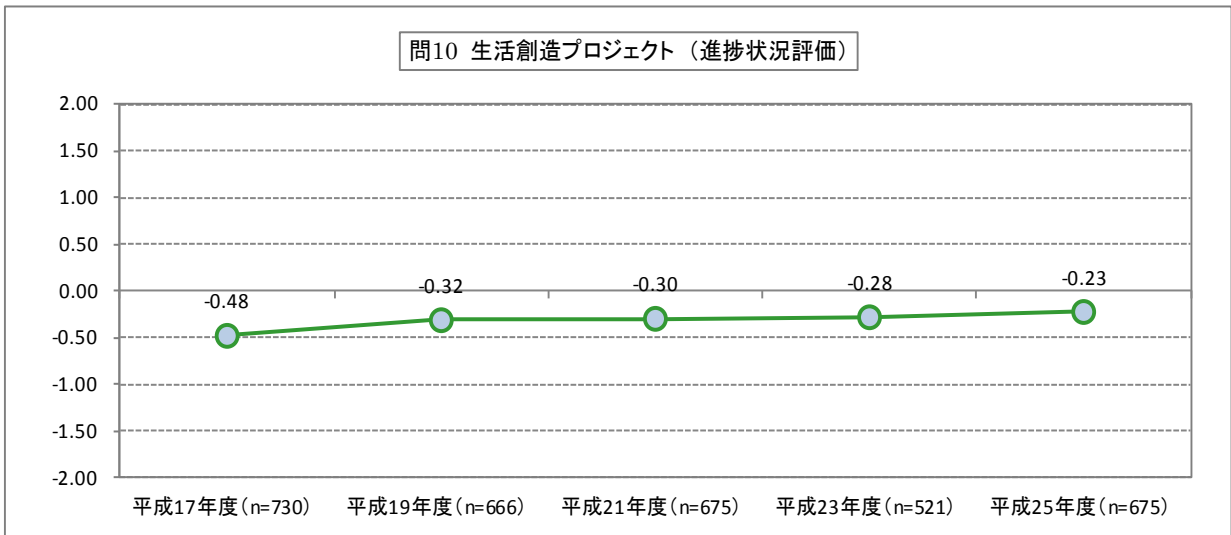
〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

「無回答」を除く「進んでいる」、「まあまあ進んでいる」、「あまり進んでいない」及び「進んでいない」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が以下のグラフです。

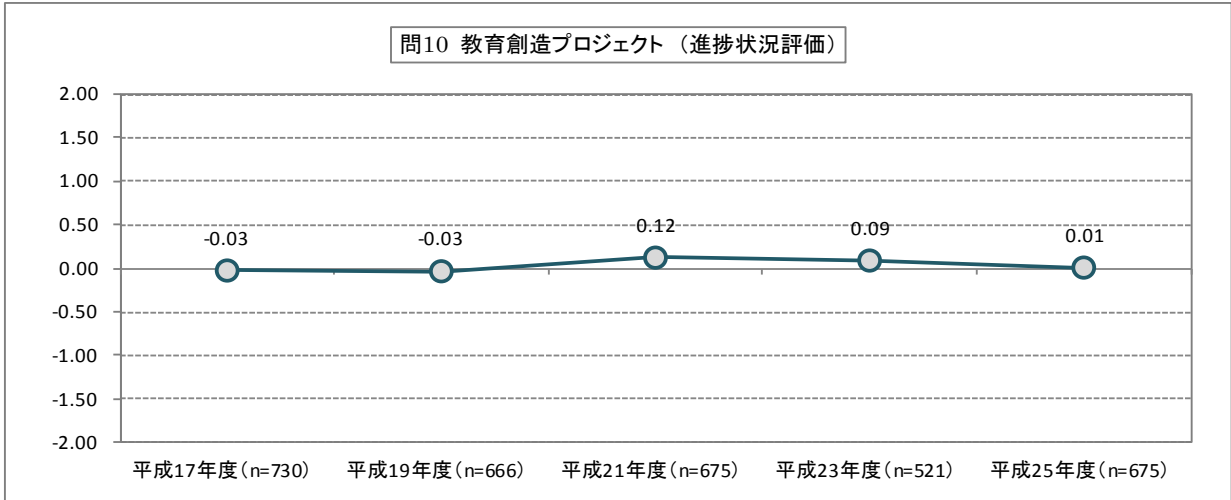
健康と子育て創造プロジェクトの加重平均値は、平成 17 年度の 0.08 から増加を続け、平成 23 年度には 0.36 となりましたが、平成 25 年度には 0.27 に下がっています。



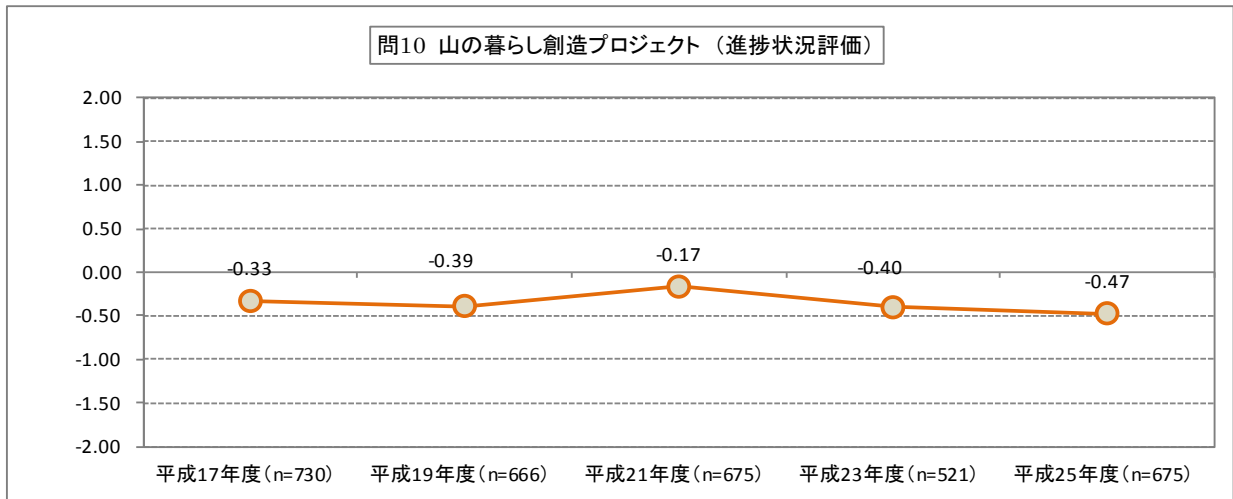
生活創造プロジェクトでは過去 5 回の調査結果いずれも 0.0 を下回っており、“進んでいない”の評価がより大きいことを示していますが、評価の度合いは高まっており平成 23 年度ではこれまでで最も高い結果（-0.23）となっています。



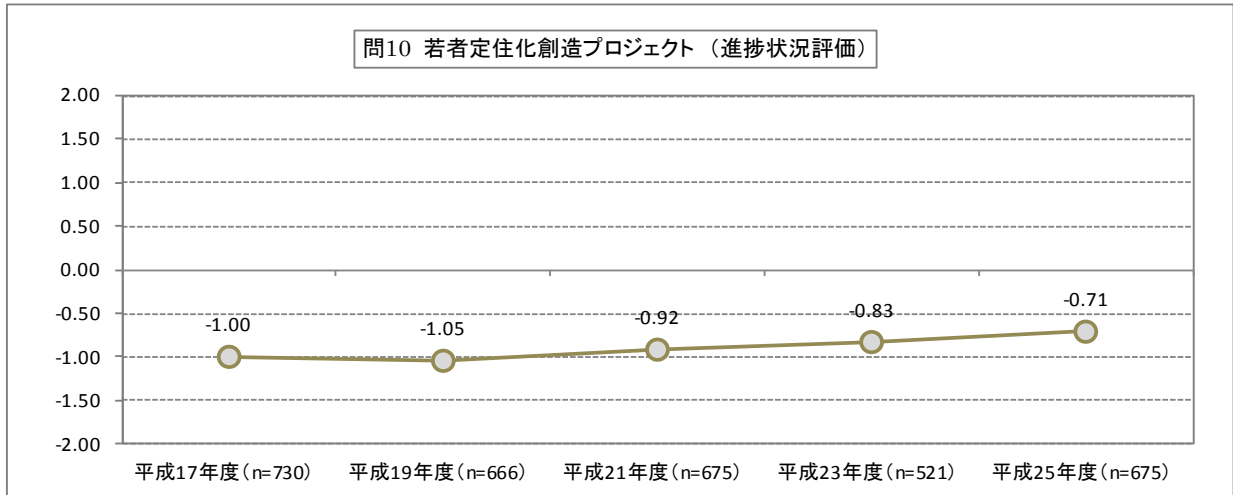
教育創造プロジェクトは、平成 17 年度及び平成 19 年度の調査結果いずれも 0.0 を下回っていましたが、平成 21 年度以降は 0.0 を超えており、“進んでいる”の評価の度合いが高まっていますが、平成 25 年度には 0.01 まで低下しています。



山の暮らし創造プロジェクトでは過去 5 回の調査結果いずれも 0.0 を下回っており、“進んでいない”の評価がより大きいことを示していますが、平成 23 年度ではこれまでで最も低い結果（-0.47）となっています。

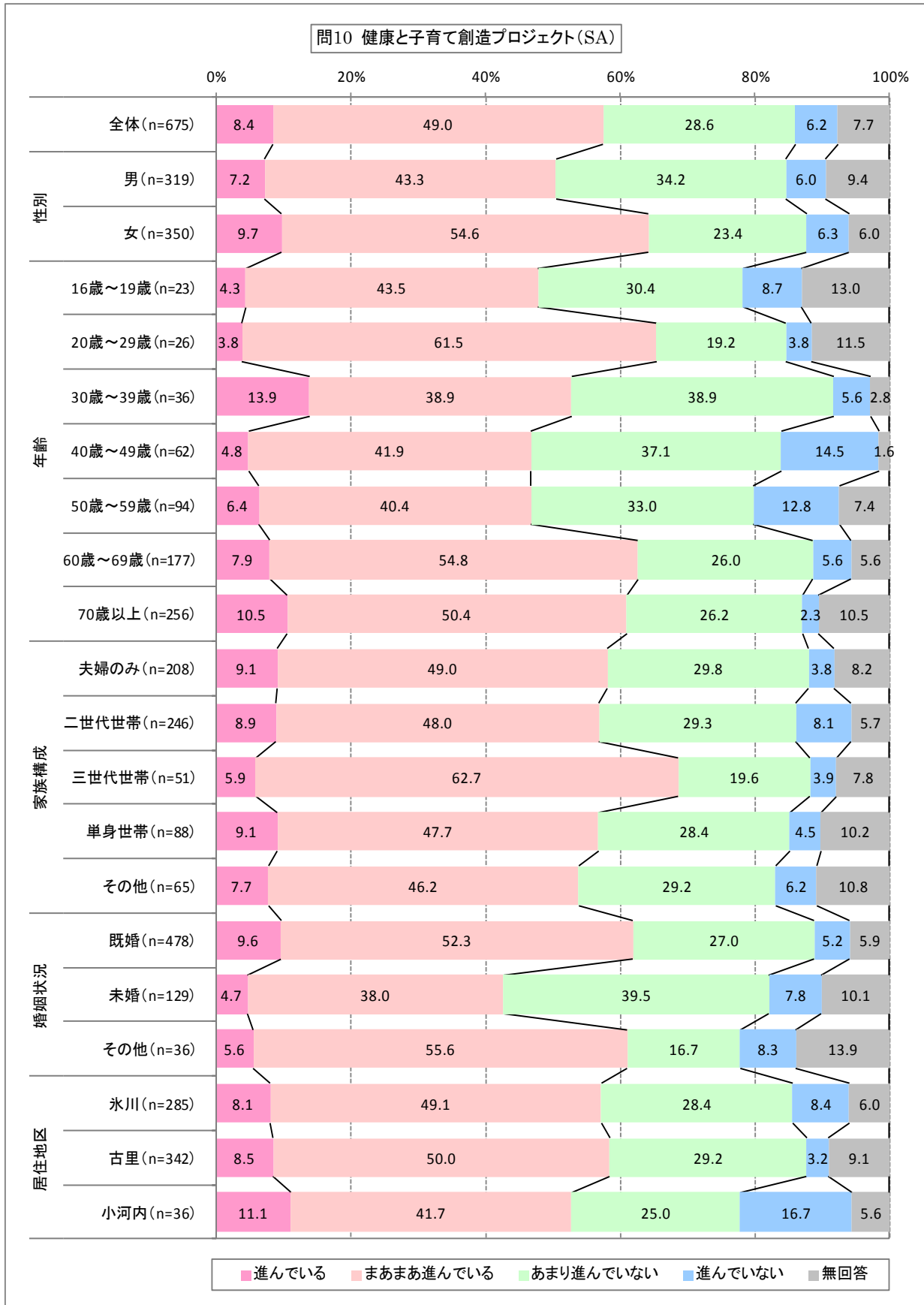


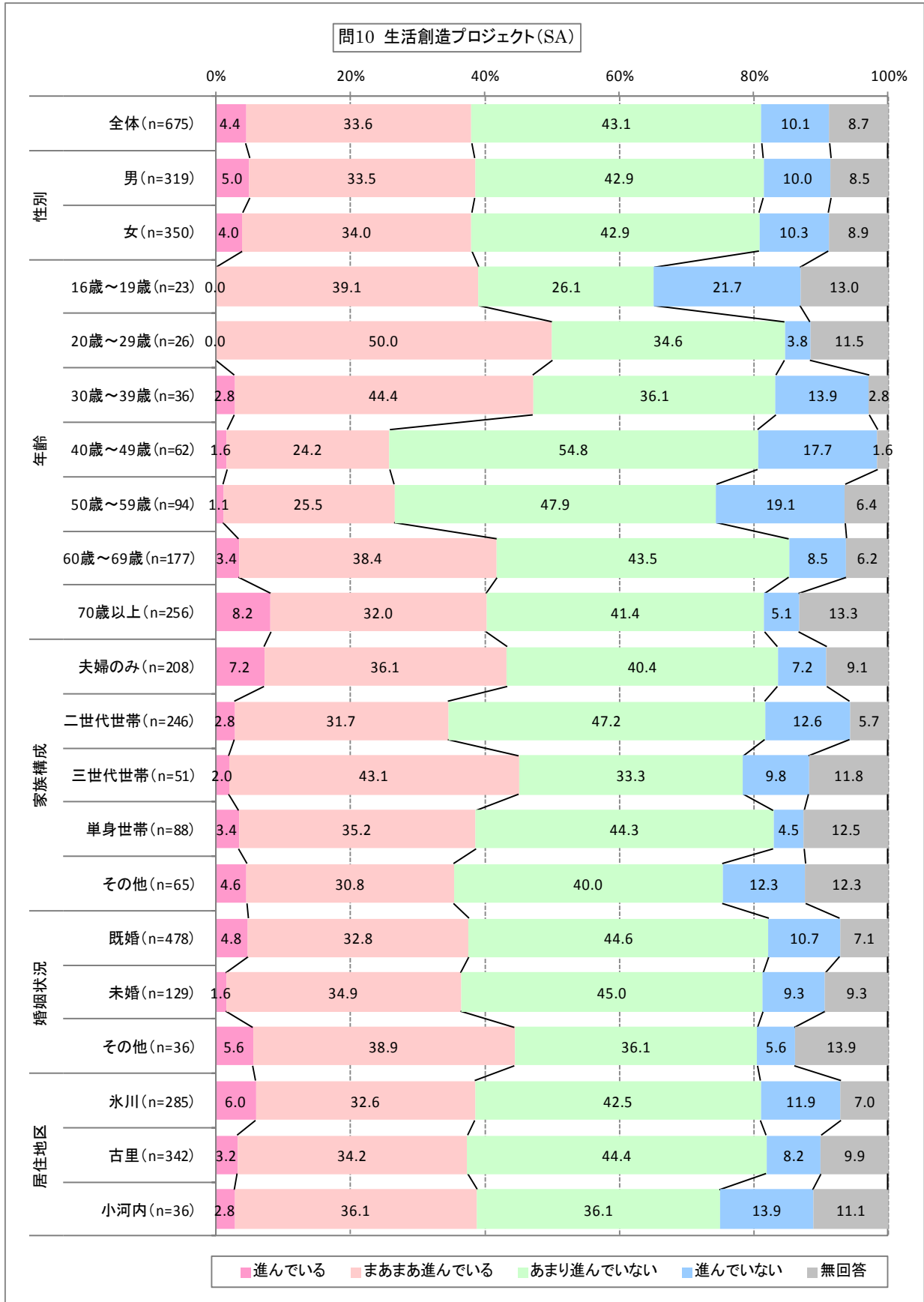
若者定住化創造プロジェクトでは過去 4 回の調査結果いずれも 0.0 を下回っており、“進んでいない”の評価がより大きいことを示していますが、僅かながら評価は向上していることがうかがえます。

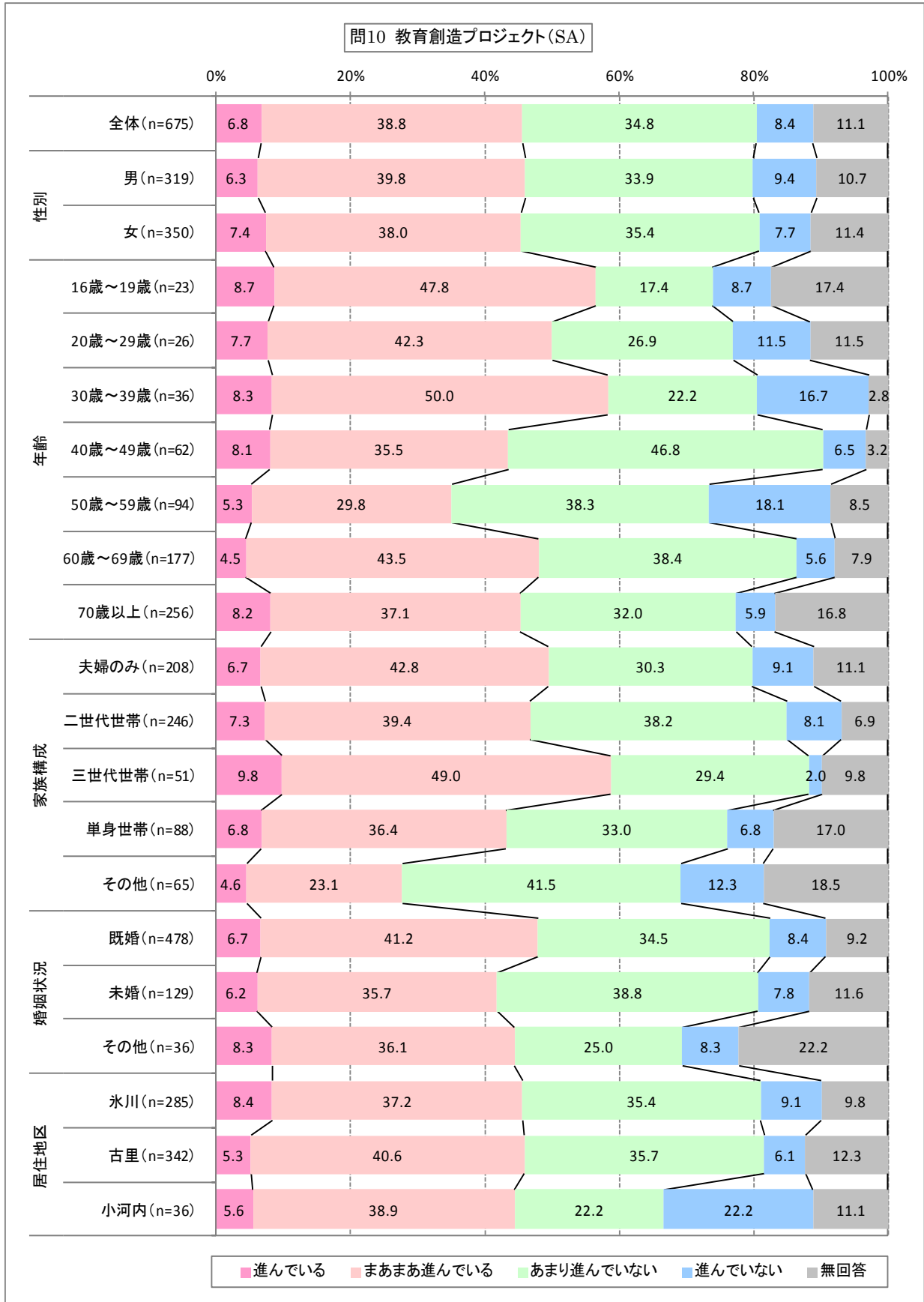


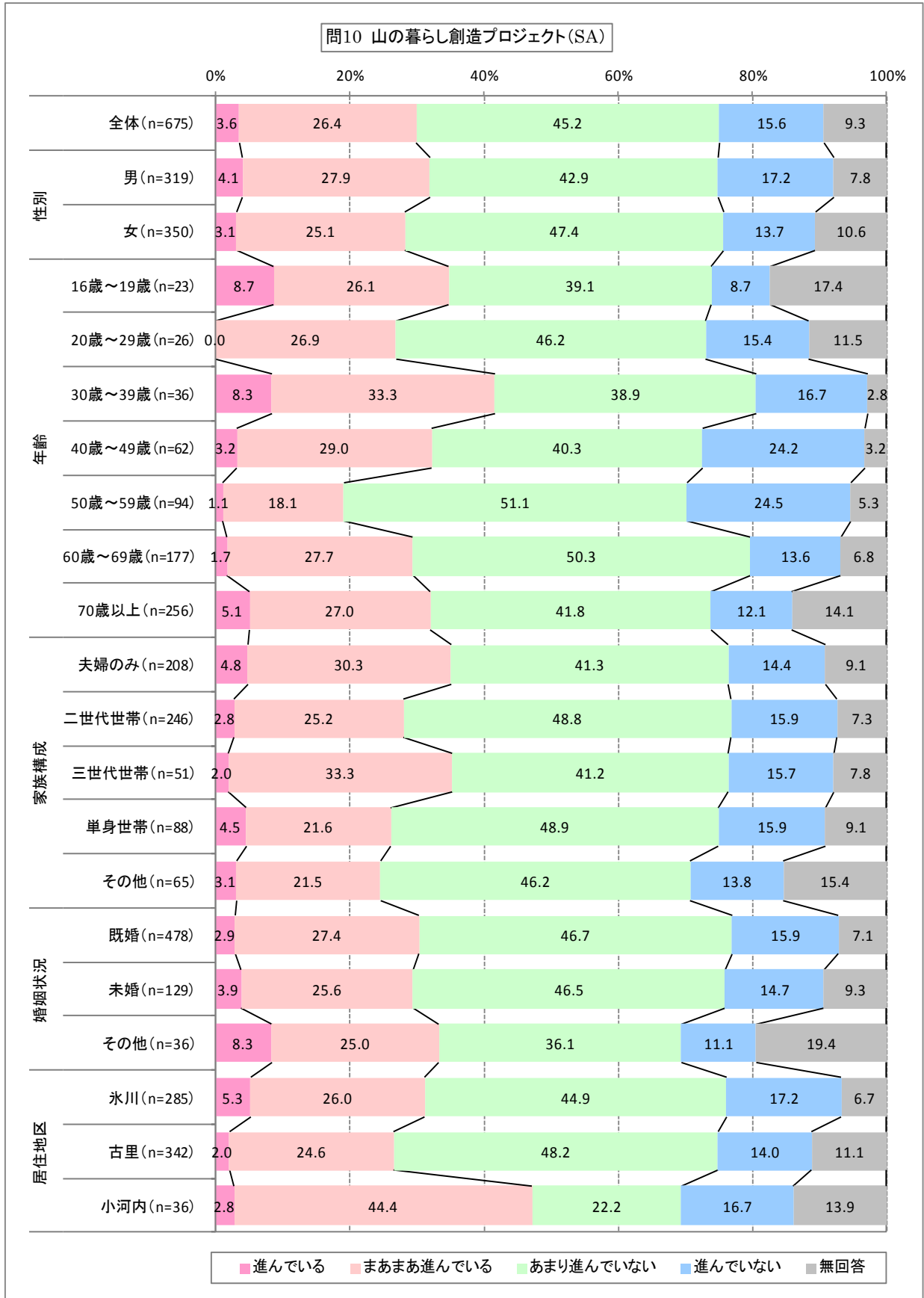
〔属性別 結果一覧〕

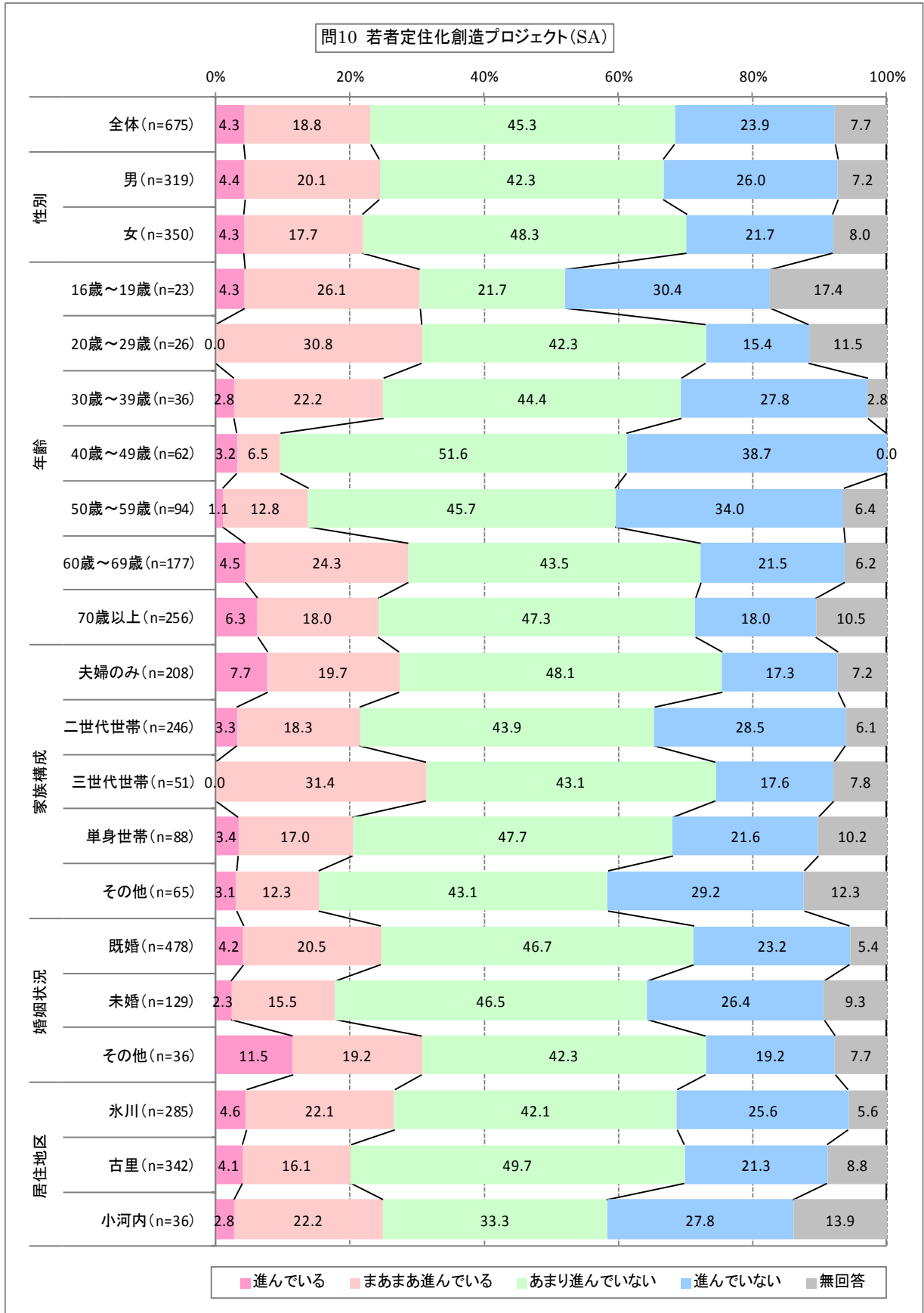
分野毎の、属性別の「進んでいる」から「進んでいない」の回答割合は以下のとおりです。





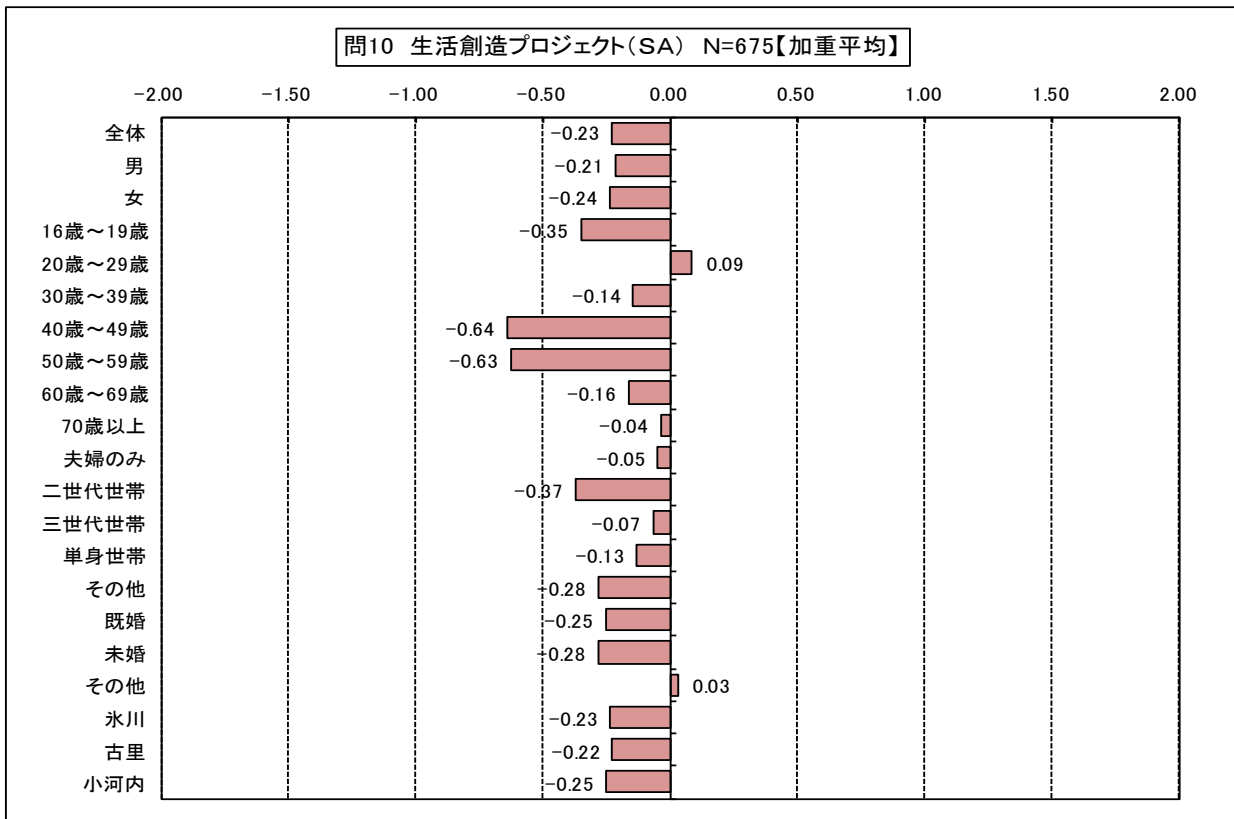
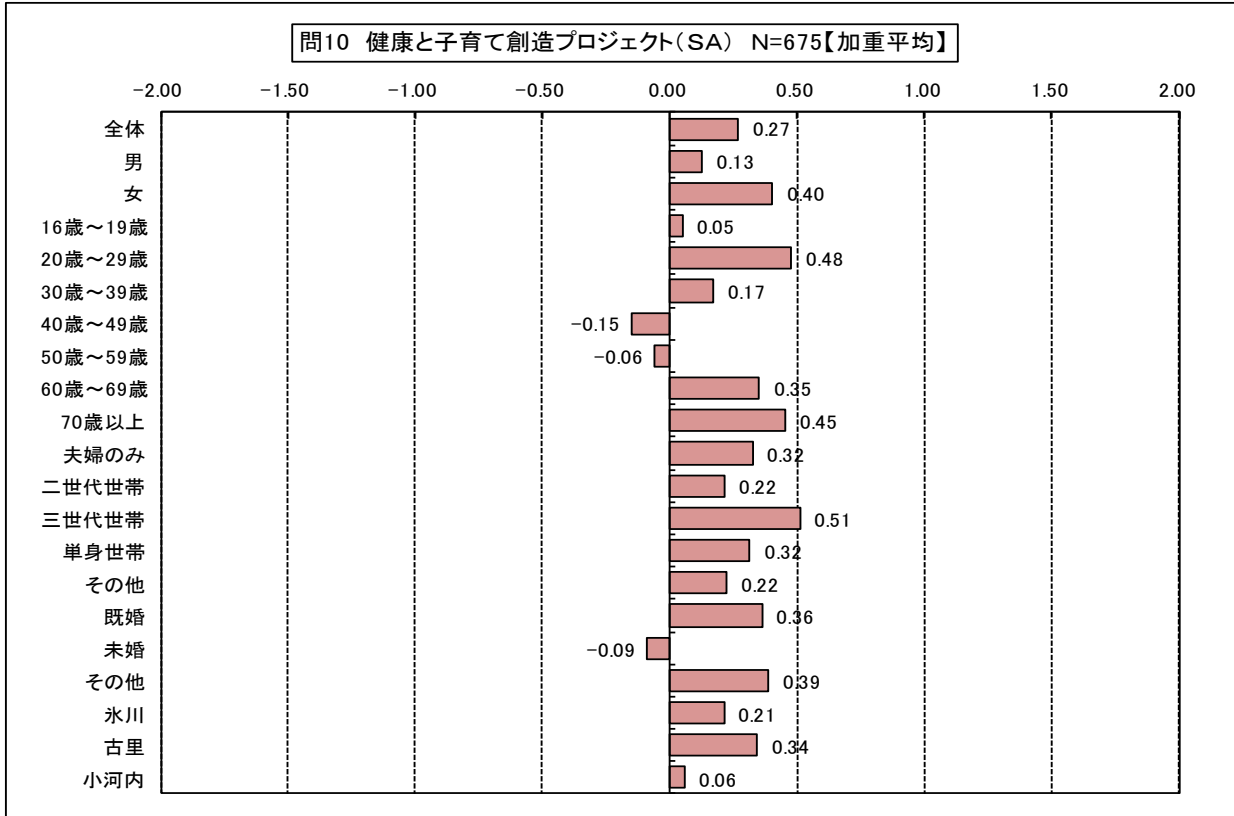


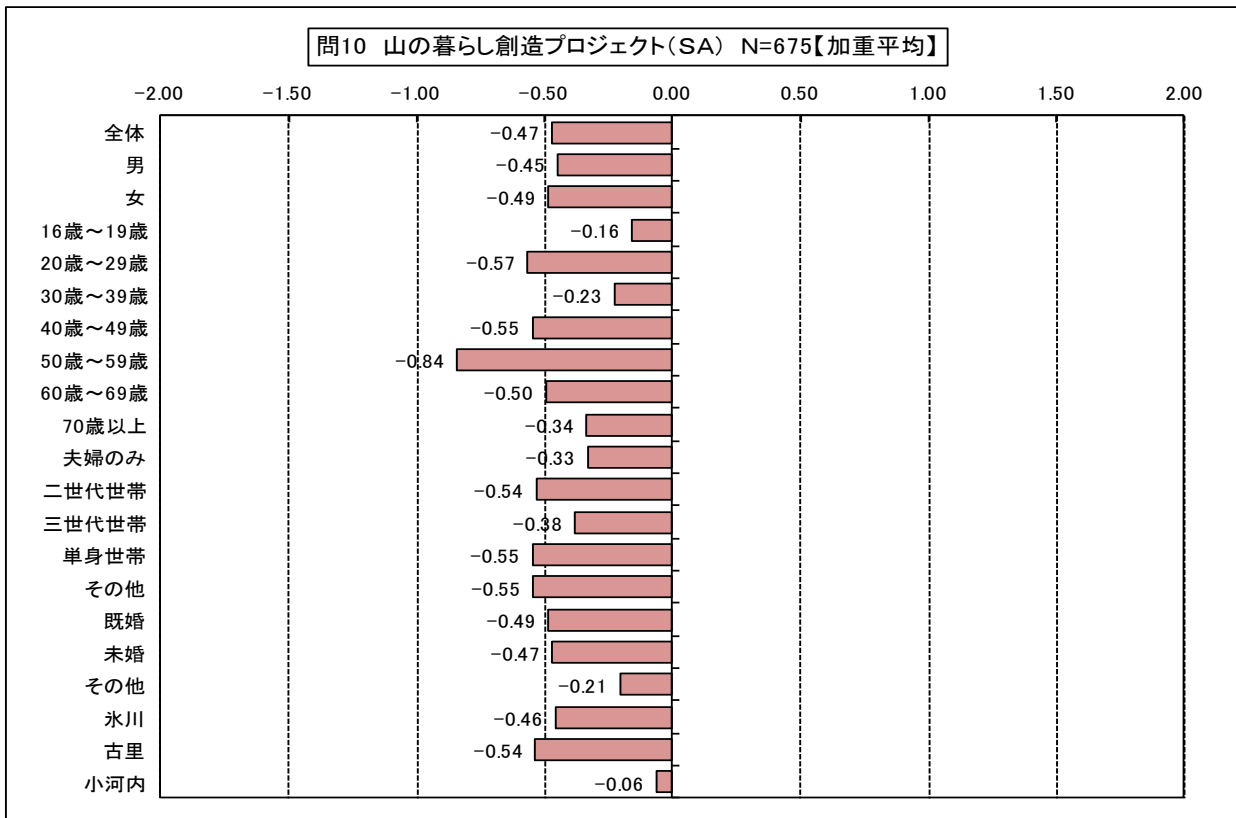
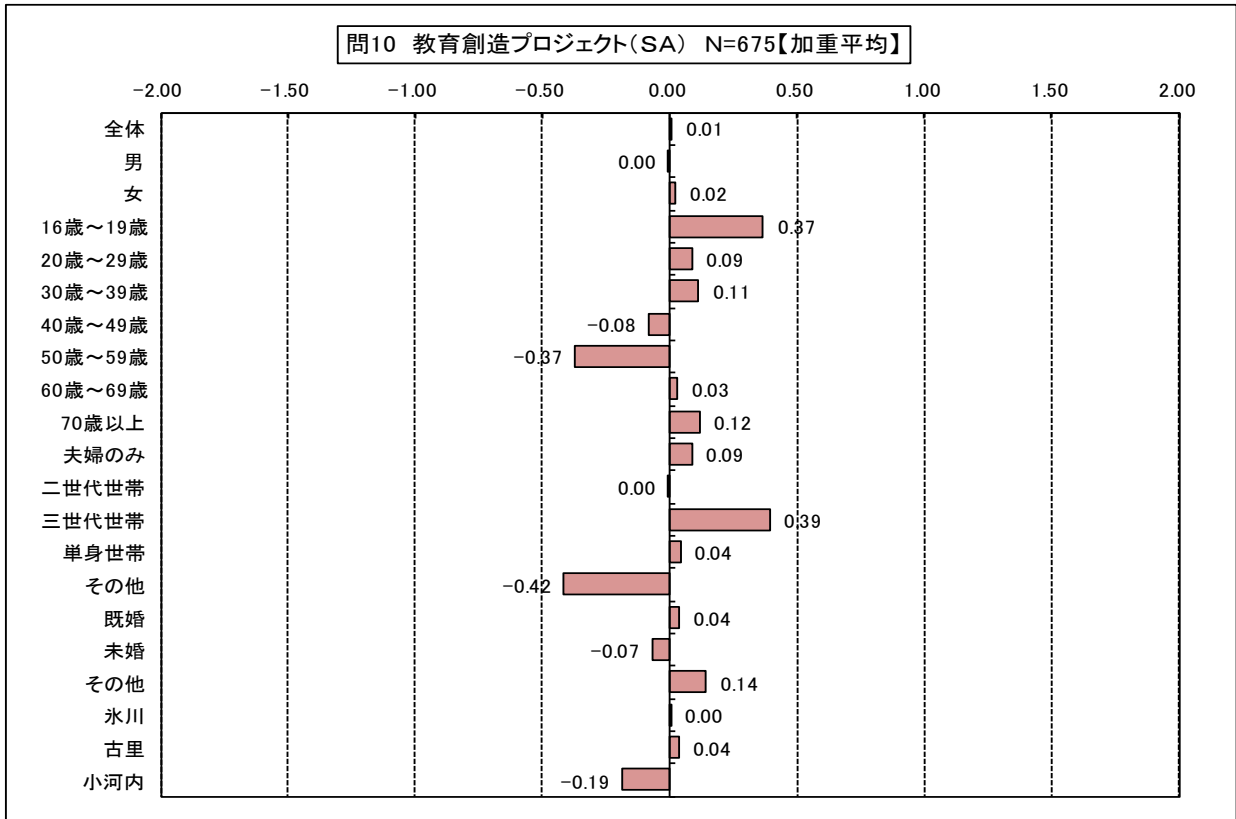


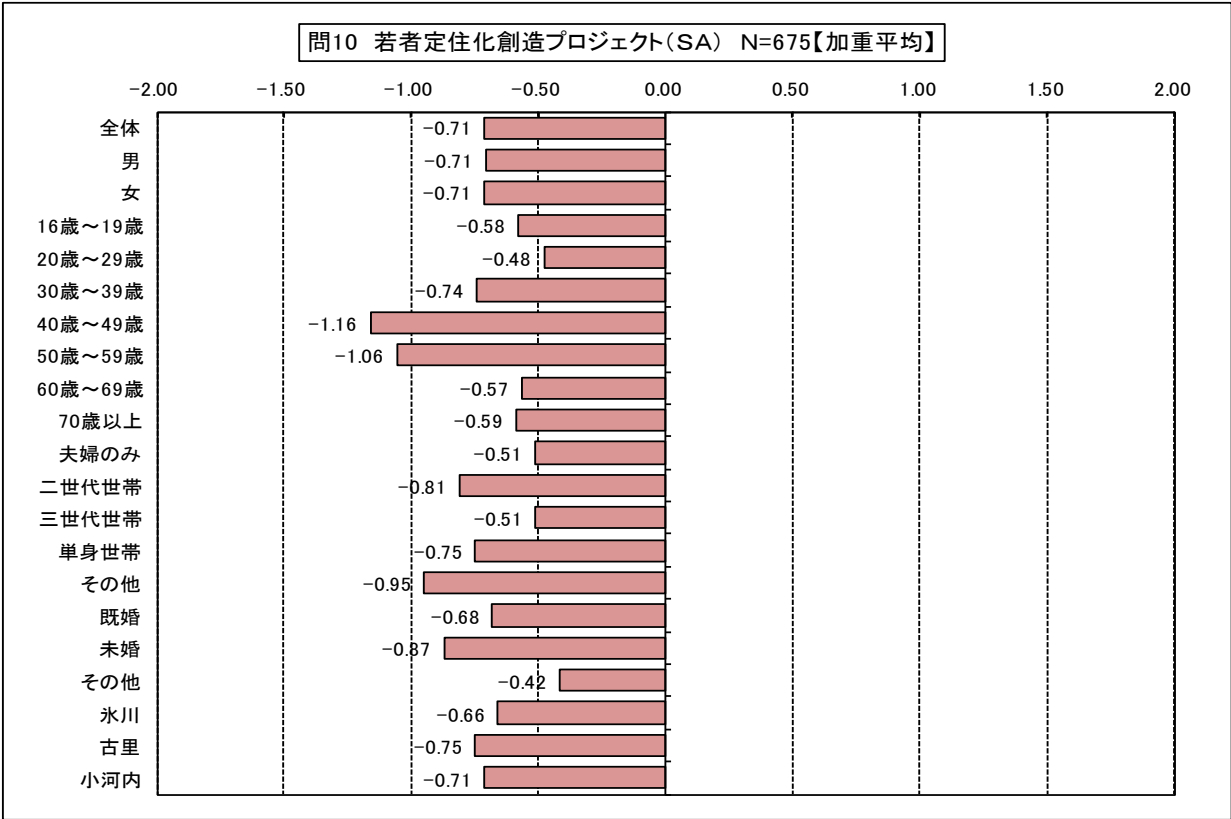


〔属性別 加重平均結果〕

プロジェクト毎の、属性別の「進んでいる」から「進んでいない」を合わせた加重平均値は以下のとおりです。



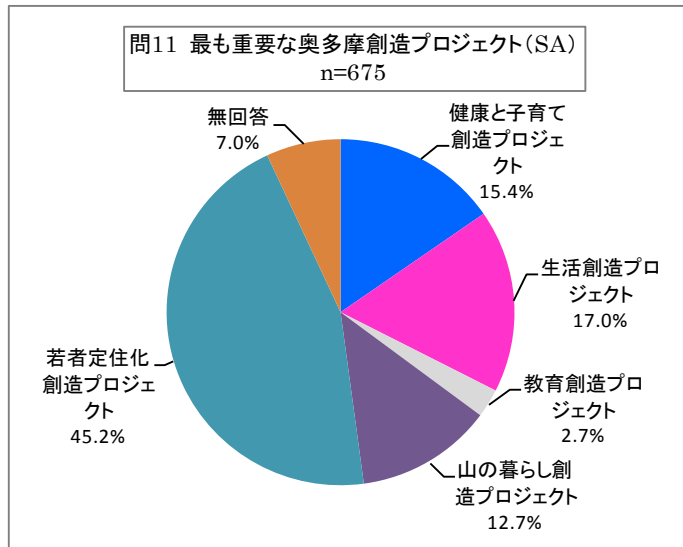




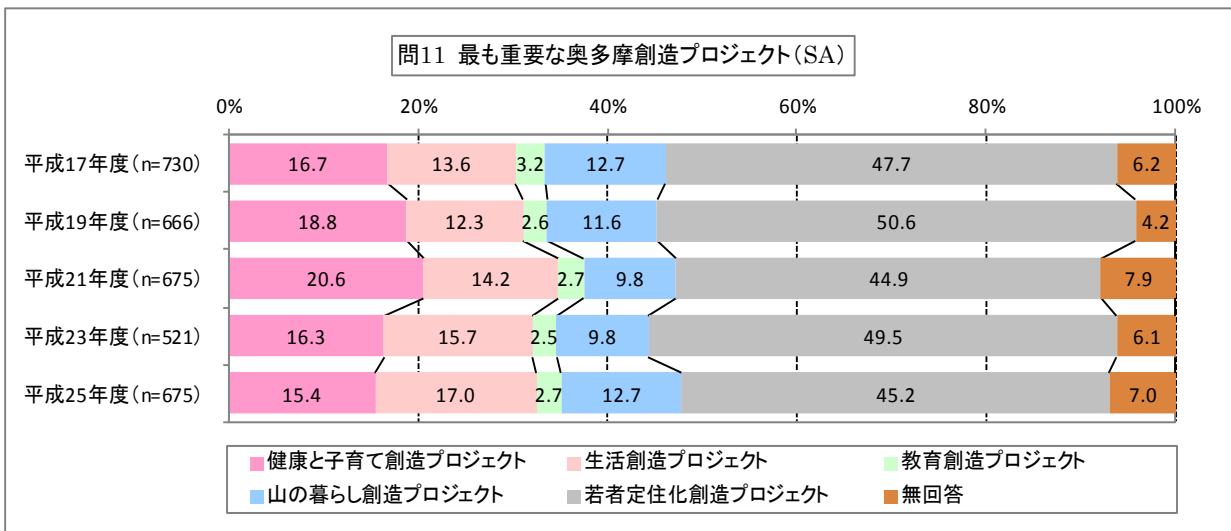
問 11 最重要と考える奥多摩創造プロジェクト

最重要と考える奥多摩創造プロジェクトとしては、「若者定住化創造プロジェクト」が最も多く 45.2%に達し、次いで「生活創造プロジェクト」が 17.0%、「健康と子育て創造プロジェクト」が 15.4%と続いています。

また、属性別の結果では、各属性（男女・年齢・家族構成・婚姻状況・居住地域）ともに「若者定住化創造プロジェクト」が最も多い回答割合となっています。



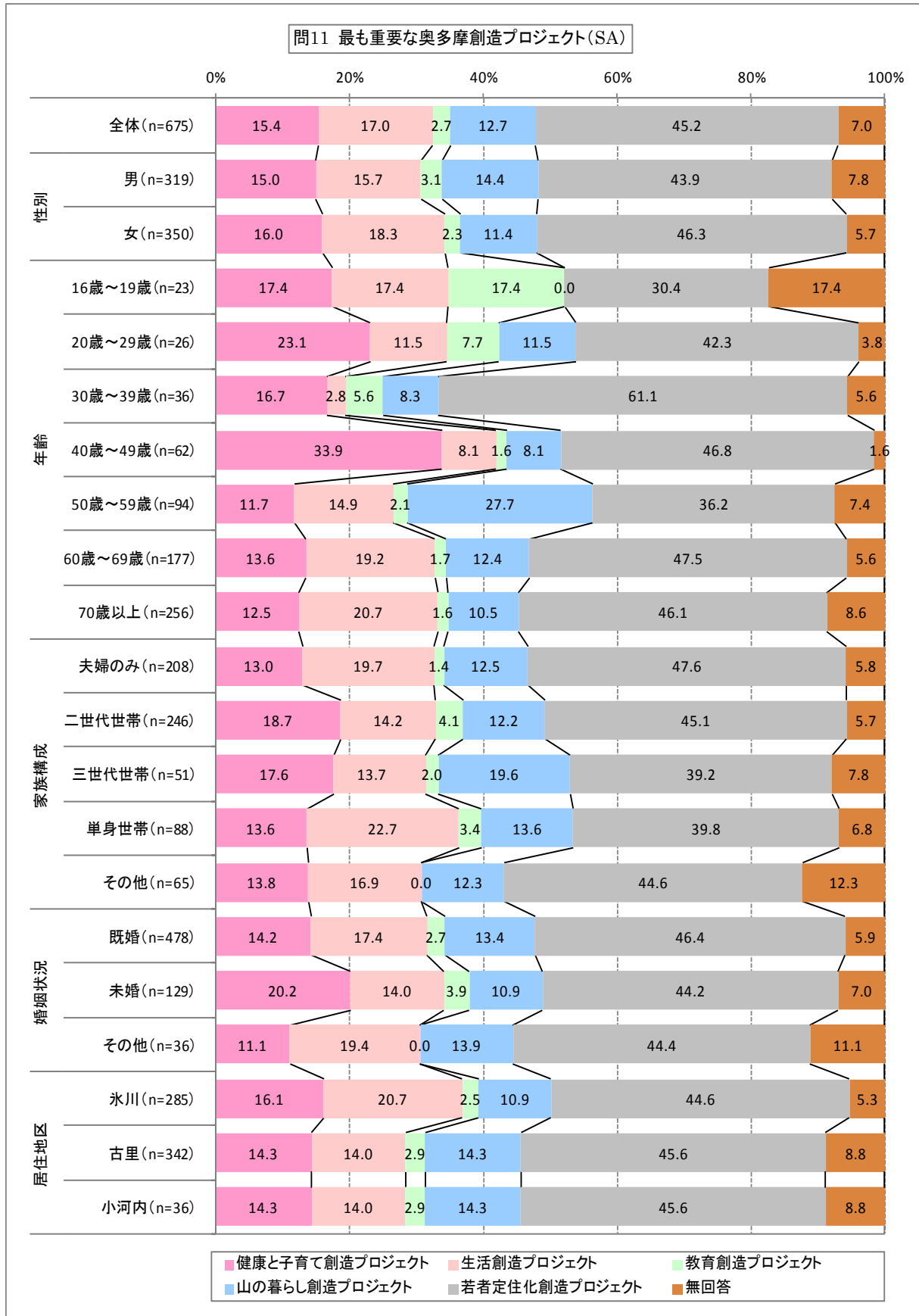
〔過去調査結果との比較〕



今回の調査を含め、過去 5 回実施した調査結果を比較すると、「若者定住化プロジェクト」は 40～50%台で推移しており、若者の定住化を促進するプロジェクトへの期待が高いことがうかがえます。

〔属性別 結果一覧〕

最も重要と考えるプロジェクトの属性別回答割合は以下のとおりです。

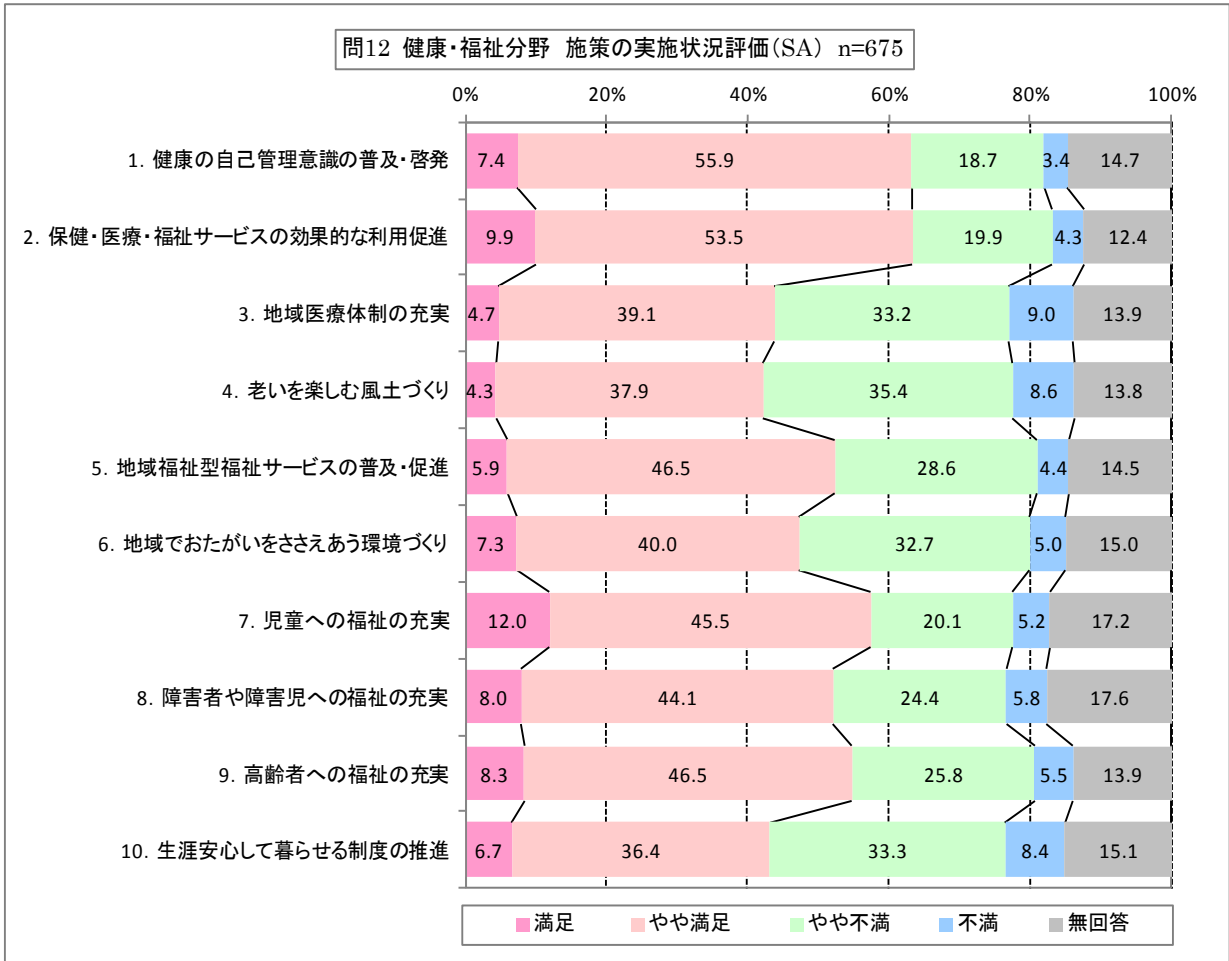


問 12-① 分野別施策の実施状況の満足度

【健康・福祉分野】

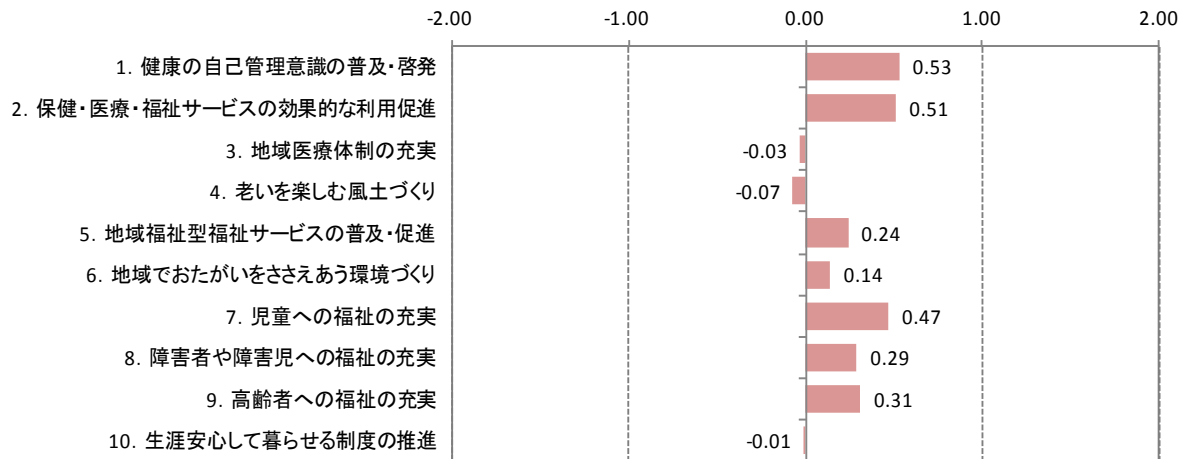
健康・福祉分野の施策の実施状況の評価において、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”の回答割合は、「1. 健康の自己管理意識の普及・啓発」、「2. 保健・医療・福祉サービスの効果的な利用促進」及び「7. 児童への福祉の充実」が他の施策に比べ高くなっています。

一方、「3. 地域医療体制の充実」、「4. 老いを楽しむ風土づくり」、「6. 地域でおたがいをささえあう環境づくり」及び「10. 生涯安心して暮らせる制度の推進」は“満足”の度合いが他の施策に比べ低くなっています。



「無回答」を除く「満足」、「やや満足」、「やや不満」及び「不満」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が次頁（p.39）のグラフですが、「3. 地域医療体制の充実」、「4. 老いを楽しむ風土づくり」及び「10. 生涯安心して暮らせる制度の推進」は、評価が拮抗していることがうかがえます。

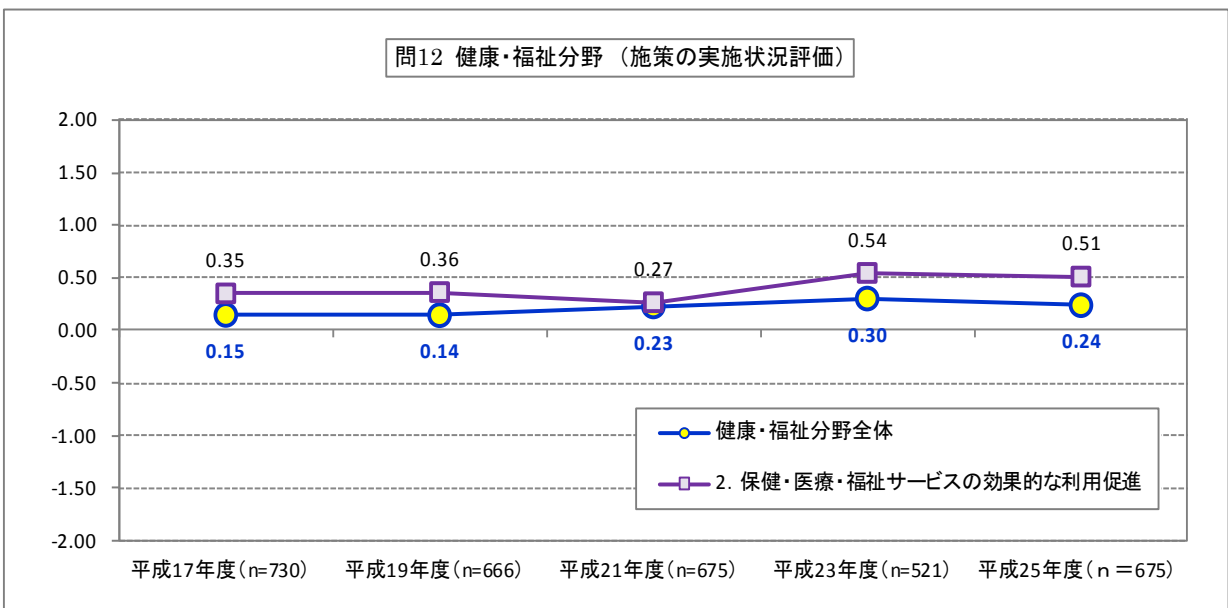
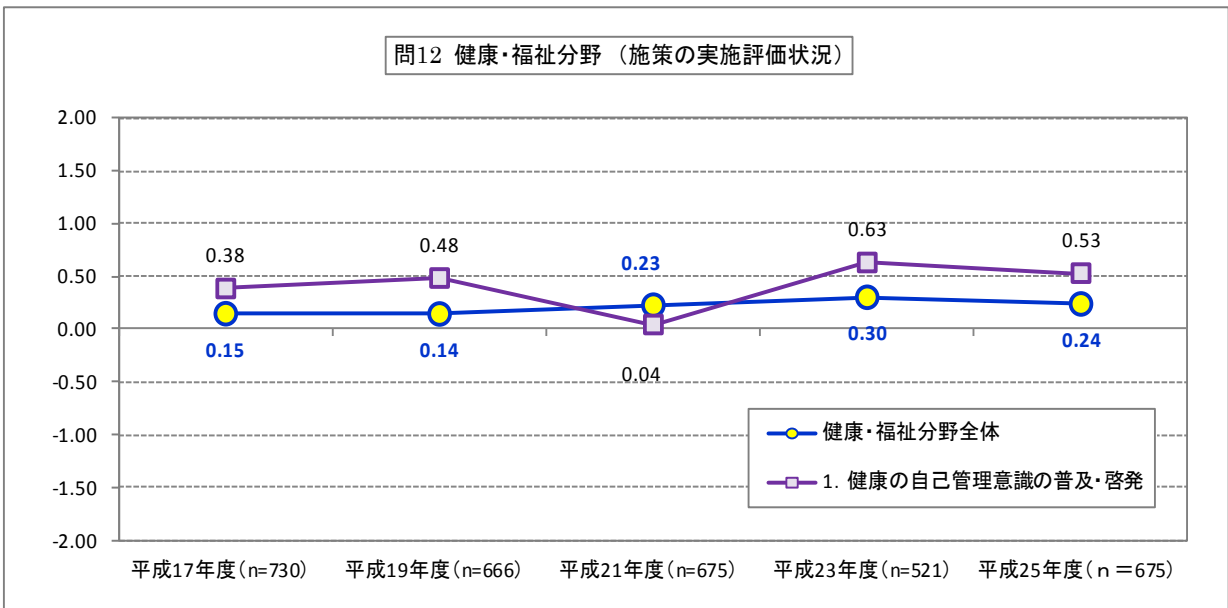
問12 健康・福祉分野 施策の実施状況評価(SA) n=675【加重平均】

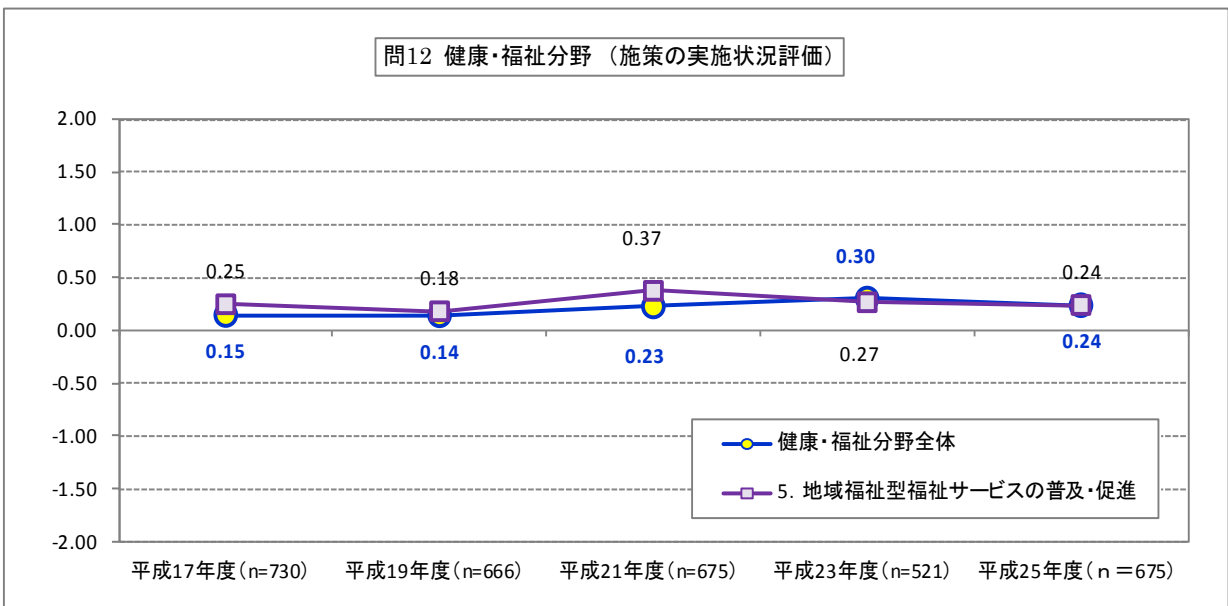
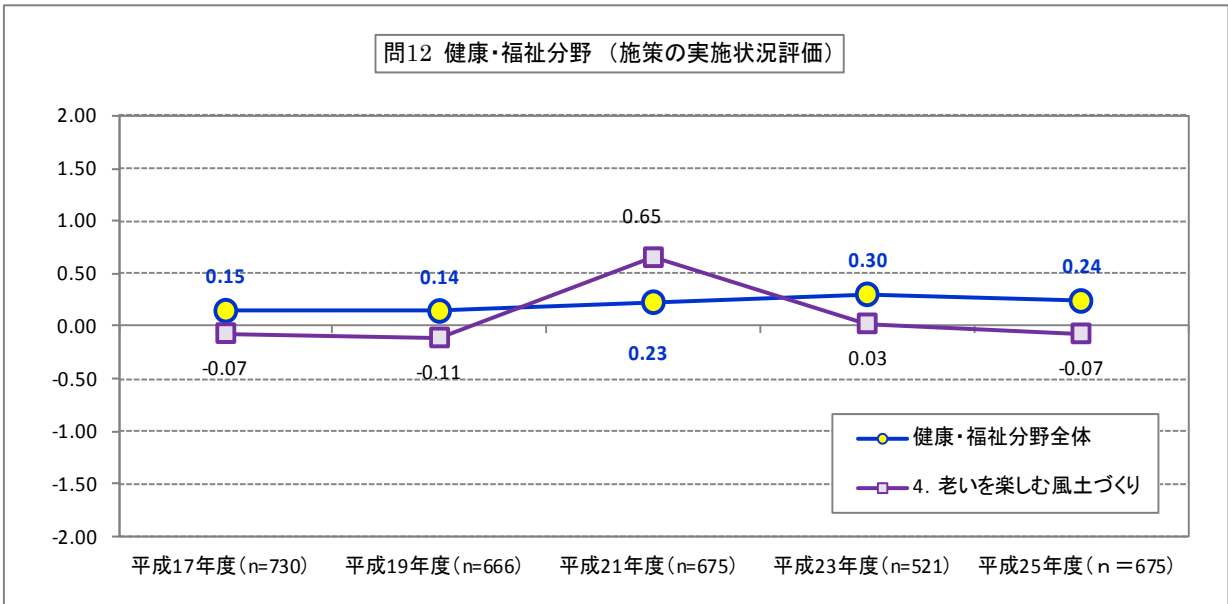
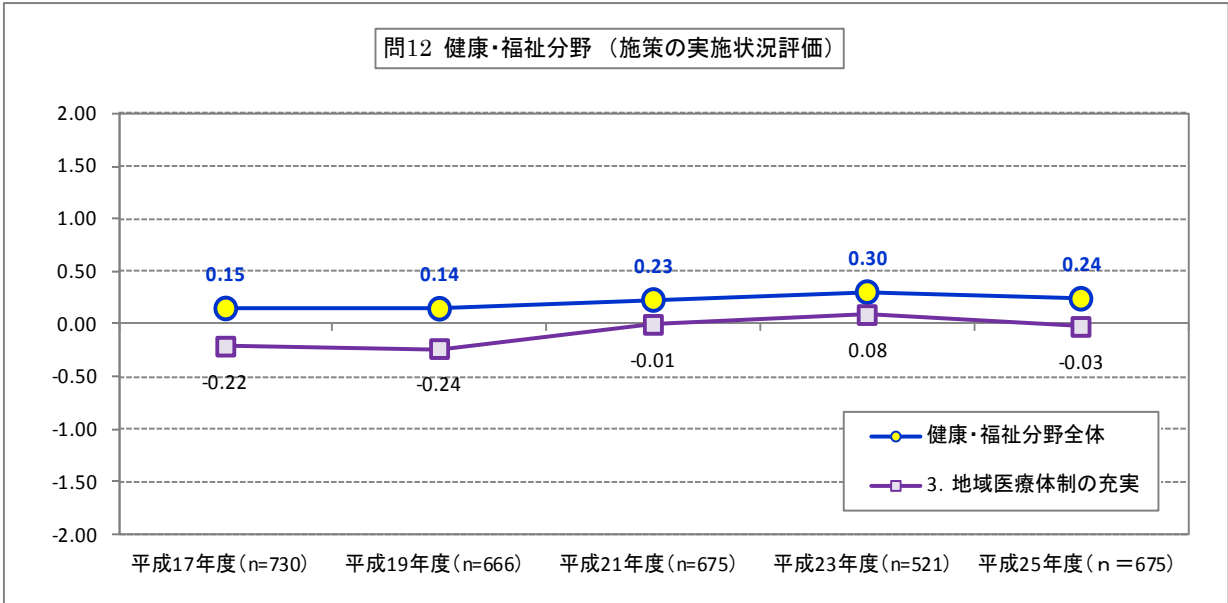


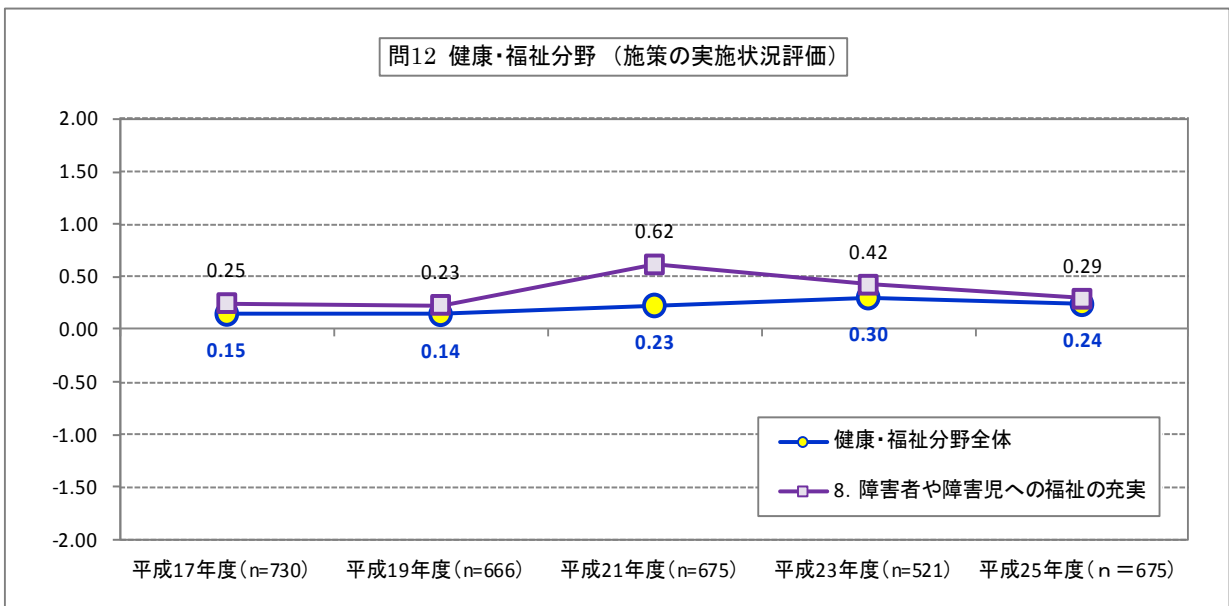
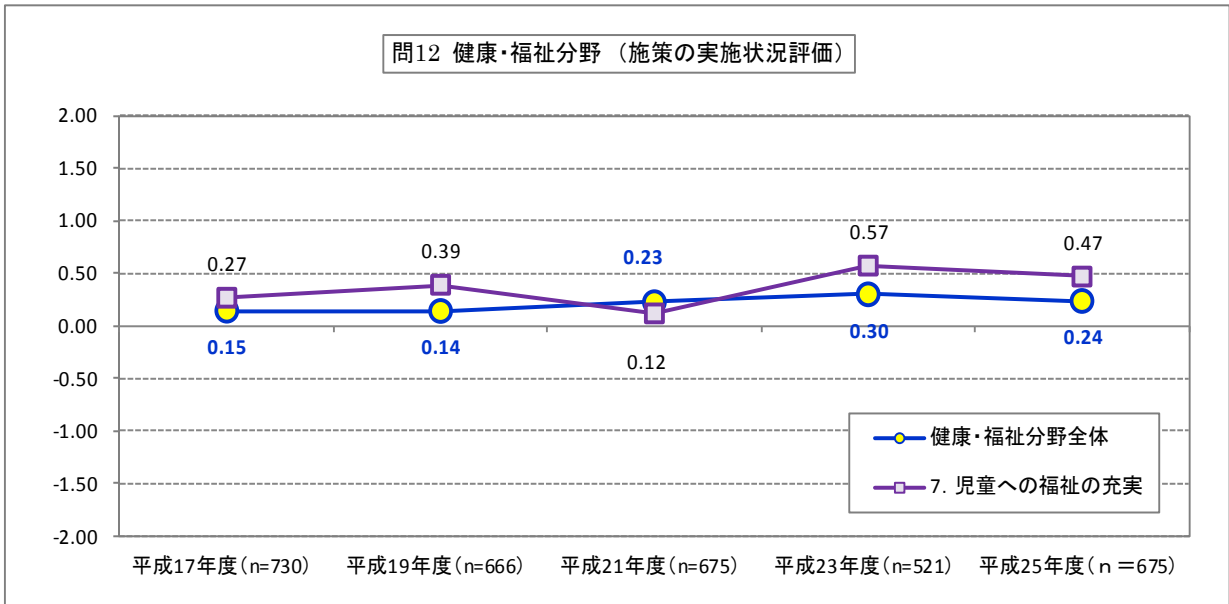
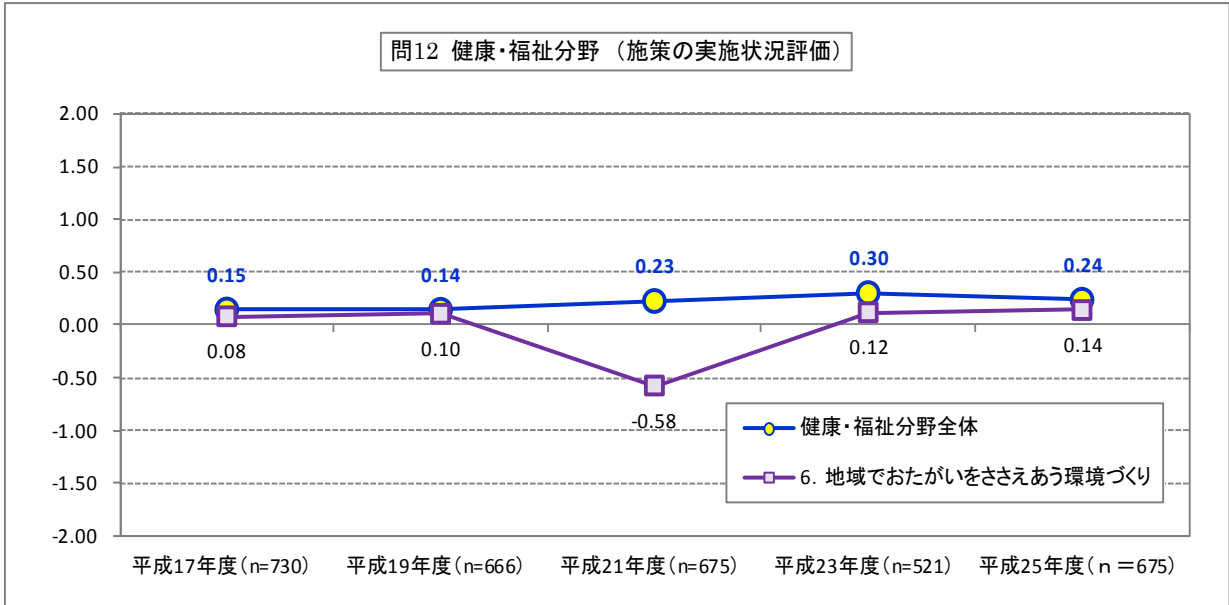
〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

健康・福祉分野の各施策の満足度を、過去5回の調査結果の加重平均値で比較した結果が以下のグラフです。（※なお、健康・福祉分野全体の加重平均値もグラフ中に併せて示しています。）

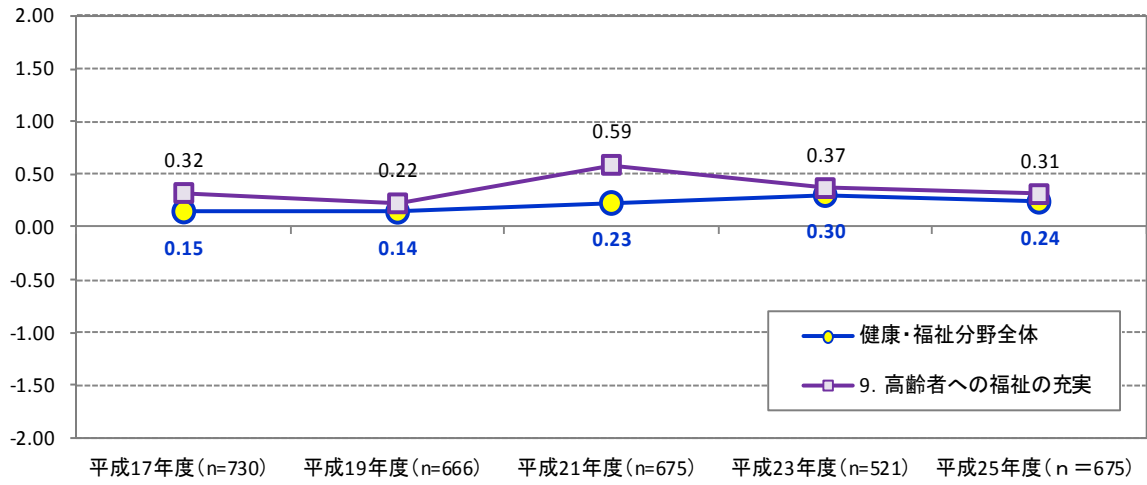
過去5回の調査で、健康・福祉分野全体の加重平均値を上回っている施策は、
 「2. 保健・医療・福祉サービスの効果的な利用促進」
 「8. 障害者や障害児への福祉の充実」
 「9. 高齢者への福祉の充実」
 の3施策であり、逆に下回っている施策は、
 「3. 地域医療体制の充実」
 「6. 地域でおたがいをささえあう環境づくり」
 「10. 生涯安心して暮らせる制度の推進」
 の3施策となっています。



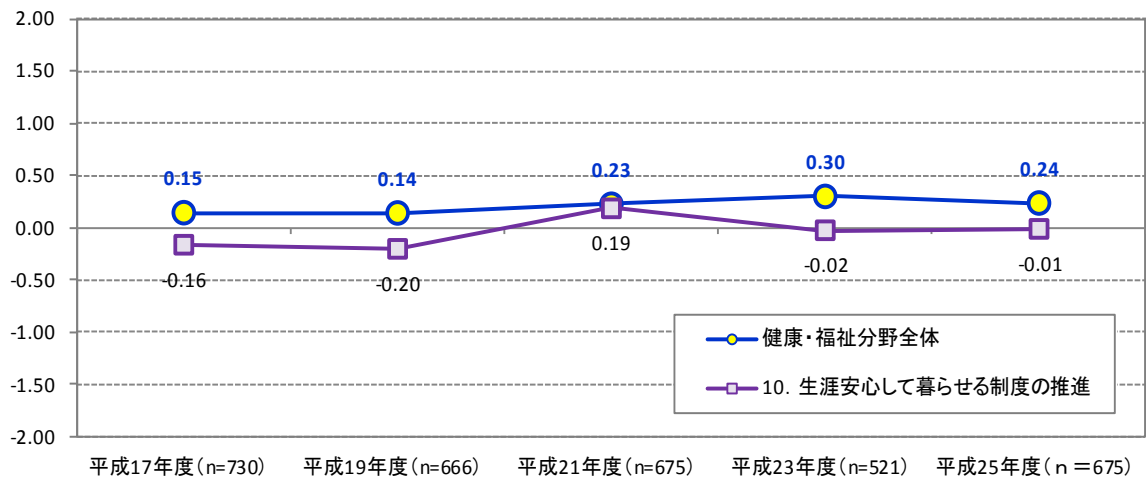




問12 健康・福祉分野（施策の実施状況評価）



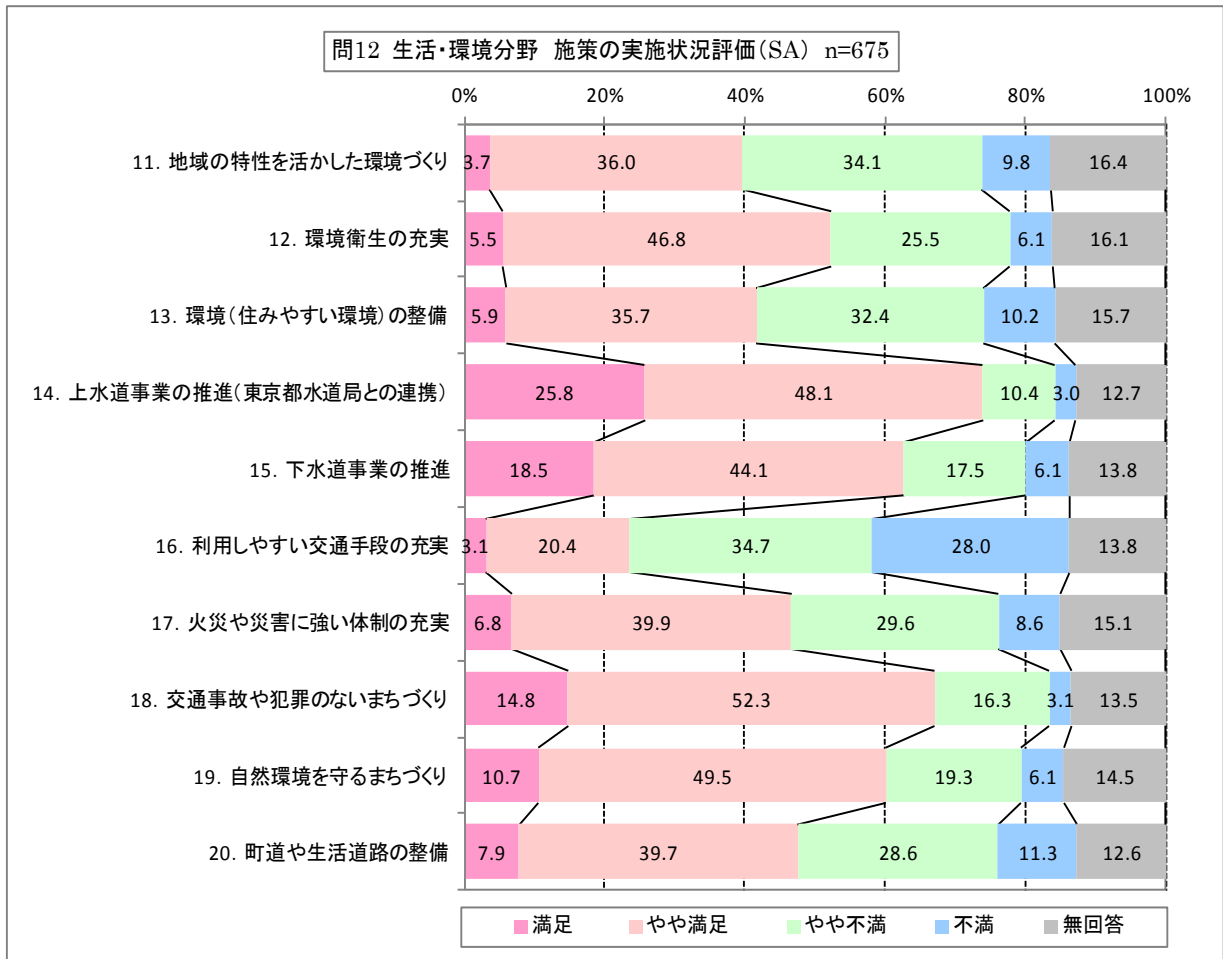
問12 健康・福祉分野（施策の実施状況評価）



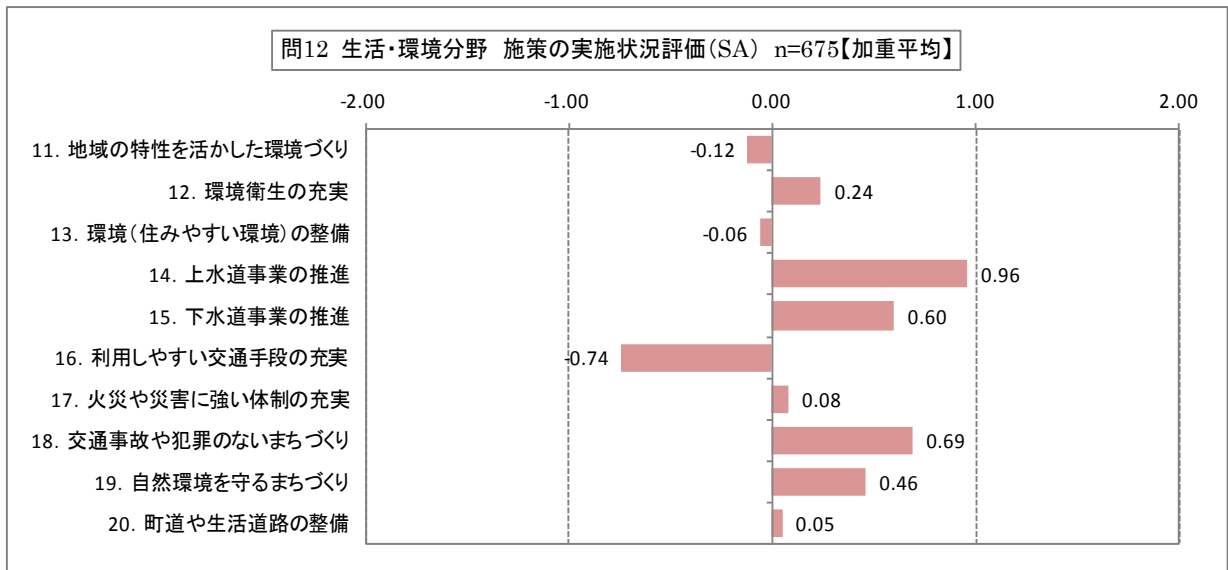
【生活・環境分野】

生活・環境分野の施策の実施状況の評価において、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”の回答割合は、「14. 上水道事業の推進（東京都水道局との連携）」、「15. 下水道事業の推進」、「18. 交通事故や犯罪のないまちづくり」及び「19. 自然環境を守るまちづくり」が他の施策に比べ高くなっています。

一方、「11. 地域の特性を活かした環境づくり」、「13. 環境（住みやすい環境）の整備」、「16. 利用しやすい交通手段の充実」、「17. 火災や災害に強い体制の充実」及び「20. 町道や生活道路の整備」は“満足”の割合が他の施策に比べ低くなっています。



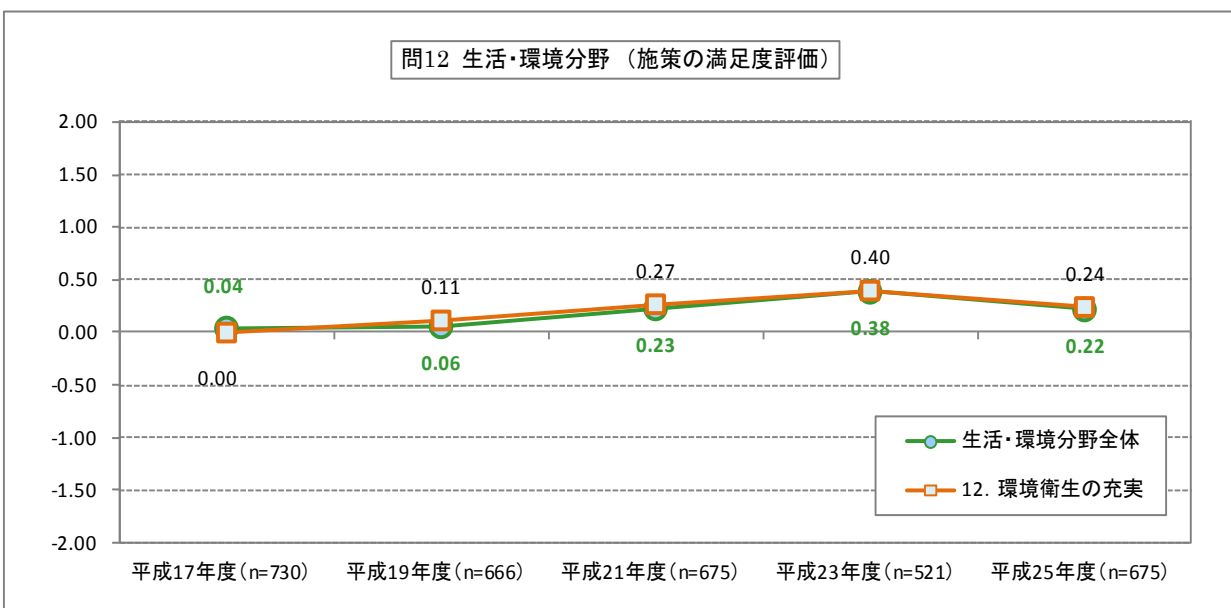
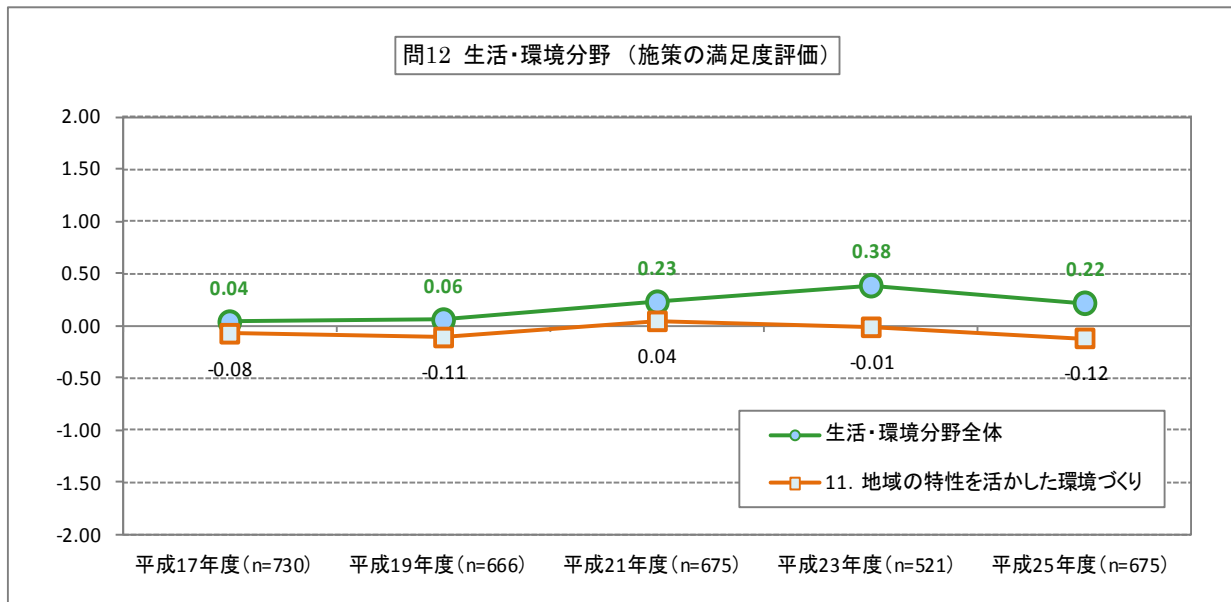
「無回答」を除く「満足」、「やや満足」、「やや不満」及び「不満」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が次頁（p.45）のグラフですが、「16. 利用しやすい交通手段の充実」は評価が非常に低く、「11. 地域の特性を活かした環境づくり」及び「13. 環境（住みやすい環境）の整備」は、評価が拮抗していることがうかがえます。

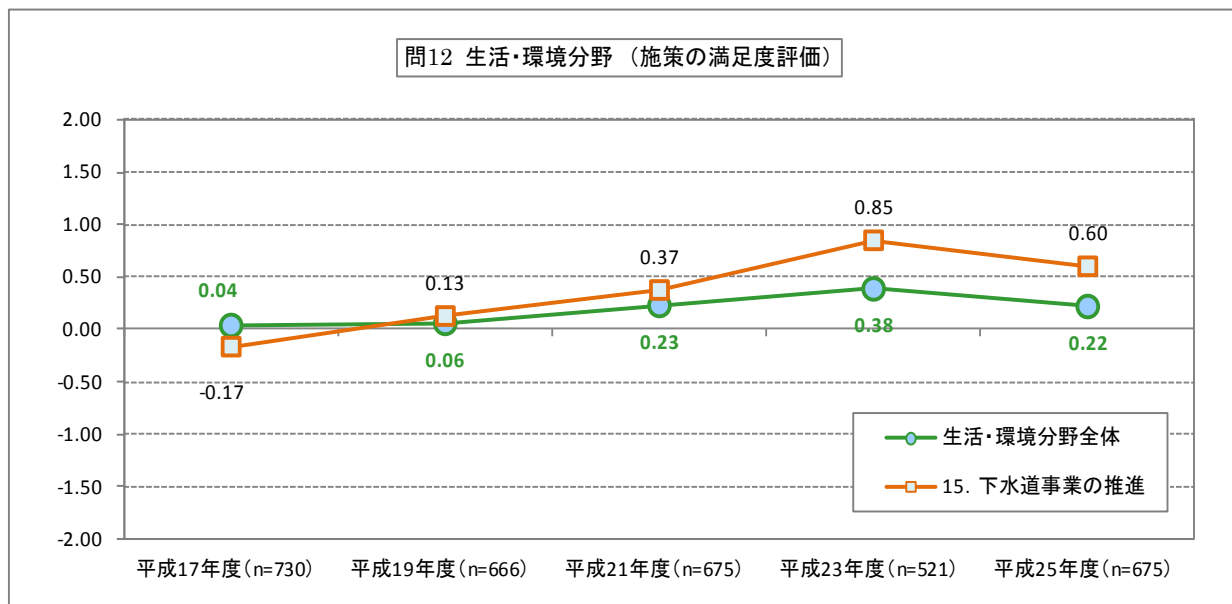
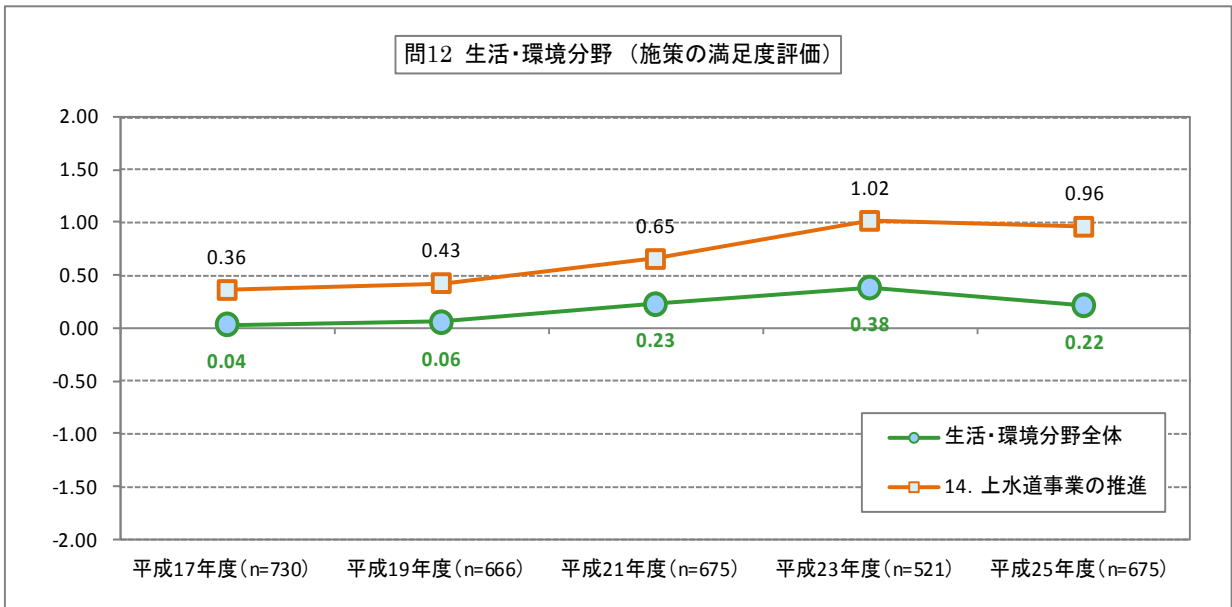
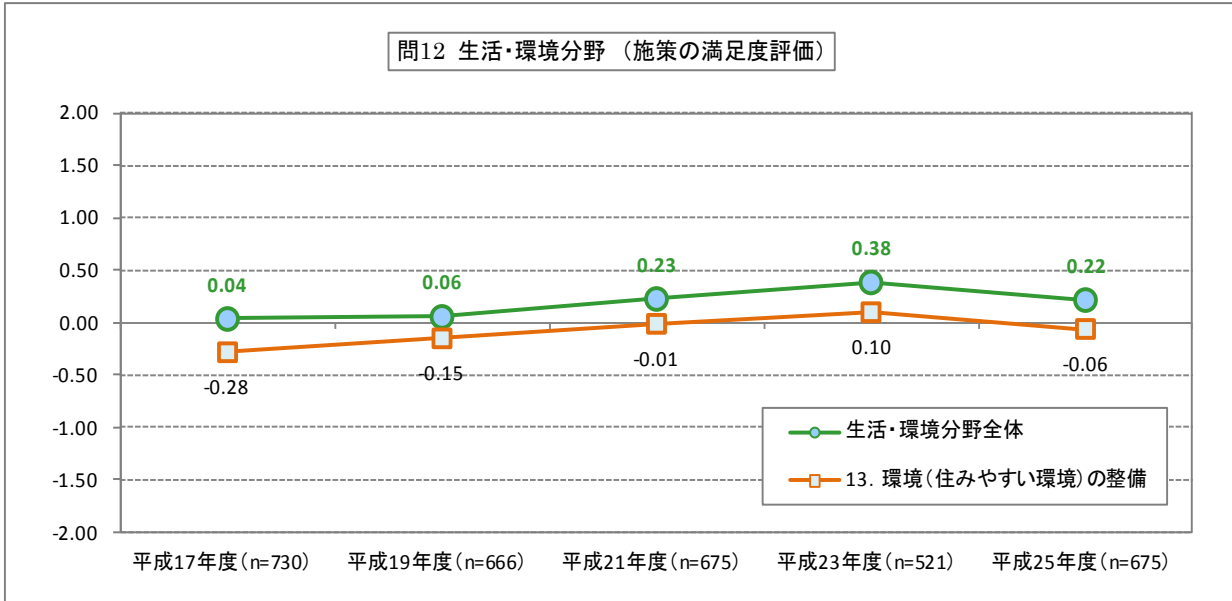


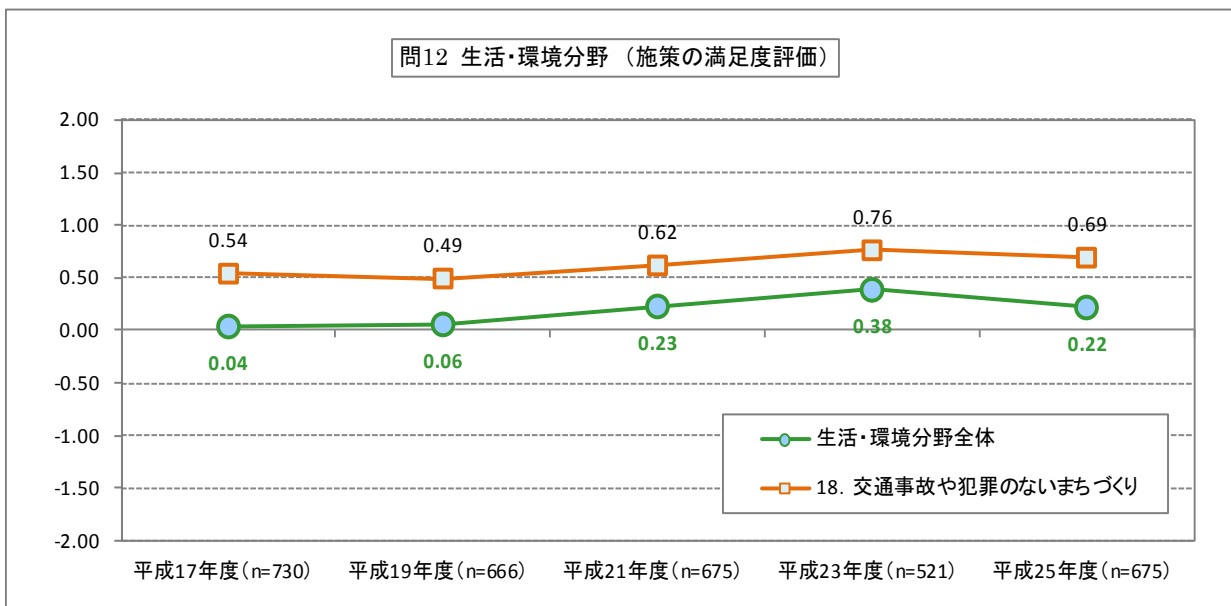
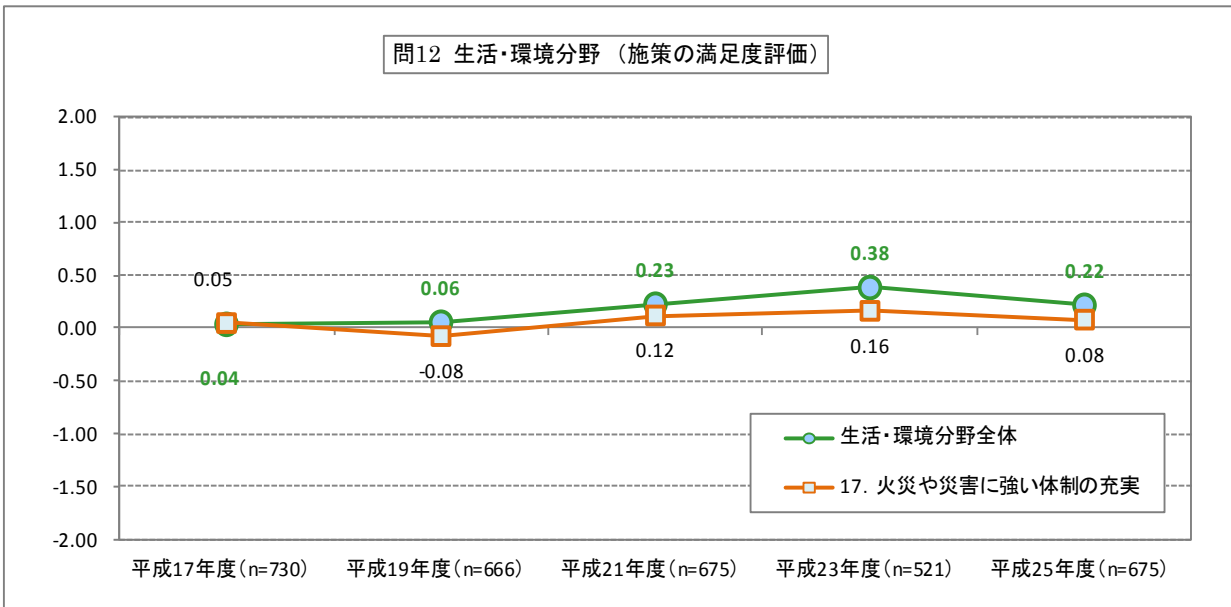
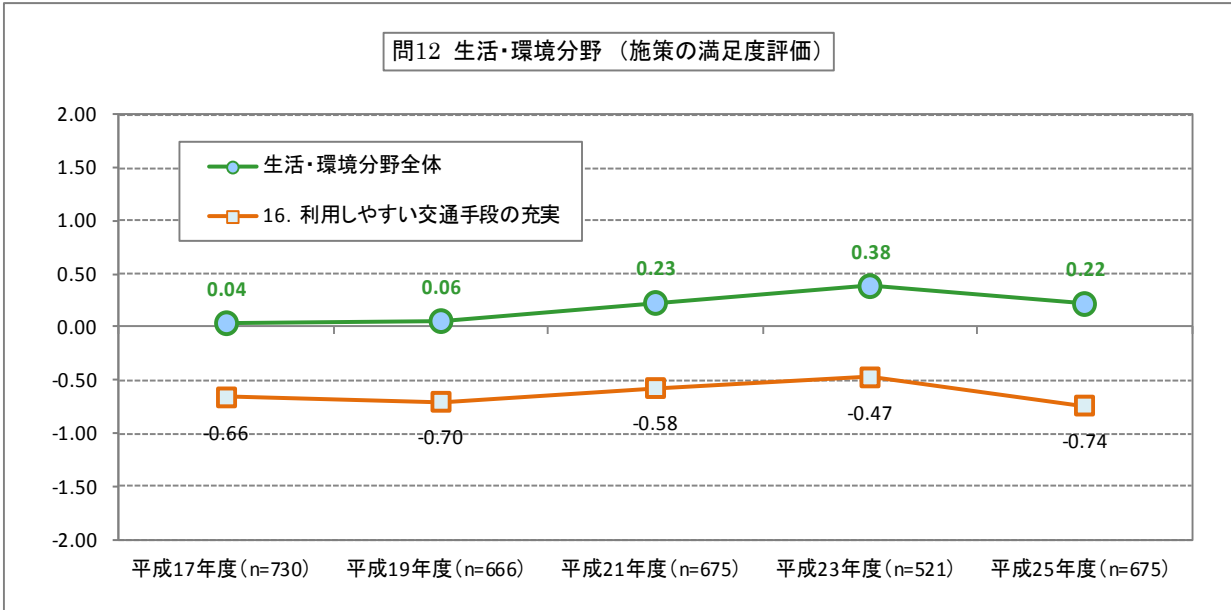
〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

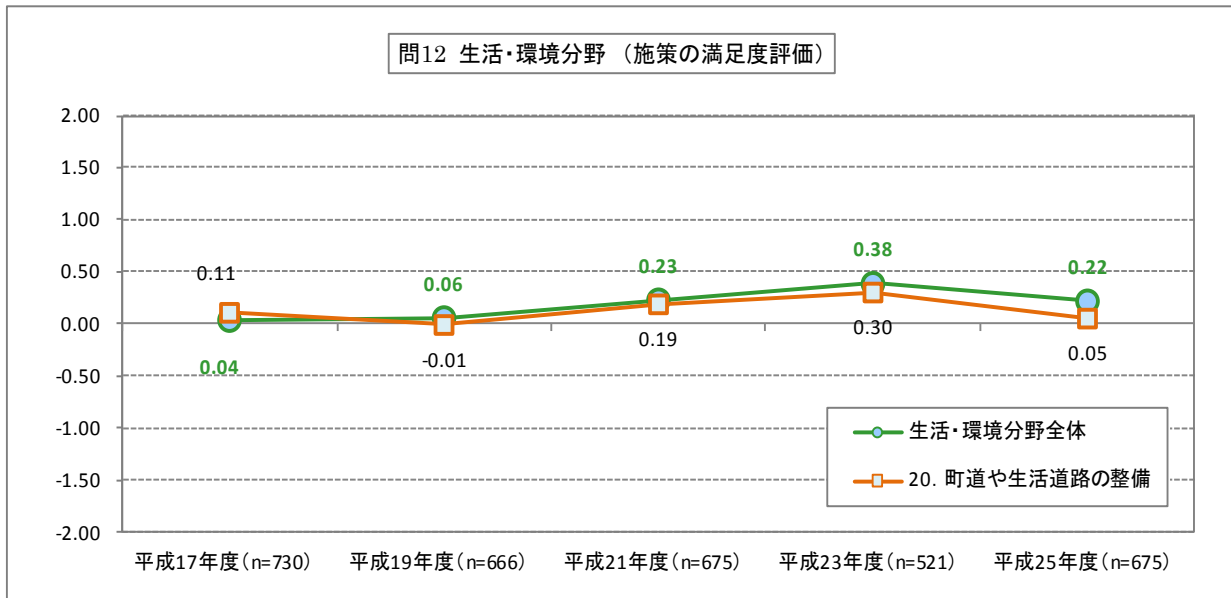
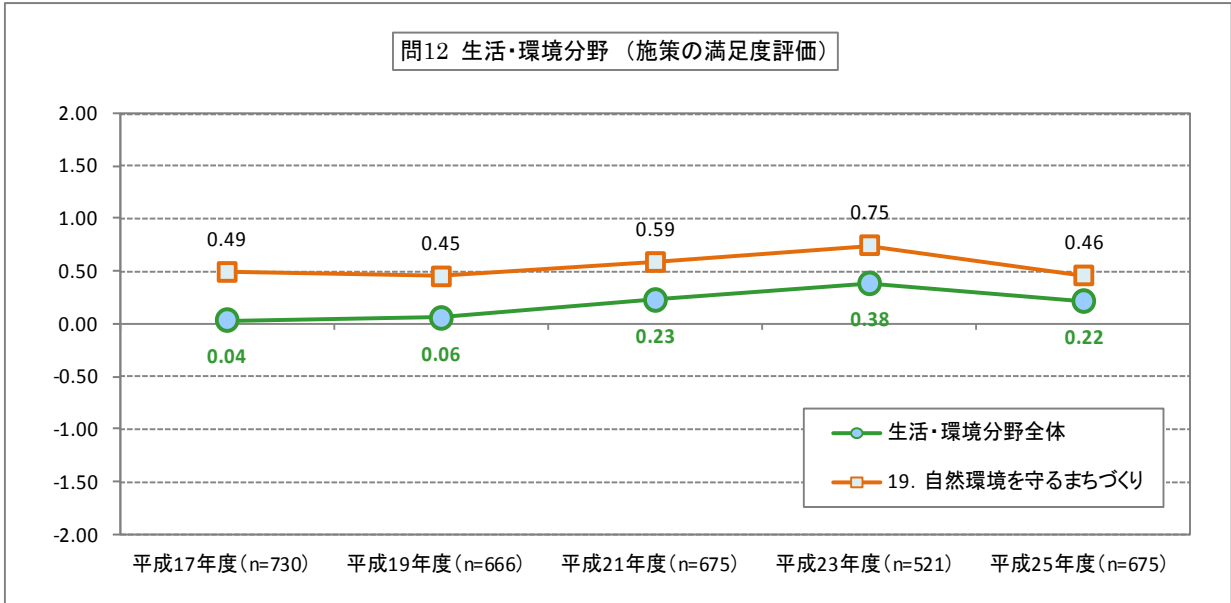
生活・環境分野の各施策の満足度を、過去5回の調査結果の加重平均値で比較した結果が以下のグラフです。（※なお、生活・環境分野全体の加重平均値もグラフ中に併せて示しています。）

過去5回の調査で、生活・環境分野全体の加重平均値を上回っている施策は、
 「14. 上水道事業の推進」
 「18. 交通事故や犯罪のないまちづくり」
 「19. 自然環境を守るまちづくり」
 の3施策であり、逆に下回っている施策は、
 「11. 地域の特性を活かした環境づくり」
 「13. 環境（住みやすい環境）の整備」
 「16. 利用しやすい交通手段の充実」
 の3施策となっています。





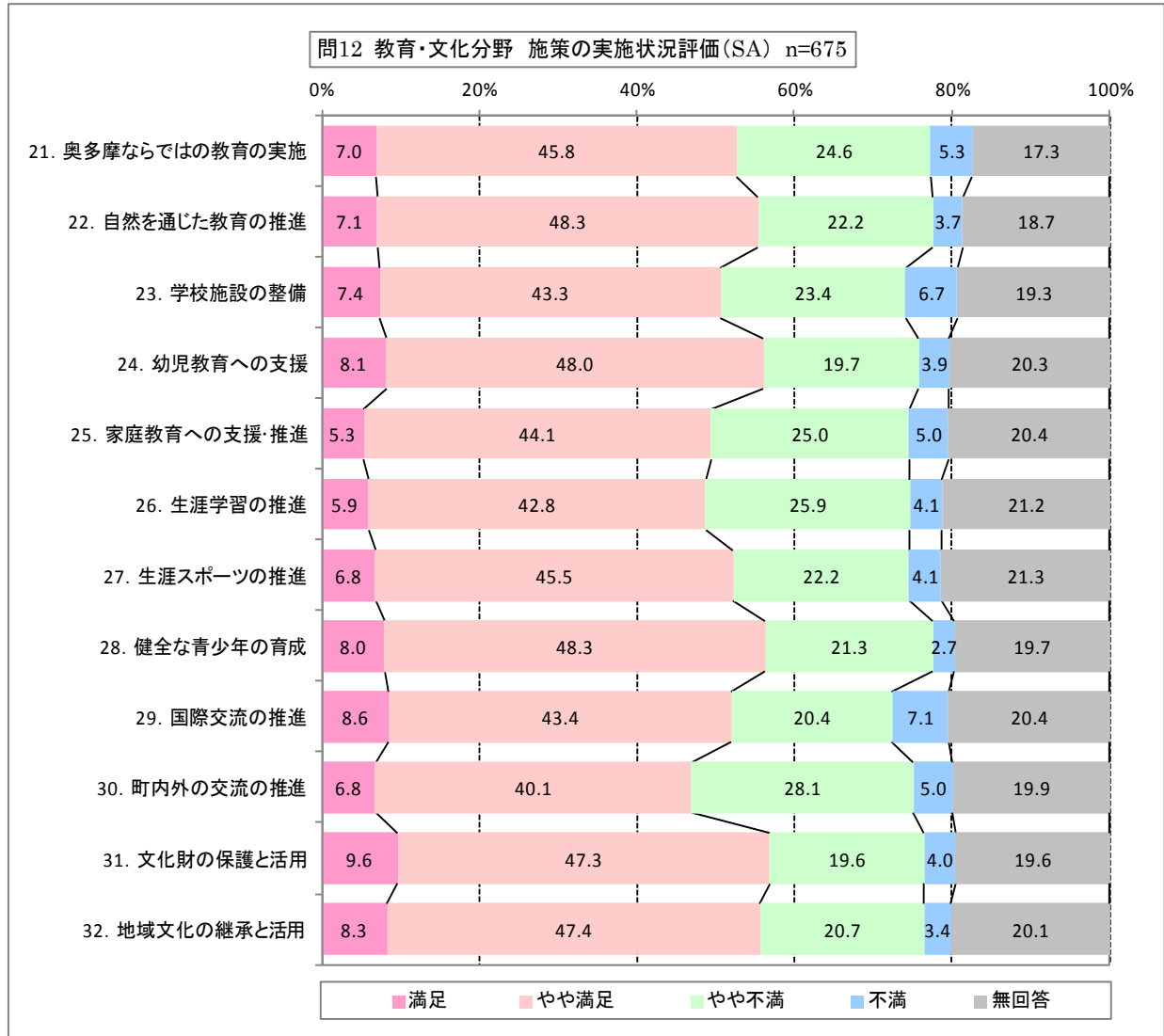




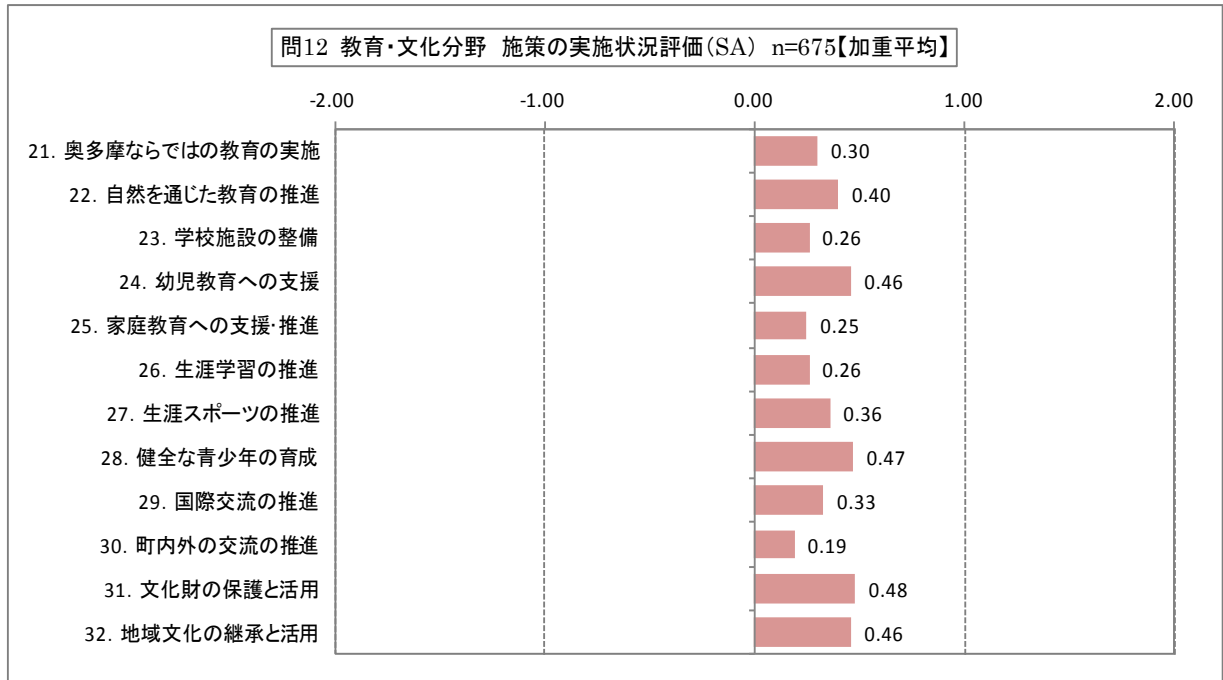
【教育・文化分野】

教育・文化分野の施策の実施状況の評価は、各施策ともに満足度が高い結果となっていますが、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”の回答割合は、「22. 自然を通じた教育の推進」、「24. 幼児教育の支援」、「28. 健全な青少年の育成」、「31. 文化財の保護と活用」及び「32. 地域文化の継承と活用」が他の施策に比べ高くなっています。

一方、「25. 家庭教育への支援・推進」、「26. 生涯学習の推進」及び「30. 町内外の交流の推進」は“満足”の割合が他の施策に比べ低くなっています。



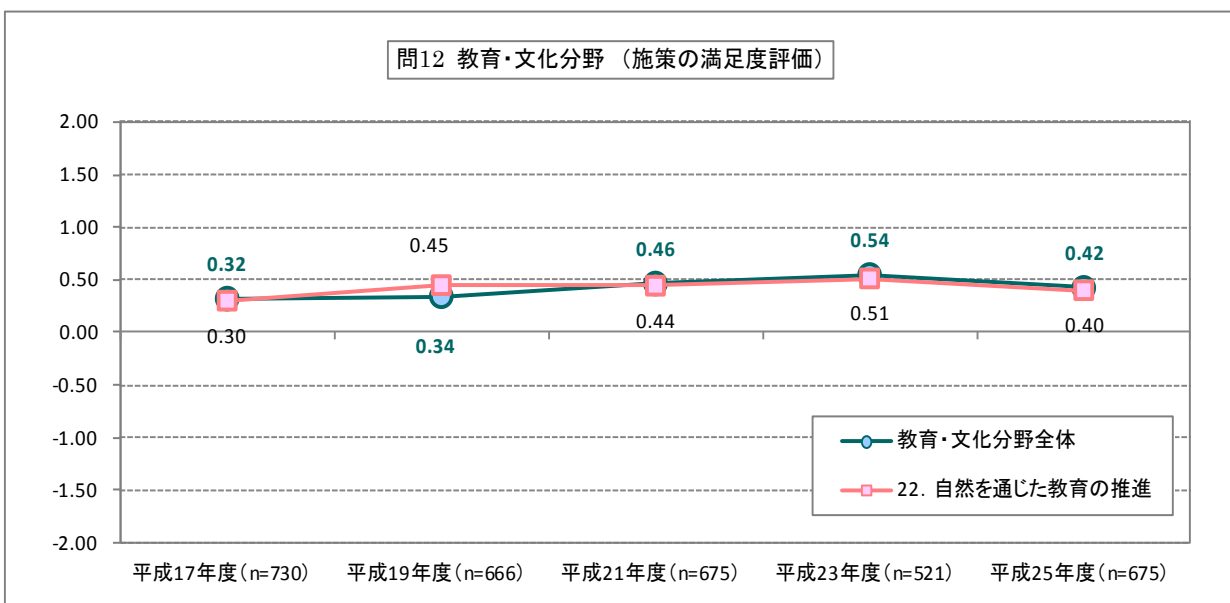
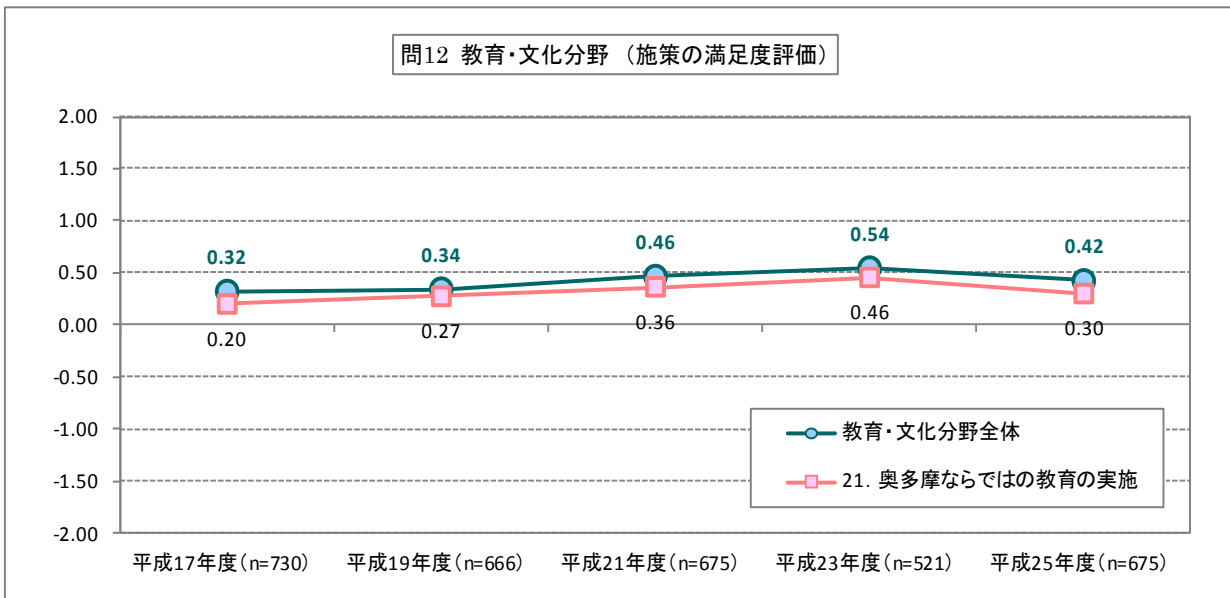
「無回答」を除く「満足」、「やや満足」、「やや不満」及び「不満」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が次頁（p.51）のグラフですが、すべての項目がプラス評価となっています。「24. 幼児教育への支援」、「28. 健全な青少年の育成」、「31. 文化財の保護と活用」及び「32. 地域文化の継承と活用」は評価が比較的高いのに対し、「30. 町内外の交流の推進」は評価が 12 項目中最も低くなっています。

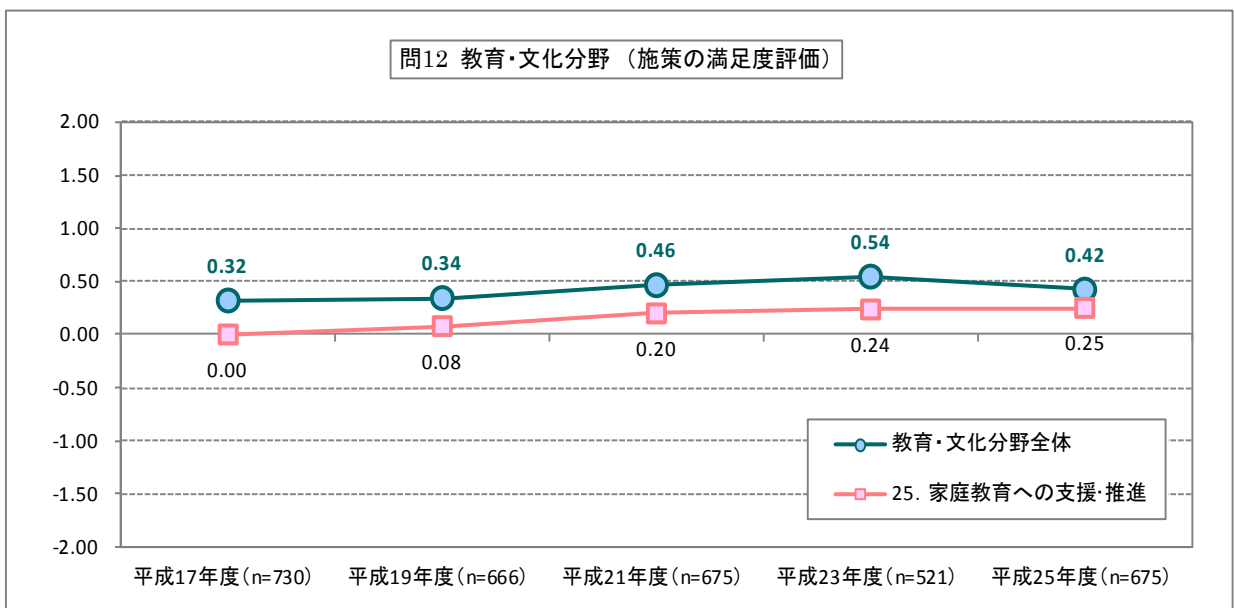
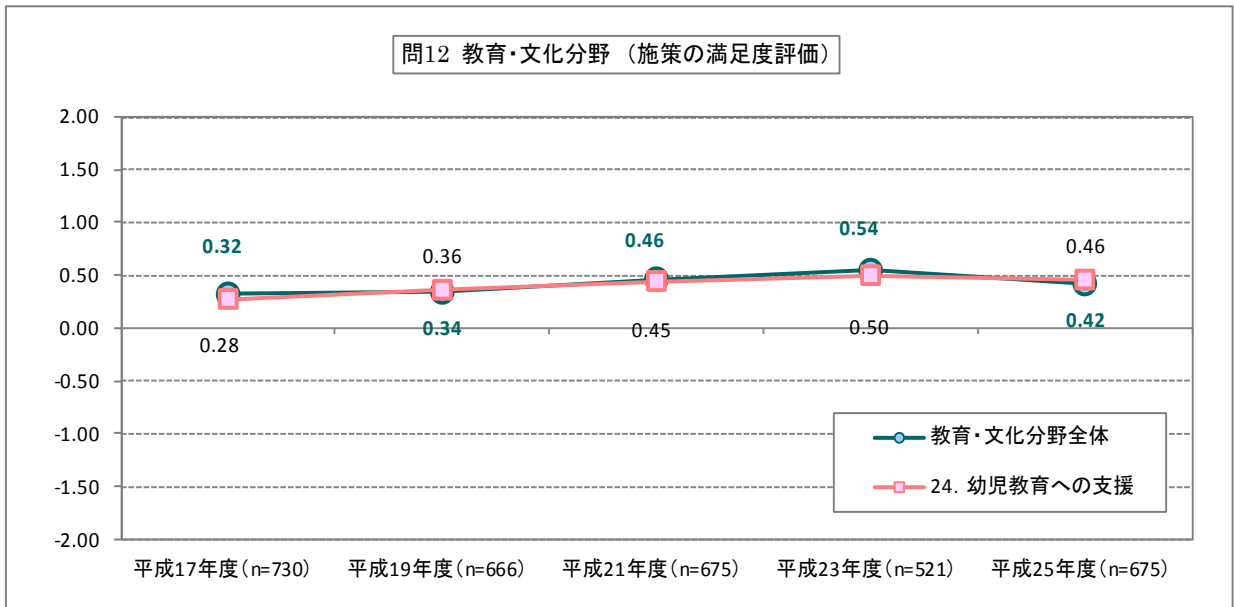
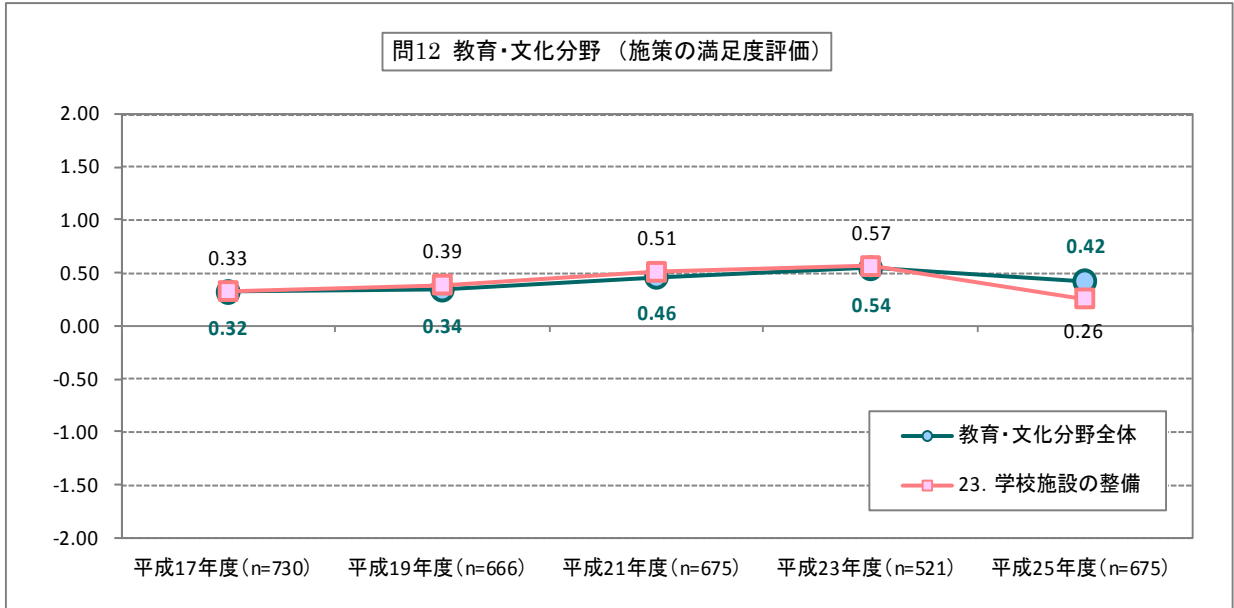


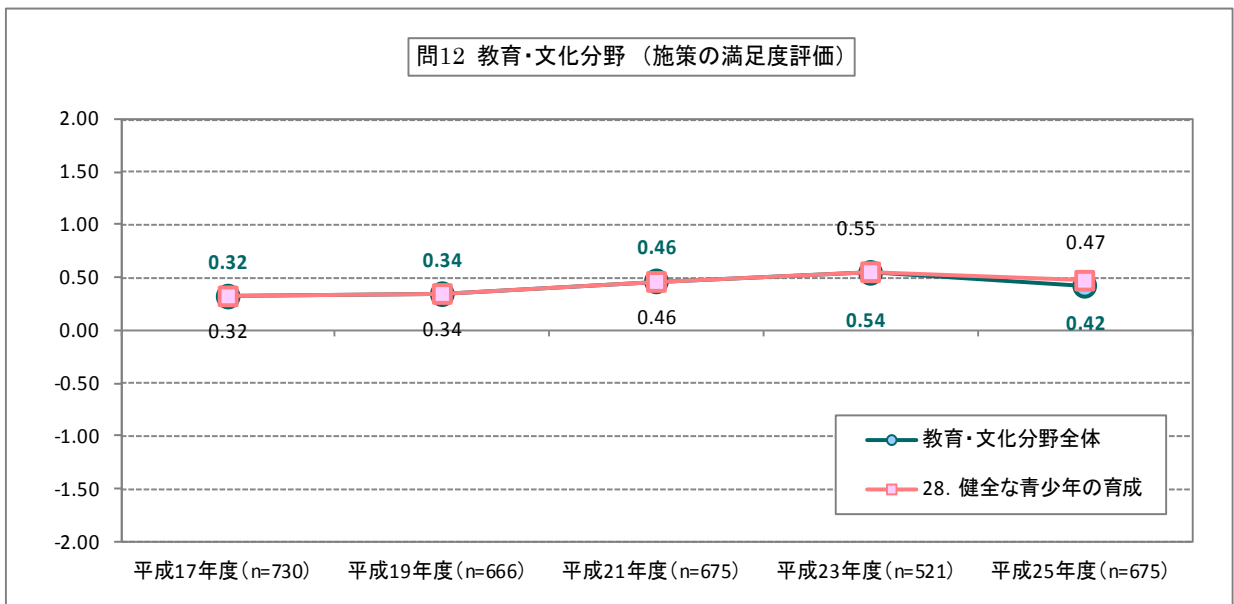
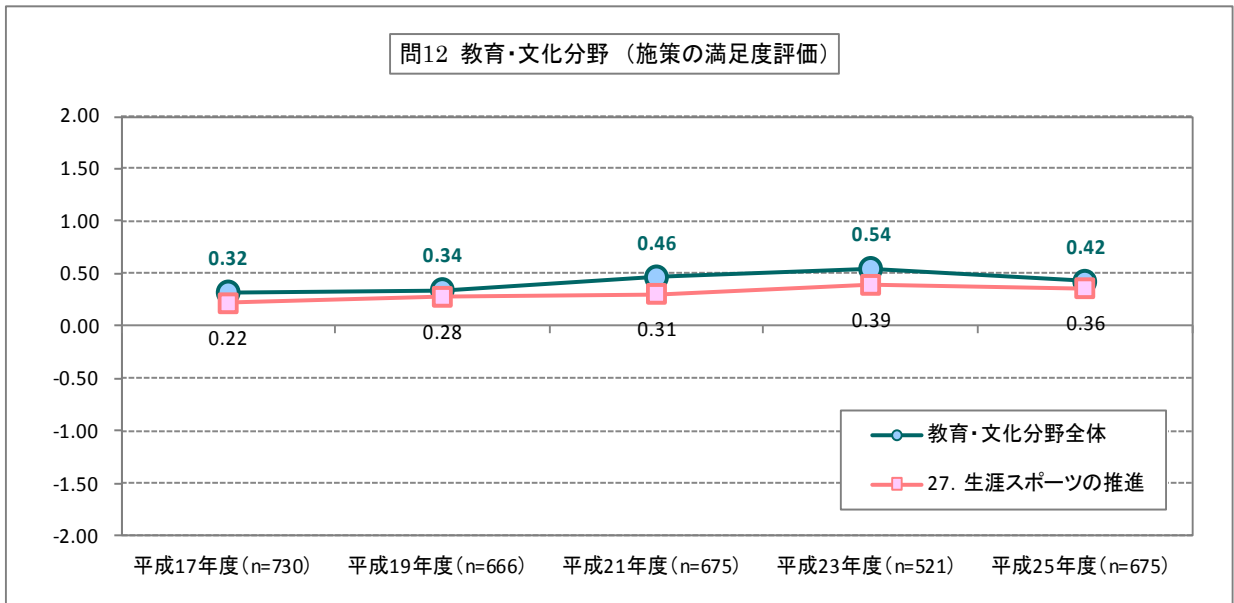
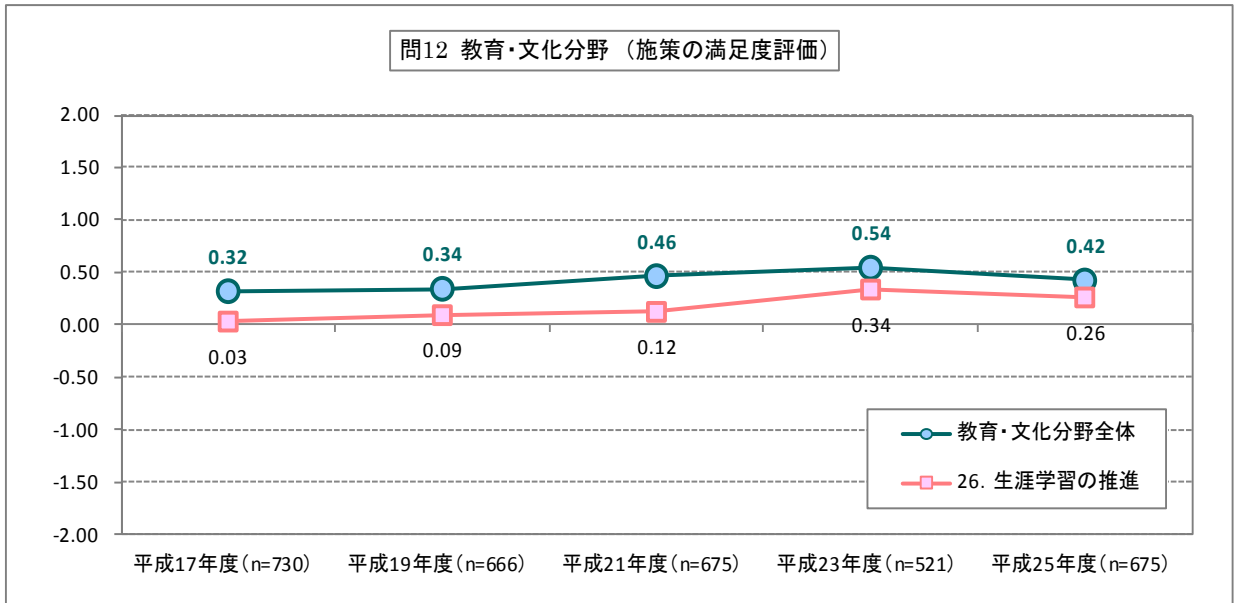
〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

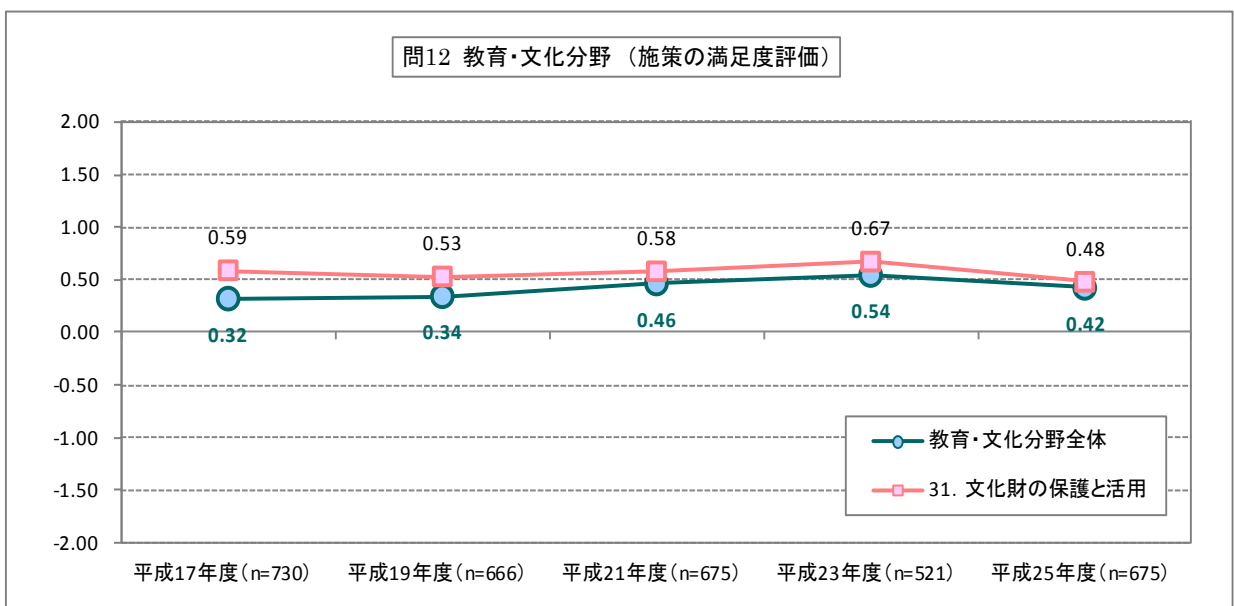
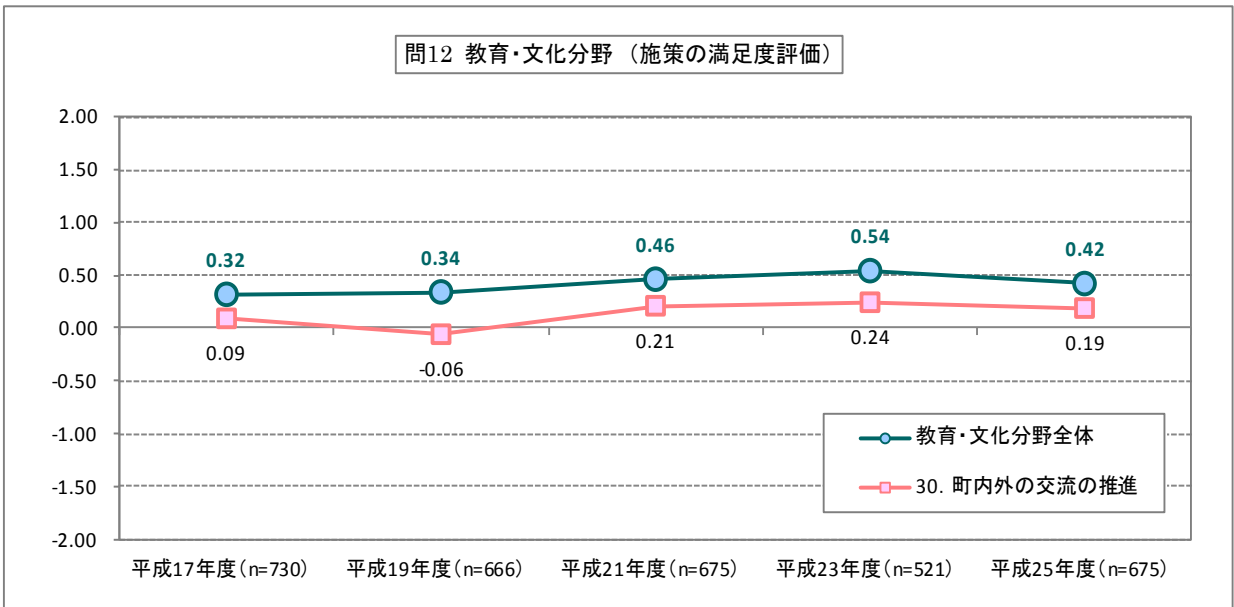
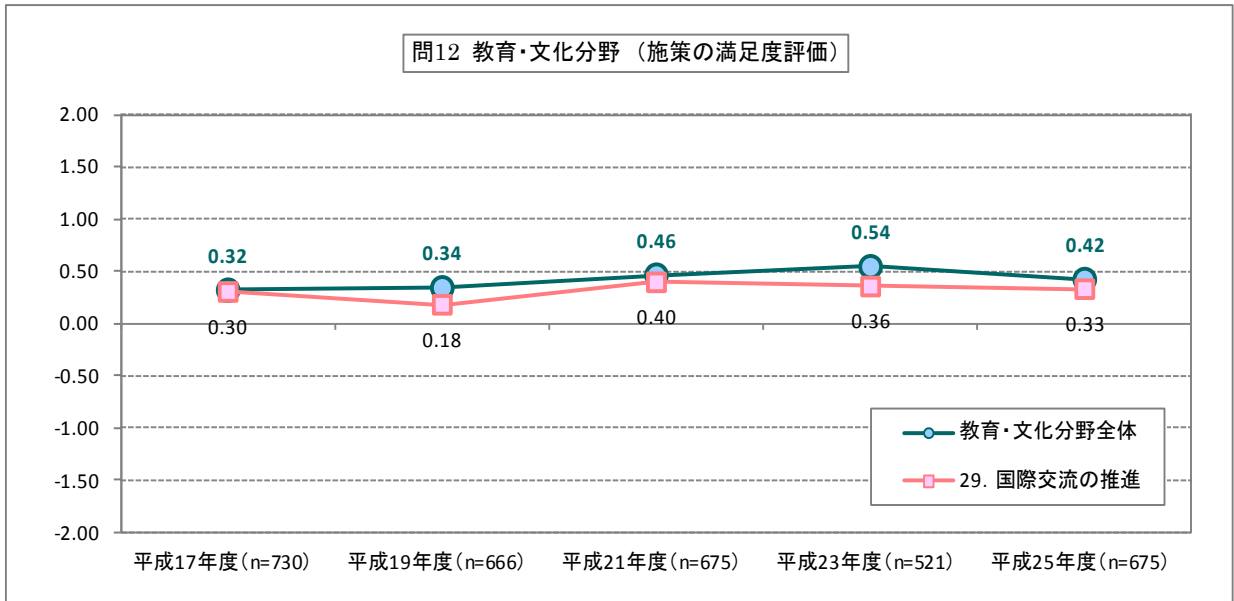
教育・文化分野の各施策の満足度を、過去5回の調査結果の加重平均値で比較した結果が以下のグラフです。（※なお、教育・文化分野全体の加重平均値もグラフ中に併せて示しています。）

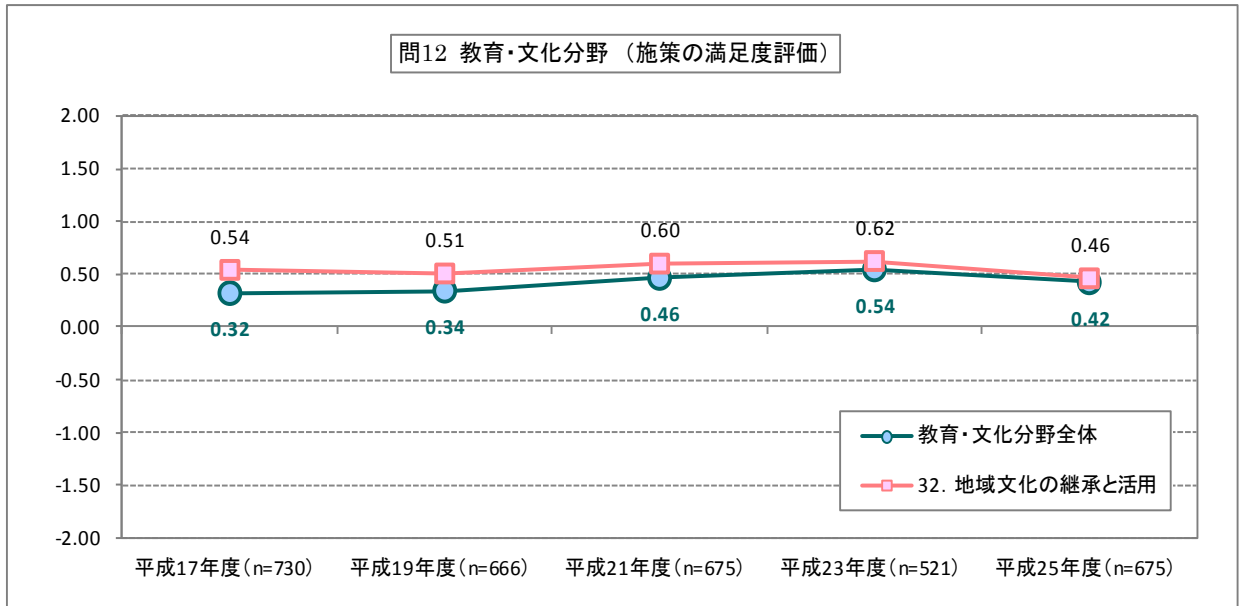
過去5回の調査で、教育・文化分野全体の加重平均値を上回っている施策は、
 「31. 文化財の保護と活用」
 「32. 地域文化の継承と活用」
 の2施策であり、逆に下回っている施策は、
 「21. 奥多摩ならではの教育の実施」
 「25. 家庭教育への支援・推進」
 「26. 生涯学習の推進」
 「27. 生涯スポーツの推進」
 「29. 国際交流の推進」
 「30. 町内外の交流の推進」
 の6施策となっています。







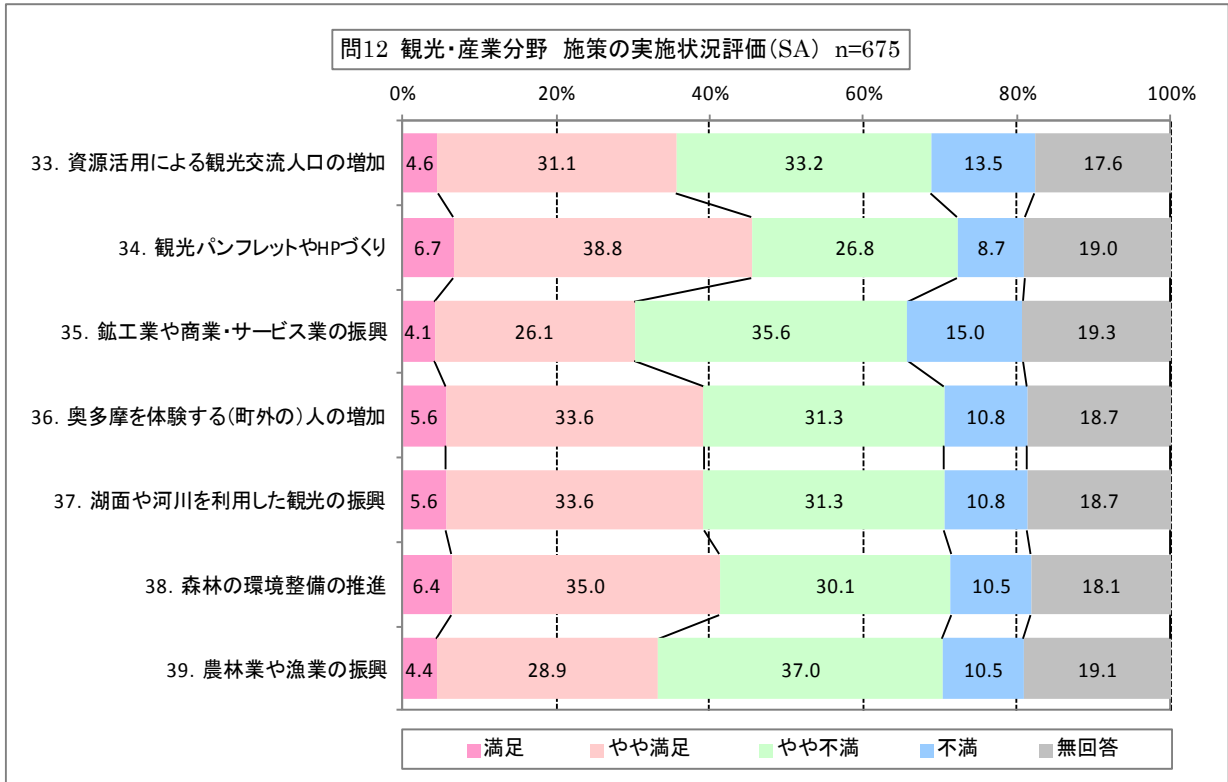




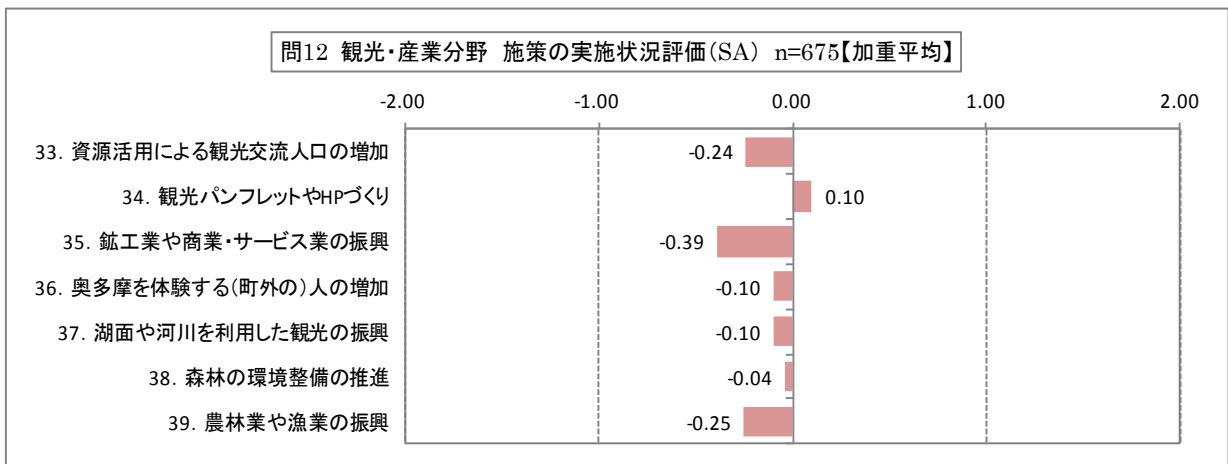
【観光・産業分野】

観光・産業分野の施策の実施状況の評価において、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”の回答割合は、「34. 観光パンフレットやHPづくり」及び「38. 森林の環境整備の推進」が他の施策に比べ高くなっています。

一方、「33. 資源活用による観光交流人口の増加」、「35. 鉱工業や商業・サービス業の振興」及び「39. 農林業や漁業の振興」は“満足”の度合いが他の施策に比べ低くなっています。



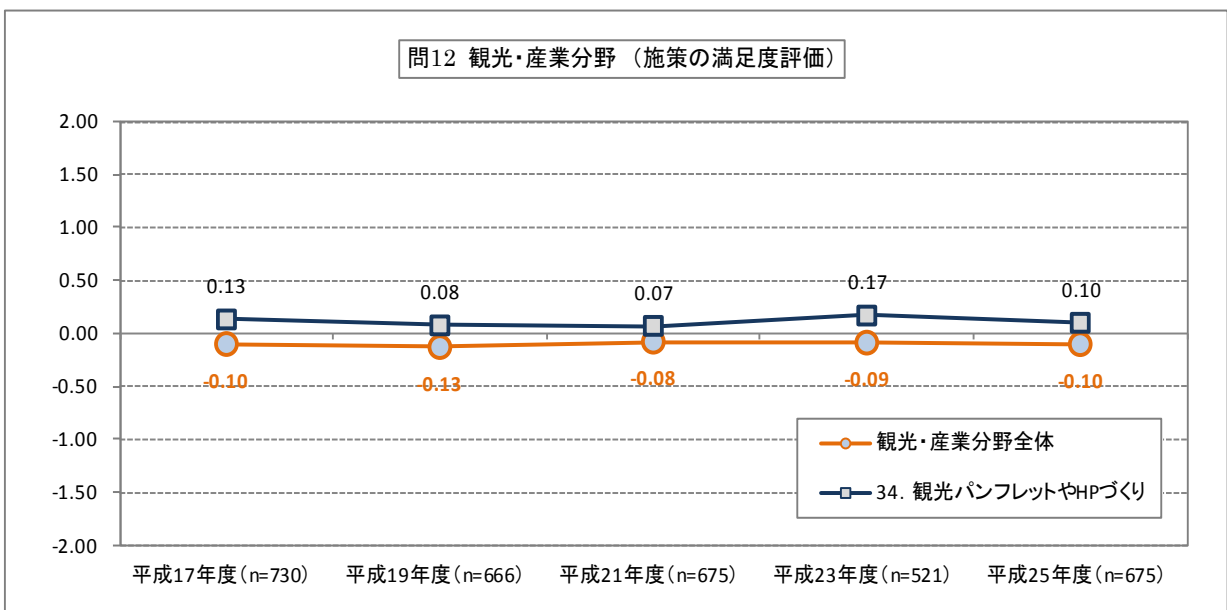
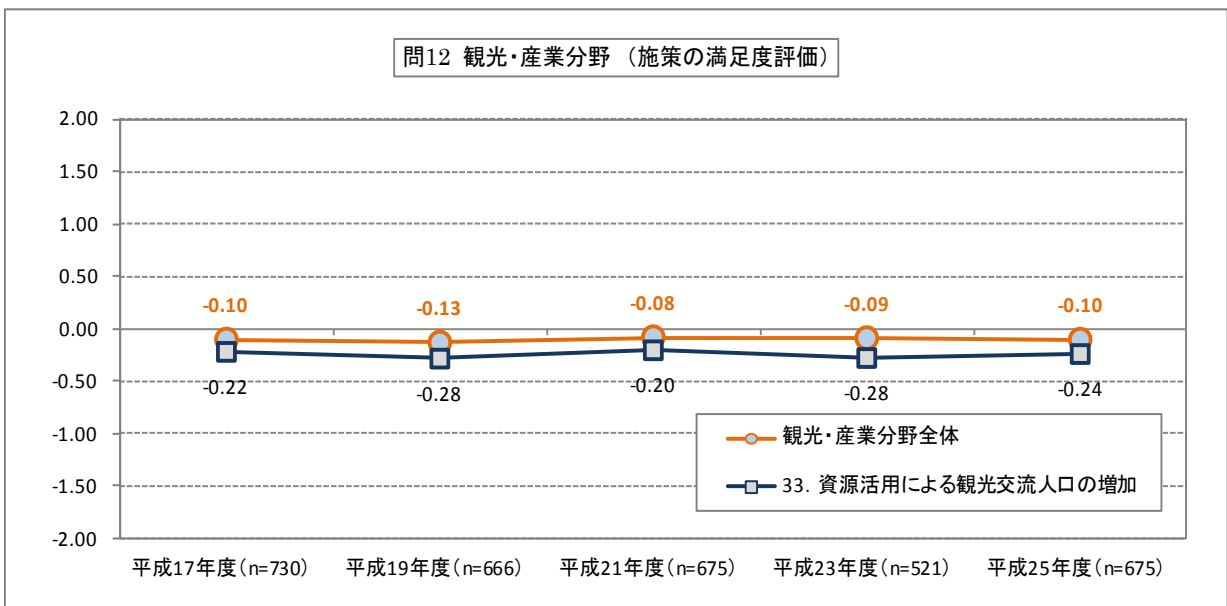
「無回答」を除く「満足」、「やや満足」、「やや不満」及び「不満」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が下記のグラフですが、「38. 森林の環境整備の推進」は評価が拮抗していることがうかがえます。

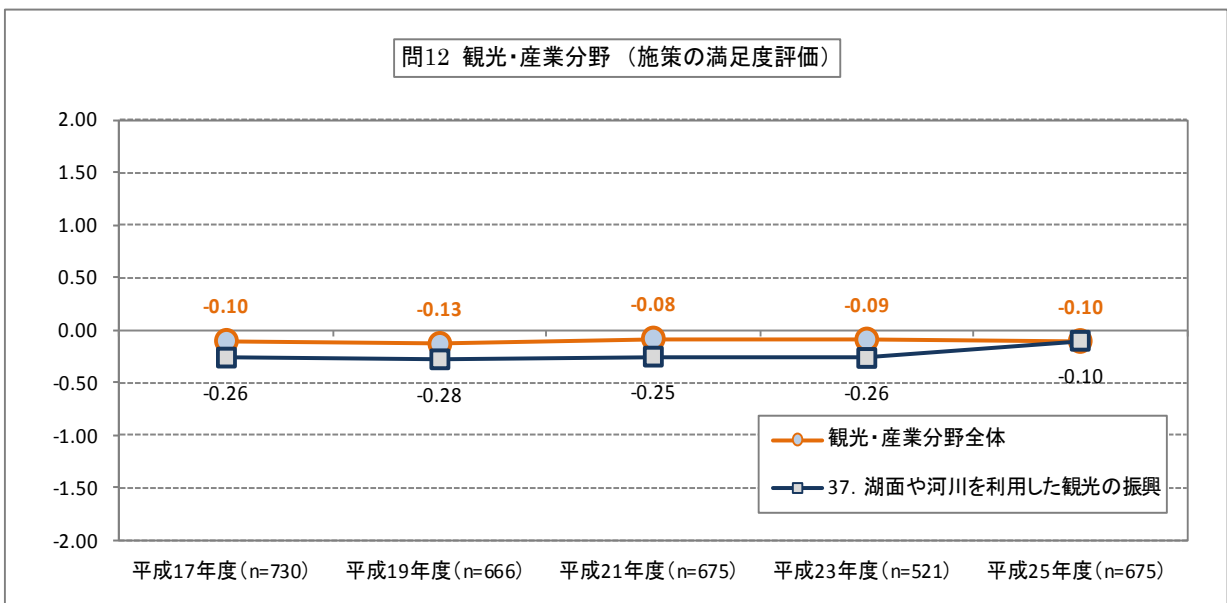
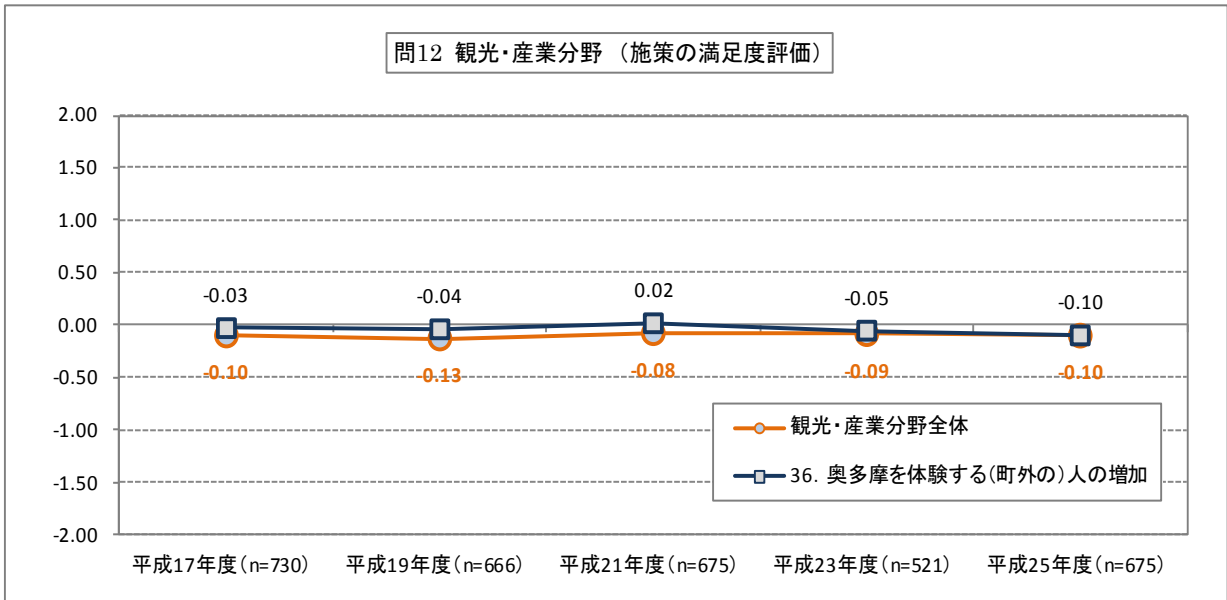
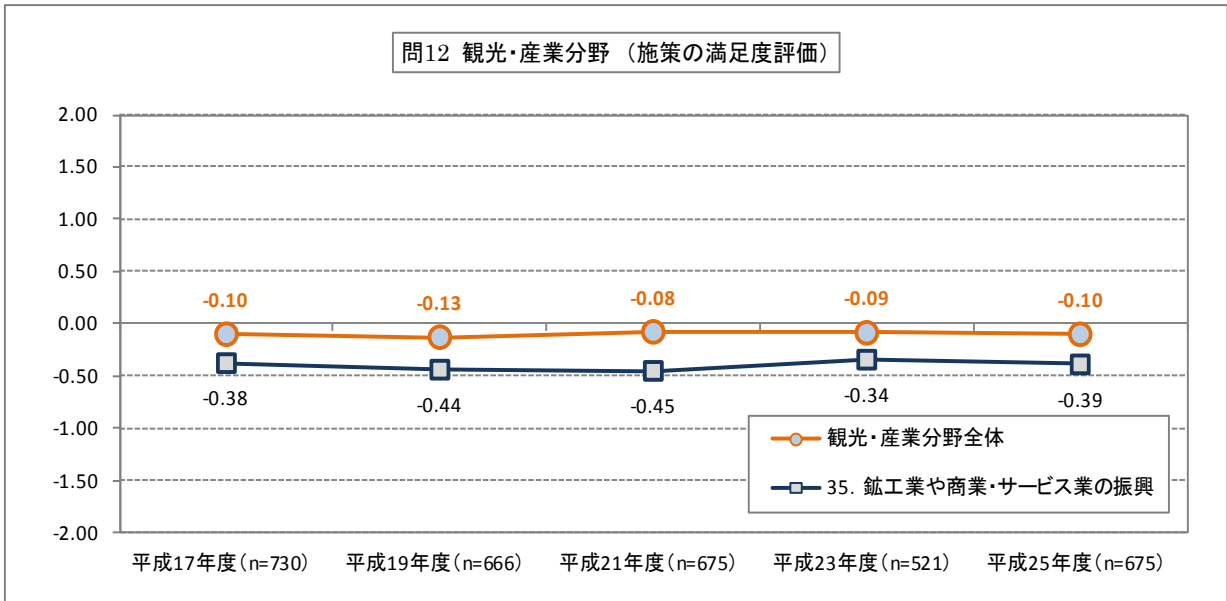


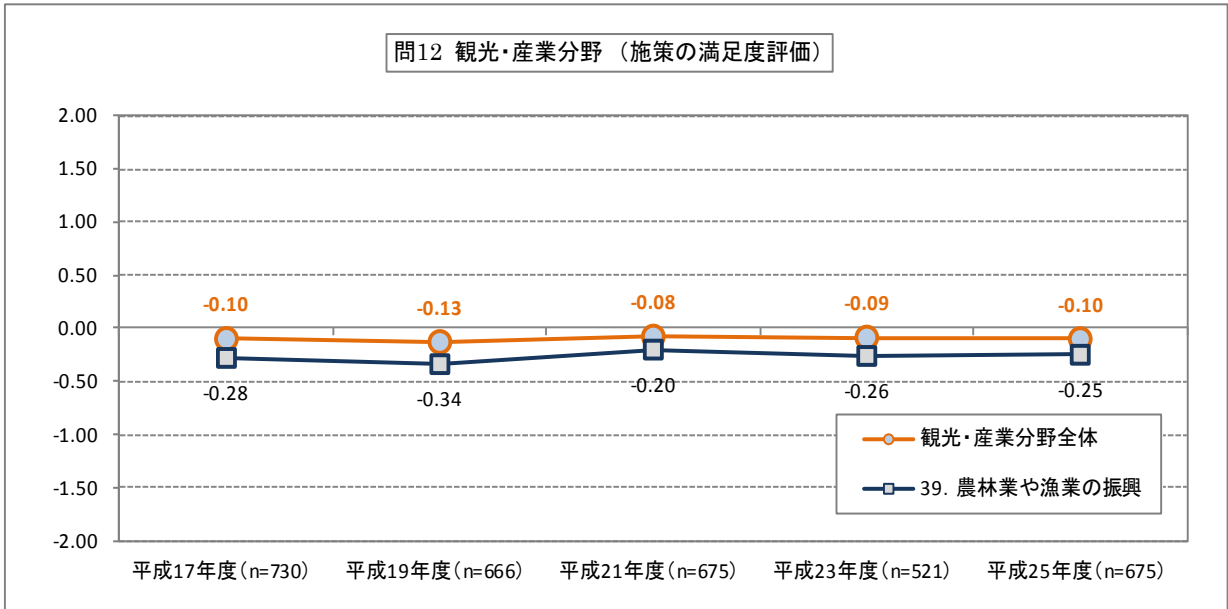
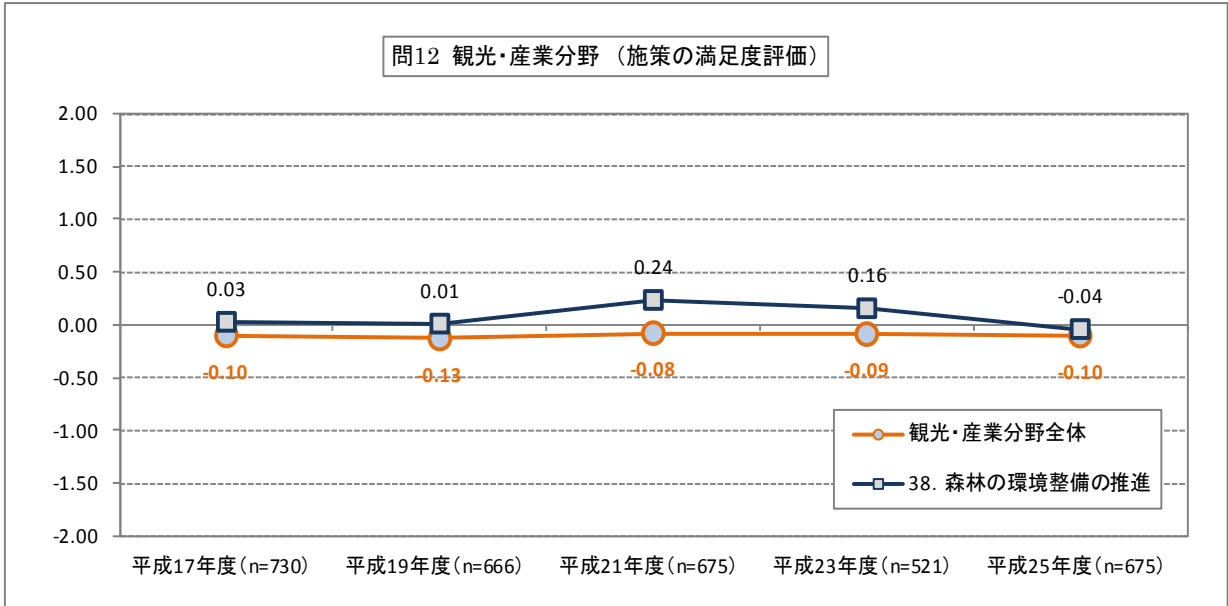
〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

観光・産業分野の各施策の満足度を、過去5回の調査結果の加重平均値で比較した結果が以下のグラフです。（※なお、観光・産業分野全体の加重平均値もグラフ中に併せて示しています。）

過去5回の調査で、観光・産業分野全体の加重平均値を上回っている施策は、
 「34. 観光パンフレットやHPづくり」
 「38. 森林の環境整備の推進」
 の2施策であり、逆に下回っている施策は、
 「33. 資源活用による観光交流人口の増加」
 「35. 鉱工業や商業・サービス業の振興」
 「37. 湖面や河川を利用した観光の振興」
 「39. 農林業や漁業の振興」
 の4施策となっています。



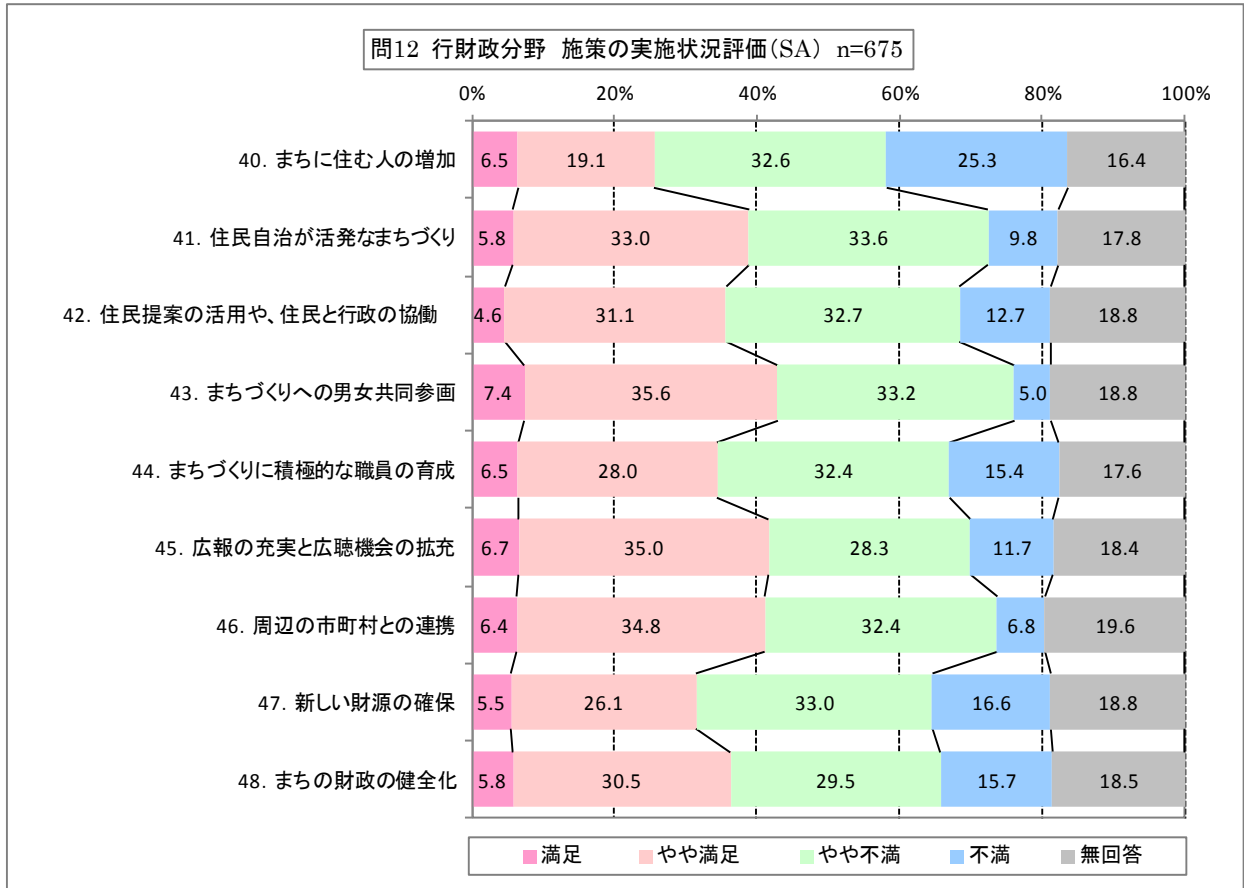




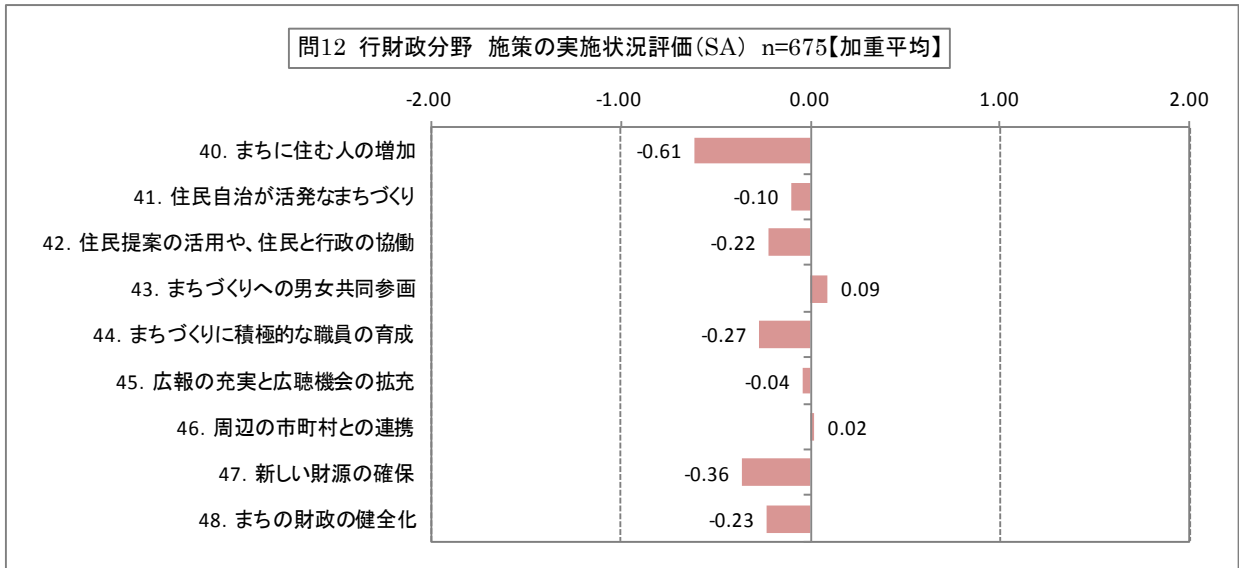
【行財政分野】

行財政分野の施策の実施状況の評価において、「満足」と「やや満足」を合わせた“満足”の回答割合は、「43. まちづくりへの男女共同参画」、「45. 広報の充実と広聴機会の拡充」及び「46. 周辺の市町村との連携」が他の施策に比べ高くなっています。

一方、「40. まちに住む人の増加」及び「47. 新しい財源の確保」は“満足”の割合が他の施策に比べ低くなっています。



「無回答」を除く「満足」、「やや満足」、「やや不満」及び「不満」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度の評価を比較した結果が次頁 (p.62) のグラフですが、「45. 広報の充実と広聴機会の拡充」及び「46. 周辺の市町村との連携」は評価が比較的拮抗していることがうかがえます。また、「43. まちづくりへの男女共同参画」がプラスの評価以外はすべてマイナス評価となっています。なかでも「40. まちに住む人の増加」については-0.61と不満度が高くなっています。



〔過去調査結果との比較：加重平均値〕

行財政分野の各施策の満足度を、過去5回の調査結果の加重平均値で比較した結果が以下のグラフです。（※なお、行財政分野全体の加重平均値もグラフ中に併せて示しています。）

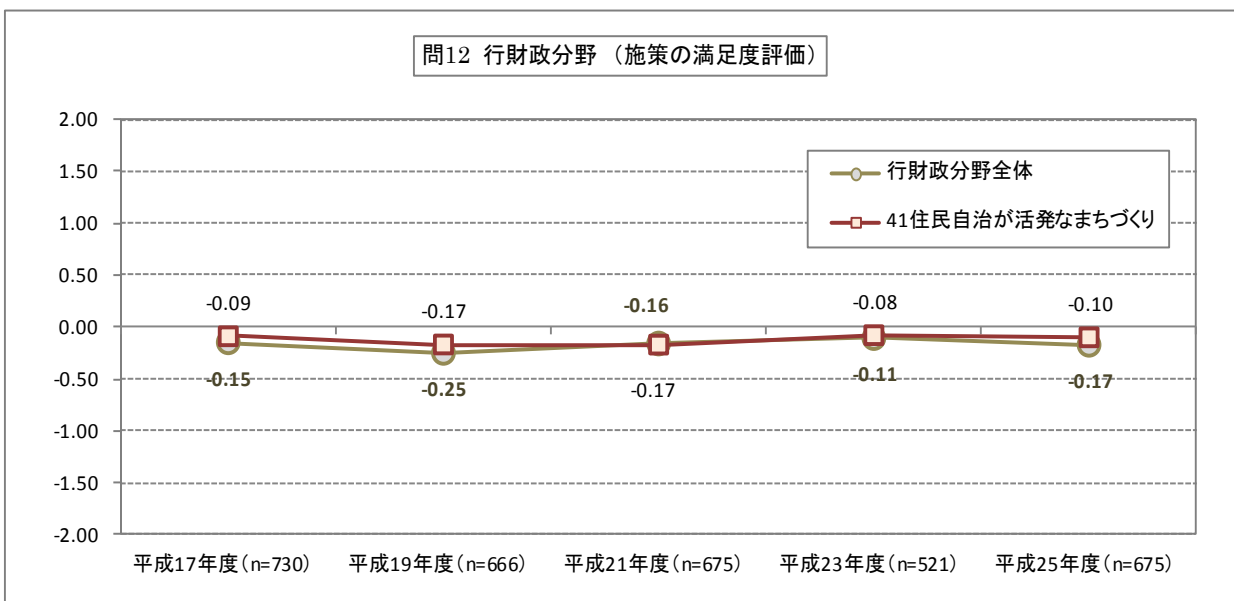
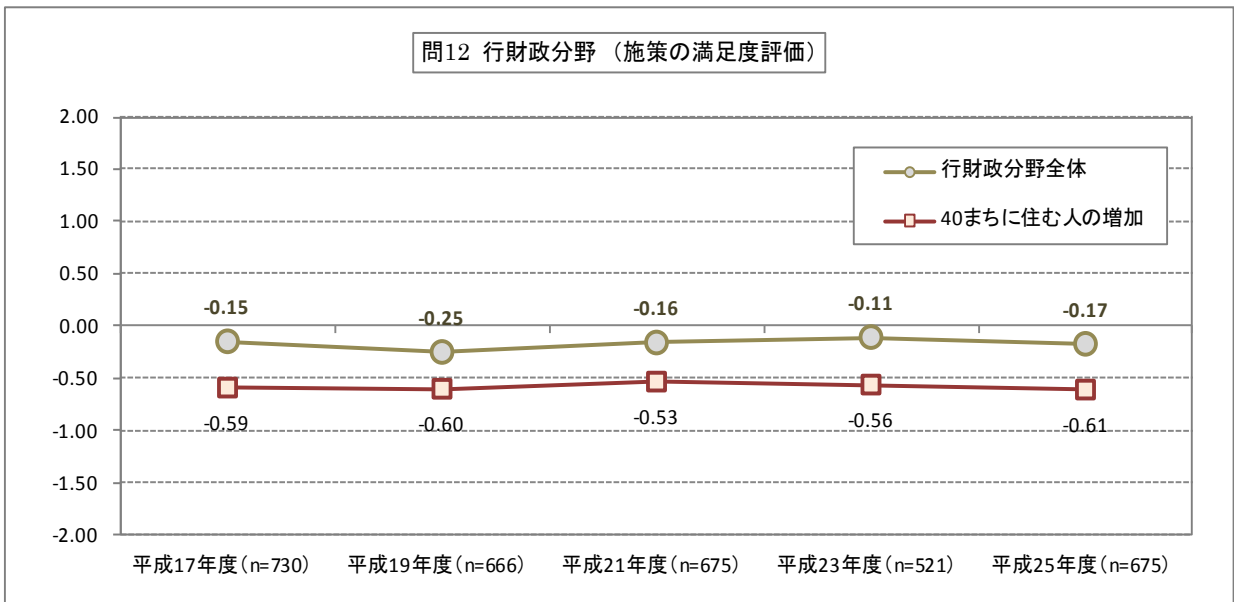
過去5回の調査で、行財政分野全体の加重平均値を上回っている施策は、

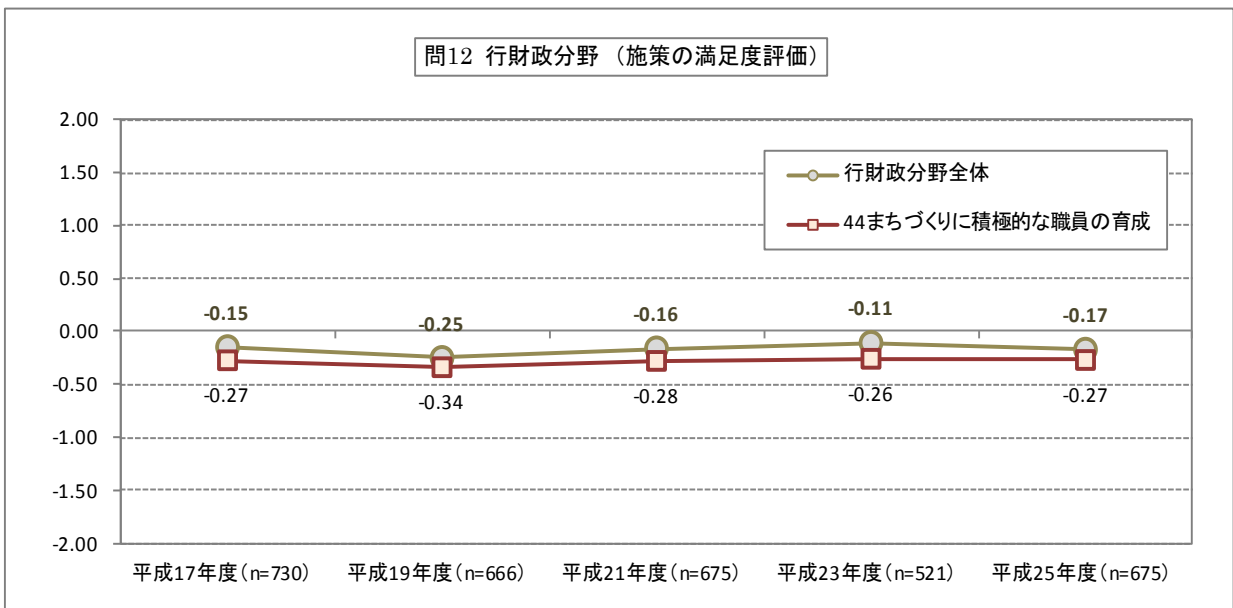
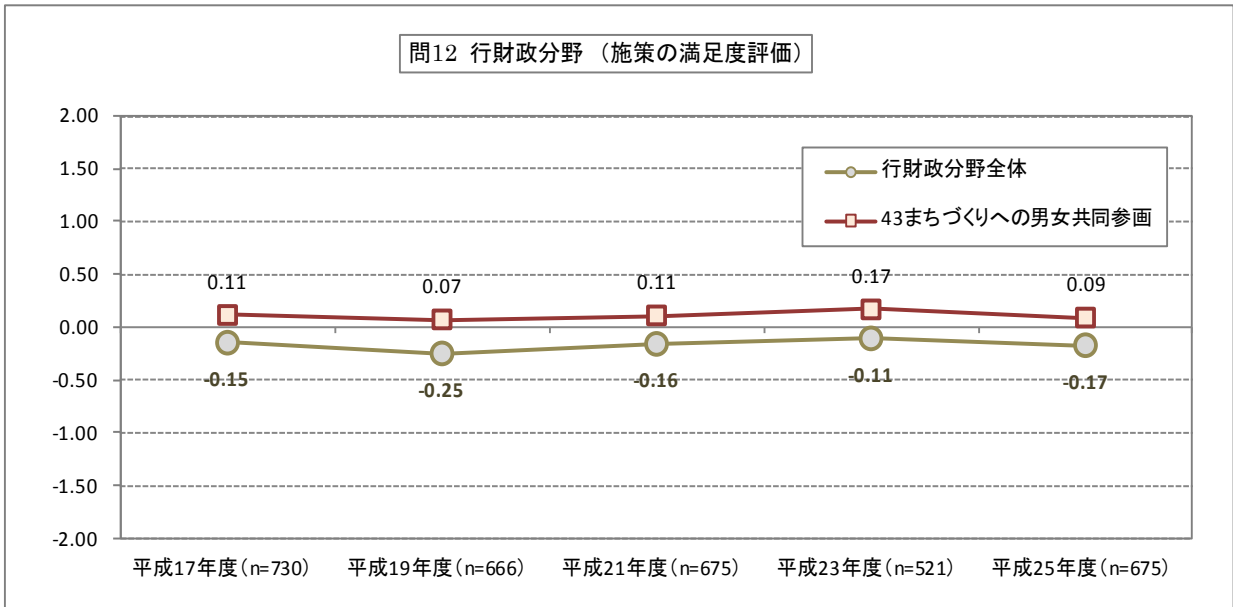
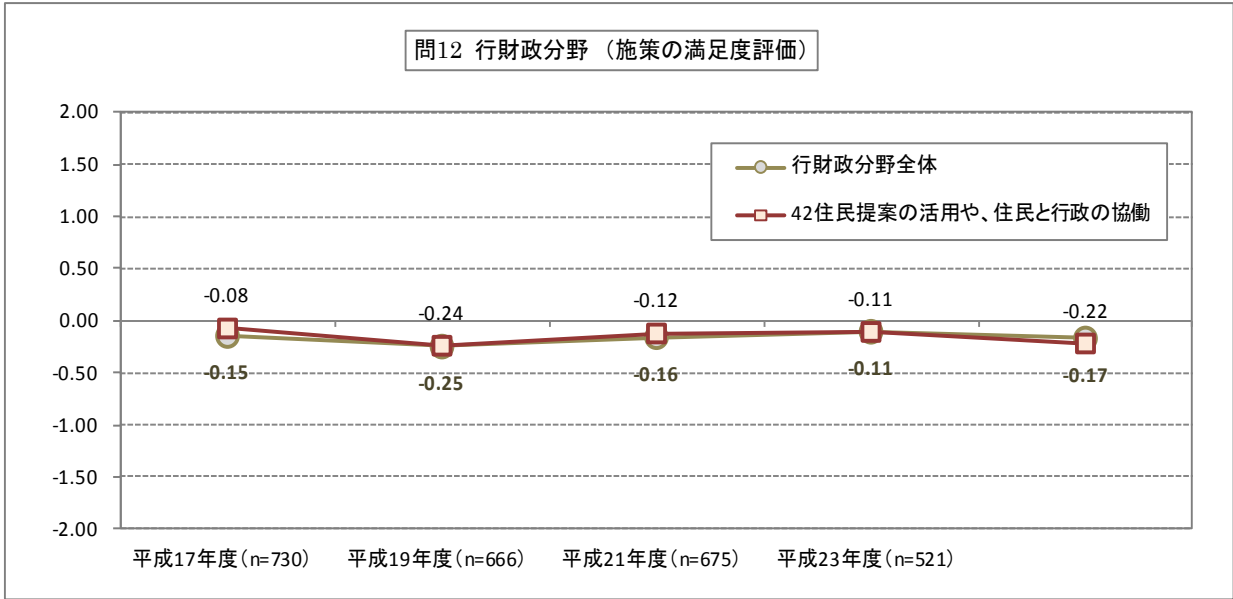
- 「43. まちづくりへの男女共同参画」
- 「45. 広報の充実と広聴機会の拡充」
- 「46. 周辺の市町村との連携」

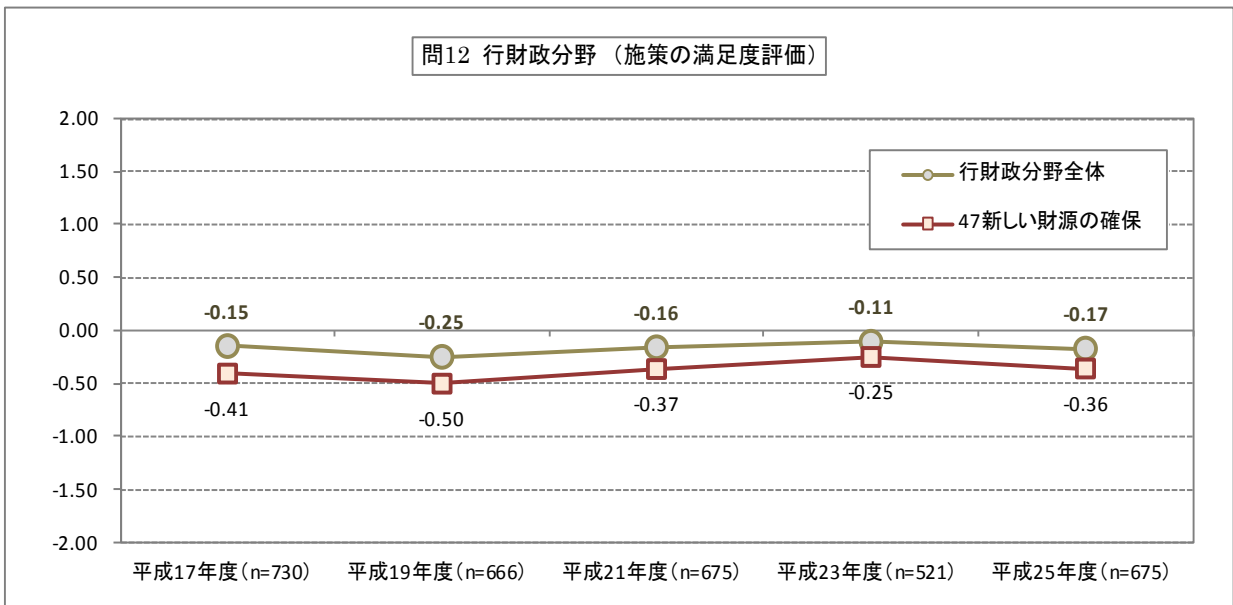
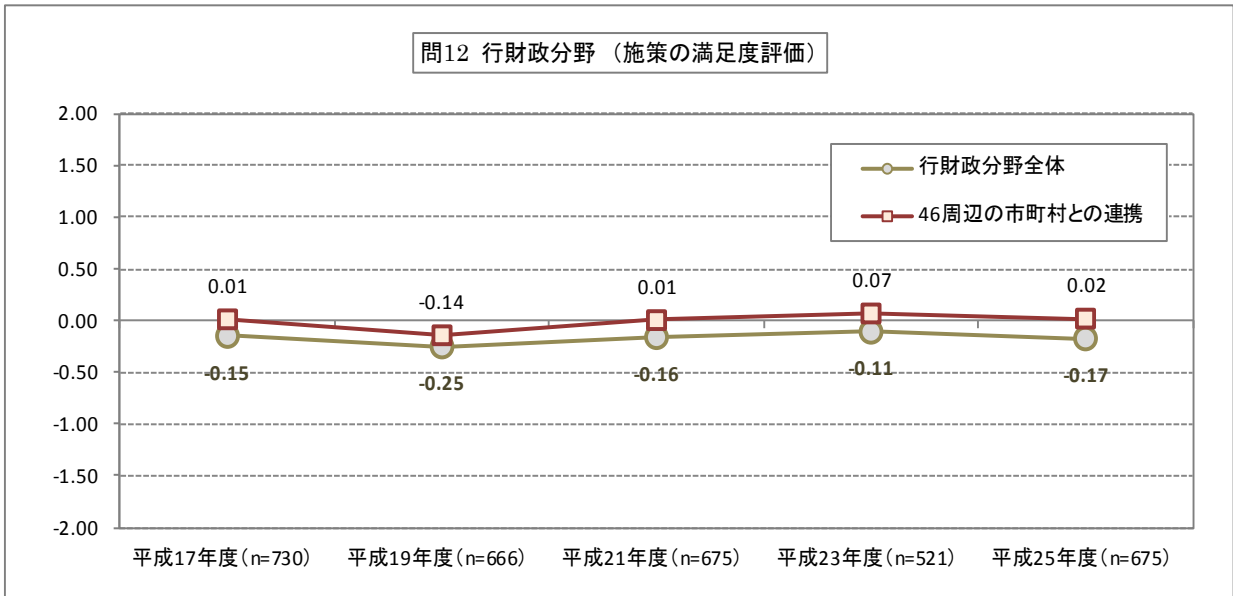
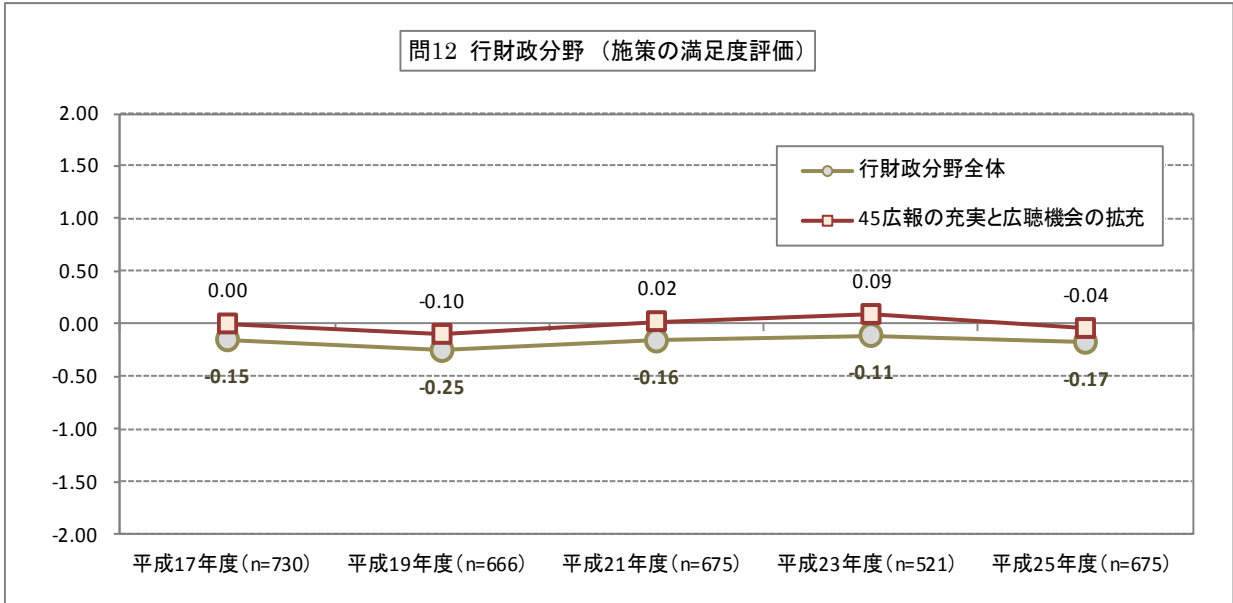
の3施策であり、逆に下回っている施策は、

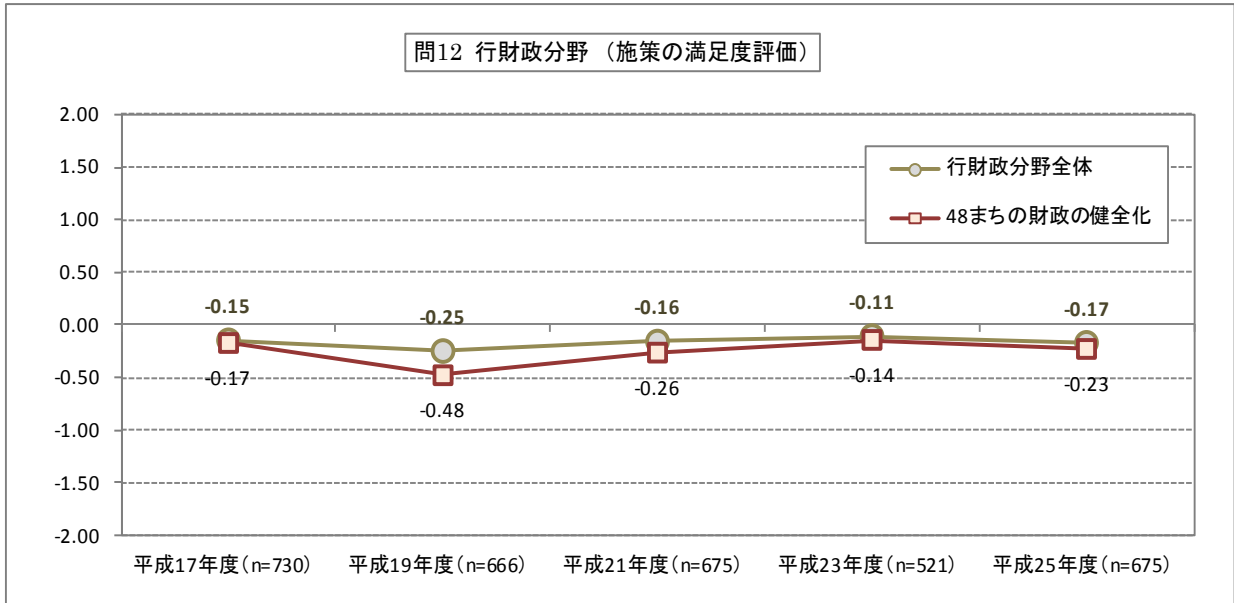
- 「40. まちに住む人の増加」
- 「44. まちづくりに積極的な職員の育成」
- 「45. 新しい財源の確保」

の3施策となっています。







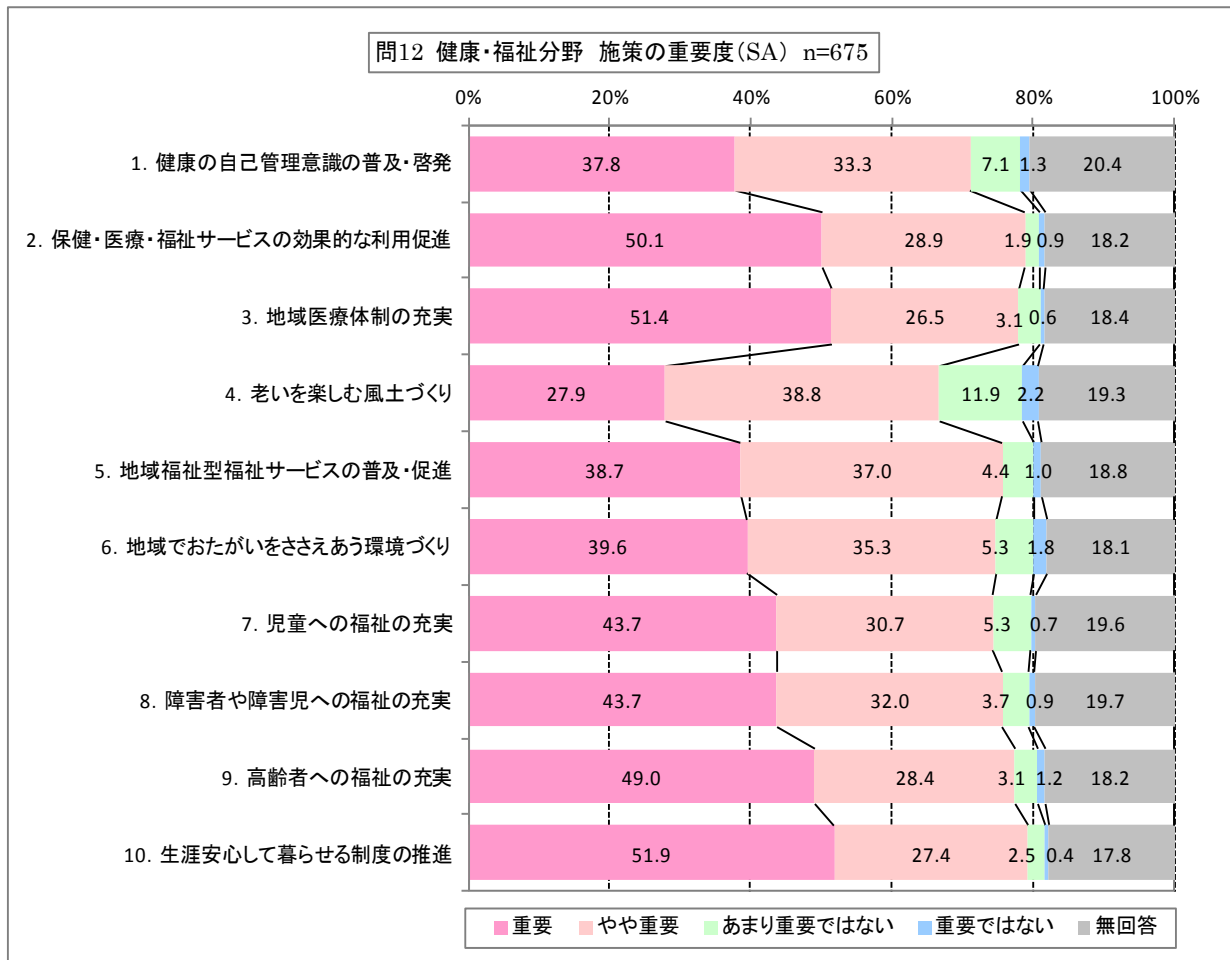


問12-② 分野別施策の今後の重要度

【健康・福祉分野】

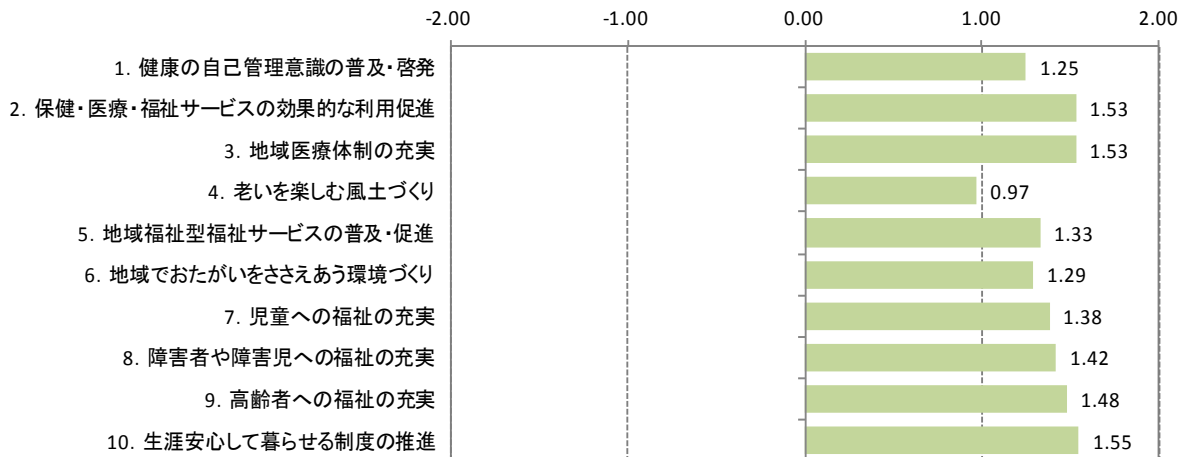
健康・福祉分野の施策の今後の重要度において、「重要」と「やや重要」を合わせた「重要」の回答割合は、「1. 健康の自己管理意識の普及・啓発」及び「10. 生涯安心して暮らせる制度の推進」は8割近くを占めています。また、「重要」との回答割合が5割を超えた施策は、「2. 保健・医療・福祉サービスの効果的な利用促進」、「3. 地域医療体制の充実」及び「10. 生涯安心して暮らせる制度の推進」となっています。

一方、「4. 老いを楽しむ風土づくり」は「重要」の割合が他の施策に比べ低くなっており、「あまり重要ではない」と「重要ではない」を合わせた「重要ではない」が14.1%を占め、他施策に比べ高くなっています。



「無回答」を除く「重要」、「やや重要」、「あまり重要ではない」及び「重要ではない」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、重要度の評価を比較した結果が次頁（p.68）のグラフですが、「2. 保健・医療・福祉サービスの効果的な利用促進」、「3. 地域医療体制の充実」及び「10. 生涯安心して暮らせる制度の推進」で重要度が高く、「4. 老いを楽しむ風土づくり」でやや重要度が低くなっています。

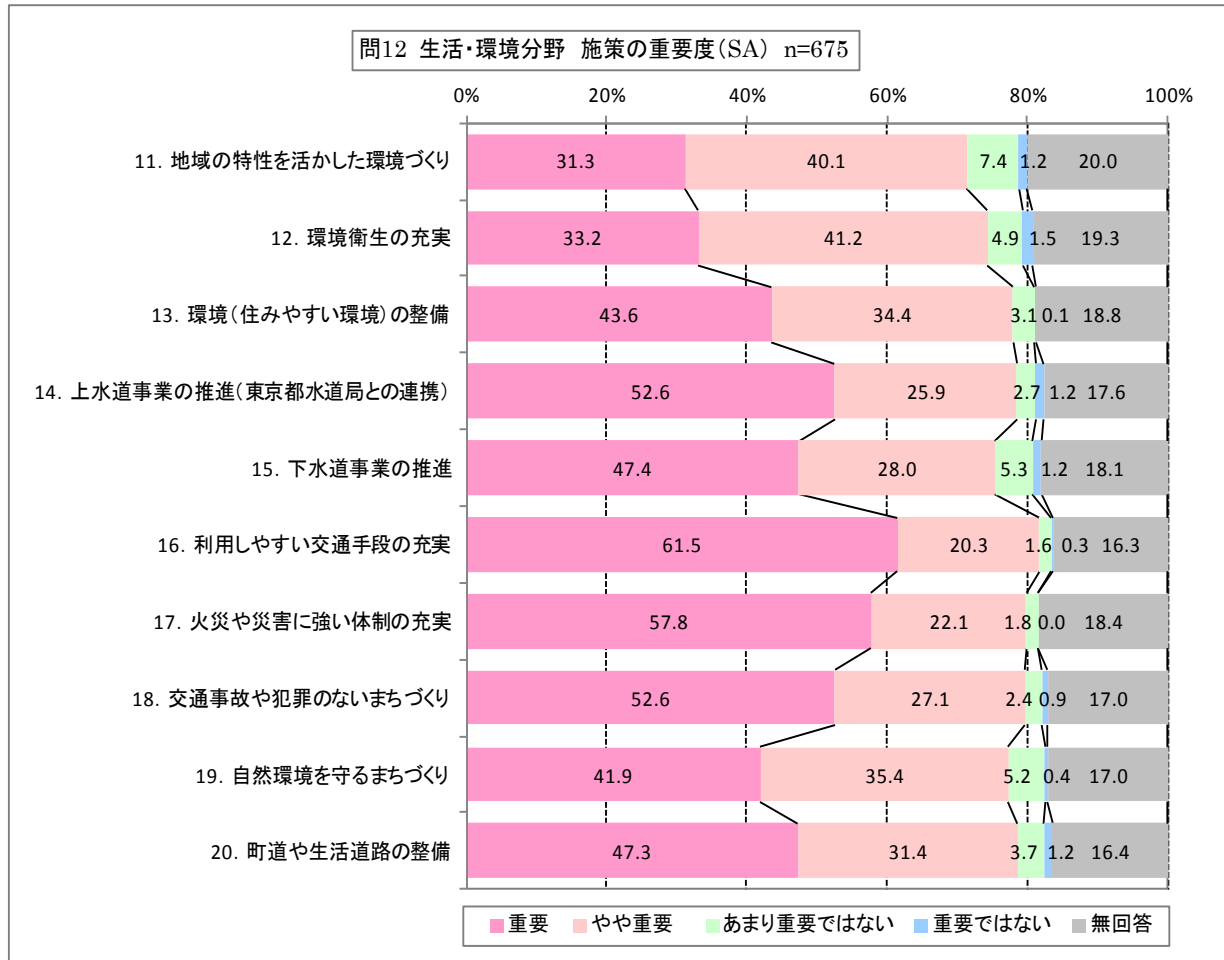
問12 健康・福祉分野 施策の重要度(SA) n=675【加重平均】



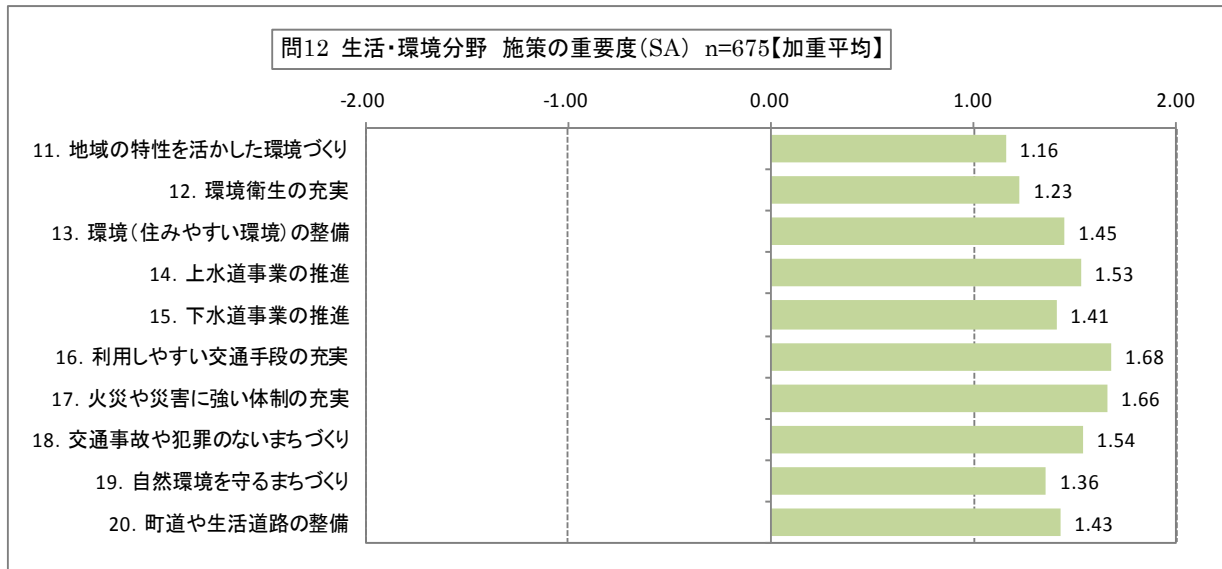
【生活・環境分野】

生活・環境分野の施策の今後の重要度において、「重要」と「やや重要」を合わせた“重要”の回答割合は、10施策とも7割を超えており、なかでも「16. 利用しやすい交通手段の充実」は8割強となっています。また、「重要」との回答割合が5割を超えた施策は、「14. 上水道事業の推進（東京都水道局との連携）」、「16. 利用しやすい交通手段の充実」、「17. 火災や災害に強い体制の充実」及び「18. 交通事故や犯罪のないまちづくり」となっています。

一方、「11. 地域の特性を活かした環境づくり」は“重要”の割合が他の施策に比べ低くなっており、「あまり重要ではない」と「重要ではない」を合わせた“重要ではない”が8.6%を占め、他施策に比べやや高くなっています。



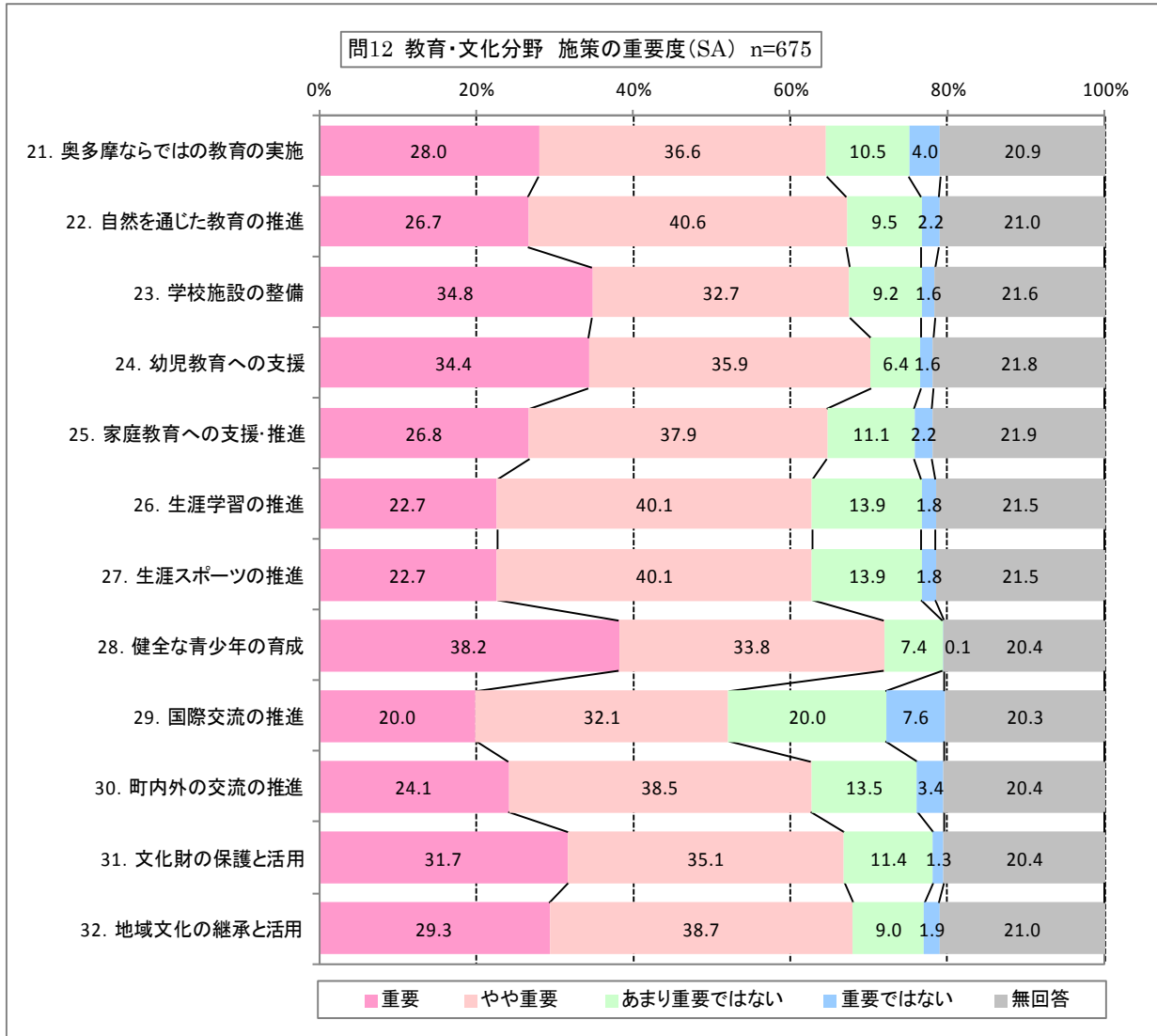
「無回答」を除く「重要」、「やや重要」、「あまり重要ではない」及び「重要ではない」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、重要度の評価を比較した結果が次頁（p.70）のグラフですが、「16. 利用しやすい交通手段の充実」及び「17. 火災や災害に強い体制の充実」で重要度が高く、「11. 地域の特性を活かした環境づくり」でやや重要度が低くなっています。



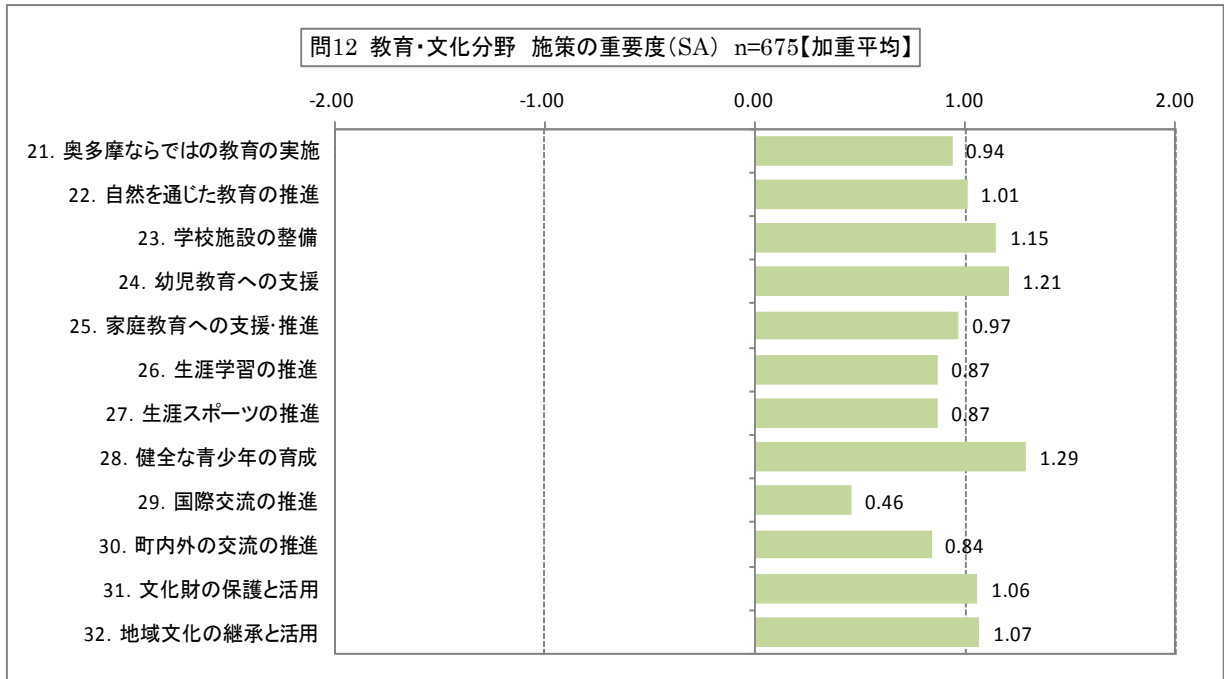
【教育・文化分野】

教育・文化分野の施策の今後の重要度において、「重要」と「やや重要」を合わせた“重要”の回答割合が高い施策は、「24. 幼児教育への支援」及び「28. 健全な青少年の育成」で7割強となっています。また、「重要」との回答割合が3割を超えた施策は、「23. 学校施設の整備」、「24. 幼児教育への支援」、「28. 健全な青少年の育成」及び「31. 文化財の保護と活用」となっています。

一方、「29. 国際交流の推進」は“重要”の割合が他の施策に比べ低くなっており、「あまり重要ではない」と「重要ではない」を合わせた“重要ではない”が27.6%を占め、他施策に比べ高くなっています。



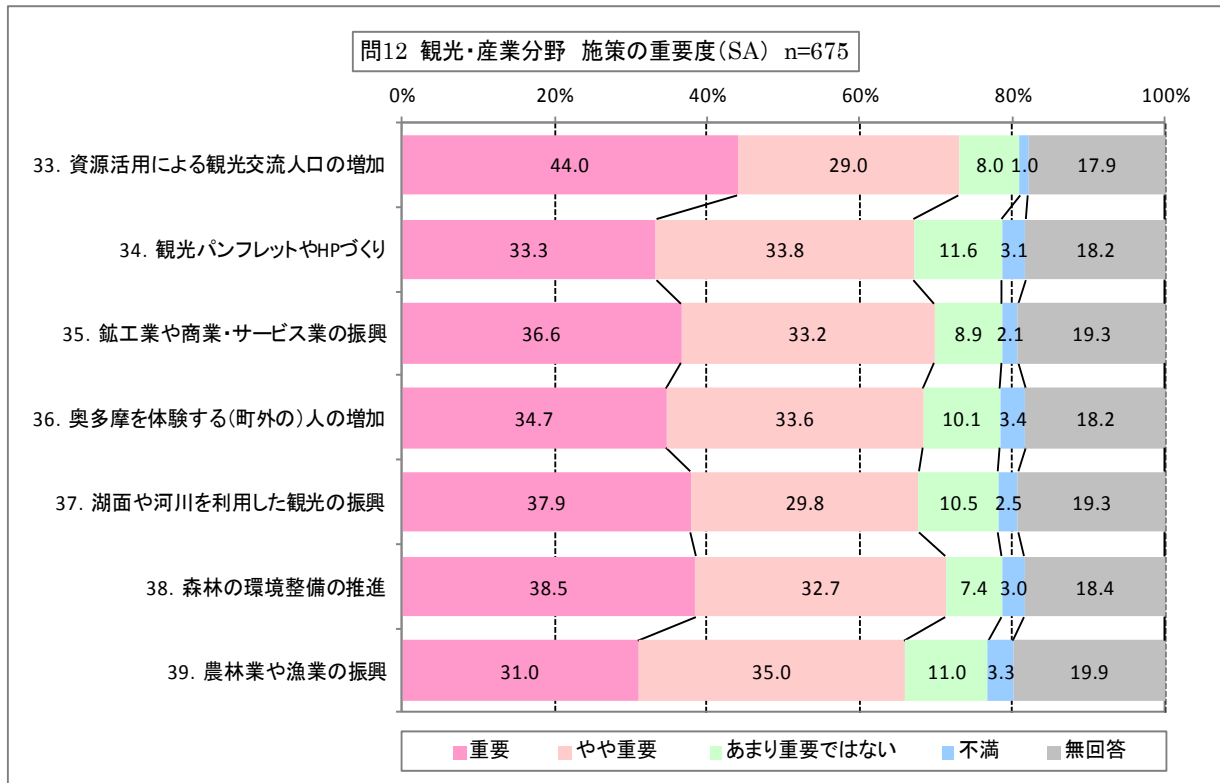
「無回答」を除く「重要」、「やや重要」、「あまり重要ではない」及び「重要ではない」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、重要度の評価を比較した結果が次頁（p.72）のグラフですが、「24. 幼児教育への支援」及び「28. 健全な青少年の育成」で重要度が高く、「29. 国際交流の推進」で重要度が低くなっています。



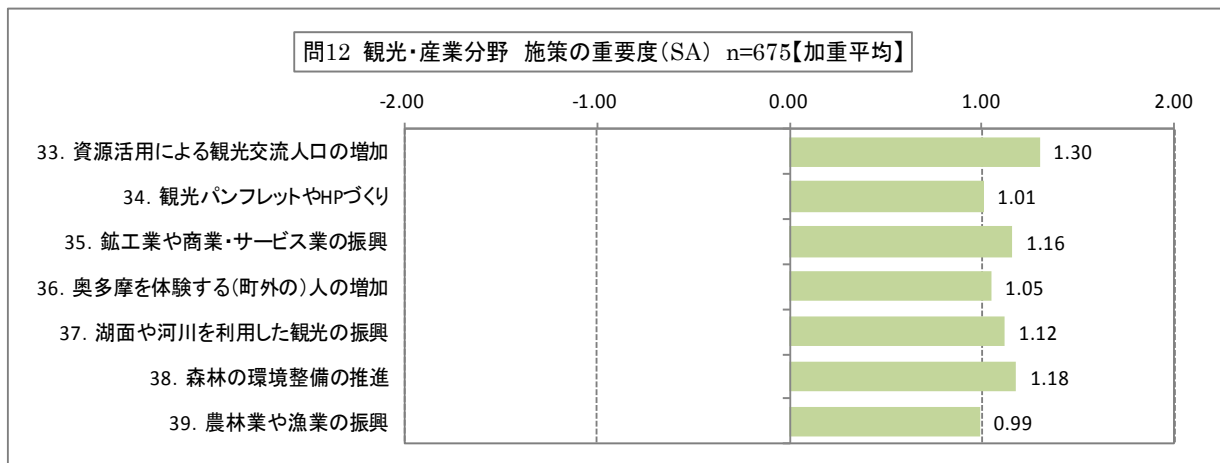
【観光・産業分野】

観光・産業分野の施策の今後の重要度において、「重要」と「やや重要」を合わせた“重要”の回答割合が高い施策は、「33. 資源活用による観光交流人口の増加」及び「38. 森林の環境整備の推進」で7割強となっています。また、「重要」との回答割合が4割を超えた施策は、「33. 資源活用による観光交流人口の増加」となっています。

一方、「39. 農林業や漁業の振興」は“重要”の割合が他の施策に比べ低くなっており、「あまり重要ではない」と「重要ではない」を合わせた“重要ではない”が14.3%を占め、他施策に比べやや高くなっています。



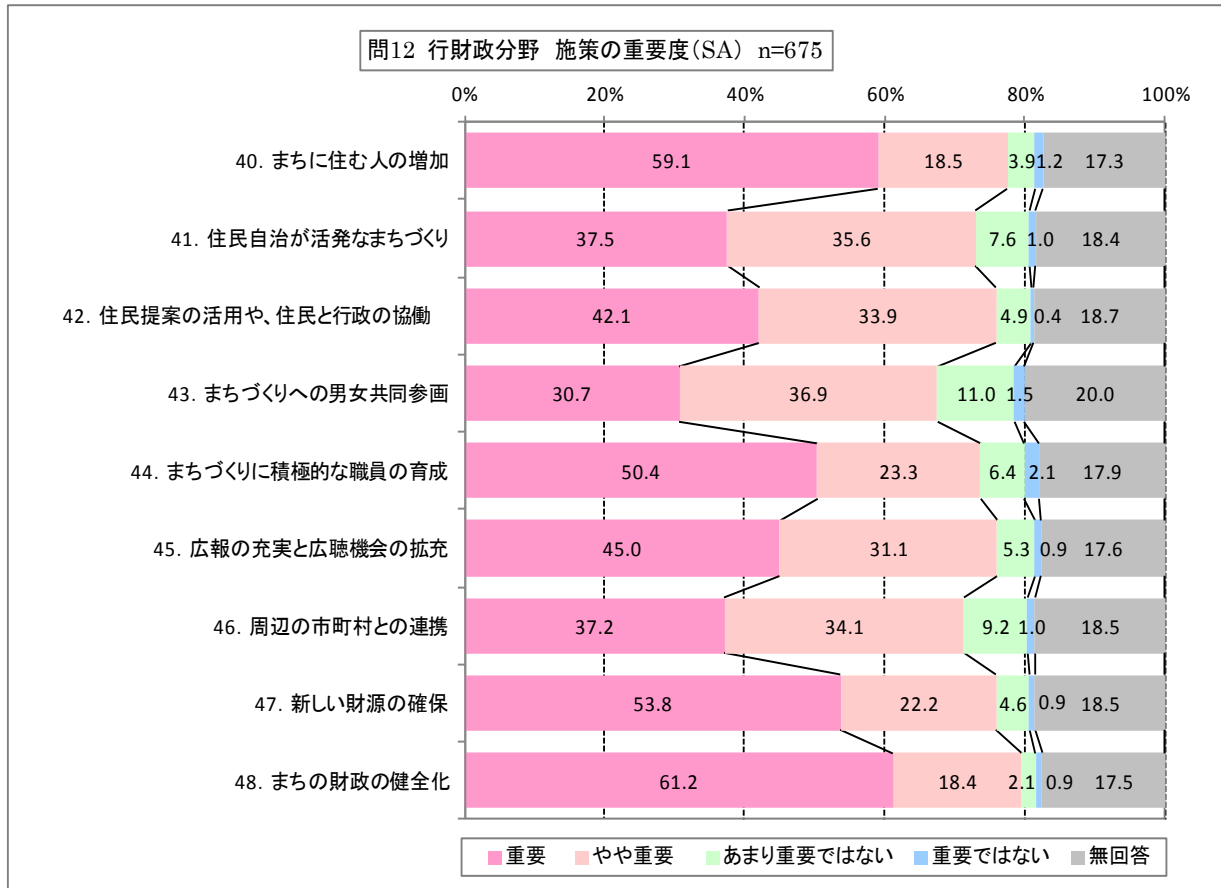
「無回答」を除く「重要」、「やや重要」、「あまり重要ではない」及び「重要ではない」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、重要度の評価を比較した結果が以下のグラフですが、「33. 資源活用による観光交流人口の増加」で重要度が高く、「39. 農林業や漁業の振興」で重要度が低くなっています。



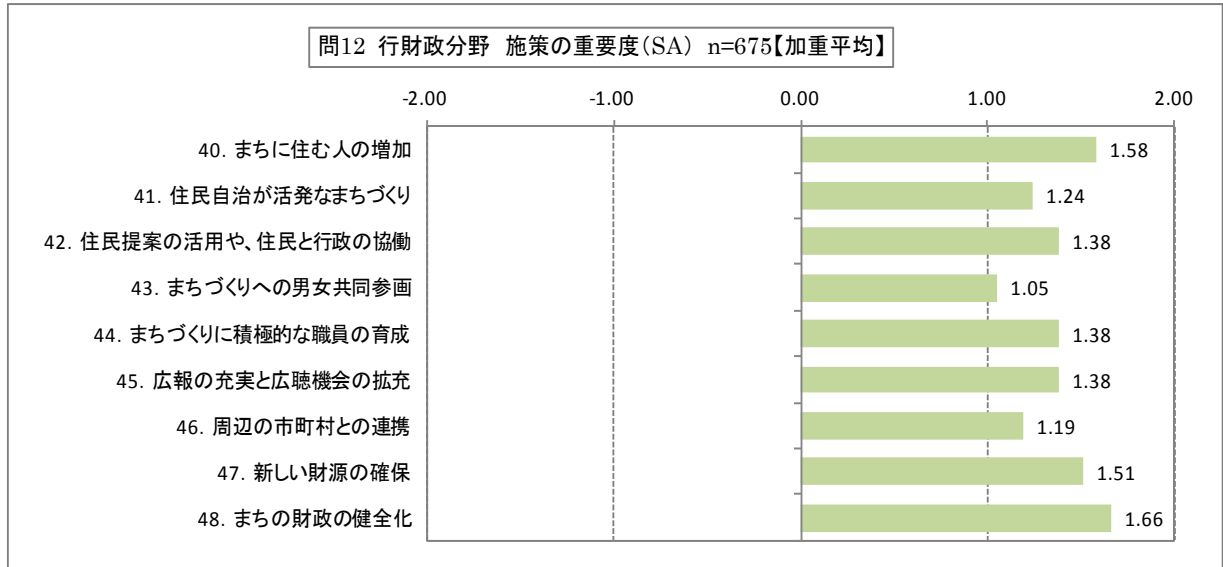
【行財政分野】

行財政分野の施策の今後の重要度において、「重要」と「やや重要」を合わせた“重要”の回答割合が高い施策は、「43. まちづくりへの男女共同参画」の 67.6%を除くと 7 割以上を占めています。また、「重要」との回答割合が 5 割を超えた施策は、「40. まちに住む人の増加」、「44. まちづくりに積極的な職員の育成」、「47. 新しい財源の確保」及び「48. まちの財政の健全化」となっています。

一方、「43. まちづくりへの男女共同参画」は“重要”の割合が他の施策に比べ低くなっており、「あまり重要ではない」と「重要ではない」を合わせた“重要ではない”が 12.5%を占め、他施策に比べやや高くなっています。



「無回答」を除く「重要」、「やや重要」、「あまり重要ではない」及び「重要ではない」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、重要度の評価を比較した結果が次頁（p.75）のグラフですが、「40. まちに住む人の増加」、「47. 新しい財源の確保」及び「48. まちの財政の健全化」で重要度が高く、「43. まちづくりへの男女共同参画」で重要度が低くなっています。



問 12 施策全体の満足度・重要度

●加重平均値の算出

満足度・重要度については、5 分野（健康・福祉、生活・環境、教育・文化、観光・産業、行財政）48 項目の主要施策項目に対する「満足度」・「重要度」を評価しました。

「無回答」を除く「満足」・「重要」、「やや満足」・「やや重要」、「やや不満」・「あまり重要でない」及び「不満」・「重要ではない」の複数の回答を単純に平均するのではなく、それぞれの回答の重みを加味して平均した「加重平均値」によって、満足度・重要度を評価をしました。

（※ここでは「満足」・「重要」に 2 ポイント、「やや満足」・「やや重要」に 1 ポイント、「やや不満」・「あまり重要でない」に -1 ポイント、「不満」・「重要ではない」に -2 ポイントを与え、無回答を除く合計回答数で割った結果としていますが、仮に全員が「満足」・「重要」の場合は 2 ポイントとなり、「満足」・「重要」と「不満」・「重要ではない」がそれぞれ 50% の場合は 0 ポイントとなります。）

《評価基準ごとの加重点数》

「満足度」の評価基準（選択肢）	加重点数	「重要度」の評価基準（選択肢）	加重点数
満足している	2 ポイント	重要である	2 ポイント
やや満足している	1 ポイント	やや重要である	1 ポイント
やや不満である	-1 ポイント	あまり重要ではない	-1 ポイント
不満である	-2 ポイント	重要ではない	-2 ポイント
無回答	除外	無回答	除外

《加重平均の算式》

満足度	$\frac{[「満足している」 \times (2 \text{ ポイント})] + [「やや満足している」 \times (1 \text{ ポイント})] - [「やや不満である」 \times (-1 \text{ ポイント})] + [「不満である」 \times (-2 \text{ ポイント})]}{\text{各項目回答者数 (除外の回答者は含まない、加点した選択肢の回答者数)}}$
重要度	$\frac{[「重要である」 \times (2 \text{ ポイント})] + [「やや重要である」 \times (1 \text{ ポイント})] - [「あまり重要ではない」 \times (-1 \text{ ポイント})] + [「重要ではない」 \times (-2 \text{ ポイント})]}{\text{各項目回答者数 (除外の回答者は含まない、加点した選択肢の回答者数)}}$

注) それぞれの評価の回答者数に、2 ポイントから -2 ポイントの点数をかけた合計点数を、回答者数（除外の選択肢回答者は含まない）で割った数値を加重平均値としています。

◎全項目平均の加重平均値は満足度 0.125 でした。

重要度 1.252 でした。

◎満足度の最大は「14. 安全な水道水のため東京都水道局と連携します」の 0.96、最小は「16. 住民が利用しやすい交通手段の充実を進めます」の -0.74 でした。

◎重要度の最大は「16. 住民が利用しやすい交通手段の充実を進めます」の 1.68、最小は「29. 国際交流を進めます」の 0.46 でした。

●満足度と重要度のクロス評価について

満足度と重要度の分析においては、加重平均値によるクロス散布図を作成しました。この散布図では、縦軸に重要度、横軸に満足度を目盛り、満足度と重要度それぞれの全分野 48 項目加重平均値の全体平均値で区分して、4 つの課題領域区分を図示しています。

4 つの課題領域区分（A・B・C・D）の考え方は下図を参照ください。

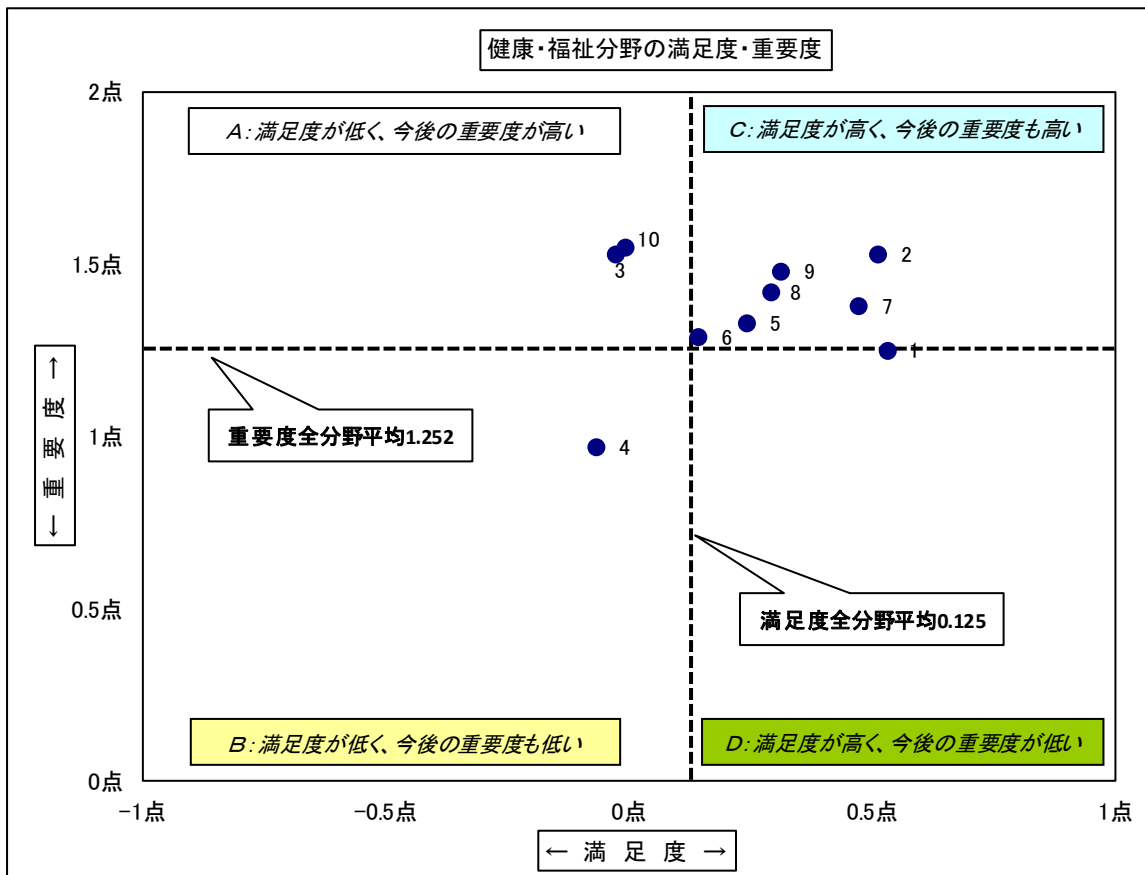
高い ↑ 重要度 ↓ 低い	重要度平均値より高い	A <u>満足度が低く、今後の重要度が高い</u> 今後、 重点的に改善 していくべき と考えられる課題	C <u>満足度が高く、今後の重要度も高い</u> 今後 も安定的に維持 していくべき と考えられる課題
	重要度平均値より低い	B <u>満足度が低く、今後の重要度も低い</u> 今後の環境変化に対応して 選択的に改善 していくべき と考えられる課題	D <u>満足度が高く、今後の重要度が低い</u> 今後の環境変化に対応して 選択的に維持 していくべき と考えられる課題
		満足度平均値より 低い	満足度平均値より 高い
低い ← 満足度 → 高い			

次頁からは、この 4 つの課題領域区分（A・B・C・D）の考え方に基づいて、48 項目の施策を 5 つの分野に分けて、「満足度」と「重要度」の総数（全体）による評価を分析しました。

【健康・福祉分野】

健康・福祉分野の（10 項目）では、A領域に「3. 地域医療体制の充実を図ります」、「10. 生涯安心して暮らせるための制度を推進します」が位置し、重点的な改善が望まれています。また、「4. 老いを楽しむ風土づくりを進めます」は、B領域（今後の環境変化に対応して選択的に改善していくべきと考えられる課題）、「1. 健康の自己管理意識の普及・啓発を図ります」はD領域（今後の環境変化に対応して選択的に維持していくべきと考えられる課題）に位置しています。

一方、「2. 保健・医療・福祉サービスの効果的な利用を促進します」、「5. 地域福祉型福祉サービスの普及・促進を図ります」、「6. 地域でお互いをささえあう環境づくりを進めます」、「7. 児童への福祉を充実します」、「8. 障害者や障害児への福祉を充実します」、「9. 高齢者への福祉を充実します」はC領域（今後も安定的に維持していくべきと考えられる課題）に位置しています。

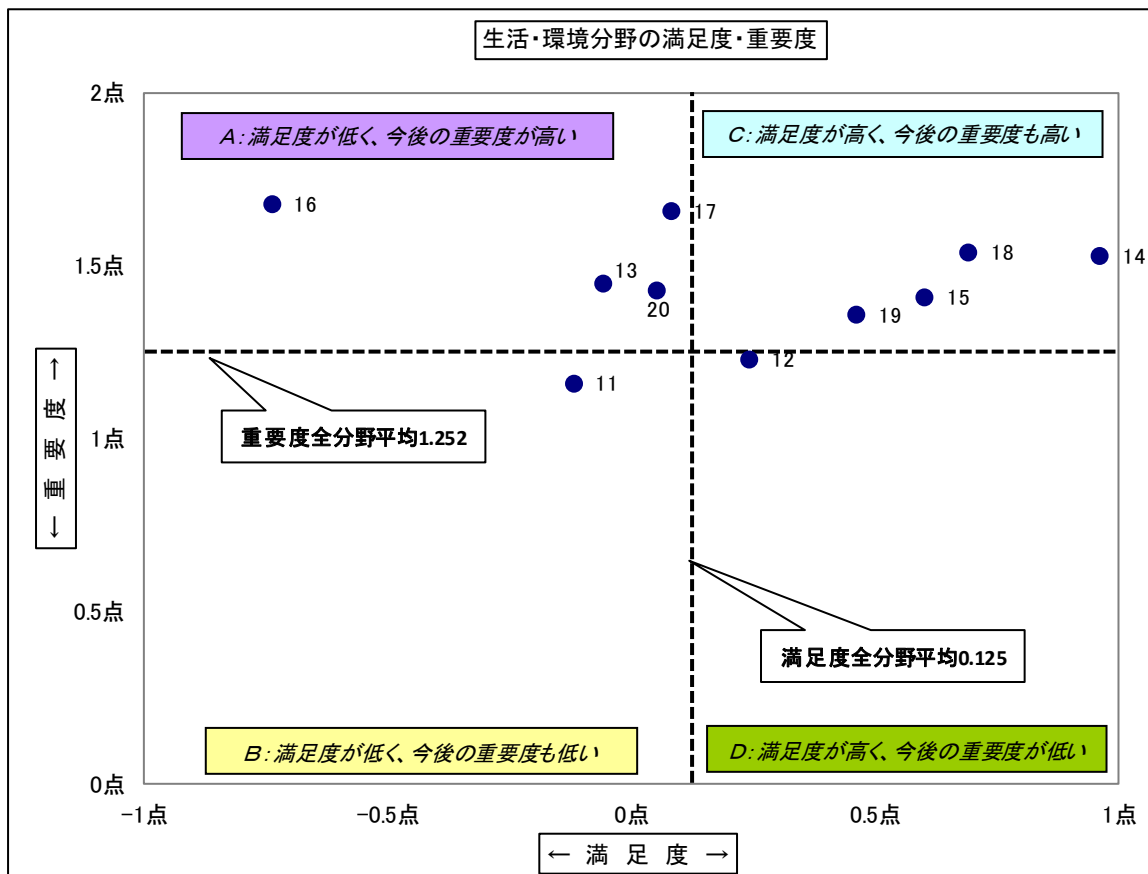


	施策項目	満足度	重要度	課題領域
1	健康の自己管理意識の普及・啓発を図ります	0.53	1.25	D
2	保健・医療・福祉サービスの効果的な利用を促進します	0.51	1.53	C
3	地域医療体制の充実を図ります	-0.03	1.53	A
4	老いを楽しむ風土づくりを進めます	-0.07	0.97	B
5	地域福祉型福祉サービスの普及・促進を図ります	0.24	1.33	C
6	地域でお互いをささえあう環境づくりを進めます	0.14	1.29	C
7	児童への福祉を充実します	0.47	1.38	C
8	障害者や障害児への福祉を充実します	0.29	1.42	C
9	高齢者への福祉を充実します	0.31	1.48	C
10	生涯安心して暮らせるための制度を推進します	-0.01	1.55	A

【生活・環境分野】

生活・環境分野の（10 項目）では、A領域には「13. 住環境（住みやすい環境）を整備します」、「16. 住民が利用しやすい交通手段の充実を進めます」、「17. 火災・震災に強い体制を充実します」、「20. 身近な道路（町道や生活道路）を整備します」の 4 項目が位置しており、「16. 住民が利用しやすい交通手段の充実を進めます」は特に満足度が低く、重要度も高くなっています。B領域には「11. 地域の特性を活かした環境づくりを進めます」が位置しています。

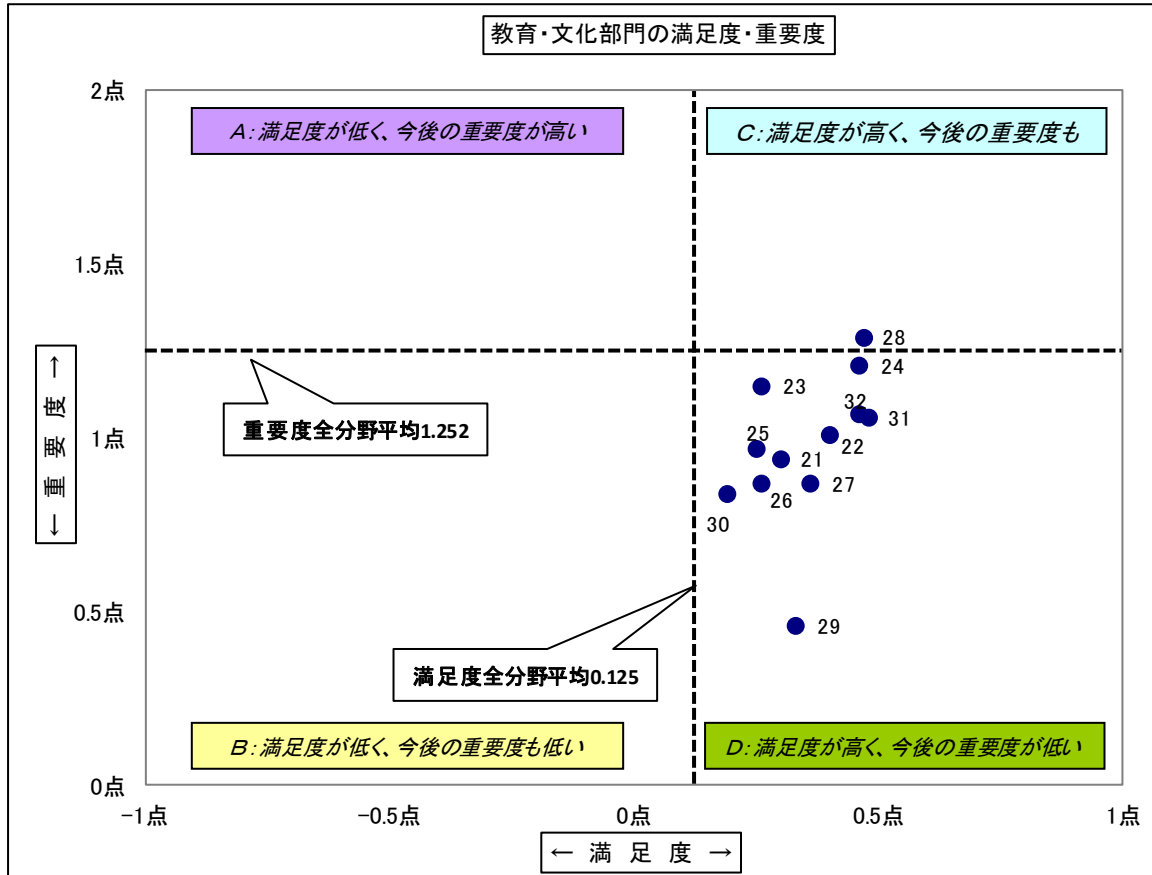
一方、C領域には「14. 安全な水道水のため東京都水道局と連携します」、「15. 下水道事業を適切に推進します」、「18. 交通事故や犯罪のないまちにします」、「19. 自然環境を守るまちにします」が位置しており、今後も安定的に維持していくべきと考えられる課題となっています。D領域には「12. 環境衛生を充実します」が位置しています。



	施策項目	満足度	重要度	課題領域
11	地域の特性を活かした環境づくりを進めます	-0.12	1.16	B
12	環境衛生を充実します	0.24	1.23	D
13	住環境（住みやすい環境）を整備します	-0.06	1.45	A
14	安全な水道水のため東京都水道局と連携します	0.96	1.53	C
15	下水道事業を適切に推進します	0.60	1.41	C
16	住民が利用しやすい交通手段の充実を進めます	-0.74	1.68	A
17	火災・震災に強い体制を充実します	0.08	1.66	A
18	交通事故や犯罪のないまちにします	0.69	1.54	C
19	自然環境を守るまちにします	0.46	1.36	C
20	身近な道路（町道や生活道路）を整備します	0.05	1.43	A

【教育・文化分野】

教育・文化分野の（12 項目）では、A 領域・B 領域に位置する項目はなく、満足度は総じて高くなっています。「28. 健全な青少年を育成します」が C 領域（今後も安定的に維持していくべきと考えられる課題）に位置する以外、11 項目が D 領域（今後の環境変化に対応して選択的に維持していくべきと考えられる課題）に位置しています。

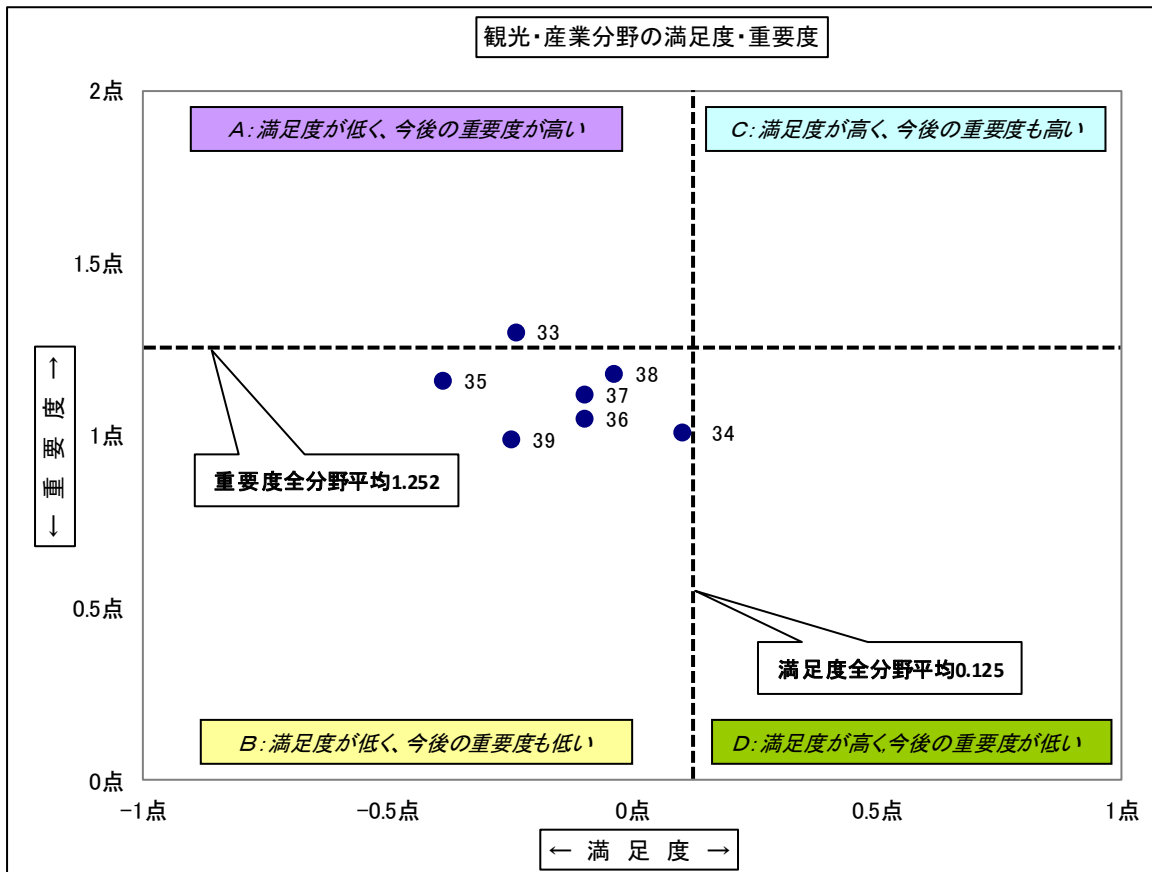


	施策項目	満足度	重要度	課題領域
21	奥多摩ならではの教育を行います	0.30	0.94	D
22	自然を通じた教育を推進します	0.40	1.01	D
23	学校施設の整備を進めます	0.26	1.15	D
24	幼児教育への支援を進めます	0.46	1.21	D
25	家庭教育を支援・推進します	0.25	0.97	D
26	生涯学習を推進します	0.26	0.87	D
27	生涯スポーツを推進します	0.36	0.87	D
28	健全な青少年を育成します	0.47	1.29	C
29	国際交流を進めます	0.33	0.46	D
30	町内外の交流を進めます	0.19	0.84	D
31	文化財を保護し活用します	0.48	1.06	D
32	地域文化を継承し活用します	0.46	1.07	D

【観光・産業分野】

観光・産業分野の（7 項目）では、C 領域・D 領域に位置する項目はなく、満足度が総じて低くなっています。

A 領域には「33. 観光資源を活用し、観光交流人口を増加します」が位置し、重点的な改善が望まれています。一方、「34. 観光パンフレットや多くの人が見る HP をつくります」、「35. 鉱工業や商業・サービス業を振興します」、「36. 奥多摩町を体験する（町外の）人を増やします」、「37. 湖面や河川を利用した観光を振興します」、「38. 森林づくりを進め、森林の環境整備を推進します」、「39. 農林業や漁業を振興します」の 6 項目は B 領域（今後の環境変化に対応して選択的に改善していくべきと考えられる課題）に位置しています。

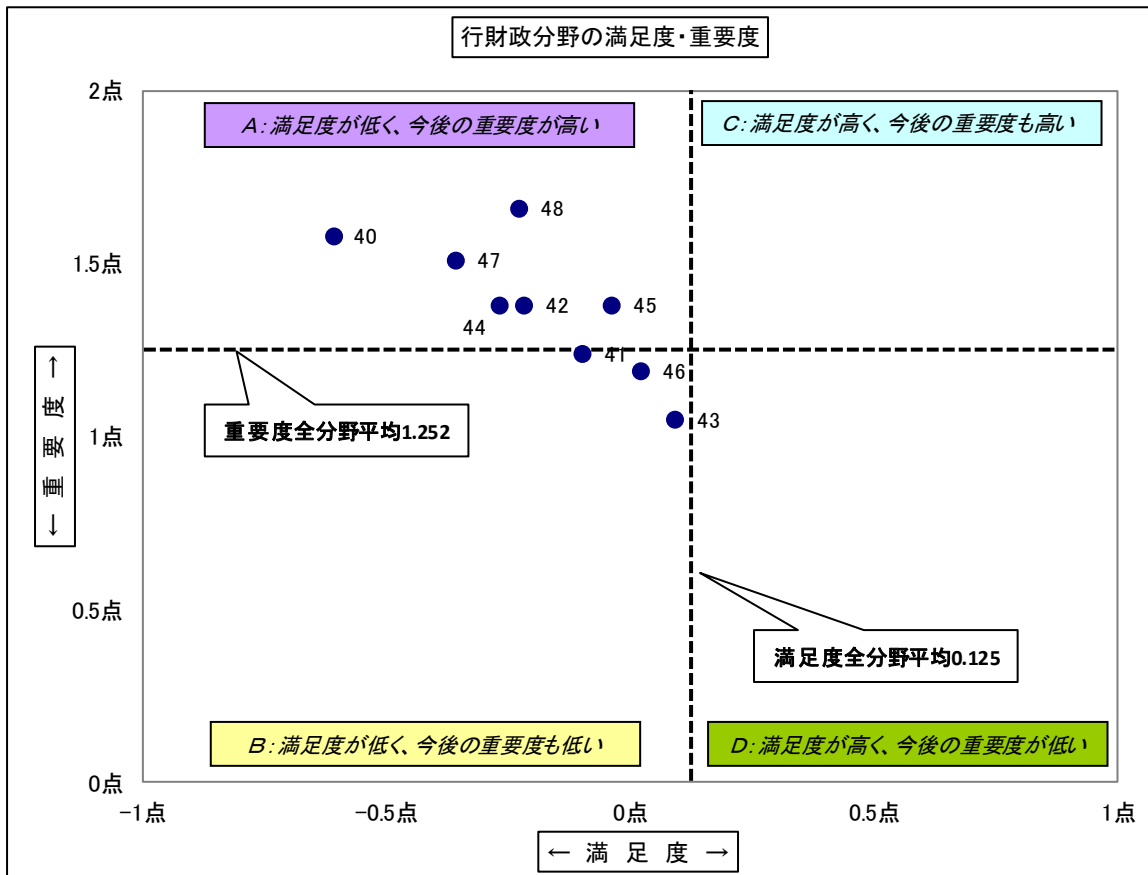


	施策項目	満足度	重要度	課題領域
33	観光資源を活用し、観光交流人口を増加します	-0.24	1.30	A
34	観光パンフレットや多くの人が見る HP をつくります	0.10	1.01	B
35	鉱工業や商業・サービス業を振興します	-0.39	1.16	B
36	奥多摩町を体験する（町外の）人を増やします	-0.10	1.05	B
37	湖面や河川を利用した観光を振興します	-0.10	1.12	B
38	森林づくりを進め、森林の環境整備を推進します	-0.04	1.18	B
39	農林業や漁業を振興します	-0.25	0.99	B

【行財政分野】

行財政分野の（9 項目）では、C 領域・D 領域に位置する項目はなく、満足度が総じて低くなっています。

A 領域には「40. まちに住む人を増やします」、「42. 住民の提案を活用し、住民と行政が協働します」、「44. まちづくりに積極的な職員を育成します」、「45. 広報を充実し、また住民の意見を多く聴きます」、「47. 新しい財源を確保します」、「48. 町の財政を健全にします」の 6 項目が位置し、重点的な改善が望まれています。一方、「41. 住民自治が活発なまちづくりを行います」、「43. 男女が等しくまちづくりを行います」、「46. 周辺の市町村との連携を進めます」の 3 項目は B 領域に位置し、今後の環境変化に対応して選択的に改善していくべきと考えられる課題になっています。



	施 策 項 目	満足度	重要度	課題領域
40	まちに住む人を増やします	-0.61	1.58	A
41	住民自治が活発なまちづくりを行います	-0.10	1.24	B
42	住民の提案を活用し、住民と行政が協働します	-0.22	1.38	A
43	男女が等しくまちづくりを行います	0.09	1.05	B
44	まちづくりに積極的な職員を育成します	-0.27	1.38	A
45	広報を充実し、また住民の意見を多く聴きます	-0.04	1.38	A
46	周辺の市町村との連携を進めます	0.02	1.19	B
47	新しい財源を確保します	-0.36	1.51	A
48	町の財政を健全にします	-0.23	1.66	A

【施策全体の満足度・重要度】

48 項目の施策全体を満足度・重要度の散布図からみると、A領域に位置し、「現状の満足度が低く、今後の重要度が高い」度合いが特に強い施策は、

- ・健康・福祉分野で「3. 地域医療体制の充実を図ります」、「10. 生涯安心して暮らせるための制度を推進します」の 2 項目
- ・生活・環境分野で「13. 住環境（住みやすい環境）を整備します」、「16. 住民が利用しやすい交通手段の充実を進めます」、「17. 火災・震災に強い体制を充実します」、「20. 身近な道路（町道や生活道路）を整備します」の 4 項目
- ・観光・産業分野で「33. 観光資源を活用し、観光交流人口を増加します」の 1 項目
- ・行財政分野で「40. まちに住む人を増やします」、「42. 住民の提案を活用し、住民と行政が協働します」、「44. まちづくりに積極的な職員を育成します」、「45. 広報を充実し、また住民の意見を多く聴きます」、「47. 新しい財源を確保します」、「48. 町の財政を健全にします」の 6 項目

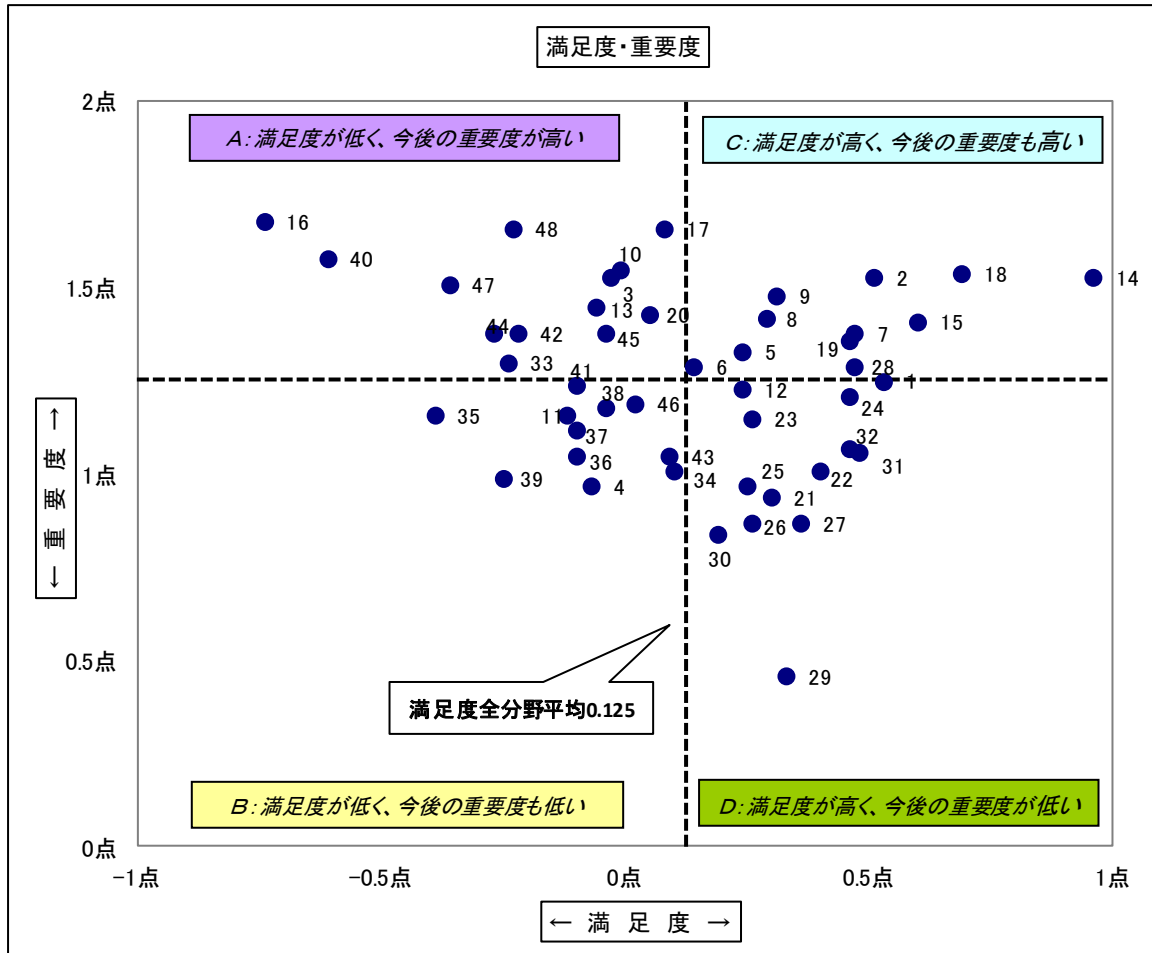
の計 13 項目があげられます。

これら 13 項目は、「今後、重点的に改善していくべきと考えられる課題」（重点的な課題領域）になると想定されます。特に生活・環境分野、行財政分野での項目がめだち、行財政分野では、9 項目の中で 6 項目が「重点的な課題領域」に位置しており、総体的な改善が望まれています。

一方、C領域に位置し、「満足度が高く、今後の重要度も高い」施策は

- ・健康・福祉分野で「2. 保健・医療・福祉サービスの効果的な利用を促進します」、「5. 地域福祉型福祉サービスの普及・促進を図ります」、「6. 地域でお互いをささえあう環境づくりを進めます」、「7. 児童への福祉を充実します」、「8. 障害者や障害児への福祉を充実します」、「9. 高齢者への福祉を充実します」の 6 項目
- ・生活・環境分野の「14. 安全な水道水のため東京都水道局と連携します」、「15. 下水道事業を適切に推進します」、「18. 交通事故や犯罪のないまちにします」、「19. 自然環境を守るまちにします」の 3 項目
- ・教育・文化部門の「28. 健全な青少年を育成します」の 1 項目

の計 10 項目があげられます。これらは、「今後も安定的に維持していくべきと考えられる課題」になると想定されます。



【番号と施策項目一覧】

	施策項目	満足度	重要度	課題領域
健康・福祉	1 健康の自己管理意識の普及・啓発を図ります	0.53	1.25	D
	2 保健・医療・福祉サービスの効果的な利用を促進します	0.51	1.53	C
	3 地域医療体制の充実を図ります	-0.03	1.53	A
	4 老いを楽しむ風土づくりを進めます	-0.07	0.97	B
	5 地域福祉型福祉サービスの普及・促進を図ります	0.24	1.33	C
	6 地域でお互いをささえあう環境づくりを進めます	0.14	1.29	C
	7 児童への福祉を充実します	0.47	1.38	C
	8 障害者や障害児への福祉を充実します	0.29	1.42	C
	9 高齢者への福祉を充実します	0.31	1.48	C
生活・環境分野	10 生涯安心して暮らせるための制度を推進します	-0.01	1.55	A
	11 地域の特性を活かした環境づくりを進めます	-0.12	1.16	B
	12 環境衛生を充実します	0.24	1.23	D
	13 住環境（住みやすい環境）を整備します	-0.06	1.45	A
	14 安全な水道水のため東京都水道局と連携します	0.96	1.53	C
	15 下水道事業を適切に推進します	0.60	1.41	C
	16 住民が利用しやすい交通手段の充実を進めます	-0.74	1.68	A
	17 火災・震災に強い体制を充実します	0.08	1.66	A
	18 交通事故や犯罪のないまちにします	0.69	1.54	C
	19 自然環境を守るまちにします	0.46	1.36	C
	20 身近な道路（町道や生活道路）を整備します	0.05	1.43	A
教育・	21 奥多摩ならではの教育を行います	0.30	0.94	D
	22 自然を通じた教育を推進します	0.40	1.01	D
	23 学校施設の整備を進めます	0.26	1.15	D
	24 幼児教育への支援を進めます	0.46	1.21	D
	25 家庭教育を支援・推進します	0.25	0.97	D
	26 生涯学習を推進します	0.26	0.87	D

奥多摩町まちづくり住民アンケート調査（平成 25 年度）

文化分野	27	生涯スポーツを推進します	0.36	0.87	D
	28	健全な青少年を育成します	0.47	1.29	C
	29	国際交流を進めます	0.33	0.46	D
	30	町内外の交流を進めます	0.19	0.84	D
	31	文化財を保護し活用します	0.48	1.06	D
	32	地域文化を継承し活用します	0.46	1.07	D
観光・産業分野	33	観光資源を活用し、観光交流人口を増加します	-0.24	1.30	A
	34	観光パンフレットや多くの人が見るHPをつくります	0.10	1.01	B
	35	鉱工業や商業・サービス業を振興します	-0.39	1.16	B
	36	奥多摩町を体験する（町外の）人を増やします	-0.10	1.05	B
	37	湖面や河川を利用した観光を振興します	-0.10	1.12	B
	38	森林づくりを進め、森林の環境整備を推進します	-0.04	1.18	B
	39	農林業や漁業を振興します	-0.25	0.99	B
行財政分野	40	まちに住む人を増やします	-0.61	1.58	A
	41	住民自治が活発なまちづくりを行います	-0.10	1.24	B
	42	住民の提案を活用し、住民と行政が協働します	-0.22	1.38	A
	43	男女が等しくまちづくりを行います	0.09	1.05	B
	44	まちづくりに積極的な職員を育成します	-0.27	1.38	A
	45	広報を充実し、また住民の意見を多く聴きます	-0.04	1.38	A
	46	周辺の市町村との連携を進めます	0.02	1.19	B
	47	新しい財源を確保します	-0.36	1.51	A
	48	町の財政を健全にします	-0.23	1.66	A

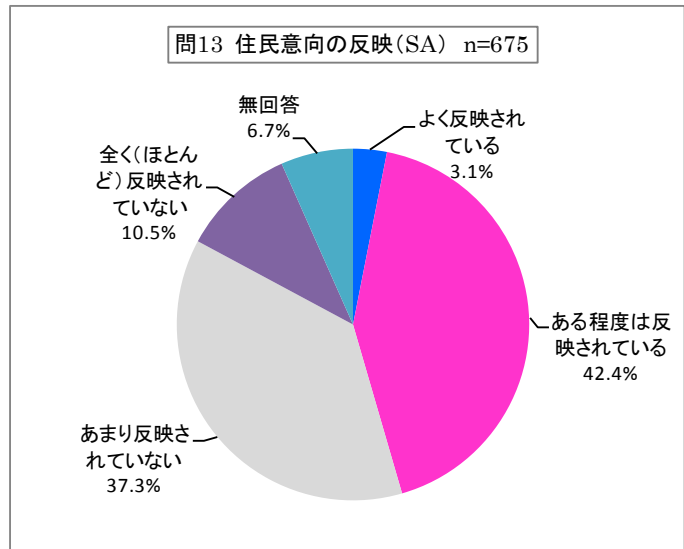
問 13 住民意向のまちづくりへの反映

町民の意向の町政への反映については、「よく反映されている」が 3.1%、「ある程度は反映されている」が 42.4%であり、「反映されている」と感じている割合は 45.5%となっています。

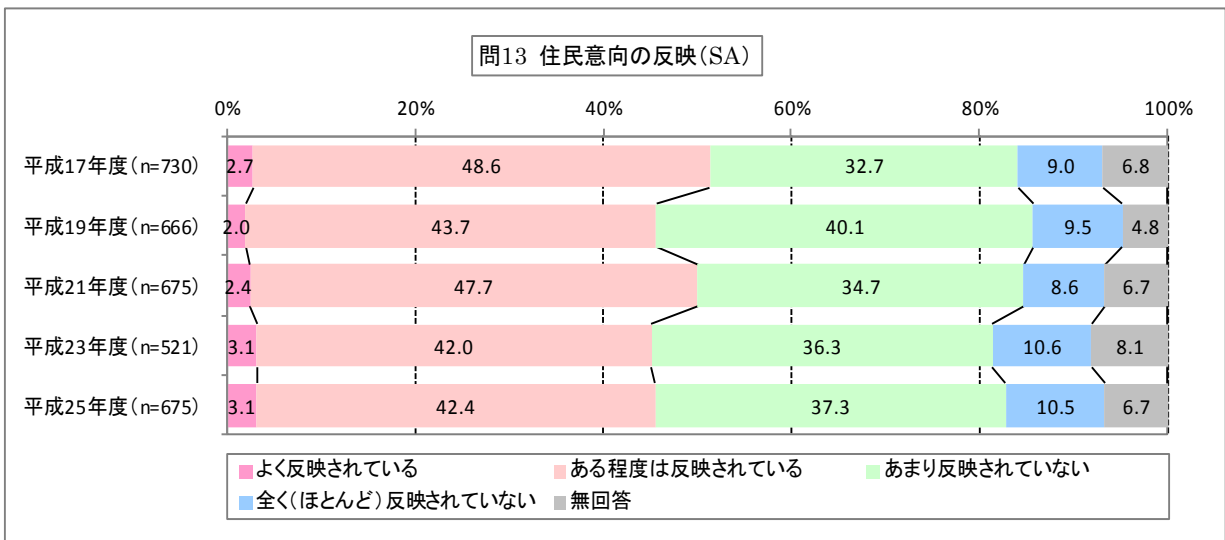
一方、「あまり反映されていない」が 37.3%、「全く（ほとんど）反映されていない」が 10.5%であり、「反映されていない」と感じている割合は 47.8%となっており、「反映されていない」がやや上回っています。

なお、年齢別には、16 歳～49 歳までの各世代で「反映されていない」が上回り、60 歳以上の世代で「反映されている」が上回っています。

また、居住地区別では「氷川」地区では、「反映されていない」が「反映されている」を上回り、「古里」地区では「反映されていない」と「反映されている」がほぼ同じ割合、「小河内」地区では「反映されている」が「反映されていない」を上回っています。

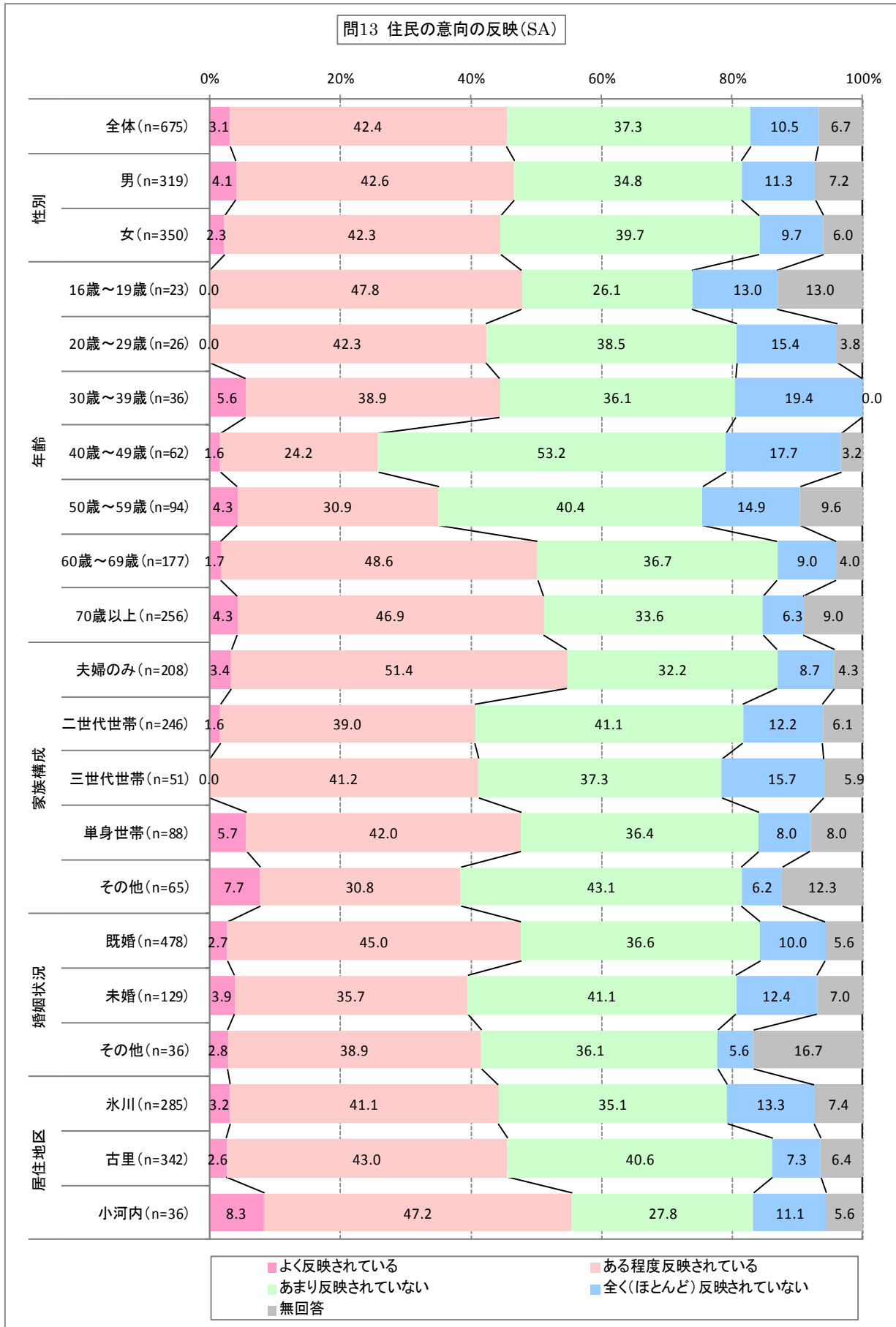


〔過去調査結果との比較〕



今回の調査を含め、過去 5 回実施した調査結果を比較すると、平成 17 年度と平成 21 年度では「反映されている」が「反映されていない」を上回っていますが、平成 19 年度、平成 23 年度、平成 25 年度では「反映されていない」が「反映されている」を上回っています。

〔属性別 結果一覧〕



問 14 まちづくりへの「取り」組み

奥多摩町のまちづくりの取り組みについての評価は、「満足できる」が 3.3%、「どちらかといえば満足できる」が 26.5%であり、「満足できる」と感じている割合は 29.8%となっています。

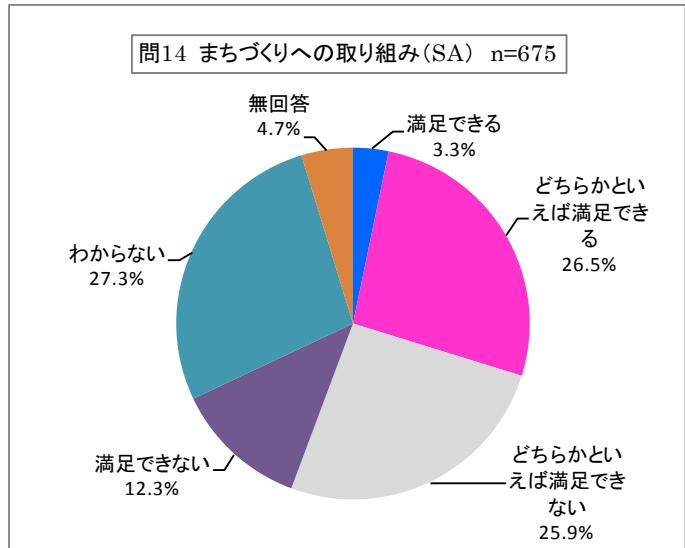
一方、「どちらかといえば満足できない」が 25.9%、「満足できない」が 12.3%であり、「満足できない」と感じている割合は 38.2%となっており、「満足できない」が上回っています。

また、回答者の四分の一（27.3%）が「わからない」と回答しています。

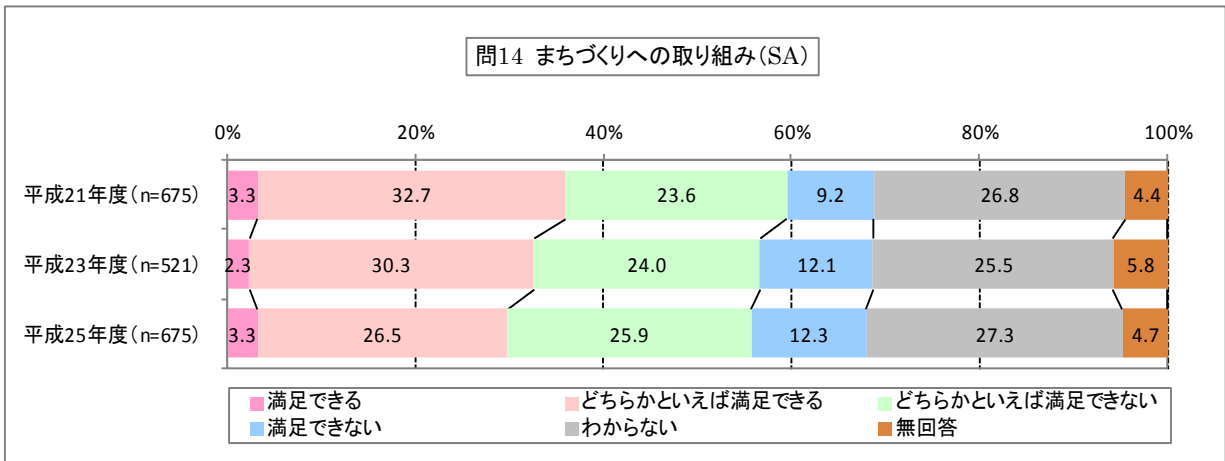
性別では、「男性」「女性」とも“満足できない”が“満足できる”を上回っています。しかし、「女性」の場合「わからない」が 33.1%を占めています。

年齢別では「20 歳～29 歳」及び「70 歳以上」で“満足できる”が上回る一方、「16 歳～19 歳」と“30 歳～69 歳”では“満足できない”が上回っています。

居住地区別では、「小河内」地区で“満足できる”が“満足できない”を上回っていますが、「氷川」地区と「古里」地区では“満足できない”が“満足できる”を上回る結果となっています。

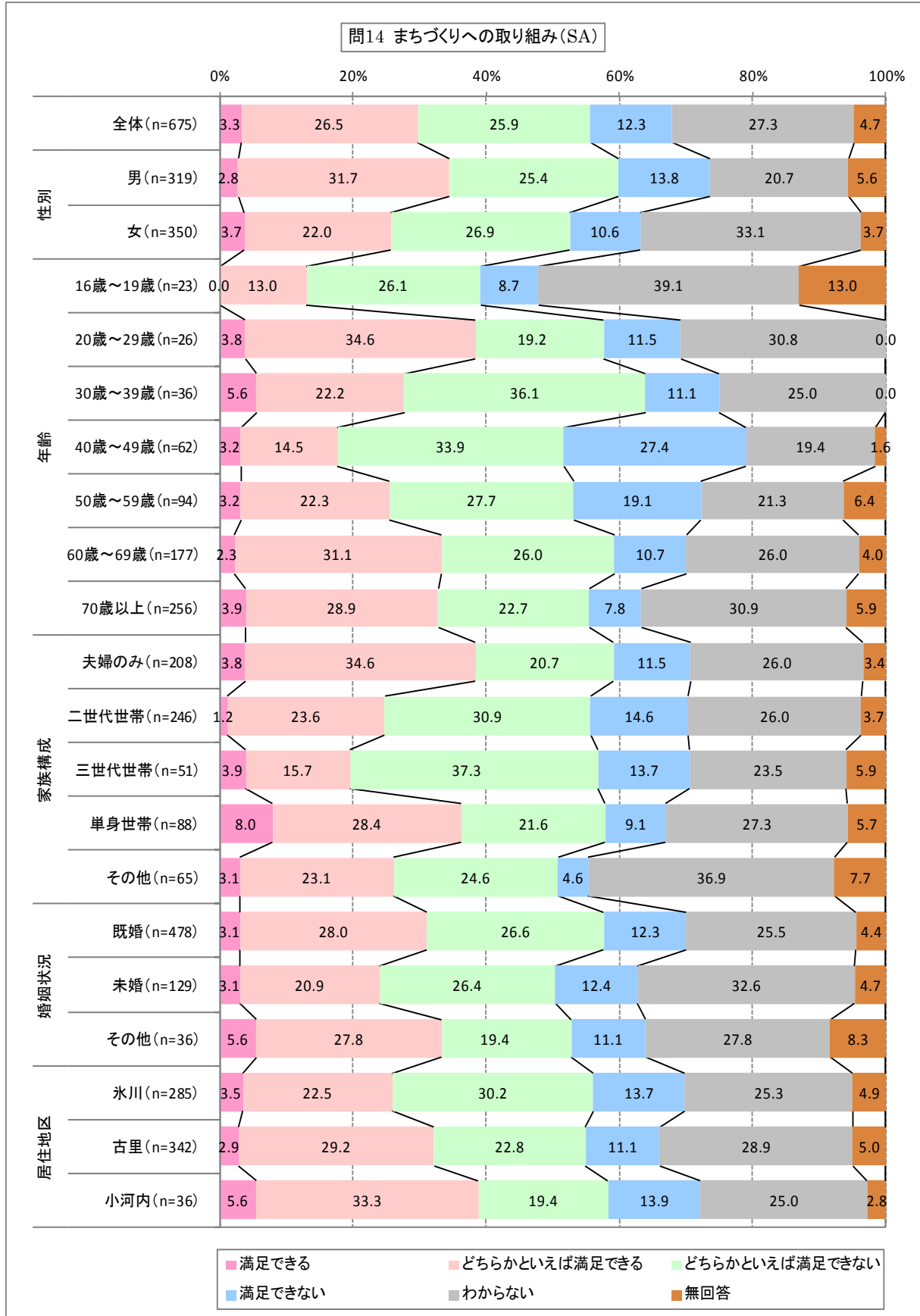


〔過去調査結果との比較〕



今回の調査を含め、過去 3 回実施した調査結果を比較すると、平成 21 年度では“満足できる”が“満足できない”を上回っていますが、平成 23 年度では“満足できない”が“満足できる”を上回り、平成 25 年度でも“満足できない”が“満足できる”大幅に上回る結果となっています。

〔属性別 結果一覧〕



問 15 行政への住民参加状況

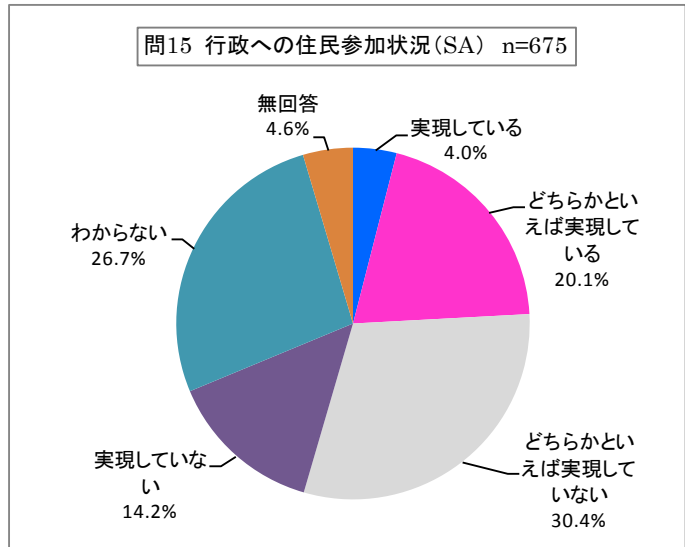
奥多摩町での住民参加状況について、「実現している」が 4.0%、「どちらかといえば実現している」が 20.1%であり、「実現している」と感じている割合は 24.1%となっています。

一方、「どちらかといえば実現していない」が 30.4%、「実現していない」が 14.2%であり、「実現していない」と感じている割合は 44.6%となっております。

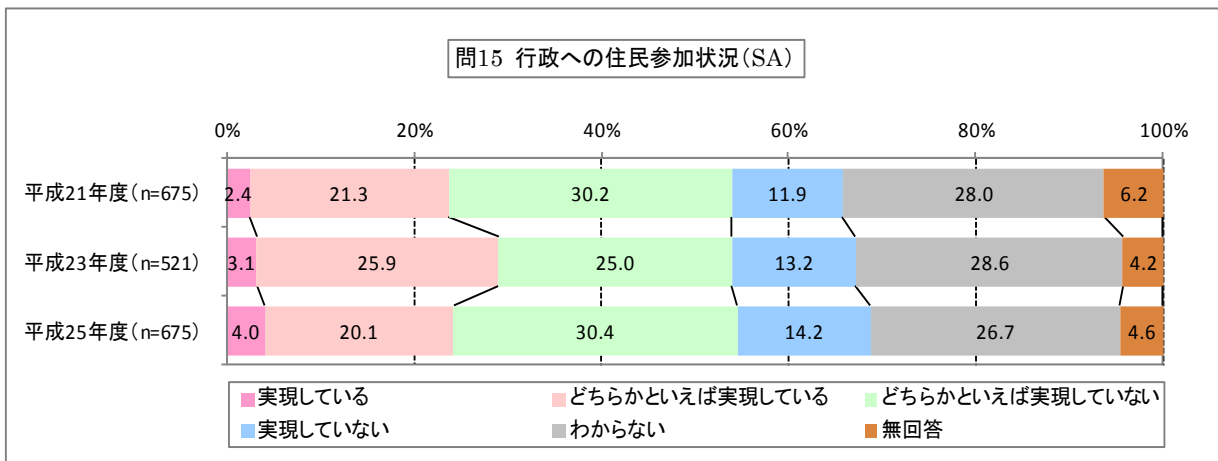
なお、性別では、「実現している」の回答割合に大きな違いは出ていませんが、「実現していない」では「男性」の回答割合が「女性」に比べ高くなっています。「女性」は「わからない」との回答割合が 3 割強を占めています。

また、年齢別では「20 歳～29 歳」、「30 歳～39 歳」及び「40 歳～49 歳」の「実現していない」の回答割合が他の年代に比べ高く、5 割を超えています。また、「16 歳～19 歳」では、「わからない」との回答割合が 5 割近くを占めています。

居住地区別では、「小河内」地区の 30.5%に比べ、「氷川」地区と「古里」地区の「実現していない」の回答割合がそれぞれ 48.1%、42.1%と高くなっています。

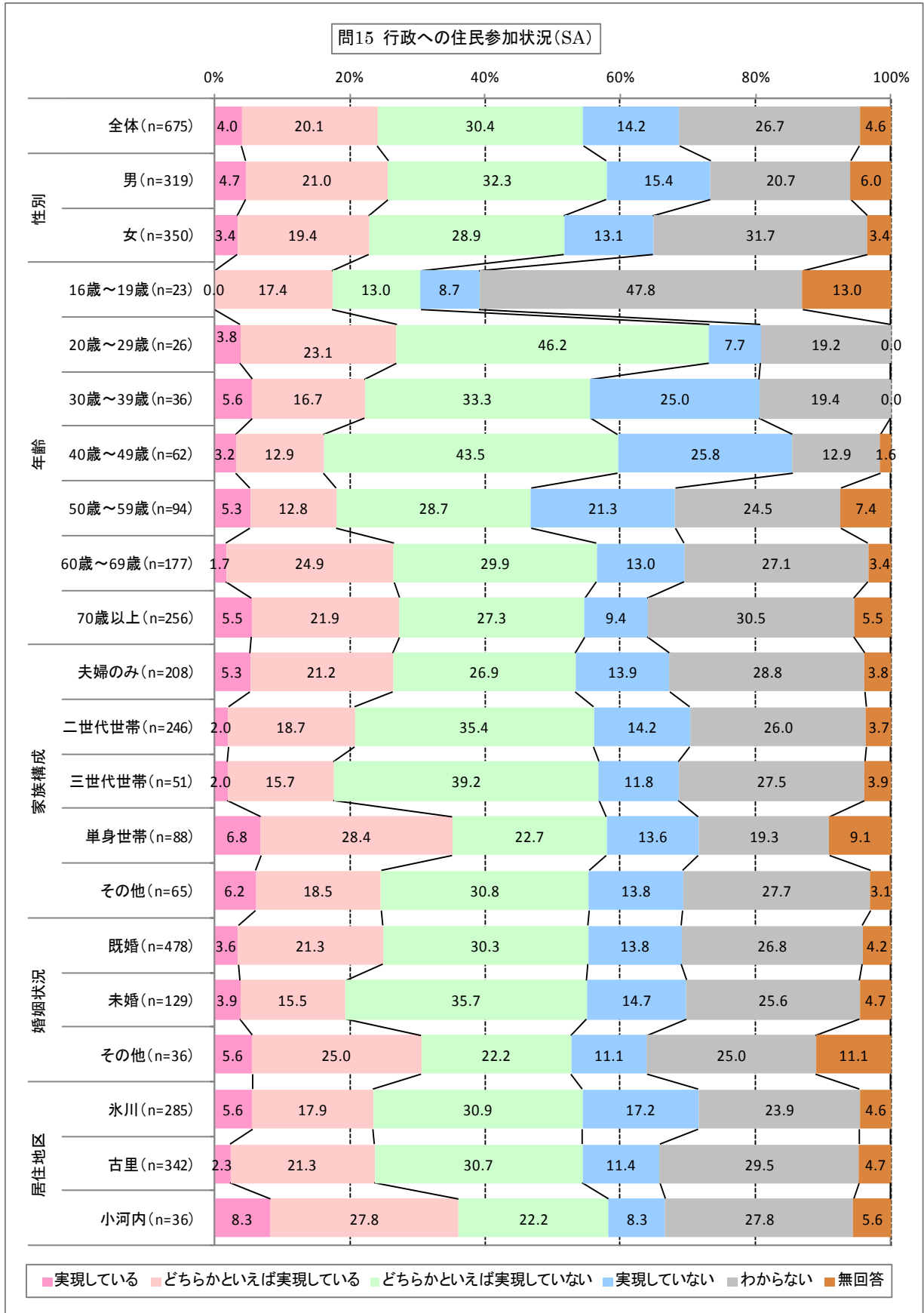


〔過去調査結果との比較〕



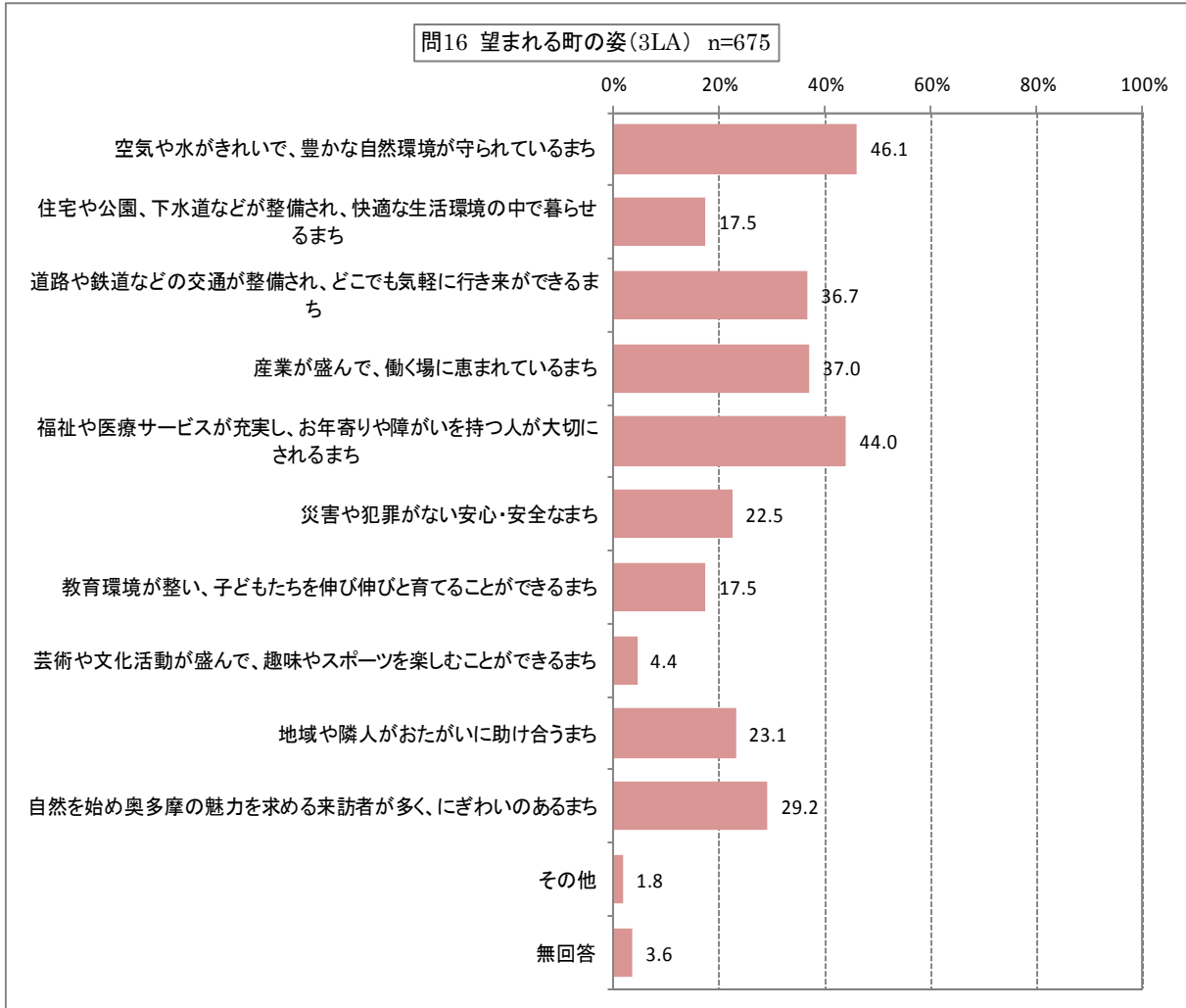
今回の調査を含め、過去 3 回実施した調査結果を比較すると、平成 23 年度は、平成 21 年度に比べ「実現している」の回答割合が増加し、「実現していない」の回答割合が減少しましたが、平成 25 年度には、「実現している」の回答割合が減少し 24.1%に、「実現していない」の回答割合が増加し 44.6%となっています。

〔属性別 結果一覧〕



問 16 望まれる町の姿

望まれる町の姿については、「空気や水がきれいで、豊かな自然環境が守られるまち」が最も高く 46.1%となっており、次いで「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいを持つ人が大切にされるまち」が 44.0%、「産業が盛んで、働く場に恵まれているまち」が 37.0%、「道路や鉄道などの交通が整備され、どこでも気軽に行き来ができるまち」が 36.7%、「自然を始め奥多摩の魅力を求める来訪者が多く、にぎわいのあるまち」が 29.2%と続いています。

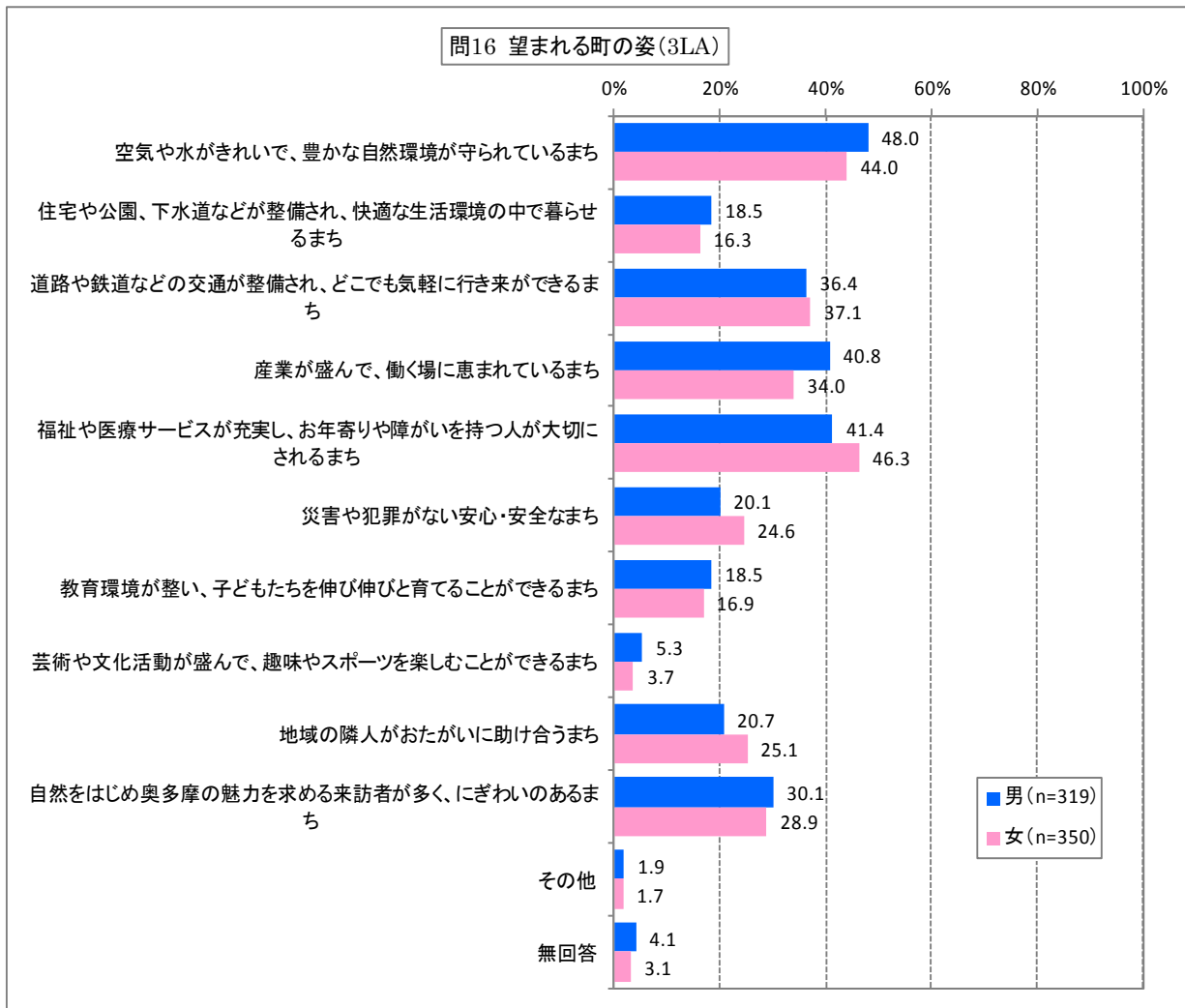


〔属性別結果：性別〕

「空気や水がきれいで、豊かな自然環境が守られるまち」や「産業が盛んで、働く場に恵まれているまち」では、「女性」よりも「男性」の回答割合が高い結果となっています。

また、「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいを持つ人が大切にされるまち」では「男性」よりも「女性」の回答割合が高くなっています。

なお、「道路や鉄道などの交通が整備され、どこでも気軽に行き来ができるまち」や「自然をはじめ奥多摩の魅力を求める来訪者が多く、にぎわいのあるまち」は、「男性」「女性」とむ割合にあまり差がない結果となっています。

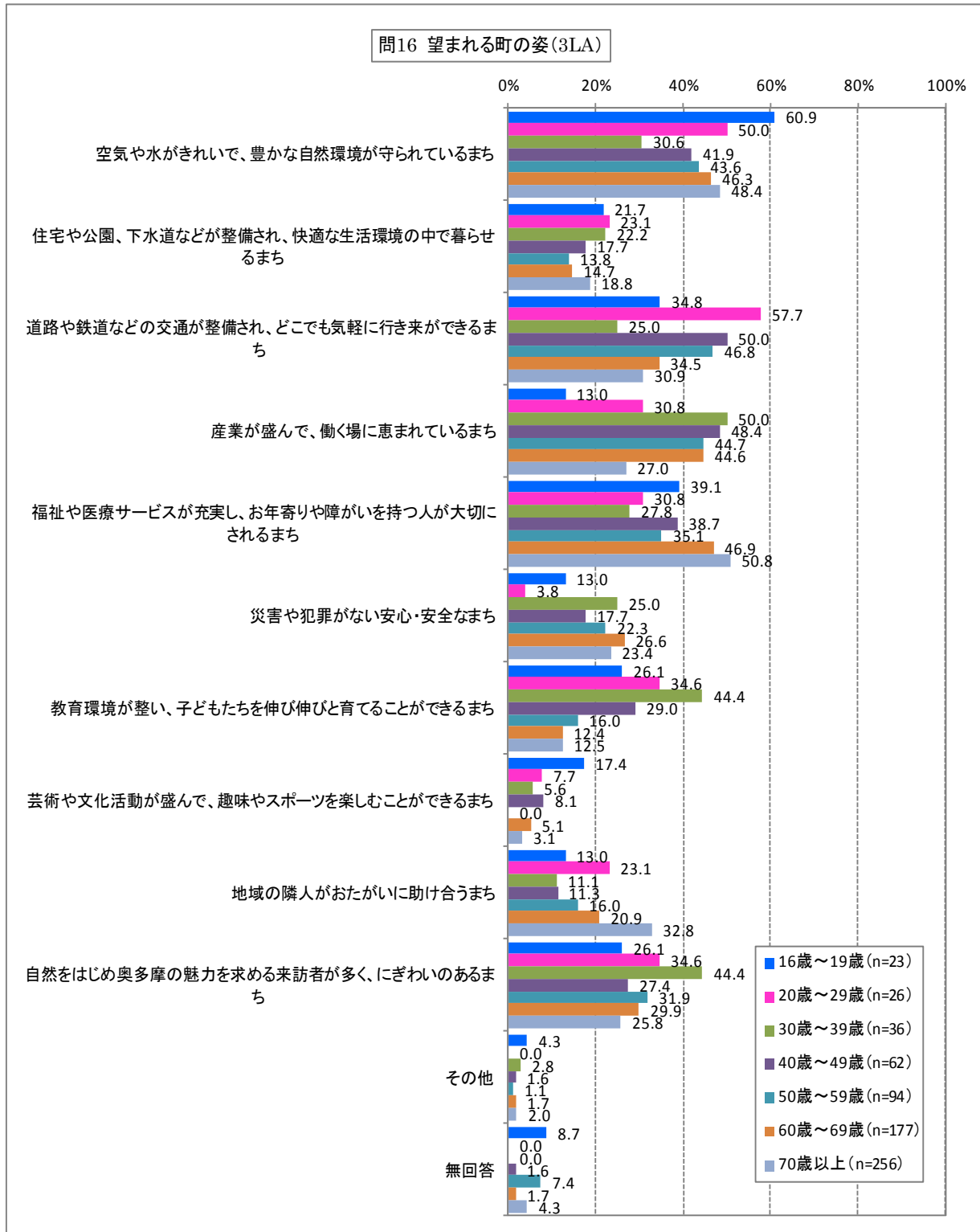


〔属性別結果：年齢別〕

全体の回答割合が最も高い「空気や水がきれいで、豊かな自然環境が守られるまち」を年齢別にみると、「16歳～19歳」及び「20歳～29歳」で回答割合が高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいを持つ人が大切にされるまち」では、「60歳～69歳」及び「70歳以上」で回答割合が高くなっています。

なお、「産業が盛んで、働く場に恵まれているまち」では、「30歳～39歳」や「40歳～49歳」で回答割合が高くなっています。

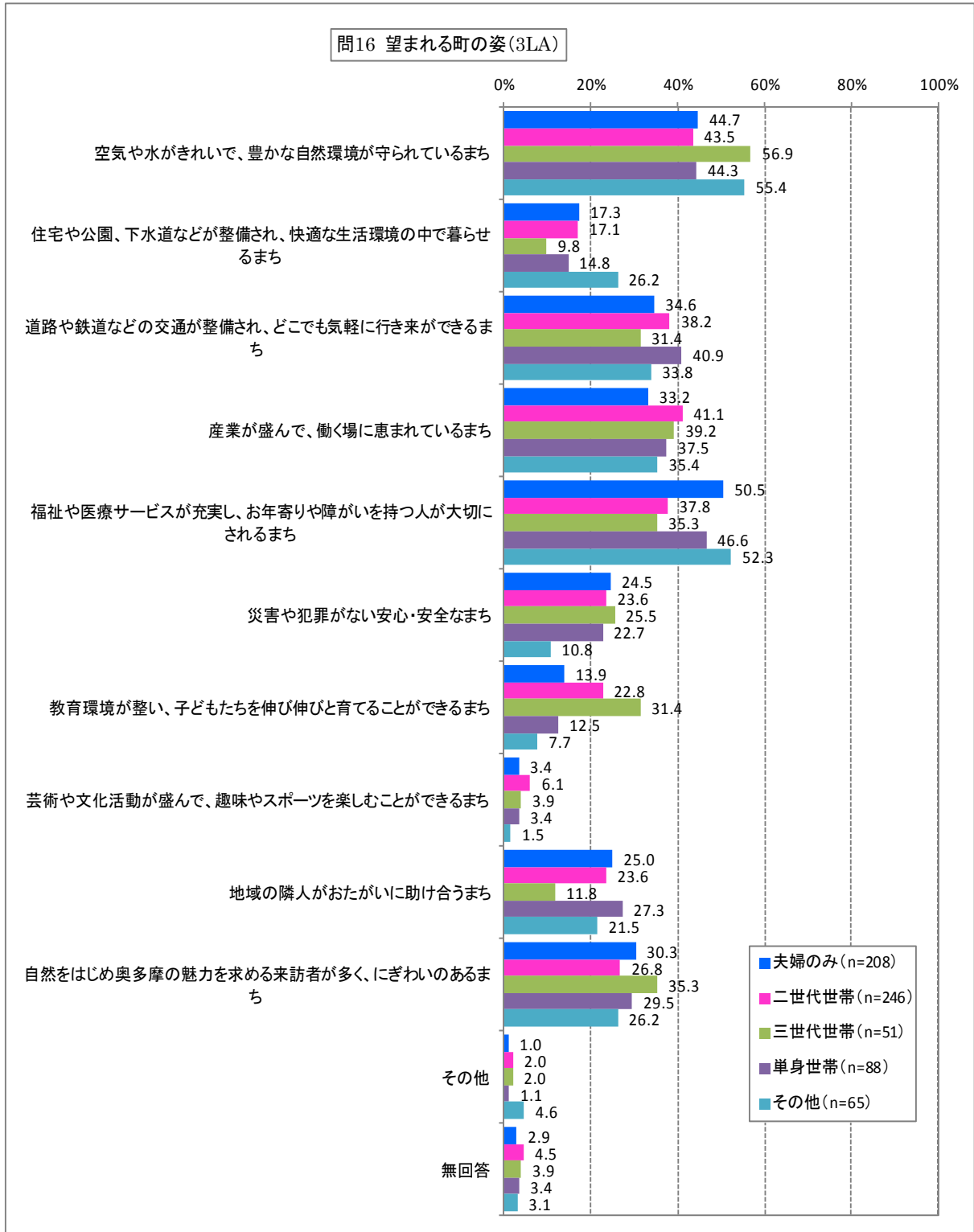


〔属性別結果：家族構成別〕

全体の回答割合が最も高い「空気や水がきれいで、豊かな自然環境が守られるまち」を家族構成別にみると、「三世代世帯」及び「その他」で回答割合が高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいを持つ人が大切にされるまち」では、「夫婦のみ」及び「その他」で回答割合が高くなっています。

なお、「産業が盛んで、働く場に恵まれているまち」では、「二世代世帯」や「三世代世帯」で回答割合が高くなっています。



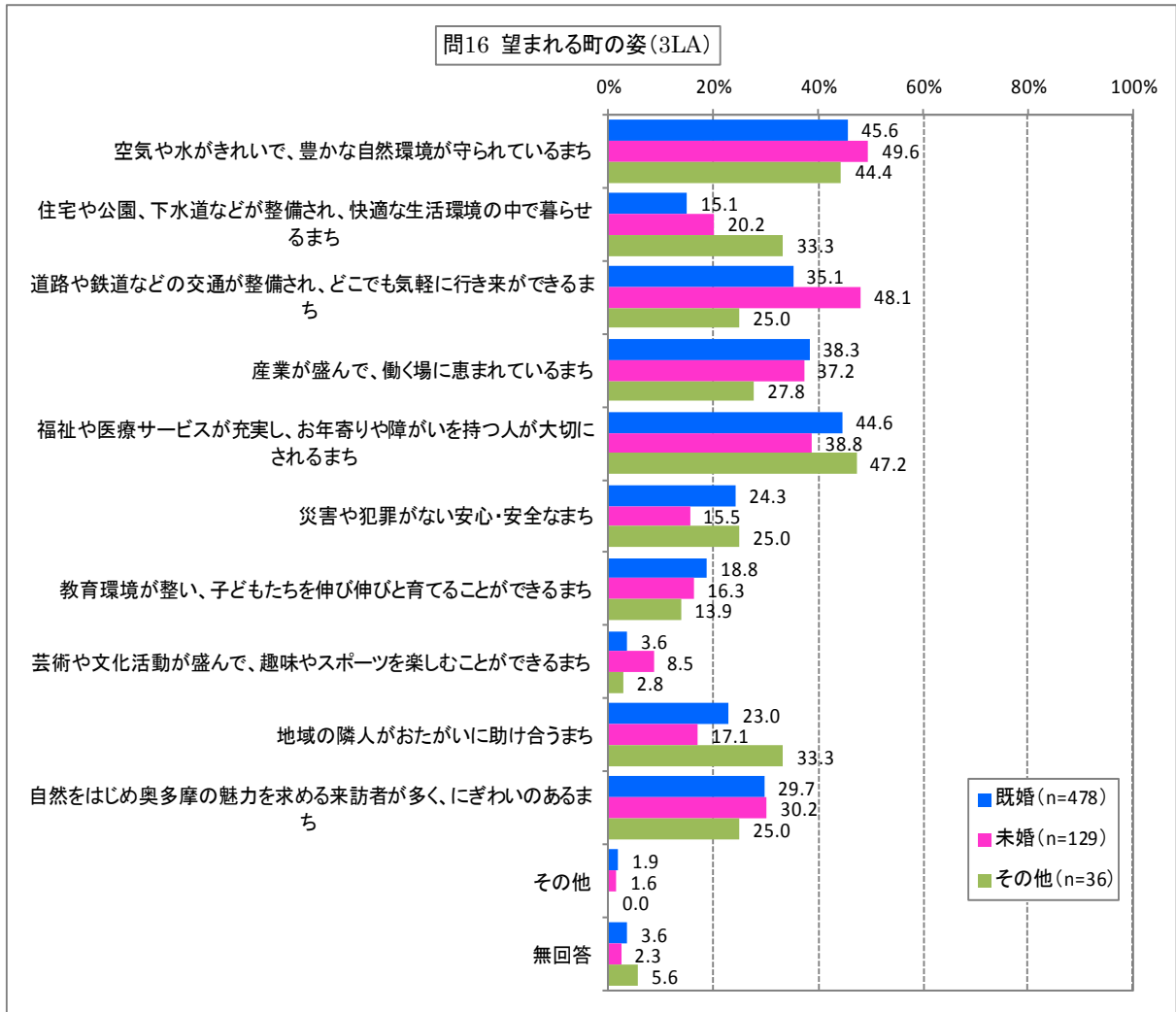
〔属性別結果：婚姻状況別〕

全体の回答割合が最も高い「空気や水がきれいで、豊かな自然環境が守られるまち」を婚姻状況別にみると、「未婚」で回答割合がやや高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいを持つ人が大切にされるまち」では、「その他」及び「既婚」で回答割合が高くなっています。

なお、「産業が盛んで、働く場に恵まれているまち」では、「既婚」、「未婚」とも回答割合が高くなっています。

さらに、「道路や鉄道などの交通が整備され、どこでも気軽に行き来ができるまち」では、「未婚」で回答割合が高くなっています。



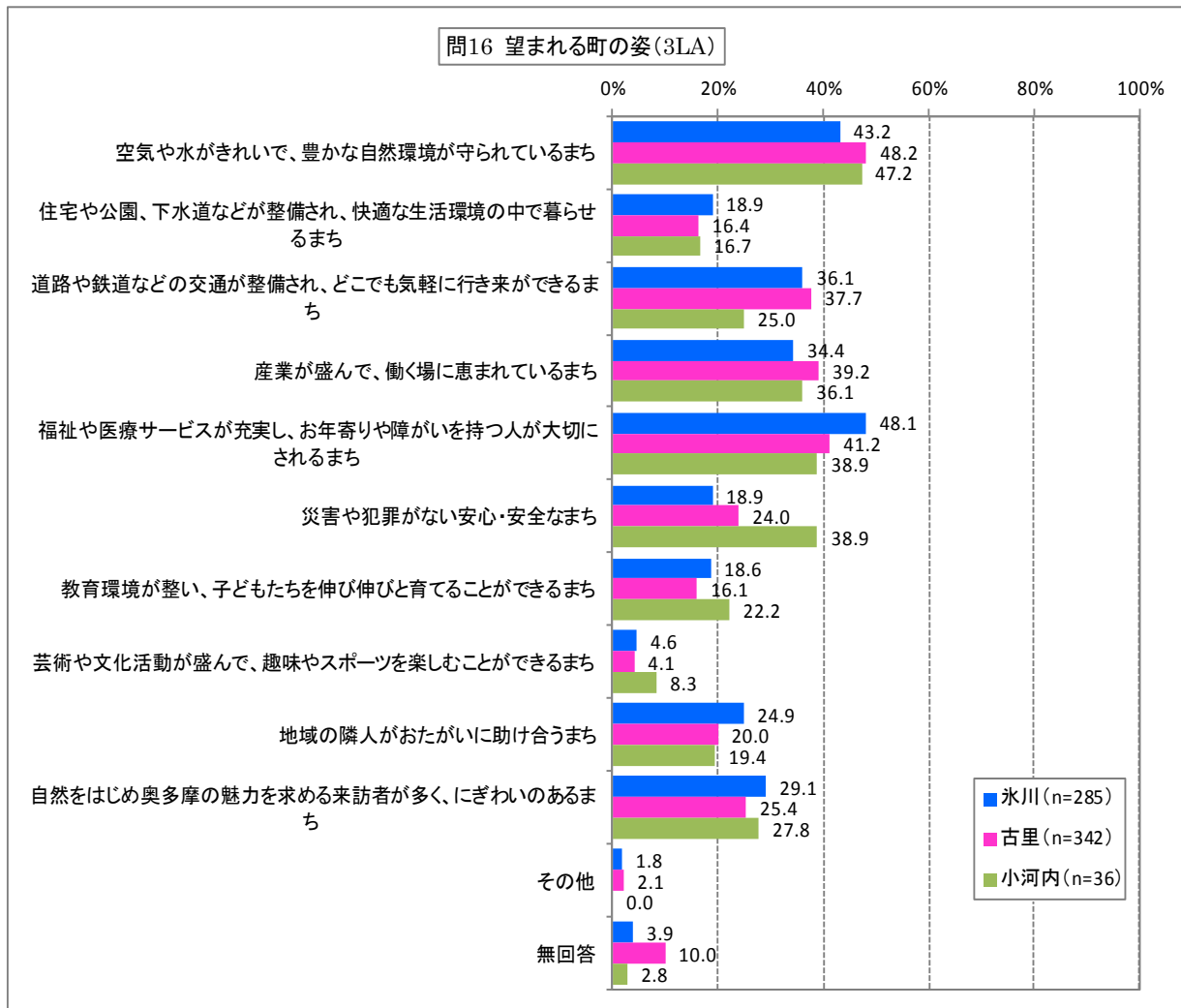
〔属性別結果：居住地区別〕

全体の回答割合が最も高い「空気や水がきれいで、豊かな自然環境が守られるまち」を居住地区別にみると、3地区とも回答割合が高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいを持つ人が大切にされるまち」では、「氷川」が他地区に比べ回答割合が高くなっています。

なお、「産業が盛んで、働く場に恵まれているまち」は、3地区とも回答割合が同じになっています。

さらに、「道路や鉄道などの交通が整備され、どこでも気軽に行き来ができるまち」では、「小河内」に比べ「氷川」及び「古里」で回答割合が高くなっています。「災害や犯罪がない安心・安全なまち」は、「小河内」での回答割合が高くなっています。



問 17 住民と行政との役割分担

各種の活動についての住民と行政との役割分担については、14 の活動のうち「主に行政（町）が行う」が最も多かった活動が 3 つ、「行政が主体で、住民は行政活動に協力する」が 5 つ、「住民と行政が協働して行う」が 6 つとなり、多くの活動は「住民が行政に活動に協力する」かあるいは「住民と行政が協働して行う」ことが望まれている結果となっています。

「主に行政（町）が行う」が最も多かったのは、
 「カ 保健・医療や福祉の増進を図る活動」
 「サ 学校教育の充実を図る活動」
 「シ 国内外との協力・交流を推進する活動」

です。

また、「行政が主体で、住民は行政活動に協力する」が最も多かったのは、
 「ウ 環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動」
 「エ 防災や災害救援の活動」
 「オ 交通安全や防犯等の地域の安全を図る活動」
 「キ 高齢者等の介護を支援する活動」
 「ス 町の総合計画等各種計画の策定に参加する活動」

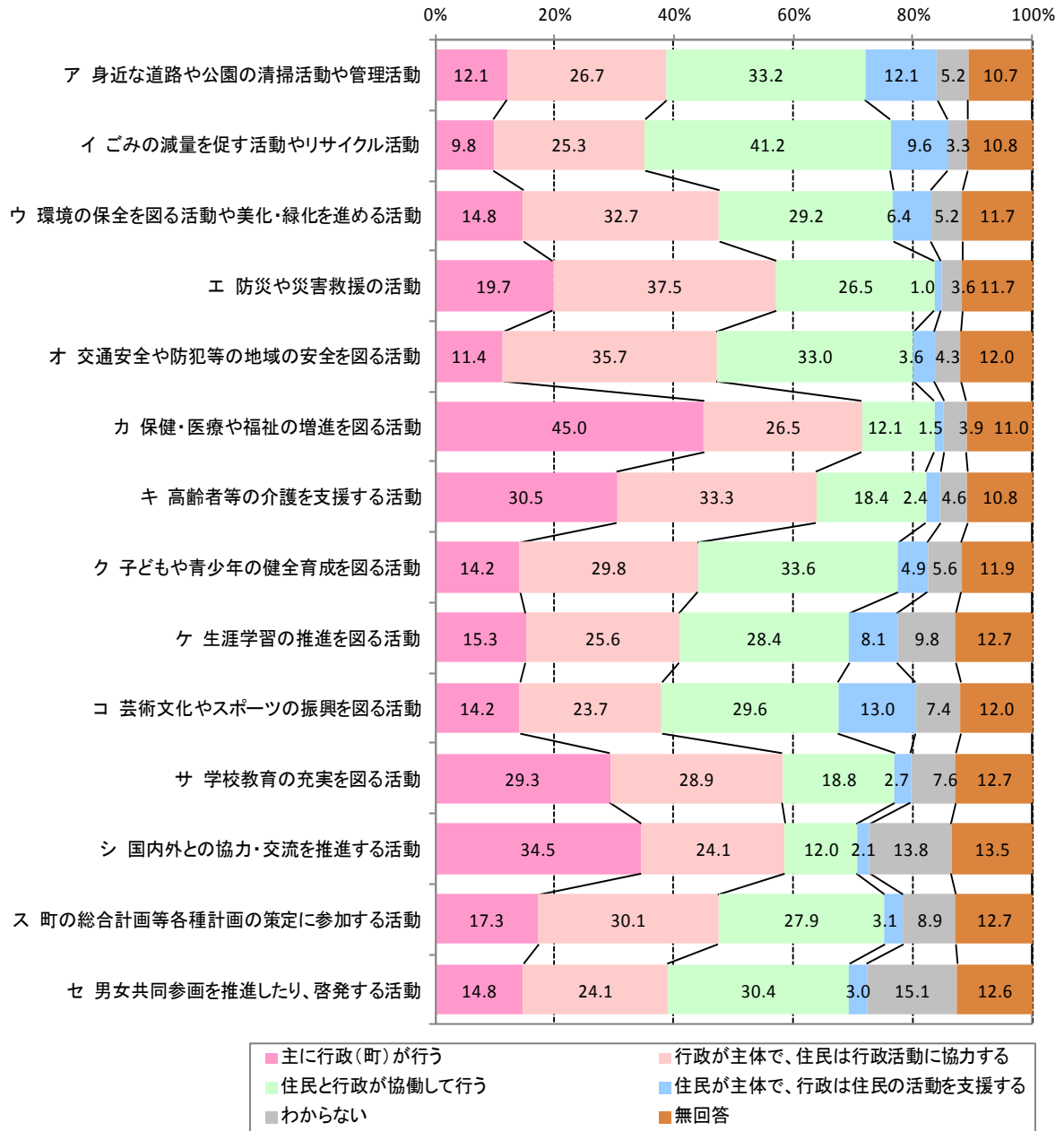
です。

「住民と行政が協働して行う」が最も多かったのは、
 「ア 身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」
 「イ ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」
 「ク 子どもや青少年の健全育成を図る活動」
 「ケ 生涯学習の推進を図る活動」
 「コ 芸術文化やスポーツの振興を図る活動」
 「セ 男女共同参画を推進したり、啓発する活動」

となっています。

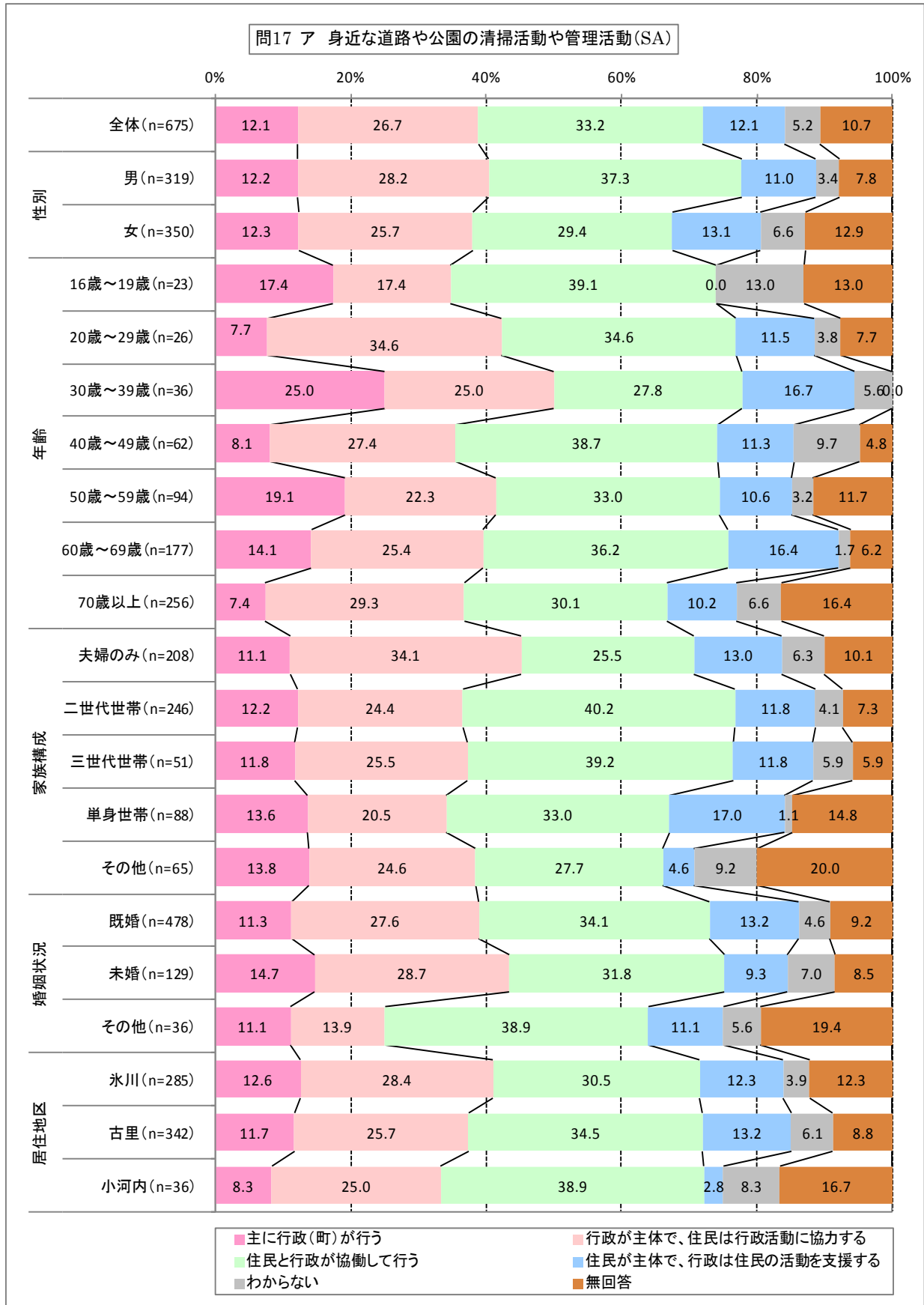
なお、この結果は平成 23 年度調査とほぼ同じ結果となっています。

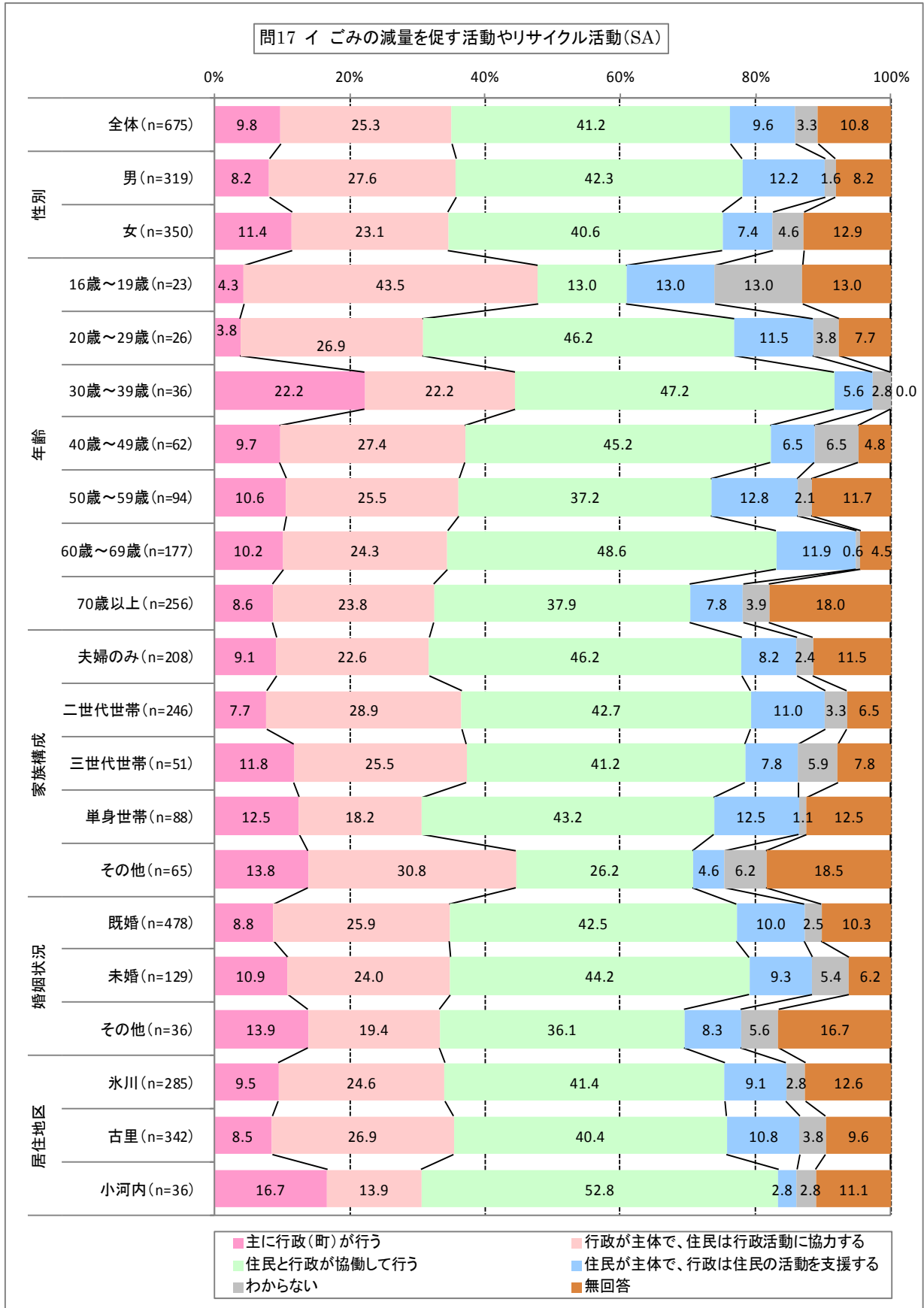
問17 住民と行政との役割分担(SA) n=675

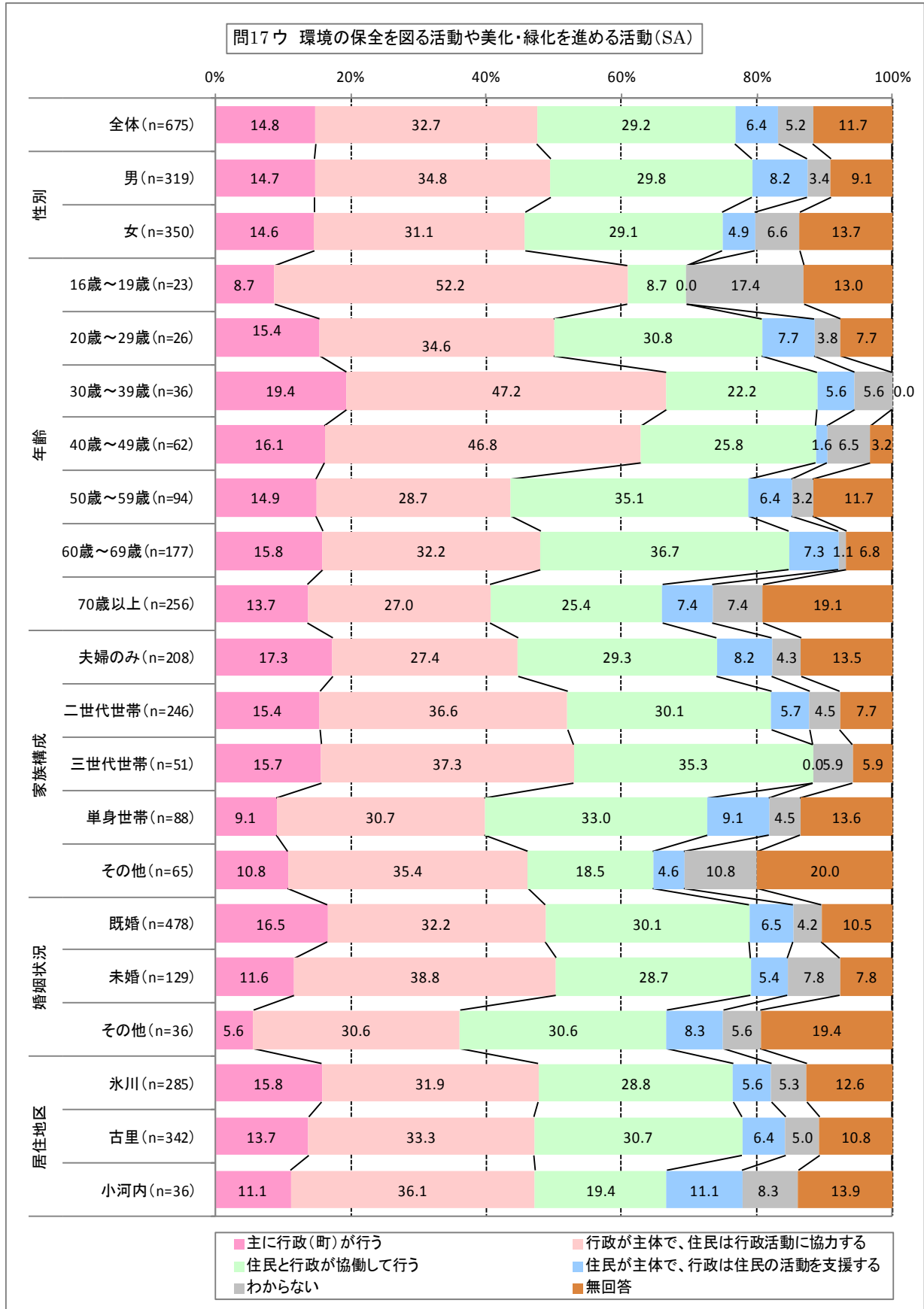


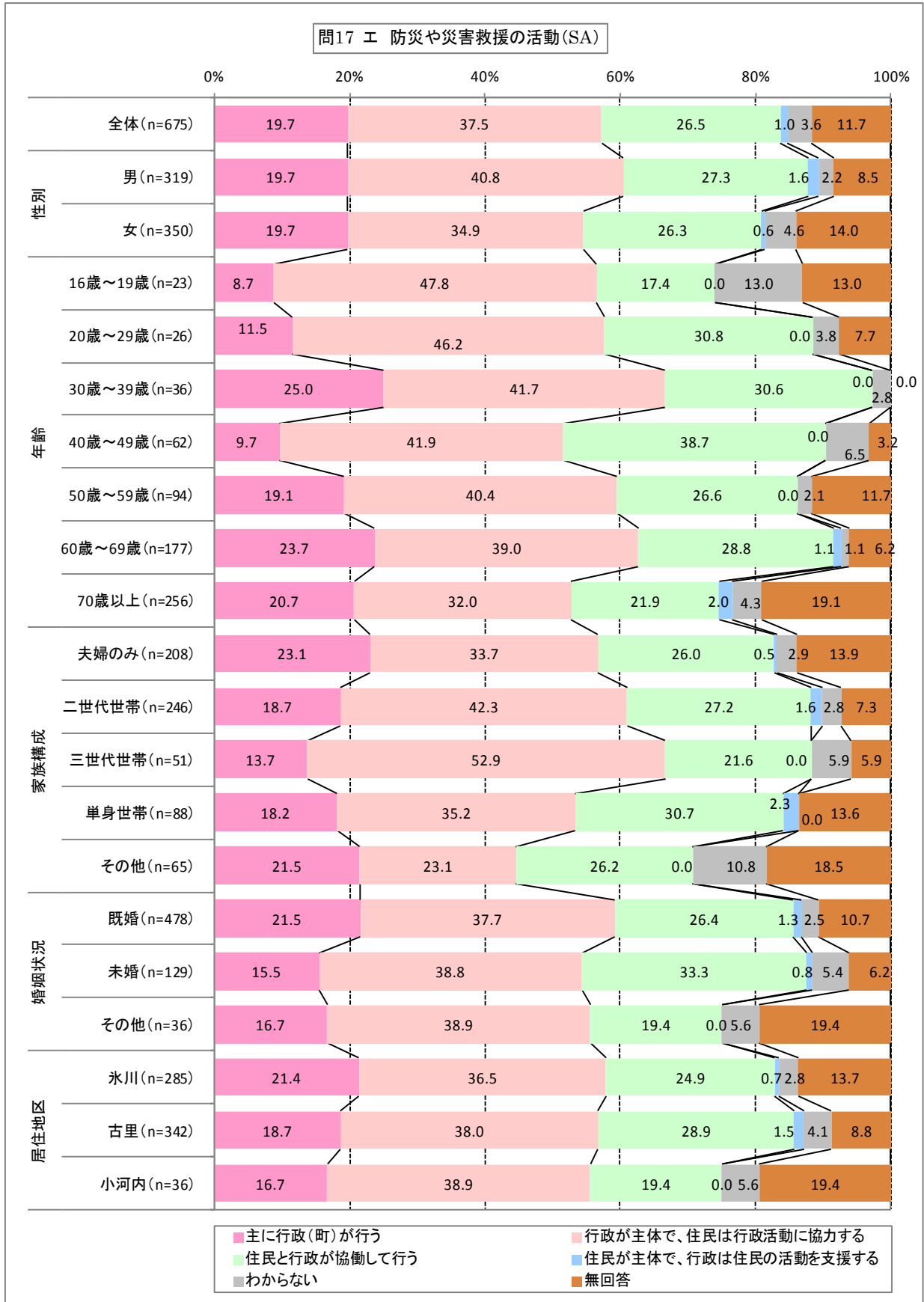
〔活動項目別属性別 結果一覧〕

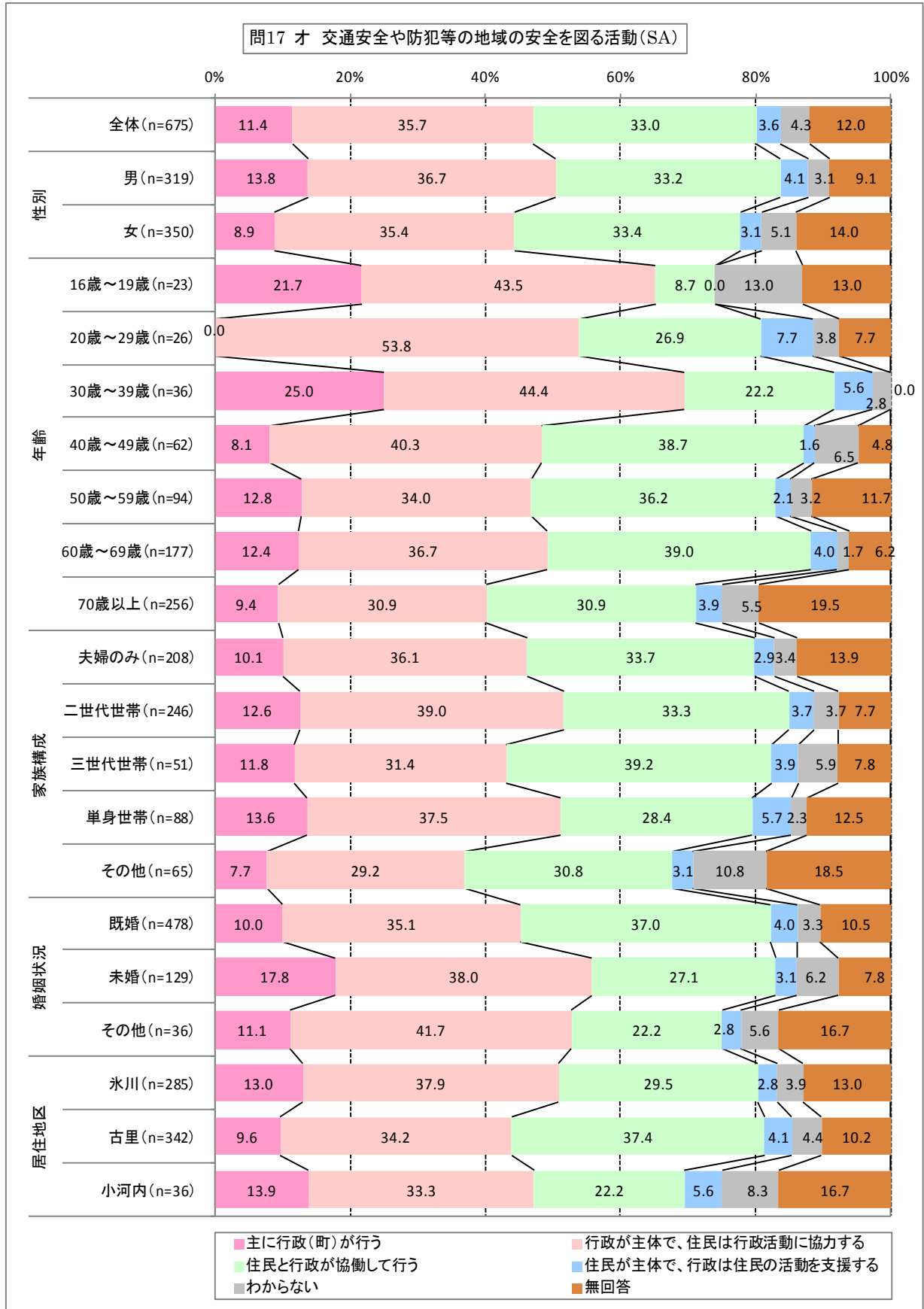
アからセまでの14の活動について、それぞれの属性別の回答結果は以下のとおりです。

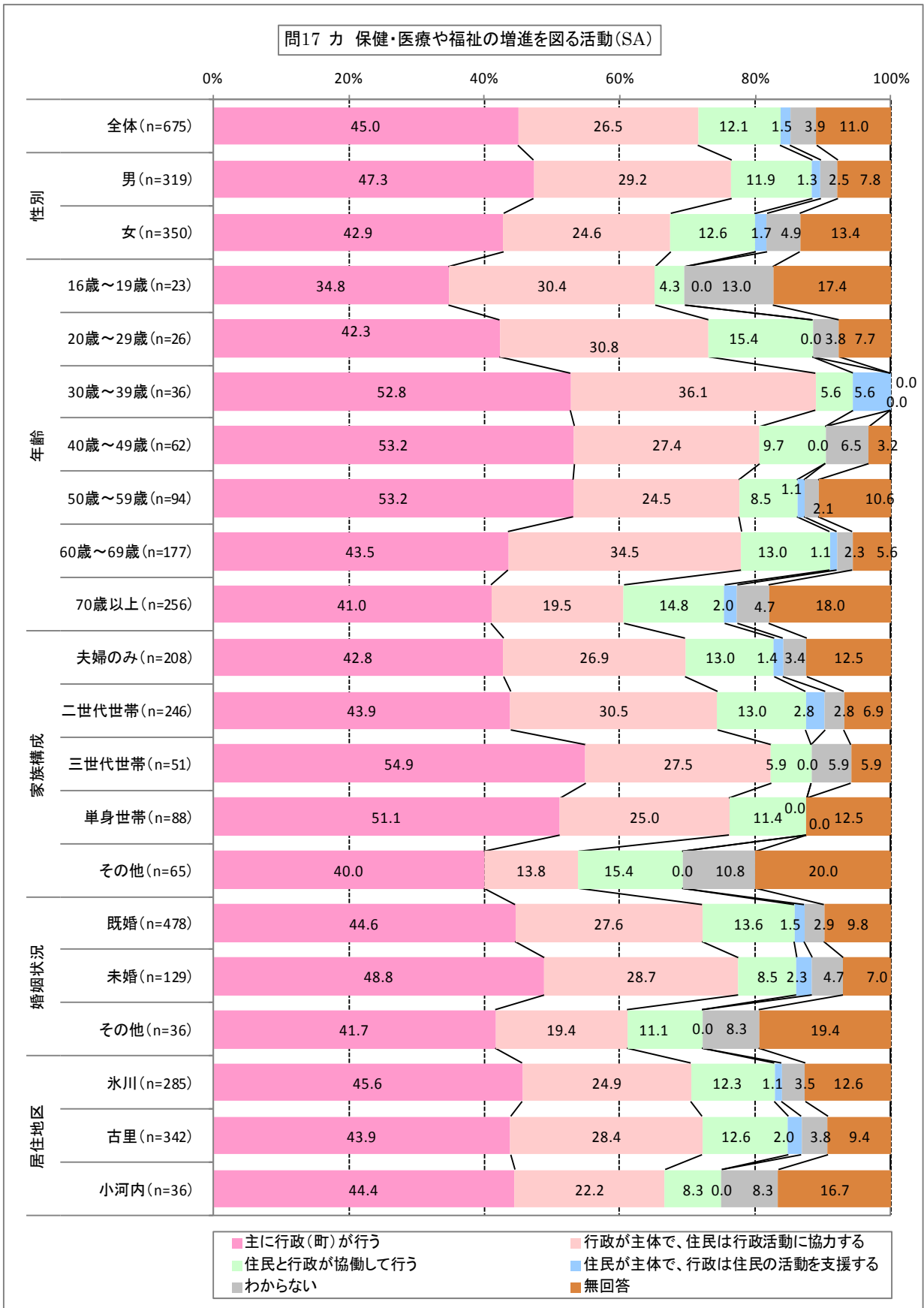


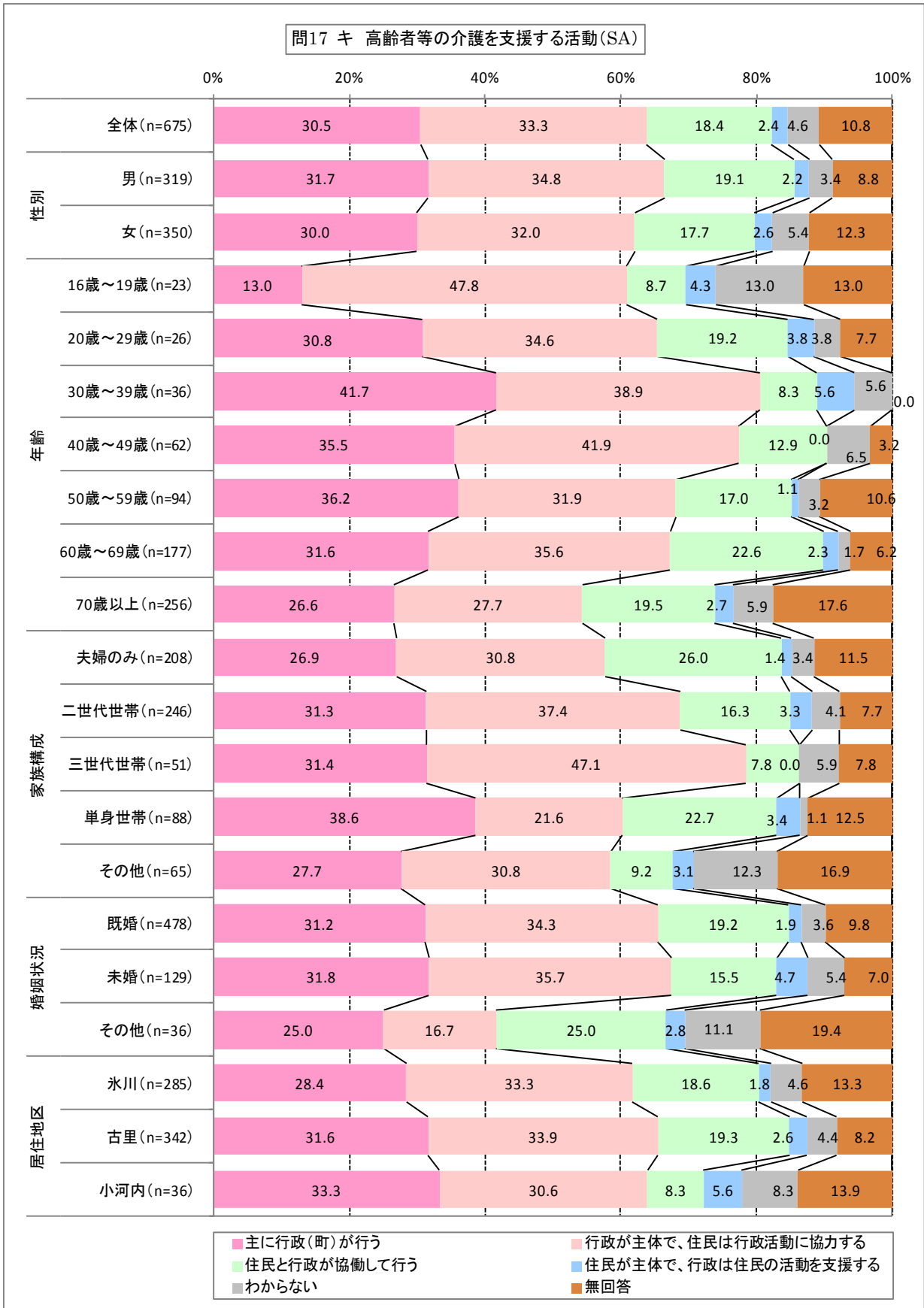


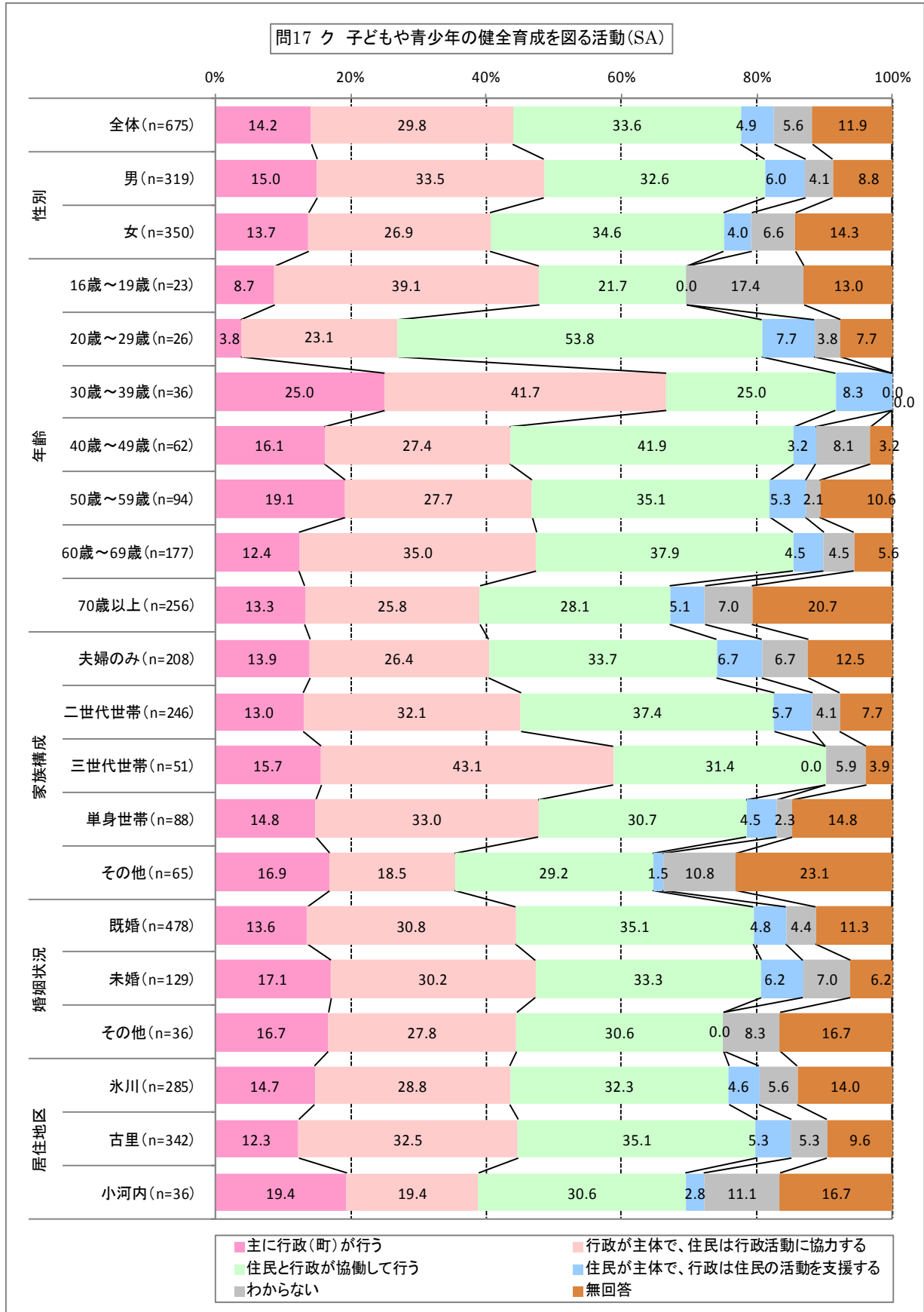


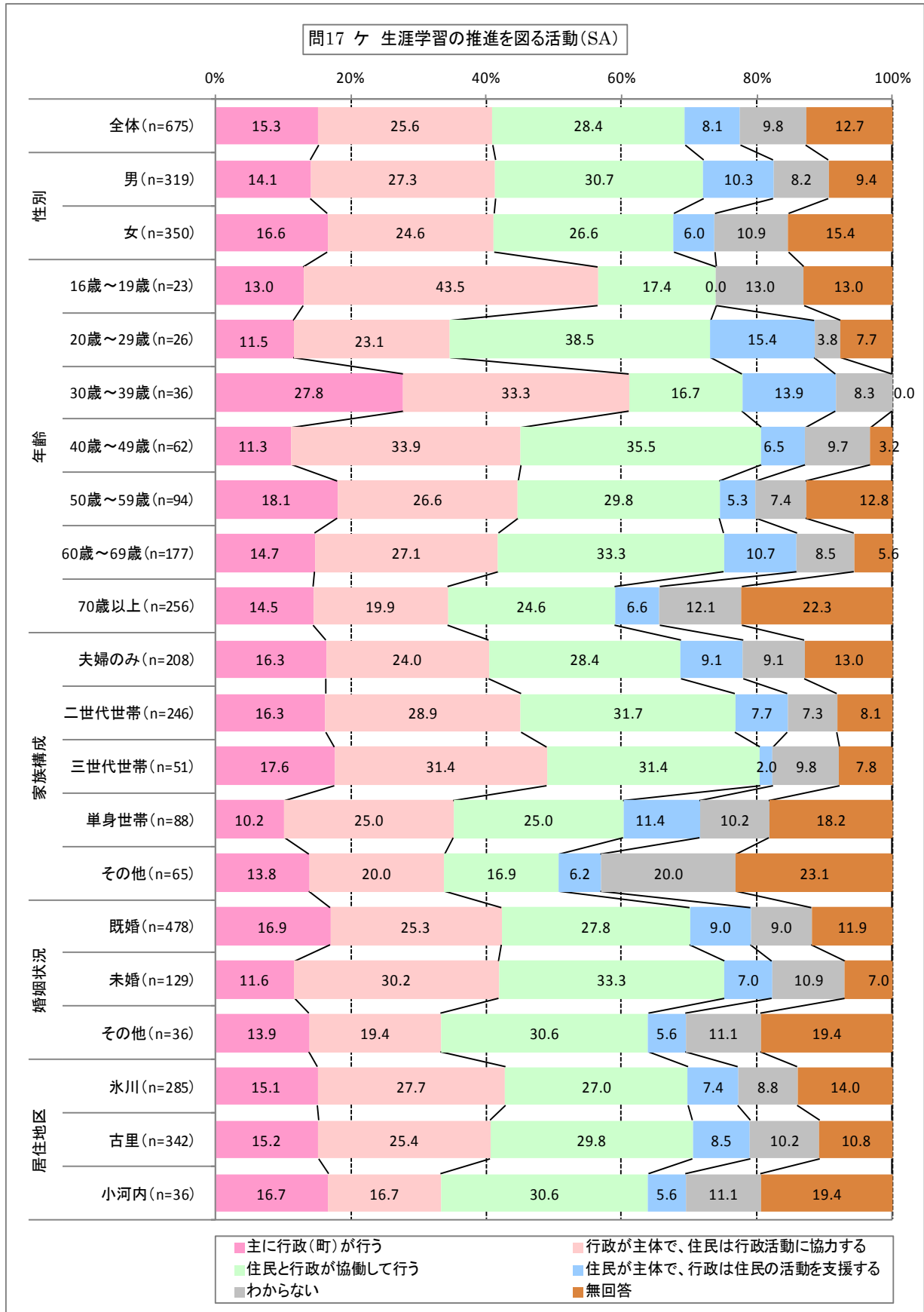


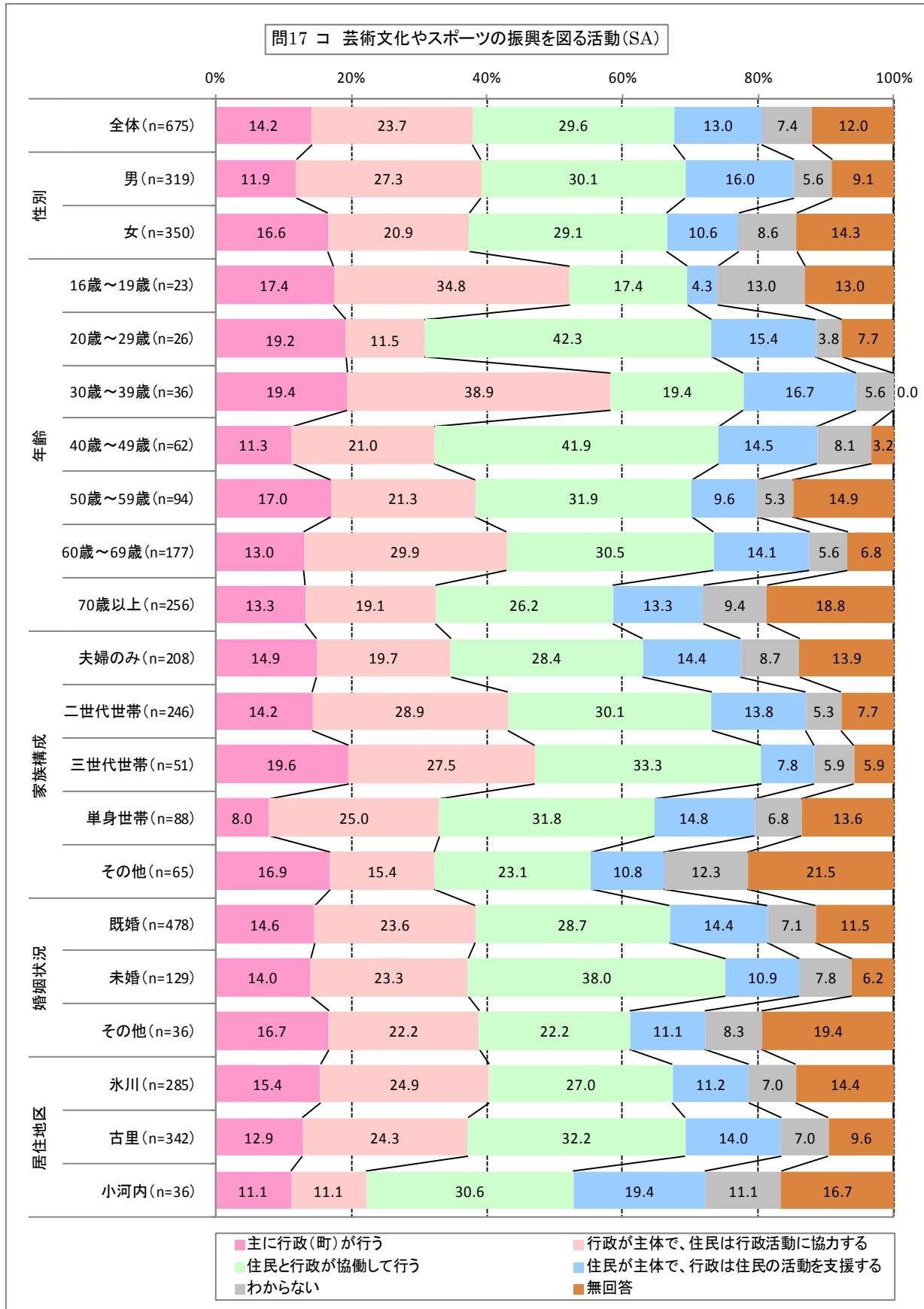


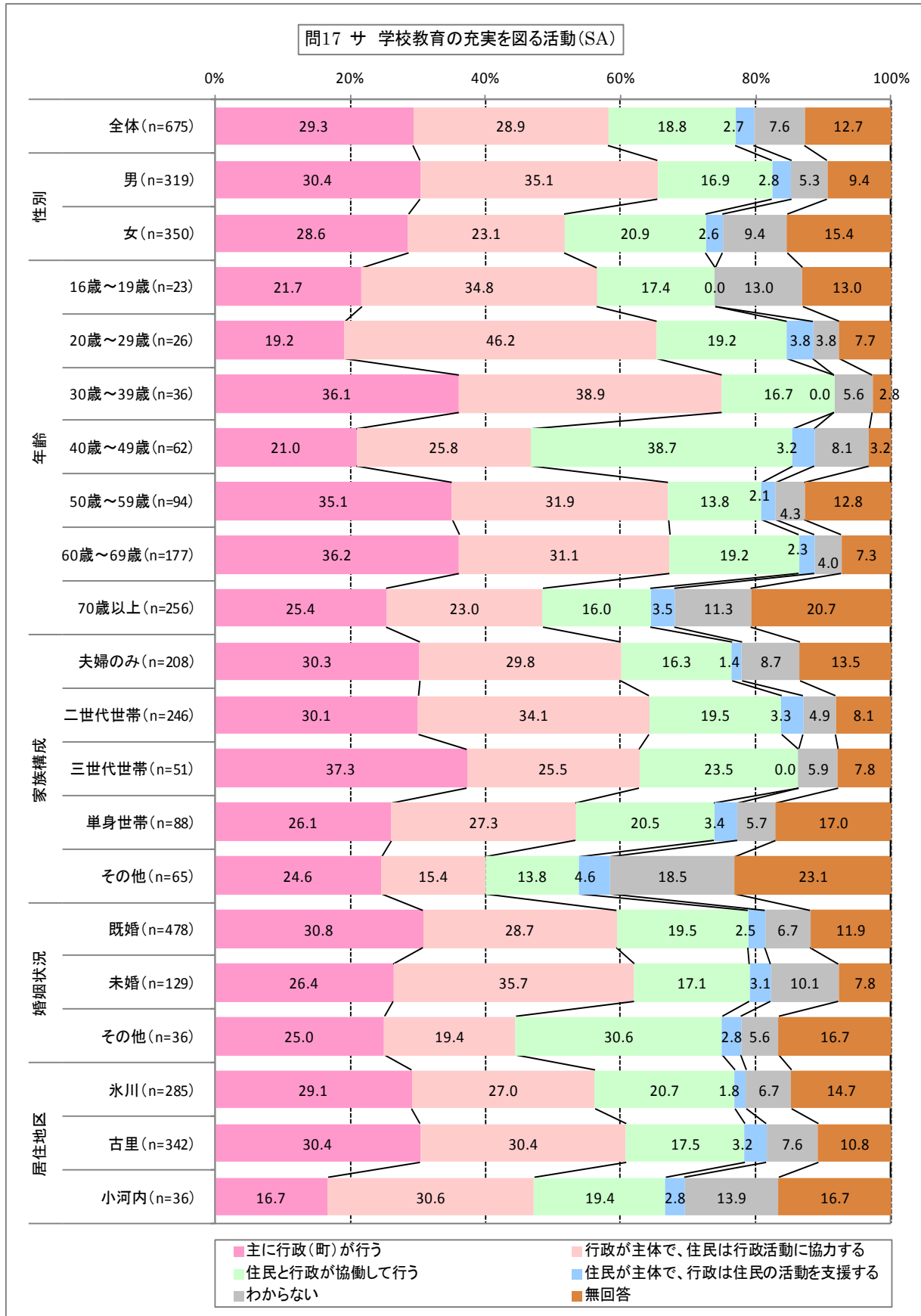


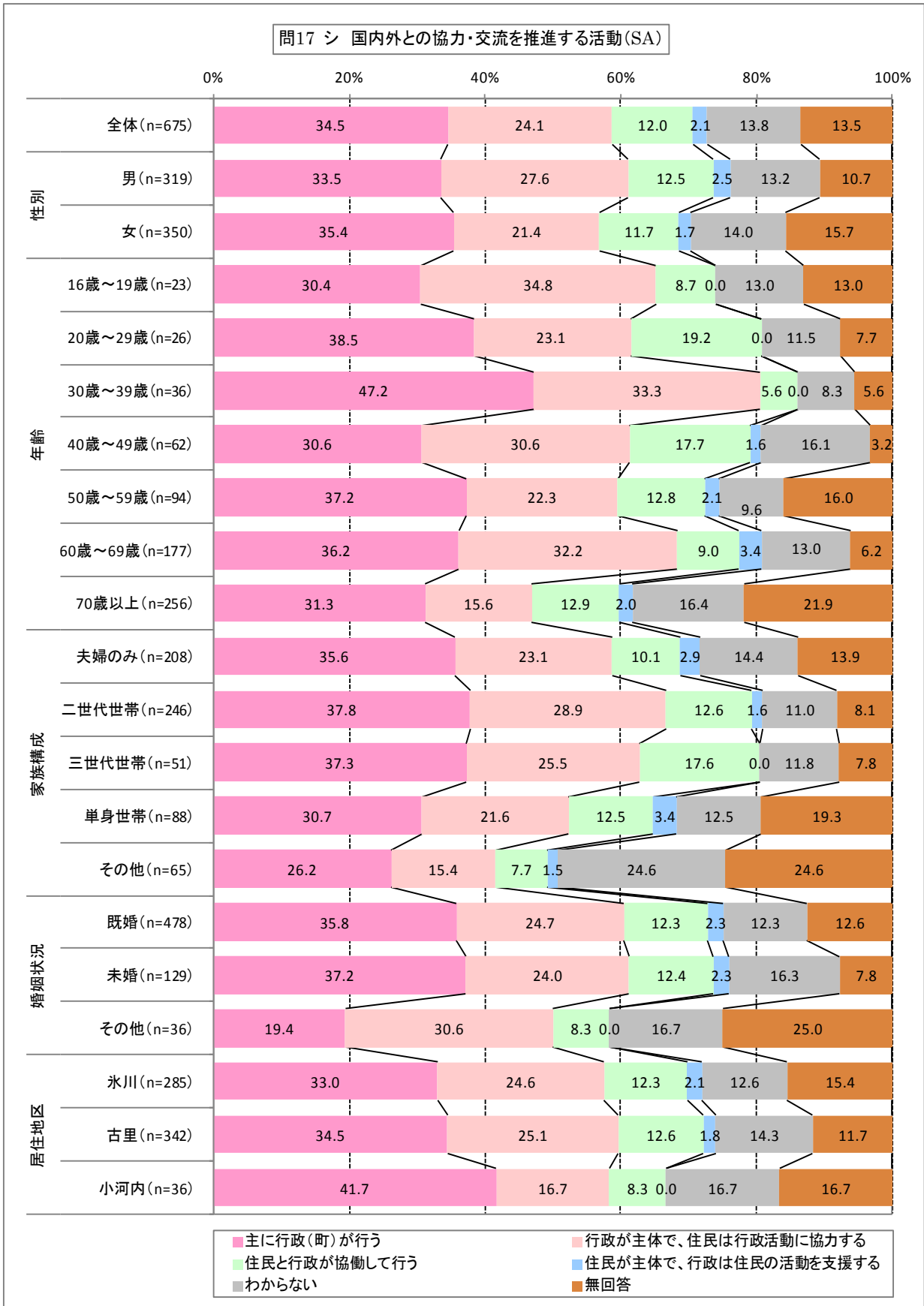


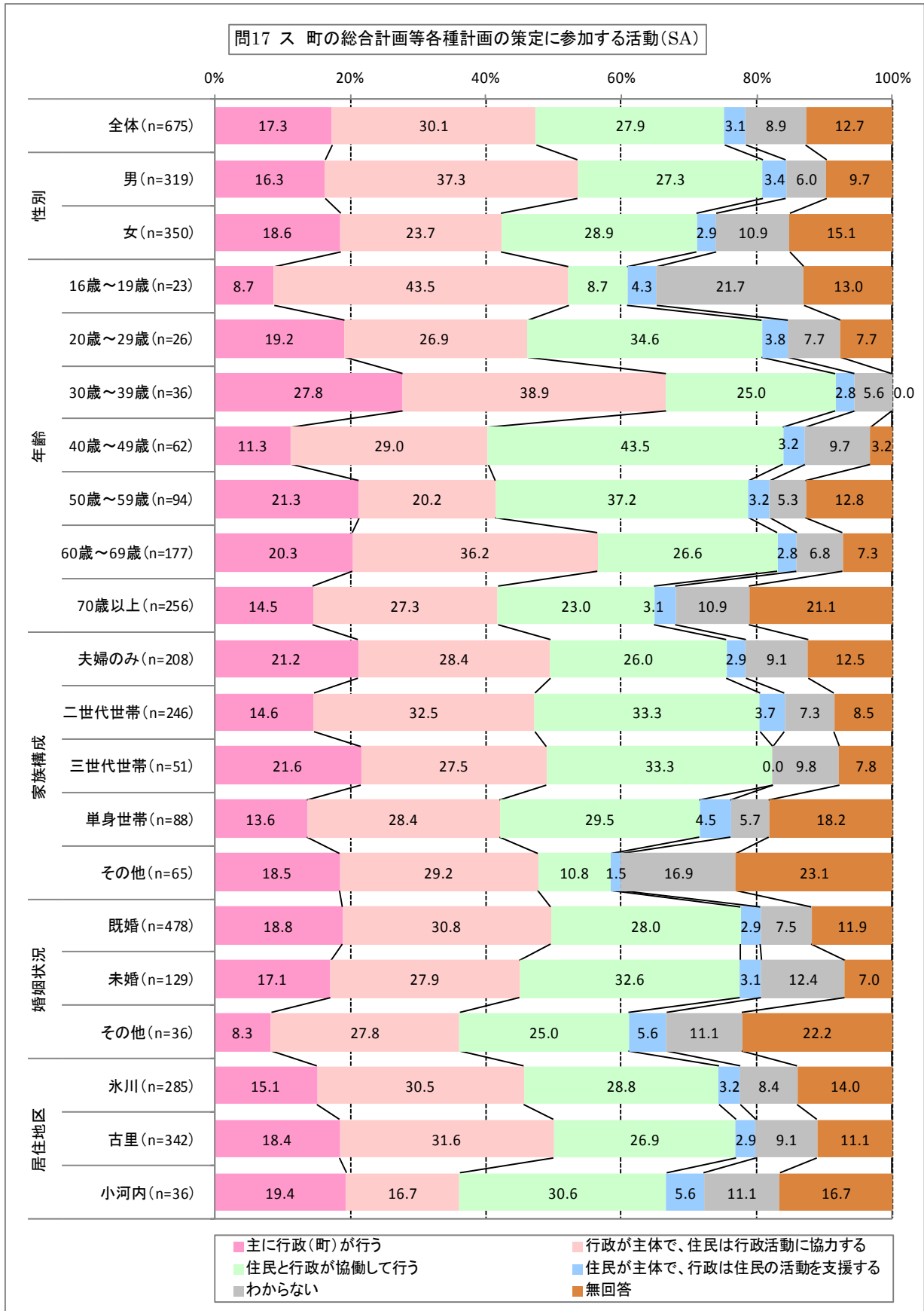


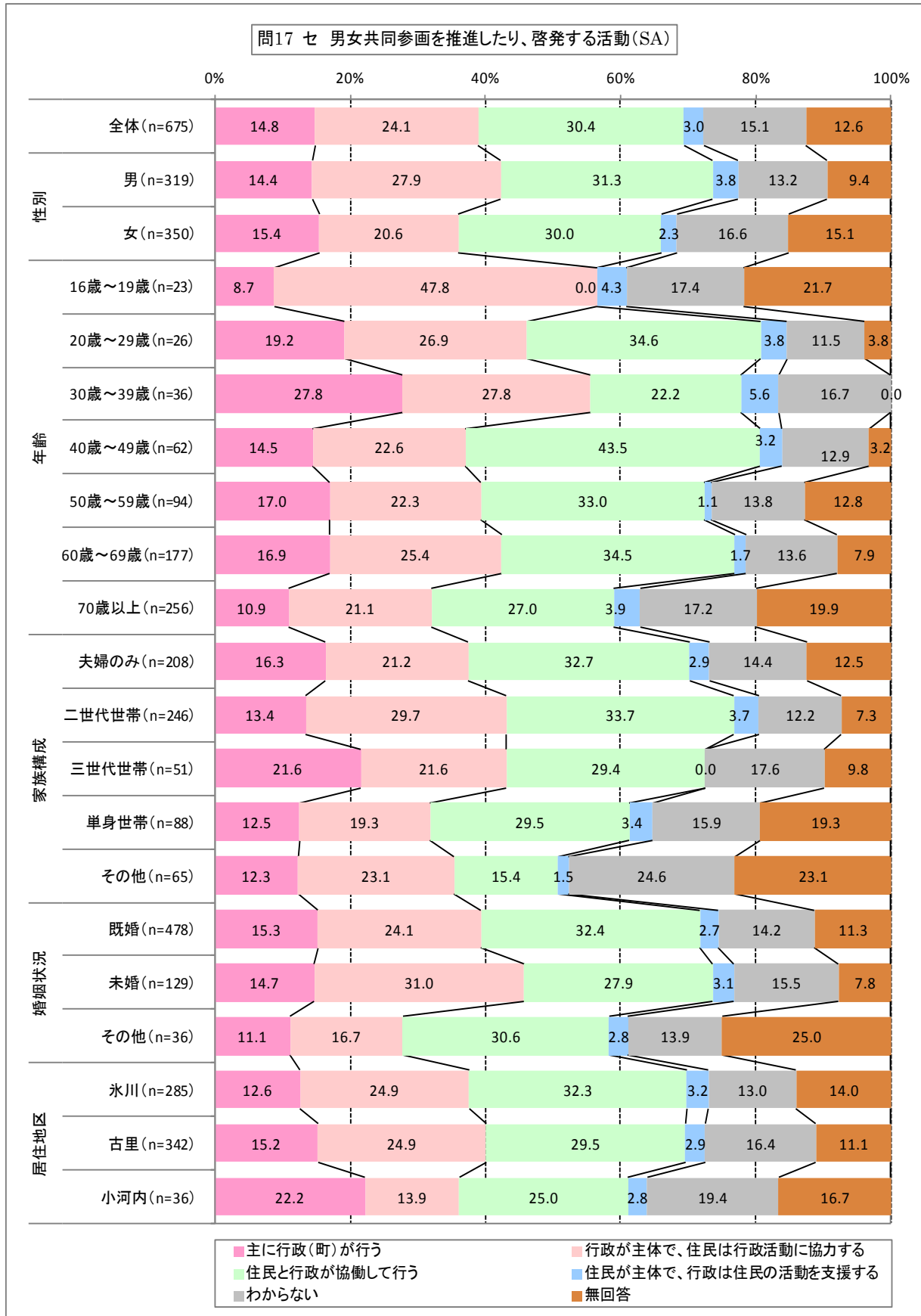






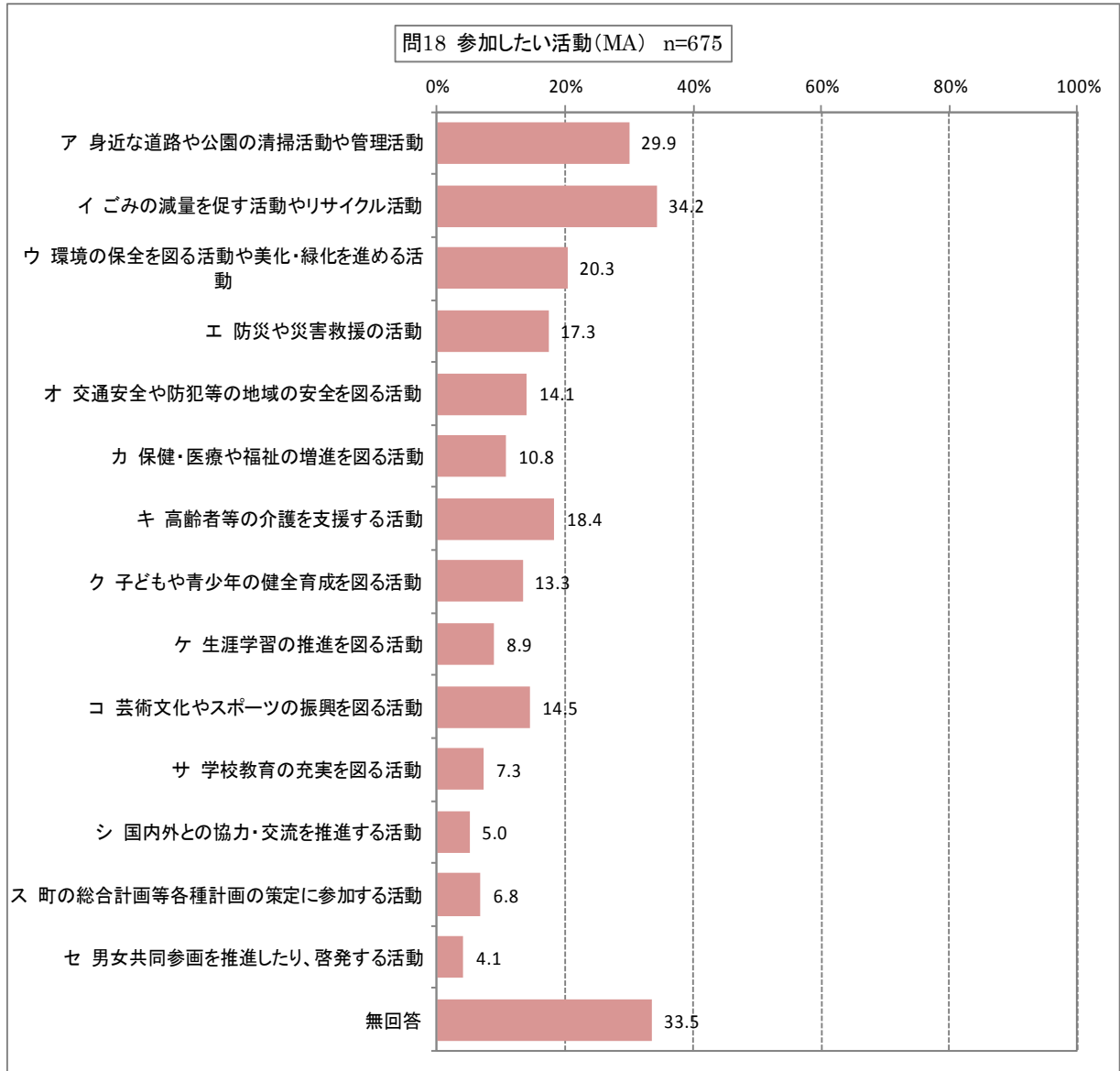






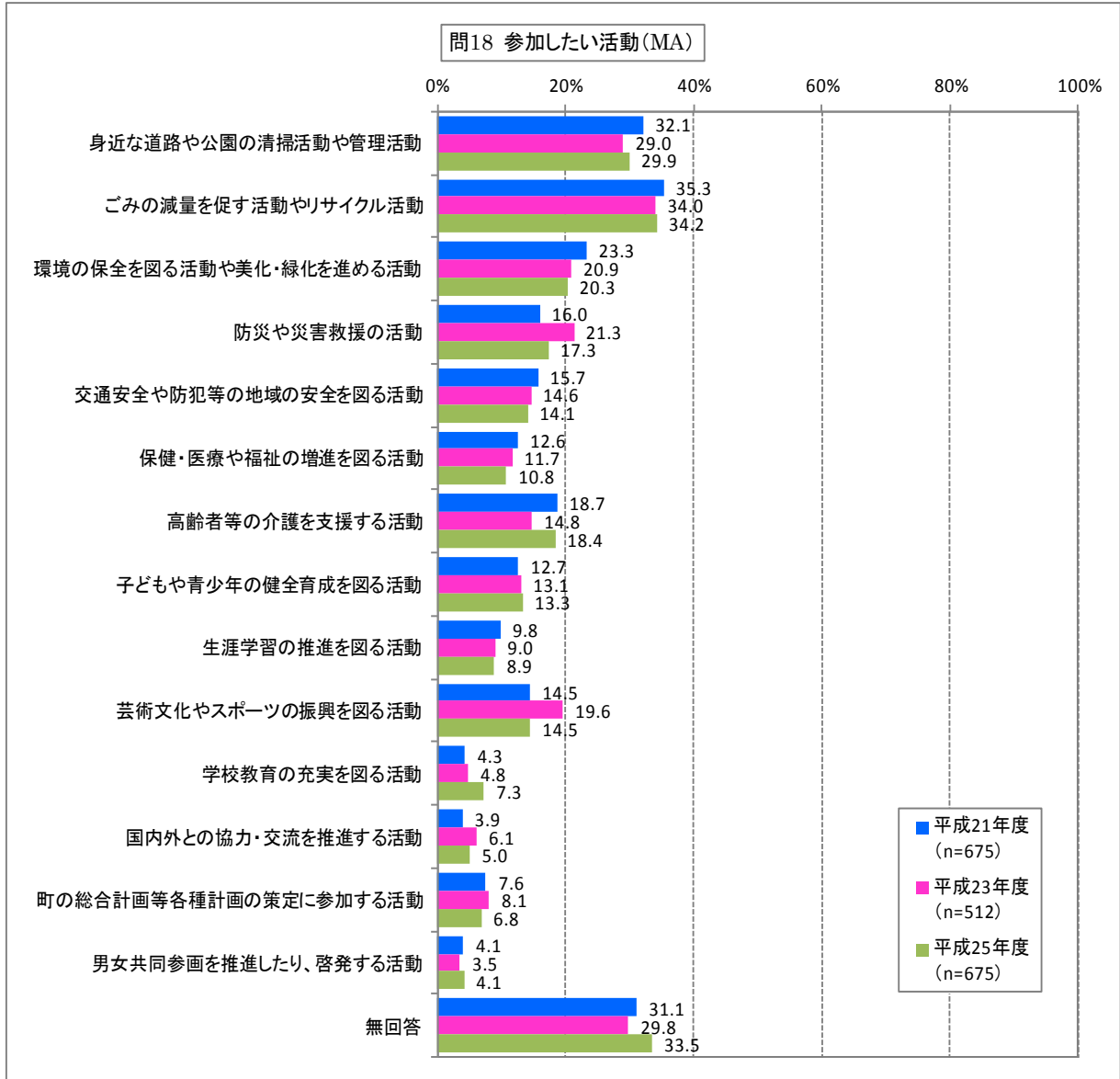
問 18 参加したい活動

前問（問 17）の活動のうち、積極的に参加したい活動については、「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」が最も高く 34.2%となっており、次いで「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」が 29.9%、「環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動」が 20.3%、「高齢者等の介護を支援する活動」が 18.4%、「防災や災害救援の活動」が 17.3%と続いています。



〔過去調査結果との比較〕

今回の調査を含め、過去 3 回実施した調査結果を比較すると、平成 23 年度に増加した「防災や災害救援の活動」及び「芸術文化やスポーツの振興を図る活動」は平成 25 年度には減少し、平成 21 年度の水準になっています。また、平成 23 年度に減少した「高齢者等の介護を支援する活動」は平成 25 年度には増加する結果となっており、回答者の意識の変化が認められます。

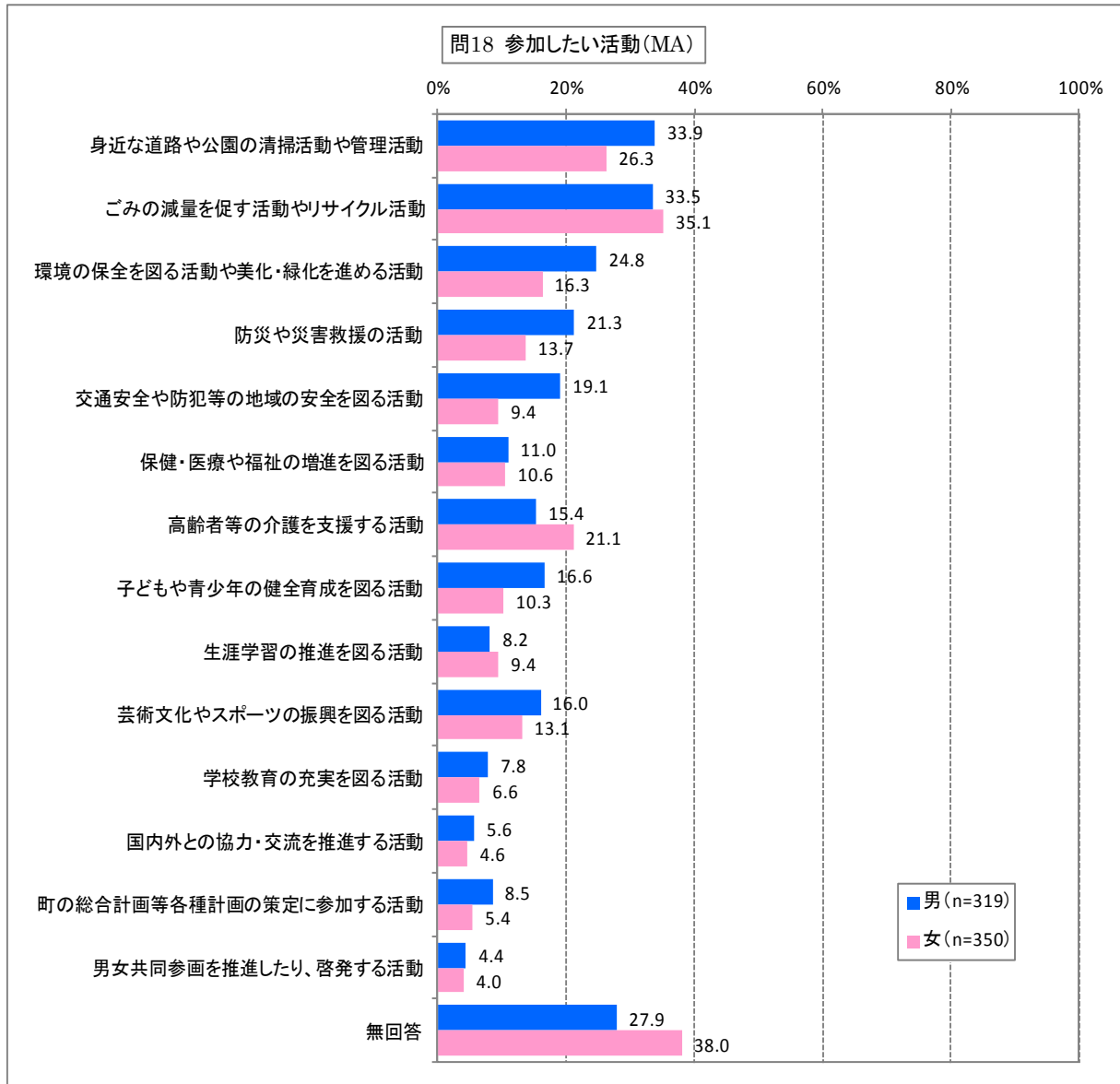


〔属性別結果：性別〕

積極的に参加したい活動について、全体の回答割合が最も高い「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」を性別でみると、「男性」よりも「女性」の回答割合が多少高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」では、「女性」よりも「男性」の回答割合が高い結果となっています。

なお、多くの項目で「女性」より「男性」の回答割合が高い傾向を示していますが、「高齢者等の介護を支援する活動」及び「生涯学習の推進を図る活動」については「女性」の回答割合が高くなっています。

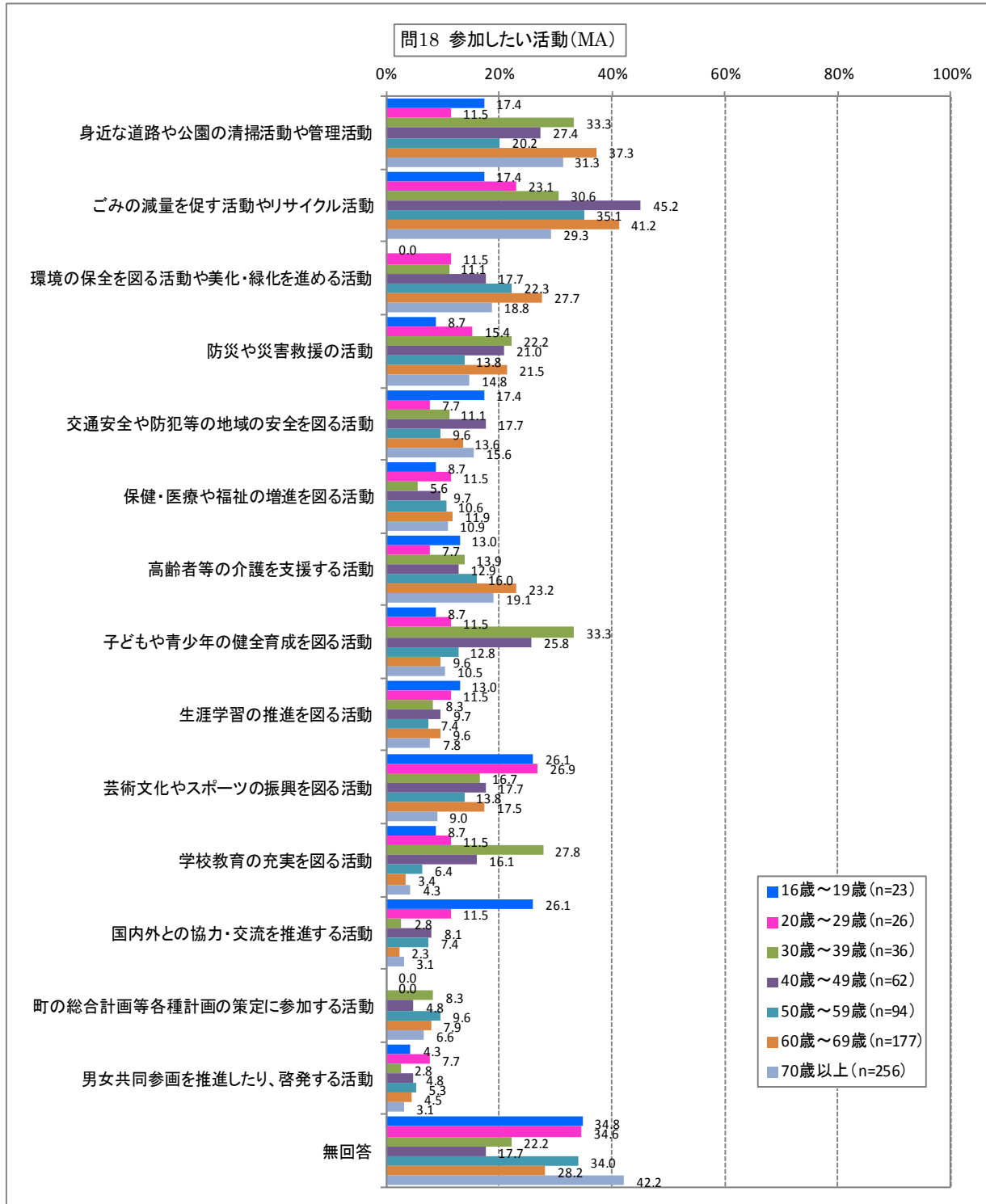


〔属性別結果：年齢別〕

積極的に参加したい活動について、全体の回答割合が最も高い「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」を年齢別でみると、「40歳～49歳」の回答割合が最も高くなっています。

また、次いで全体の回答割合が高い「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」では、「60歳～69歳」の回答割合が最も高くなっており、「環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動」でも、「60歳～69歳」の回答割合が高い結果となっています。

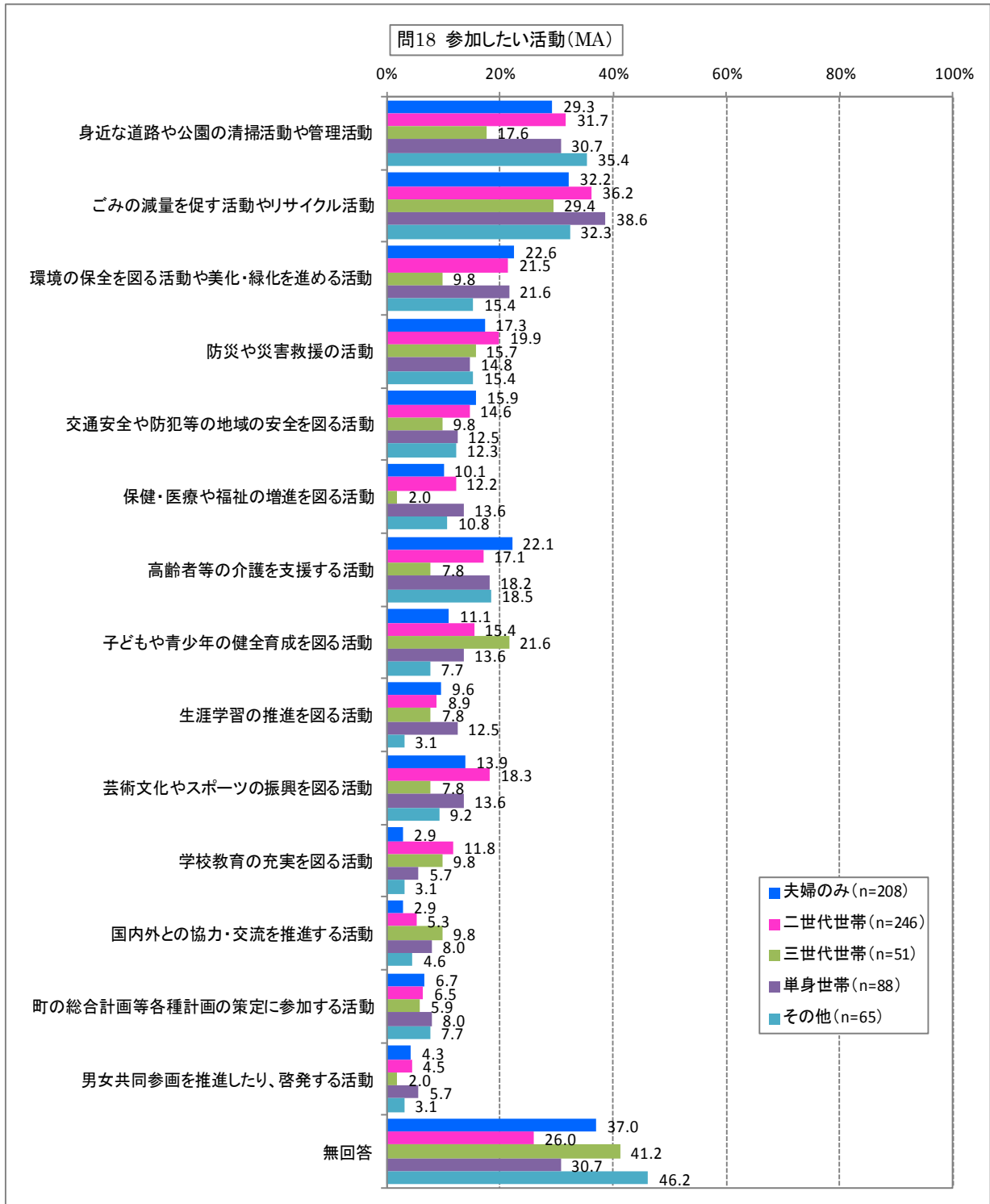
一方、「子どもや青少年の健全育成を図る活動」や「学校教育の充実を図る活動」は「30歳～39歳」、「芸術文化やスポーツの振興を図る活動」や「国内外との協力・交流を推進する活動」は「16歳～19歳」及び「20歳～29歳」の若い世代が高い回答割合になっています。



〔属性別結果：家族構成別〕

積極的に参加したい活動について、全体の回答割合が最も高い「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」を家族構成別でみると、「単身世帯」が最も高く、次いで「二世帯世帯」となっています。

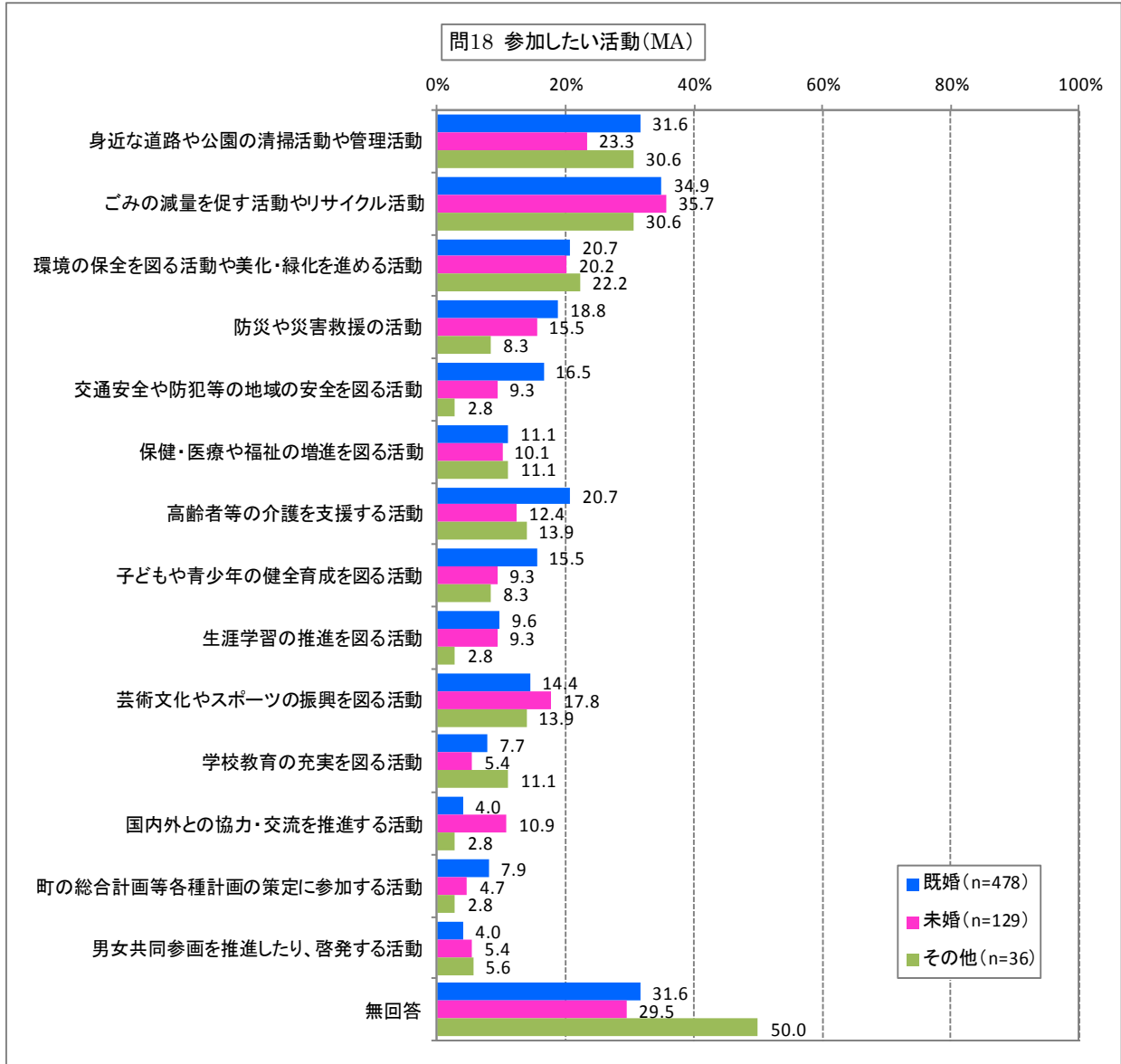
また、「夫婦のみ世帯」は「高齢者等の介護を支援する活動」の割合も高くなっています。「三世帯世帯」は「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」、「保健・医療や福祉の増進を図る活動」、「高齢者等の介護を支援する活動」割合が相対的に低く、「子どもや青少年の健全育成を図る活動」割合が高い結果となっています。



〔属性別結果：婚姻状況別〕

積極的に参加したい活動について、全体の回答割合が最も高い「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」を婚姻状況別でみると、「既婚」の回答割合が高くなっています。

多くの項目が「未婚」より「既婚」の回答割合が高くなっています。しかし、「芸術文化やスポーツの振興を図る活動」及び「国内外との協力・交流を推進する活動」は「未婚」での回答割合が高い結果となっています。

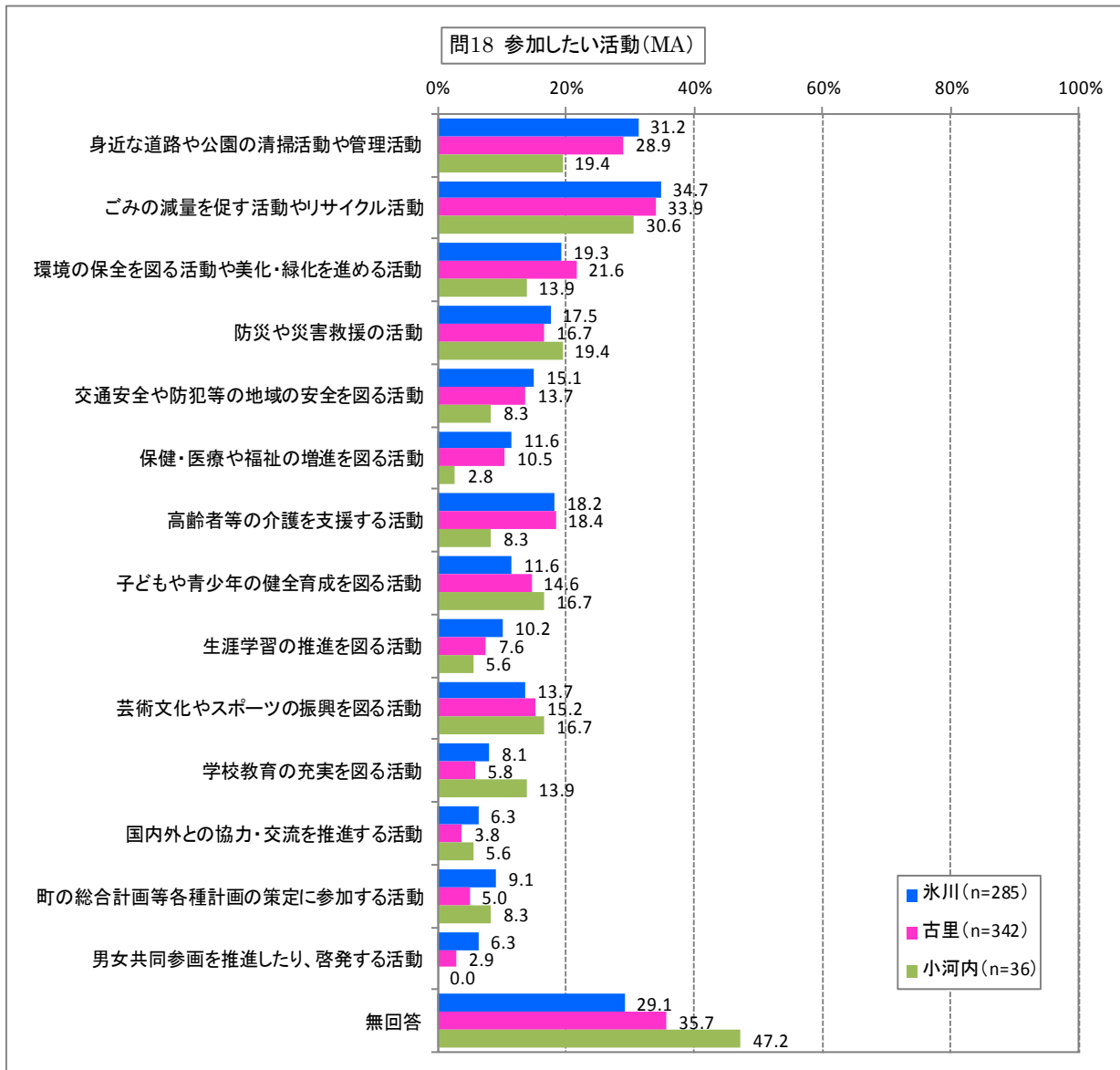


〔属性別結果：居住地区別〕

積極的に参加したい活動について、全体の回答割合が最も高い「ごみの減量を促す活動やリサイクル活動」を居住地区別で見ると、3地区ともに3割以上の回答割合となっています。

次いで全体の回答割合が高い「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」では、「氷川」地区や「古里」地区に比べ「小河内」地区の回答割合が低くなっています。

また、「氷川」地区と「古里」地区は同じ傾向となっていますが、「小河内」地区は異なった傾向となっています。「身近な道路や公園の清掃活動や管理活動」、「環境の保全を図る活動や美化・緑化を進める活動」、「交通安全や防犯等の地域の安全を図る活動」、「保健・医療や福祉の増進を図る活動」、「高齢者等の介護を支援する活動」等については、「氷川」・「古里」地区に比べ回答割合が低く、「防災や災害救護の活動」、「学校教育の充実を図る活動」等については回答割合が高い結果になっています。



【奥多摩町への意見・要望について】

問 19 町に対する意見・要望

町に対する自由意見を求めたところ、223 人の回答者からご意見やご要望が出されました。以下には、分野別の主な回答を挙げています。（※なお、回答全文は資料編に掲載しています。）

1 教育・文化・スポーツ 関係

- 中学校の統合問題。
- 小人数を活かした学習カリキュラムの確立。
- 町民運動会の充実（小学校の運動会と合同にし、参加者を増やす）。

教育・文化・スポーツに関連する意見や要望は相対的に少ないものの、中学校の統合問題については、統合の進め方等に対して否定的な意見が出されています。

2 保健・医療・福祉 関係

- 医療機関の充実。
- 独居老人に対する声かけボランティア等のシステム化による、安心して暮らせるまちづくり。
- 介護保険制度等の徹底周知。
- 高齢者の生きがいづくり場の確保。

医療機関の充実に関する意見の他、高齢者への「声かけ」や介護保険制度等の徹底周知など、高齢化に対応する活動の充実を求める意見が出されています。

3 観光・産業振興 関係

- 若者の雇用の場の確保。
- 企業誘致や地場産業の育成。
- 森林を核とした地域産業の振興
- 休耕田の有効活用。
- 獣害対策の推進。
- 目的型観光地としての施設整備。
- 奥多摩湖の活用（季節毎の花の植栽）。
- 観光は施設等のハード整備でなく、人材育成等のソフト充実。
- イベントの充実や観光アピールによる観光客の誘致。
- 国道の川側の伐採促進による景観確保。
- 大型スーパー等の誘致。

若者の雇用の場の確保、企業誘致や地場産業の育成など雇用の場の確保を求める意見が多数出されています。また、森林を核とした地域産業の振興を求める意見も出されています。さらに、地元消費を拡大するため、大型スーパー等の誘致を求める意見も出されています。

一方、観光に関する意見も多数出されています。目的型観光地としての施設整備とともに、人材育成等のソフト充実、イベントの充実や観光アピールによる観光客の誘致を求める意見も出されています。

4 生活環境・都市基盤整備 関係

- 公共交通機関（JR、バス、コミュニティバス、タクシー等）の充実。
- 生活道路の整備・除雪体制の確立や歩道（ガードレール）の設置。
- 駅前の活性化（再開発等）。
- 廃屋や古い家の活用。
- 日照確保事業の推進（杉・檜等の伐採⇒冬に陽が当たるように）。
- 公共トイレの充実。
- 若者定住のための若者住宅の整備。

町内でのコミュニティバスの運行やバスと鉄道の接続、運行時間の問題等、公共交通に対する意見や要望が多く出されています。

また、生活道路の整備・除雪体制の確立や歩道（ガードレール）の整備、駅前の活性化（再開発等）、日照の確保対策や若者が住む環境の整備を求める意見も出されています。

一方、人口を増加させるために廃屋や古い家の活用、観光客に対応した公共トイレ等の整備を求める意見も出されています。

5 行政運営 関係

- 町職員の町内定住。
- 町職員の資質向上（挨拶が出来ない職員が多い）。
- 窓口業務の土曜開庁。
- 民間活力の導入（建物の管理・運営⇒図書館、文化会館、福祉会館等）。
- 統合され、使用されなくなった学校等の有効利用。
- ハード事業の見直し（国民宿舎：鳩ノ巣荘等）。
- 税金の確保や無駄遣いの抑制。
- 議員数の削減。

町職員の町内定住や町職員の資質向上を求める意見が多く出されています。また、行政サービス向上のために、窓口業務の土曜開庁や施設の管理・運営に民間活力を導入することを求める意見も出されています。さらに、学校統合により使用されなくなった校舎等の有効利用についても意見が出されています。

一方、財政の健全化を図るため、ハード事業の見直し、税金の確保や無駄遣いの抑制に関する意見も出されています。さらに、人口が減少していることに鑑み、議員数の削減を求める意見も出されました。



奥多摩町まちづくり住民アンケート調査
報告書
(平成 25 年度)

発 行 平成 25 年 10 月

発 行 者 奥多摩町
〒199-0212
東京都西多摩郡奥多摩町氷川 215 番地 6

編 集 奥多摩町企画財政課
電話 0428-83-2111 (代表)
<http://www.town.okutama.tokyo.jp/>